

Research of Pratical Methodology of the Middle-scaled Survey Corresponding to the Modern Social Environment

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.24517/00034670 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



現代的社会環境に対応する地域社会調査の 実践的方法論の開発

(課題番号：18330104)

平成18年度～平成21年度科学研究費補助金
(基盤研究(B)) 研究成果報告書

平成22年3月

研究代表者 轟 亮

金沢大学人間社会研究域人間科学系 准教授

金沢大学附属図書館



1000-00731-6

訂正表

はしがき p.iv

交付決定額（配分額）*正しい表は以下の通りです。

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|----------|------------|-----------|------------|
| 平成 18 年度 | 4,300,000 | 1,290,000 | 5,590,000 |
| 平成 19 年度 | 4,100,000 | 1,230,000 | 5,330,000 |
| 平成 20 年度 | 3,500,000 | 1,050,000 | 4,550,000 |
| 平成 21 年度 | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |
| 総 計 | 15,300,000 | 4,590,000 | 19,890,000 |

はしがき p.v

研究発表[学会発表]

(2008 年度)

- ③ (誤) 日本社会学会第 81 回大会
(正) 第 81 回日本社会学会大会

はしがき p.vi

研究発表[その他]

- ① (誤) 災害害弱者名簿作成 2 割弱
(正) 災害弱者名簿作成 2 割弱

現代的社会環境に対応する地域社会調査の 実践的方法論の開発

(課題番号：18330104)

平成18年度～平成21年度科学研究費補助金
(基盤研究(B)) 研究成果報告書

平成22年3月

研究代表者 轟 亮

金沢大学人間社会研究域人間科学系 准教授

金沢大学附属図書館



1000-00731-6

はしがき

本書は、平成 18 年度～平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））「現代的な社会環境に対応する地域社会調査の実践的方法論の開発」（課題番号 18330104）の研究成果報告書である。

本研究を企画していた 2005 年秋、社会調査実施をめぐる我々の問題意識は概略、以下の通りであった。社会の諸領域で社会調査データの重要性は高まっており、社会調査の実施数もたいへんに増加している。一方、「社会調査の困難」と表現されるように、地域住民を対象とする調査の回収率が著しい低下傾向にあり、また調査対象者からの厳しいクレームが生ずることも稀でなく、回収データの質の向上や、学術調査への信頼回復、標本抽出台帳の利用制約と個人情報保護法制への対応等が、調査研究が解決すべき根本的問題となっている。それゆえ、調査組織が調査実施の全過程を直接的にトータルにマネージできることの多い、地域レベルの社会調査（これを後に我々は「中規模社会調査」と呼ぶようになった）の具体的な実施を通して、現場レベルの知を集積し、今日的な社会環境に対応する適正な社会調査の実施モデルを構築することが望まれる。我々の研究課題はこのことを目指すものである。

計 4 年の研究期間で、我々は 5 つの社会調査を実施した。略称で列挙するが、2006 年度は、行政組織と連携した「金沢市民意識調査」、2007 年度は自治体の実施する社会調査の現況を把握する「全国自治体調査」、2008 年度は能登半島地震の被災地住民を対象とした「震災調査」、2009 年度は前年度の震災調査の有効回答者を対象とした「震災パネル調査」、そして 1995 年以降の日本の大規模地震被災者に対する「震災 Web 調査」である。

これらの調査の企画・実施を通して、調査方法論・技術論に関する重要な知見を多く得ることができた。これらの成果の一部は、これまでに論文、学会報告、調査報告書などで発表してきている。後述の「研究発表」リストをご覧いただきたい。そして本報告書は、これまでに印刷体の形ではまだ発表していない成果をまとめたものである。第 1 章はパネル調査実施における名簿管理の技法、第 2 章は調査倫理を考えるポイント、第 3 章は自治体が行う住民意識調査の現況、第 4 章は調査から明らかとなった自治体の計画行政の問題、第 5 章は回収原票の適切管理の方法論、第 6 章は Web 調査の可能性と実施上の問題点を論じている。いずれの章も、これまであまり着眼されてこなかった問題を議論しており、調査実施の諸局面において役立つ、重要な情報提供を行っていると思う。さらに本報告書の公刊とほぼ同時に、教育場面でも我々の研究成果が活かせるよう、社会調査法のテキスト『入門・社会調査法』が出版される予定である。

本研究は、経験的な社会科学や社会学の基礎となる、社会調査データの収集法に関する技術的な研究である。しかし、社会調査の技術は、テクノロジーと社会環境の両方の変化に合わせて、絶えず更新されていくべきものである。その点で、我々の研究は現在も進行中であると言える。また、社会調査は、具体的な生活のなかで、調査者と対象者の相互作用として行われる作業であり、その点でも同時代的な社会学的分析が必要となる「社会的

行為」だと言える。まだまだ多くの課題が手付かずのままに存在している。

現段階で、我々が気づいている重要テーマには、国際比較の視点からの社会調査の方法研究がある。今回の研究のなかで、オーストラリアにおける社会調査の実施状況について、現地聞き取り調査を行ったが、社会調査の実施に、自然条件・社会環境条件、および歴史的な条件から生ずる、日本との差異を発見することができた。現在、数多くの国際比較研究が行われるようになっているが、その方法論的基盤として、社会調査法自体についての研究が行われていくべきだと思われる。

このように、興味深い課題が数多く残されている。本研究が現場レベルの知見の蓄積を進めるための一助となり、社会調査の方法論的研究がこれからも活発になされていくことを期待している。さまざまなご意見・ご感想をいただければ幸いである。

最後になったが、本研究の社会調査の実施作業は、金沢大学文学部人間学科社会学コースの授業科目「社会調査実習」の受講生諸君に担ってもらった。各年度の学生諸君には負担の重い作業であったと思うが、調査組織としての共同作業を通して、我々の側も新たに多くの点に気づくことができた。そして、それぞれの調査の対象者、回答者の皆さんには、お忙しいなか調査に協力していただいた。皆さんのご協力に心から感謝申し上げたい。今回の調査研究の成果を十分に活かせるように、これからも努力していく所存である。

轟 亮

研

平成 18 年度

- 研究代表者：岩本 健良 (金沢大学文学部准教授)
- 研究分担者：轟 亮 (金沢大学人間社会研究域人間科学系准教授)
- 研究分担者：溝部 明男 (金沢大学文学部教授)
- 研究分担者：田邊 浩 (金沢大学大学院人間社会環境研究科助手)
- 研究分担者：佐々木潤子 (金沢大学法学部准教授)
- 研究分担者：柴田 正良 (金沢大学人間社会研究域人間科学系教授)
- 研究分担者：橋本 和幸 (金沢大学文学部教授)

平成 19 年度

- 研究代表者：轟 亮 (金沢大学文学部准教授)
- 研究分担者：溝部 明男 (金沢大学文学部教授)
- 研究分担者：田邊 浩 (金沢大学大学院人間社会環境研究科助教)
- 研究分担者：柴田 正良 (金沢大学文学部教授)
- 研究分担者：佐々木潤子 (金沢大学法学部准教授)
- 研究分担者：橋本 和幸 (ノートルダム清心女子大学文学部教授)
- 研究協力者：俵 希實 (金沢大学人間社会環境研究科客員研究員)

平成 20 年度

- 研究代表者：轟 亮 (金沢大学人間科学系准教授)
- 研究分担者：溝部 明男 (金沢大学人間科学系教授)
- 研究分担者：田邊 浩 (金沢大学人間科学系准教授)
- 研究分担者：岩本 健良 (金沢大学人間科学系准教授)
- 連携研究者：柴田 正良 (金沢大学人間科学系教授)
- 連携研究者：佐々木潤子 (香川大学法学部准教授)
- 連携研究者：橋本 和幸 (ノートルダム清心女子大学文学部教授)
- 連携研究者：俵 希實 (金沢大学人間社会環境研究科博士研究員)
- 研究協力者：歸山 亜紀 (金沢大学大学院人間社会環境研究科博士前期課程)

平成 21 年度

- 研究代表者：轟 亮 (金沢大学人間科学系准教授)
- 研究分担者：溝部 明男 (金沢大学人間科学系教授)
- 研究分担者：田邊 浩 (金沢大学人間科学系准教授)
- 研究分担者：岩本 健良 (金沢大学人間科学系准教授)
- 連携研究者：柴田 正良 (金沢大学人間科学系教授)
- 連携研究者：佐々木潤子 (香川大学法学部准教授)
- 連携研究者：橋本 和幸 (ノートルダム清心女子大学文学部教授)
- 連携研究者：俵 希實 (金沢大学人間社会環境研究科客員研究員)
- 研究協力者：歸山 亜紀 (金沢大学大学院人間社会環境研究科博士後期課程)

交付決定額（配分額）

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 平成18年度 | 4,300,000 | 0 | 4,300,000 |
| 平成19年度 | 4,100,000 | 1,230,000 | 5,330,000 |
| 平成20年度 | 3,500,000 | 1,050,000 | 4,550,000 |
| 平成21年度 | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |
| 総計 | 15,300,000 | 3,300,000 | 18,600,000 |

研究発表

〔論文〕（計 6 件）

（2009 年度）

- ① 俵希實・轟亮，オーストラリアにおける社会調査の実施状況——今後の社会調査法を展望するために，理論と方法，46号，333-343，2009．査読有
- ② 岩本健良，大学ランキングへのメタ評価の必要性：不適切なランキング事例の分析から，広島大学高等教育研究開発センター，大学論集，41集，217-233，2010．査読有
(http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/pl_daigaku_1.php に本文掲載予定)

（2008 年度）

- ③ 俵希實，地方都市における多文化共生社会の実現の可能性——金沢市民のコミュニティに関する意識・行動調査から，人間社会環境研究，第17号，83-95，2009．査読有
- ④ 三保紀裕・岡田努・轟亮，金沢大学文学部学生における大学進学動機と進路意識，人間社会環境研究，第18号，19-29，2008．査読有
- ⑤ 溝部明男・轟亮，中範囲の社会調査の可能性と実践的諸課題，金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編，28号，19-44，2008．査読無
- ⑥ 俵希實・田邊浩・轟亮，個人情報保護に対応する社会調査の技法——全国自治体調査から，社会と調査，創刊号，84-88，2008．査読有

〔図書〕（計 2 件）

- ① 轟亮・杉野勇編，法律文化社，入門・社会調査法，2010，235 ページ．
- ② 橋本和幸，大学教育出版，コミュニティの理論と実際，2008，156 ページ．

[学会発表] (計 15 件)

(2009 年度)

- ① 岩本健良, 応用倫理としての「研究倫理」・「調査倫理」——組織と教育の視点から, 関西社会学会第 60 回大会, 2009. 5. 23, 京都.
- ② 俵希實・轟亮, オーストラリアにおける社会調査の実施状況——大学および政府機関での聞き取り調査から, 関西社会学会第 60 回大会, 2009. 5. 23, 京都.

(2008 年度)

- ③ 田邊浩・岩本健良・轟亮, 地域社会調査の可能性と課題——災害時要援護者リスト作成と抽出台帳の閲覧, 日本社会学会第 81 回大会, 2008. 11. 24, 仙台.
- ④ 轟亮, 現代の権威主義的態度の基本的傾向——保守化と階層性の低下, 第 81 回日本社会学会大会, 2008. 11. 24, 仙台.
- ⑤ 岩本健良, ランキング・評価のための社会調査にみられる回答バイアス——「大学ランキング」と「日本の図書館」の比較から, 第 36 回日本行動計量学会大会, 2008. 9. 3, 東京.
- ⑥ 俵希實, 地方都市における外国籍住民と日本人住民とのつきあい——金沢市民のコミュニティに関する意識・行動調査から, 関西社会学会第 59 回大会, 2008. 5. 25, 松山.
- ⑦ 田邊浩・轟亮, 大規模災害と避難支援——災害時要援護者リストの現状と課題, 関西社会学会第 59 回大会, 2008. 5. 24, 松山.
- ⑧ 田邊浩, 計画行政の現状とその課題——「全国自治体調査」から, 第 33 回地域社会学会, 2008. 5. 10, 東京.

(2007 年度)

- ⑨ 岩本健良・田邊浩, 地域社会調査の課題と展望——全国自治体調査に基づいて, 第 80 回日本社会学会大会, 2007. 11. 17, 横浜.
- ⑩ 溝部明男・轟亮, 卒業生調査 (2005) からみた Middle-Scaled Survey の可能性と諸課題, 第 80 回日本社会学会大会, 2007. 11. 17, 横浜.
- ⑪ 田邊浩・岩本健良, 地方自治体による住民意識調査の諸問題——全国自治体調査の分析, 第 80 回日本社会学会大会, 2007. 11. 17, 横浜.
- ⑫ 俵希實, 地域社会調査における回収原票の管理——個人情報保護の観点から, 第 80 回日本社会学会大会, 2007. 11. 17, 横浜.
- ⑬ 轟亮・溝部明男, 現代的な社会環境における地域社会調査の諸課題と対応策, 第 80 回日本社会学会大会, 2007. 11. 17, 横浜.
- ⑭ 岩本健良, 大学ランキングへのメタ評価の必要性——不適切なランキング事例の分析から, 第 59 回日本教育社会学会大会, 2007. 9. 22, 水戸.

- ⑮ 溝部明男・轟亮, 社会調査実習における「エラー報告」の活用, 関西社会学会第 58 回大会, 2007. 5. 26, 京都.

[その他]

○新聞掲載 (計 2 件)

- ① 朝日新聞, 被災地でも個人情報への壁: 災害弱者名簿作成 2 割弱: 金沢大全国調査, 2007. 5. 22, 朝刊, 石川版, 10 版 21 ページ.
② 朝日新聞, 災害弱者名簿「作成」2 割: 金沢大が全国調査: 市町村、個人情報への壁, 2007. 5. 21, 夕刊, 全国版, 3 版 13 ページ.

○調査報告書 (計 4 件)

- ① 金沢大学文学部社会学研究室, 市町村における総合計画と住民意識調査——計画行政と住民ニーズ把握に関する全国自治体調査, 2009, 226 ページ.
② 金沢大学文学部社会学研究室, 計画行政と住民ニーズ把握に関する全国自治体調査調査報告, 2008, 15 ページ.
③ 金沢大学文学部社会学研究室, 卒業生のキャリア形成と大学評価——社会学卒業生の生活と意識に関する調査, 2007, 278 ページ.
④ 金沢大学文学部社会学研究室, 金沢市におけるコミュニティの実態と市民意識の分析, 2007, 382 ページ.

○ホームページ情報 (計 1 件)

- ① 実施調査の基礎情報と単純集計表の公開,
<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~socio/research.htm>

現代的社会環境に対応する地域社会調査の実践的方法論の開発

目 次

はしがき

| | | |
|------------|---|----------------|
| 第1章 | 中規模なパネル調査の実施法に関するノート —能登半島地震の被災地住民調査から— | 轟 亮 …………… 1 |
| 第2章 | 「応用倫理」としての「研究倫理」・「調査倫理」 —組織と教育の視点から— | 岩本 健良 …………… 11 |
| 第3章 | 地域社会計画と自治体行政 —その現状と課題— | 田邊 浩 …………… 17 |
| 第4章 | 地方自治体と住民意識調査 —「全国自治体調査」のデータ分析から— | 田邊 浩 …………… 29 |
| 第5章 | 回収原票の管理—保管と廃棄— | 俵 希實 …………… 41 |
| 第6章 | 学術的インターネット調査の可能性 —「震災体験と社会生活に関する意識調査」から— | 歸山 亜紀 …………… 51 |
| 2008年度調査資料 | | |
| | 1. 2008年度調査概要 …………… | 63 |
| | 2. 2008年度調査票 …………… | 64 |
| | 3. 2008年度単純集計表 …………… | 84 |
| | 4. 2008年度コーディングマニュアル …………… | 124 |
| 2009年度調査資料 | | |
| | 1. 2009年度調査概要 …………… | 137 |
| | 2. 2009年度調査票 …………… | 138 |
| | 3. 2009年度単純集計表 …………… | 158 |
| | 4. 2009年度コーディングマニュアル …………… | 188 |
| | インターネット調査調査票 …………… | 190 |

中規模なパネル調査の実施法に関するノート

——能登半島地震の被災地住民調査から——

轟 亮

(金沢大学)

【要旨】

2008年（第1波）と2009年（第2波）のパネル調査の実施を通して明らかになった実施実務における注意点を整理して紹介する。第一に、対象者名簿の管理について、1回限りの調査とは異なる取り扱いが必要である。特に、事前の名簿ファイルの設計、IDの人力管理が重要である。第二に、パネルサンプルのサイズ縮小についての情報を示す。パネル調査の進行とともにサンプルが高年齢化する傾向にある。男性比率または女性比率が高まるような傾向は確認できない。

キーワード： パネル調査，対象者名簿，ID番号，パネルサンプルの縮小

1 はじめに

パネル調査 (panel survey) とは、「調査対象集団を構成する同一の単位に対して、異時点に反復して調査を実施するものである」(直井優 1983: 16)。この調査デザインの長所の第一は、「同一の調査対象に対し反復して調査を実施することによって、調査対象の意見や態度が、時間の経過に従って、どのように変化するか、かついかなる要因がその変化をもたらしているのかを明らかにできる」ことである(直井 同)。社会現象のより複雑な知の探究は、社会調査の方法の高度化を要求することになる。米国の社会科学研究者は早くから、因果的関係の知識を正確に分析するために、変化の情報を含むデータの必要性を強く認識しており、パネルデータを収集してきた(山口一男 2003)。日本では、1993年にはじまる財団法人家計経済研究所による「消費生活に関するパネル調査 (JPSC Japan Panel Survey of Consumers)」が広く知られており(樋口美雄・岩田正美 1999)、近年でも、日本社会における Work and Personality 研究の展開である「職業とパーソナリティ長期追跡調査」(吉川徹 2007)や、東京大学社会科学研究所の「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」がなされている。このようにパネル調査の研究上の重要性は高まっている。

しかしながら、パネル調査というデータ収集法は、実施に関する現場技術的な知識がたいへんに不足している。そもそも日本では、社会調査法一般について研究蓄積が十分ではなく、パネル調査についても、実施上の諸問題について未知の部分が多い。これまで日本で実施されてきたパネル調査が、概して多額の経費を必要とする大規模調査で、簡単には企画・実施

することが難しい方法だと思われてきたことから、現場レベルでの技術的知識が普及しにくかったように思われる¹。

今回、われわれの研究グループでは、調査の実施過程のすべてを調査組織が直接的に管理するという「中規模社会調査」のコンセプトの下で、パネル調査を実施した。本稿でこの調査の過程で得られた技術的な知見を示し、今後の計量研究に役立つようにしたいと思う。

2 能登半島地震の被災地住民へのパネル調査

能登半島地震は、2007年3月25日午前9時42分ごろ、輪島市の南西約30kmの能登半島沖、深さ11kmを震源地として起こり、輪島市、穴水町、七尾市（田鶴浜）で震度6強を観測している。本稿で紹介するパネル調査は、輪島市および穴水町の住民に対して実施しているものである。この調査研究は、震災経験が住民に与える影響を中長期的に捉えることを目的としており、パネル調査という方法は目的に適合していると言えるだろう²。

この調査プロジェクトは、本報告書執筆段階（2010年1月）までに2回（すなわち計2波）の実査を行っている。表1は、2つの実査の基礎事項をまとめたものである。

いくつか説明を補足しておこう。第1波調査の当初の準備段階では、パネル調査のデザインを明確に採用していたわけではなかった。当初は、学部3年生必修の授業科目「社会調査実習」の教育を兼ねて、毎年度同様の調査計画、つまり一年単位で調査課題の設定から分析報告までを行い、研究サイクルを完結することをイメージしていた。しかし、調査の検討段階で、被災地住民の生活を中長期的に把握することの必要性に気づいた。そこでパネル調査のデザインを用い、調査票に時点比較を想定した質問項目を設定することとし、また調査票の最後で、翌年の第2波調査への協力意思を尋ねることとした³。第1波調査では、われわれが有する、郵送法実査の高回収率達成のための技法が有効に働き、良好な回収を収めることができた。

次に第2波調査について。第1波調査と第2波調査の間でメンバーに大きな変更が生じた。まず授業科目「社会調査実習」をベースにした調査であるので、受講者が総入れ替わりになる。このため実務作業（学生）は前回調査の経験なしに、新しく第2波調査に臨むことになった。調査実施のマネージメントでは、授業科目の担当者が変わるため、実質的な運営責

¹ そのようななかで、樋口美雄、吉川徹らによる座談会で提供されている情報は大変貴重である（吉川ほか 2006）。

² 高坂健次らによる阪神淡路大震災の被災者（転居者）への追跡調査（『朝日新聞』1月12日朝刊1頁）は、われわれの研究に大きな示唆を与えている。

³ 意外なことには、日本の地震研究で、このような被災地住民へのサーベイ・リサーチが行われていること自体が多くなく、モデルとみなせる研究は限られていた。不動産被害を捉える「定番」であるべき質問項目も確立されていない。パネル調査のデザインを用いた先行研究は、上の高坂らによるものを除けば、見つけることができていない。これから調査データにもとづく研究が期待される領域であると思われる。

表1 能登半島地震・住民調査の概要

| | 第1波 (2008年) | 第2波 (2009年) |
|-------|---|---|
| 調査名 | 震災体験と地域生活に関する意識調査 | 震災体験と地域生活に関する意識調査 (第2回) |
| 調査対象地 | 輪島市・穴水町 (石川県) | 同左 |
| 対象者 | 満20歳以上75歳未満 (2008年1月1日現在) の男女。全体994 輪島市500 穴水町494 | 前回調査の回収者のうち、「次回も協力してもよい」と回答した者*。全体412 輪島市201 穴水町211 |
| 標本サイズ | 同上 | 全体406 (尋ねあたらず1, 転居1, 入院2, 死去2を除く) 輪島市197 穴水町209 |
| 実査の方法 | 郵送法 (事前予告1回, 督促1回) | 郵送法 (事前予告1回, 督促1回) |
| 抽出方法 | 選挙人名簿を抽出台帳とする2段階確率比例系統抽出法 | — |
| 調査期間 | 2008年10月16日 (木) ~12月12日 (金) (最終回収) | 2009年10月23日 (金) ~11月25日 (水) (最終回収) |
| 有効回収数 | 全体659 (輪島市339 穴水町320) ※ただし、名簿情報との照合をしていない。 | 全体338 (輪島市168 穴水町170) ※名簿情報との照合により、無効票を確定した後の数値。 |
| 有効回収率 | 全体66.3% (輪島市67.8% 穴水町64.8%) | 全体83.3% (輪島市85.3% 穴水町81.3%) |

*脚注4を見よ。

任者が、第1波の溝部明男教授から、第2波では轟に変更となった。両名は第1波調査の設計段階から意識して情報交換に努めたので、情報共有にはあまり問題はなかったが、大きく調査組織のメンバーが入れ替わったことで、実査の円滑な実施に困難が生じた。最も大きな問題となったのは、次節で述べる「対象者名簿の管理」に関してであった。このような調査組織の変更という事態は、特に中長期的な調査デザインにおいて、一般的に起こりうる。ここでは諸事項の「引継ぎ」が課題となる。このような困難はあったものの、回収率については、一般にパネル調査では第2波以降では8~9割近くの高回収率が期待できると言われている通りに、われわれの第2波調査でもその水準を達成することができた。

⁴ 穴水町・男性に1ケース、第2波調査の対象者名簿の作成のミスで、前回調査の非回収者が対象者に含まれてしまった。この人からは、第2波調査の有効票を得た。便宜的に、第2波調査のみでは、このケースを対象者、標本サイズ、返送数、有効回収数に含めて表示することにする。

これまでにわれわれは、1 回限りの調査デザインで調査研究と教育を積み重ねてきたが、今回パネル調査デザインを採用することによって、調査運営上のいくつかの問題に気づくことができた。これまでの組織化や調査運営、スケジュール等の設計は、1 回限りの調査には適切であったが、他のデザインを採用する場合には特段の工夫を要するものだったと言える。中長期的なタイム・スパンの調査デザインを採用する場合には、早期からその目的のための組織運営の構想・準備を行うべきである。重要なポイントは、引継ぐべき情報をよく検討してピックアップし、それを明確な形で残すことである。

3 対象者名簿の管理について

第2波の実査において最も問題となったのは、対象者名簿の引継ぎであった。1 回限りの実査では、調査票の回収後には、対象者名簿上の情報整理を省略してしまうことがありえる。しかし第2波以降の調査が想定されている場合には、必要情報をいつそう注意して整備し、情報データの意味を明確に記録して、引き継ぎ可能な状態にしなければならない。1 回限りの実査に慣れていたわれわれは、この点で問題を抱えることになり、正確さを求めてたいへんな労力を費やすこととなった。同様の問題を、他の調査組織やプロジェクトでも抱える可能性があるので、ここで問題点を整理し、紹介しておきたいと思う。

3.1 名簿ファイルと回答データ・ファイル

われわれは通常、サンプリング時に抽出台帳から転記して作成した「対象者名簿」(手書き)の情報を、Excel など表計算ソフトで入力して電子ファイルとし、このファイルを用いて郵送の宛名ラベルを作成したり、回収状況を管理したりしている。以下、この電子ファイルを「名簿ファイル」と呼ぶことにする。一方、回収した調査票の質問への回答は、これとは別のファイルに入力し(Excel で1 行目に変数名を入れた「入力フォーム」を使用する)、これを最終的には統計解析ソフトウェア SPSS に読み込んで、データ・ファイルとする。調査票の回答情報を入力したファイルを「回答データ・ファイル」と呼ぶことにしよう。

ここで起こる困難は、次のようなことである。すなわち、第1波調査の調査票への回答である、第2波調査に「協力してもよい」あるいは「したくない」という回答情報は、「回答データ・ファイル」に入力されるのであって、ひと手間かけなければ、通常の手順では「名簿ファイル」には入力されないことになる、という問題である⁵。

⁵ 入力すればよいのであるが、1 回限りの調査では、特定の回答を名簿ファイルに入力するというプロセスが通常ないため、第1波調査の作業として忘れられやすい。入力ミスがありうるので(標本サイズが大きいときは一層そうである)、「回答データ・ファイル」に入力されたデータを「引数」として利用したい。そのためには、後述の工夫が便利である。脚注4で紹介したミスは、「名簿ファイル」への手入力の際に起こった。

重要なことは、「名簿ファイル」を完全なものにすることだが、ここに問題が2点ある。第一は、第2波調査で引き継ぐべき名簿の正本を、手書きの「対象者名簿(原簿)」とするのか、「名簿ファイル」とするのか、ということである。1回限りの調査では通常、手書きの「対象者名簿」を正本と考えることが多いはずだ。しかし、そこには手間とスペースの都合で、「第2波調査協力予定者であるか否か」という情報は載せにくく、第2波調査では、「名簿ファイル」を正本とし、併せて手書きの「対象者名簿」を引き継ぐことが望ましい⁶。このように、「名簿ファイル」を正本として、これに情報を集約して完備することが大切である。ここで、第二の問題は、完備すべき情報とは何か、ということである。

3.2 ID 番号

ID 番号とは、当該対象者固有の番号である。われわれは1回限りの調査では、情報セキュリティや回答者心理に配慮して、複数のIDを併用している。第一には、「対象者名簿」と「名簿ファイル」で対象者に付すIDである。これを便宜的に「対象者ID」と呼んでおこう。この「対象者ID」は、パネル調査の各回を通じて固有の番号である。

第二に、調査票に記入する固有の「調査票ID」である。これは、回答者確認を行なうために調査票に付すことにしている(宛名ラベルにも記載して、対象者とのやり取りが生じた際に、本人確認のために用いたり、代理回答をチェックするために使用したりする)。「対象者ID」とまったく同じ番号でも構わないが、われわれは回答者心理を悪化させない目的で、対象者IDとは別の番号としている。当然ながら、対象者と「調査票ID」の対応関係を記録しておかなければ、回答者確認はできない。

第三に、回収した調査票(以下、回収原票)に回収順にナンバリングする「回収ID」がある。郵送法実査では、当分の間、回収順序を崩さずに原票管理を行うことが作業上都合がよい。データ入力も、この回収順で行うことが多い。

このように、対象者番号として、「対象者ID」「調査票ID」「回収ID」の3種が並存する。これらの全情報が、「名簿ファイル」(のひとつのシート)に入力されているべきである。

「名簿ファイル」作成の当初から、ファイルには「対象者ID」があるはずで、そして調査票発送時には「調査票ID」がふられて、「名簿ファイル」に入力される。回収の段階で、回収原票には「回収ID」が手書きで記入される(あるいはナンバリング・マシンで刻印される)。

⁶ 手書きの原簿が必要である無視できない理由は、人名には常用漢字以外の、人名用漢字許容字体があるからである。このようなケースに対してわれわれは、宛名ラベルに手書きで氏名を記入している。たいへん手間がかかる作業である。日本語入力システムがこれに対応していれば、ほぼ問題なく「名簿ファイル」を正本として作業を進めることができると思われる。現状、まだシステムは不十分であるので、「名簿ファイル」に、「人名漢字注意」という列を作成し、該当者にチェックを入れておくのがよい。「死亡・長期入院・転居」や「尋ね当たらず」「拒否」のような回収に関わる情報は、「対象者名簿」と「名簿ファイル」の両方に同じ情報を(判明した日付を入れて)記入・入力しておくべきである。当然それらの情報は、後でまとめて記入・入力するのではなく、それが判明する都度、処理しておくべきことである。

この「回収 ID」を「名簿ファイル」にも入力することがたいへんに望ましい。しかし、今回のわれわれの調査では、このことの重要性の認識が甘かったために、「回収 ID」の「名簿ファイル」への入力作業を省略していた。以下、少し説明を加えておこう。

「調査票 ID」と「回収 ID」は、「回答データ・ファイル」には、手順として特段の配慮なしに入力することができる。手順を省略せずにしたとすれば、2つのファイル、つまり「名簿ファイル」と「回答データ・ファイル」は、「調査票 ID」と「回収 ID」の2つをキー変数（2つのファイルを統合するための共通コードの変数）としてもっていることになる。回答者の性別・年齢照合は、キー変数によって、「名簿ファイル」と「回答データ・ファイル」のケースを対応させて行えばよい⁷。

1 回限りの調査では、「名簿ファイル」への「回収 ID」の入力を省略しても、実はその後の作業に支障がない。なぜなら「名簿ファイル」に「回収 ID」を入力しなくても（調査票が返送されてきたかどうかを「名簿ファイル」に入力しなくても）、原票管理さえしっかりすれば、回答者の性別・年齢照合はキー変数「調査票 ID」によって可能であるので、省略してしまうことができるのである。だがこの省略が、パネル調査では大きな問題となる。第1波調査で回収があったかどうかは、第2波調査では決定的に重要な情報であるので、「名簿ファイル」に必ず反映されているべき情報である。また、例えば、第2波調査では有効票／無効票情報（返送が有効であったか、無効であったかという情報）が「名簿ファイル」情報として必要となるが、1 回限りの調査では「回答データ・ファイル」上にあればそれで事足りるので、省略されてしまいやすいのである。われわれの調査では、名簿ファイルに ID 情報が完備されておらず、容易にファイルの突合ができないという問題が生じた。

3.3 名簿ファイルに必要な情報

このように、パネル調査では「名簿ファイル」の整備が決定的に重要である。思いつく限りであげてみると、氏名、性別、生年月日以外に、次の項目を載せるようにすべきである。

【パネル調査での必須情報】

- ① 対象者 ID
- ② （各回調査の）調査票 ID
- ③ （各回調査の）回収 ID （これは回収の有無を識別する情報ともなる）
- ④ 調査不能・回答拒否等の識別情報⁸（および当該事態の確認日時）
- ⑤ （各回調査の）有効票／無効票情報
- ⑥ 次回調査の協力意思についての回答

⁷ この作業によって、最終的な無効票が確定する。

⁸ 死亡・転居等の該当者については、ファイル上で視認性の高い形で明示すべきである。

【各回調査での必要情報】

- ⑦ 回収日
- ⑧ 各種郵便物の発送記録（事前予告状、調査票、督促状、受け取り確認はがき、お礼報告書等）

以上の個別情報を「名簿ファイル」上で整備し、さらに各データの意味を明確に記録して、次回に引き継ぐ資料整理を行っておくべきである（コードブックの作成と同じ種類の作業である）。

また、名簿ファイルを管理するソフトウェアとして、われわれは Excel を使用している。このソフトウェアの機能を考えると、たとえパネル調査の進行とともに対象者数が減少していても、「名簿ファイル」は、当初のフルサイズのケース数（対象者数）を保持して、情報追加を行っていった方がよいと考える。つまり、第2波調査の対象者だけの名簿をつくるために、第2波調査非対象者のデータ行を削除したりはしないで、全ケースを保持して作業することが望ましい。ケース・データの削除は、間違いは致命的なこととなり、また、復元や作業の再現が難しいので、避けた方がよい。名簿を見やすく表示するには、ケースの「並べ替え」の機能を使って、当該の回の調査対象者をまとめ、ブロックとして示すことができる。ただし、「並べ替え」を行っても元の名簿順を再現できるよう、名簿ファイル作成の最初の段階で、ケースに対して通し番号をつけておくことが望ましい（「対象者 ID」は必ずしも通し番号となっているとは限らないためである）。

さらに、調査にとって名簿ファイルは決定的に重要であるので、適切なバックアップ作業とセキュリティ保持のため、（複数かつ少数の）入力・管理担当者を明確に決定しておくべきである。取り扱い担当者は、名簿を管理するソフトウェアの取り扱いに慣れた人材であるべきである。

4 パネルの構成比率の変化について

次に、「パネルサンプルのサイズの縮小」という観点から、第2波調査の有効回答者の属性について、概略を示しておきたい。松田年弘（2002: 264）は、パネル調査では何回も調査を受けるといわずらわしさなどから回答拒否（脱落）が増えたり、転居によって追跡が困難となって、調査可能者が減少するなどの事実があるため、「母集団に対する代表性をたえず確認するという作業が求められる」と述べている。そして、性別・年齢などのデモグラフィック変数の分布のチェックが奨められている。

われわれのパネル調査について、性別と年齢階級を組み合わせた属性での構成比率を、各段階で計算したのが、表2である。輪島市と穴水町のそれぞれについて、①選挙人名簿から

表2 性・年齢階級の構成比率

| | | 標本 | 第1波回収 | 第2波対象 | 第2波有効 |
|------------|-----|-------|-------|-------|-------|
| 輪島市 | | | | | |
| 男性 | 20代 | 7.2 | 4.4 | 4.5 | 3.6 |
| | 30代 | 7.8 | 5.0 | 4.0 | 3.0 |
| | 40代 | 9.0 | 8.0 | 9.5 | 8.3 |
| | 50代 | 9.4 | 9.7 | 10.0 | 10.7 |
| | 60代 | 12.2 | 14.2 | 16.9 | 19.6 |
| | 70代 | 6.2 | 6.2 | 6.5 | 6.5 |
| 女性 | 20代 | 5.4 | 2.7 | 1.5 | 1.2 |
| | 30代 | 5.4 | 5.3 | 6.5 | 4.2 |
| | 40代 | 6.2 | 7.7 | 8.0 | 7.7 |
| | 50代 | 10.2 | 12.1 | 13.9 | 14.3 |
| | 60代 | 11.8 | 14.2 | 10.9 | 11.9 |
| | 70代 | 9.2 | 10.6 | 8.0 | 8.9 |
| 計 | | 100.0 | 100.1 | 100.2 | 99.9 |
| N | | 500 | 339 | 201 | 168 |
| 穴水町 | | | | | |
| 男性 | 20代 | 4.3 | 3.1 | 3.3 | 2.9 |
| | 30代 | 6.9 | 4.1 | 2.4 | 1.8 |
| | 40代 | 8.3 | 6.9 | 8.5 | 8.8 |
| | 50代 | 13.4 | 12.5 | 13.3 | 14.1 |
| | 60代 | 13.4 | 14.7 | 15.6 | 15.3 |
| | 70代 | 4.9 | 4.4 | 4.3 | 4.7 |
| 女性 | 20代 | 4.9 | 3.4 | 2.8 | 1.2 |
| | 30代 | 5.9 | 4.4 | 3.3 | 2.9 |
| | 40代 | 6.5 | 7.5 | 8.5 | 8.8 |
| | 50代 | 11.3 | 13.4 | 13.7 | 15.3 |
| | 60代 | 12.1 | 16.6 | 16.6 | 17.6 |
| | 70代 | 8.3 | 9.1 | 7.6 | 6.5 |
| 計 | | 100.2 | 100.1 | 99.9 | 99.9 |
| N | | 494 | 320 | 211 | 170 |

の標本抽出の段階（表2の「標本」）、②第1波調査の回収者（「第1波回収」）、③協力意思を示した第2波調査の対象者（「第2波対象」）、④第2波調査の有効回答者（「第2波有効」という、各段階での、性・年齢階級の構成比率を示した（年齢は、2008年1月1日現在で計算した）。

輪島市と穴水町について共通して見られるのは、20代女性、30代男性の構成比率の大きな低下である。これは、計2回の調査での回収率の低さと、協力意思を示す人の比率が低かったことの両方の要因から生じている。概して、20代、30代男女の構成比率は、パネル調査の進行とともに低下している。

これに対して、50代、60代の男女の構成比率は概して、パネル調査の進行とともに上昇する傾向にある。特に、輪島市の60代男性、穴水町の60代女性の構成比率の上昇は顕著である。以上の傾向をまとめると、パネルサンプルは、パネル調査の進行とともに高年齢化する傾向にあると言える。性構成のみを見ると、男性比率または女性比率が高まるような傾向は確認できない。

今回の調査では、念を入れた調査協力への同意確認を行なうために、初めに一括して継続調査の受諾をお願いせずに、調査を繰り返す時点で、その都度協力の依頼を行う方法を取った。「第1波回収」から「第2波対象」への移行で比率が低下している層では、協力意思を示す率が低かったと言える。他の層では、この低下傾向はみられないが、輪島市の60代と70代の女性だけで、この傾向が確認された。つまり、第1波調査では輪島市の60代と70代の女性の回収を得たが、第2波調査に対する協力意思が示されなかったという理由で、対象者から脱落する者が相対的に多く存在している。しかしながら、全体として見れば、今回の第2波調査対象者の選定方法は、第2波調査の有効回答者の構成比率に影響を与えていないと言えるだろう。

ただし、度数レベルでのサンプルの脱落は無視できない大きさである。この対策として、第1波調査で協力意思を明確に示した人だけを第2波調査の対象者とするだけでなく、協力と非協力のどちらの意思表示も示していない者（つまり、当該質問に無回答である、有効票回答者。輪島市39名、穴水町28名であった）を、第2波調査の対象者に加えるという代替案がある。これはあまり無理なく採用できる方法だと思う。

パネルサンプルの偏りについては、震災被害の程度が低い層が脱落しているなどの想定ができるが、それらについては稿を改めて検討したいと思う。

5 おわりに

以上、パネル調査の実施実務におけるいくつかのポイントを、調査実施経験から紹介した。今後、日本の計量的な社会科学研究において、パネル調査の重要性ますます高まって行かたろう。本稿で示したような調査遂行に関わる実際的な知見と、調査の基礎情報が、多くの調査で公開され、有用な知識が着実に蓄積されていくことが大切である。それによって中規模パネル調査の実施可能性が高まり、調査の質が向上していくことを期待したい。

最後に、今回調査データから得られた災害社会学的な知見については、溝部明男ほか(2010)に引き続き、現在準備中の2009年度社会調査実習報告書において発表する予定である。

【文献】

- 樋口美雄・岩田正美. 1999. 『パネルデータからみた現代女性—結婚・出産・就業・消費・貯蓄』 東洋経済新報社.
- 吉川徹 編. 2007. 『階層化する社会意識—職業とパーソナリティの計量社会学』 勁草書房.
- 吉川徹・永瀬伸子・樋口美雄・大竹文雄. 2006. 「座談会：「パネルデータ」を考える」『日本労働研究雑誌』 551: 71-85.
- 松田年弘. 2002. 「パネル調査」, 林知己夫編『社会調査ハンドブック』朝倉書店: 262-268.
- 溝部明男・轟亮・歸山重紀・俵希實・田邊浩. 2010. 「震災被害が住民に与えた影響に関する社会調査」『金沢大学能登半島地震学術調査部会報告書』(近刊).
- 直井優. 1983. 「社会調査の設計」, 直井優編『社会調査の基礎』サイエンス社: 3-43.
- 山口一男. 2003. 「米国より見た社会調査の困難」『社会学評論』 53(4): 552-565.

「応用倫理」としての「研究倫理」・「調査倫理」 ——組織と教育の視点から——

岩本 健良
(金沢大学)

【要旨】

「研究倫理」や「調査倫理」は「応用倫理」の一分野と位置づけられる。それら倫理を担う仕組みを4種類のプレイヤーの相互作用として、「技術者倫理」の発想や実践を紹介しつつ、組織論的に考察する。その上で、柔軟性と応用力を養う倫理教育の方法を紹介し、日本の社会学関連分野でも事例集を作成しケース・スタディによる倫理教育を行うのが有益だと提言する。

キーワード： 調査倫理，専門職倫理，倫理教育，学会，ケース・スタディ

1 「研究倫理」と「調査倫理」の位置づけ

倫理は、1つの重要な社会関係資本（social capital）である。逸脱を内面から抑制することで、社会の「予測可能性」(Weber)を高めるための制度ともいえる。「研究倫理」や「社会調査倫理」は、「医療倫理」・「技術者倫理」などと同様に、「専門職倫理」の一種である。さらに、「専門職倫理」は、「環境倫理」などのように、「応用倫理」（実践倫理）の一分野と位置づけられる¹。なお、社会調査以外の各種の調査にもそれぞれ対応する倫理があると考えられるが、ここでは、「社会調査倫理」を単に「調査倫理」と略する。調査倫理については、いくつかの社会学関連学会で倫理規程等が制定され、社会調査協会のカリキュラム認定で調査倫理が必須化されるなど、日本でも学協会レベルでの制度化が進んできている。

「研究倫理」と「調査倫理」の関係は、管見ではこれまで明確には論じられていない。一般的には重なる部分を持つ2つの円で図示できよう。しかし両者それぞれの範囲について、厳密に線を引くのは容易ではない。

(a) 狭義の研究倫理と狭義の調査倫理

研究倫理と調査倫理が明らかに重なる部分は、研究目的での調査である。狭義の調査倫理は調査対象者の人権やプライバシーの保護およびインフォームド・コンセントが基本的内容

¹ 応用倫理をめぐる課題群と全体像については、Chadwick(1998)、加藤ほか編(2008)、松本(2006)などを参照。アメリカでは、実践・専門職倫理学会 (Association for Practical and Professional Ethics) という学会が応用倫理学を広くカバーしている。この学会は教育資料集 (同学会 2004) を発行したり、大会の際には学生の倫理選手権トーナメント・ゲームを毎回行うなど、教育にも力を入れている (伊勢田 2003)。

としている（例：社会調査協会の倫理綱領）。重なりをこの範囲に限定してとらえるならば、研究成果の発表に関わる倫理的課題は、調査対象者のプライバシー保護などの点を除いて、研究倫理ではあっても、調査倫理には含まない²。また、教育や実務家としての実践、社会貢献の部分は、研究倫理の対象には含まない。

(b) 広義の研究倫理

多くの研究者は、（論文執筆をめざすという）研究目的でなくても、教育や社会貢献など、関連する活動（たとえば行政による調査へのアドバイスや、所属大学での学生調査への協力など）も行なっている。研究倫理を研究「者」の専門職倫理（研究に関わる諸活動の上での倫理）としてとらえれば、その専門知識や経験を適切に生かすよう期待されている諸活動が、研究倫理に含まれる。専門職団体である諸学会の倫理規程はほぼこの範囲をカバーしている。

(c) 広義の調査倫理

また、調査倫理を広くとらえれば、データ収集後の管理の諸問題（データの所有権、保護、共有、等；Steneck 2003=2005: 6章）、調査結果を偏りなく提示し、その社会的意味や分析の限界を合わせて公表することまでを、調査を行う上での社会的責任として含ませることもできる。このようにとらえると、調査を用いた研究プロセスの全体が調査倫理の対象となる。

工学分野であれば、「工学倫理」（Engineering Ethics）として、研究者も実務家も、純粋研究も応用・実践も、ともに含む概念である。また「工学倫理」は「技術（者）倫理」と同じで互換的に用いられている（大貫ほか編 2002）。もし「社会学倫理」と「社会調査（者）倫理」が同じか？」と問われれば、おそらく社会学研究者も、社会調査の責任者も、「矛盾はしなくても、カバーする範囲が異なる」と答えるであろう。「社会調査」は社会学の専売特許でなく、広く他分野でも活用されている手法である。「動物実験の倫理」は、獣医学でも、薬学でも、心理学でも基本的に共通に尊重されている。「（社会）調査倫理」を検討することは、同じ手法を用いる、社会学以外の分野の研究者にも有益なことといえよう。

2 倫理を担い、向上させるのは誰か？

研究者倫理や調査倫理を担うのは、もっぱら個人（個々の研究者）であるという考え方がこれまで強かったように思われる。たしかにそれらを直接守ったり時に犯したりするのは、個人である。しかし、（特に日本では）これらが個人の問題として片づけられる傾向が強い。しかし「不正行為を個人レベルの疾病としてとらえ、その対策を考えるのではなく、『研究組織や研究システムに病気の原因が存在し、社会を脅かすものである』という認識を、すべ

² 加藤ほか編(2008)では「社会調査と被験者の同意」の項目を設けているが、調査倫理がプライバシー保護とインフォームド・コンセントに限定され、本文での狭い定義よりもさらに狭い。

ての人々が共有しなければならない」(山崎 2002: 146)。Steneck (2003=2005: 1章)は、「責任ある研究を行うための交通規則」として、専門職規約、政府規制、機関内規律、個人の信念、の4つを挙げて解説している。その整理を応用すると、マイクロからマクロまでの4種類の重要なプレーヤー(行為者)を位置づけることができる。

- (1) 個人(研究者) : 個人の信念——マイクロ
- (2) 学会 : 専門職規約——メゾ・マクロ
- (3) 所属機関(大学, 企業, 等) : 機関内規律——メゾ
- (4) 政府 : 政府規制——マクロ(グローバルにはメゾ)

各プレーヤーは、持つ資源が異なる。(1)個人が倫理を守るためには、規範として内面化される必要がある。(2)学会はそのカバーする領域の分野・対象・方法論の特徴を生かし、また会員間どうしは基本的に対等というフラットな組織構造の特徴を生かし、会員のコンセンサスとしてのルール(倫理規定)作りや啓発活動に向いている。しかし、直接の適用範囲は会員に限られ、サンクションはもっとも強くても除名処分(伝家の宝刀であり、実際の適用は非常にまれ)である。(3)所属機関は、メンバーの日々の行動をもっとも把握しやすい位置にあり、また人事上の処分の権限を有する。逆に言えば、外部に対してはメンバーへの指導・監督責任を有する。(4)政府は、法令という形で(たとえば、個人情報保護法)、国民全体に強制力を持って適用させ、違反には刑罰が課されることもありえる。ただし、研究対象や領域の差違を踏まえたきめ細かなルールづくりや、そのための合意形成は、不得手である³。

この他、研究助成団体(ただし、(3)や(4)自身である場合もある)などが、倫理を守らせる側にも、歪める誘惑を与える立場にもなりえるプレーヤーとしてあり得るが、ここでは触れるにとどめる。

個人以外のプレーヤーを明示的に考えることは、メゾレベルやマクロレベルに視野を広げ、組織として、システムとして分析・考察をしやすいとする。マイクロレベルで考えれば、個々の研究者がよい調査をするために／うまく調査をするために(失敗しないために)どうすればいいか、と考えるのは、当然であろう。もちろん、これらも重要であるが、単にそれらに止まらないメゾないしマクロレベルでの意義が存在する。すなわち、「組織文化」を構築・発展させることによって、組織(集団)全体の活性化・発展を図る、という視点である。

³ アメリカでは、公衆衛生庁(PHS)の下部組織として、1992年から研究公正局(Office of Research Integrity: ORI)という政府機関が作られ、研究者への教育啓発(たとえば Steneck 2003=2005)と、不正行為の調査を行なっている(なお、力点は前者におかれている;山崎 2002)。政府自身がこうした機関を作るに至った理由は、従来のピアレビュー制度を厳しく運用するだけでは、研究者の不正行為に有効に対処できないことが、国民の前に明らかになったからであると山崎(2002)は解説し、具体例を交えて説明している。

3 工学の経験と発想から学べること

工学分野では実践性が非常に重視される。このことは、裏返せば、航空機墜落事故や原子力発電所の放射能漏れ事故に代表されるように、問題がいったん起きれば、深刻でまた顕在化しやすい性質を持つからである。工学分野では事故を防ぐためにどのような取り組みがなされているだろうか。そのための重要な柱が技術倫理である。日本でも日本技術者教育認定機構（JABEE；1999年設立）による工学部等のカリキュラム認定で、技術者倫理の教育が必須とされたことが大きな契機となり、議論が進んだ。

坂下は、技術倫理が単なる個人のモラルにとどまらないことを強調した。深刻な事態が起きてから誰かが「責任をとる」よりも、起きる前に、未然に防ぐよう、「責任を果たす」ことを、「予防倫理」という重要な概念として紹介した。この言葉は「予防医学」のアナロジーとして作られた（大貫ほか編 2002: 27）。

また、万一起きてしまった事故から、その情報を科学的に汲み取り、同様の事故が再発しないようにすることも重要である。知られているように、現代の旅客機には「フライト・レコーダー」や「ボイス・レコーダー」が積まれている。これらは、それを積んだ飛行機の事故をその場で防ぐには役立たない。その記録を分析し、後の運行や他の飛行機に役立てることによって、将来の事故を防ぐために役立てる、という発想に基づいている。畑村（2000）は、「失敗は成功の母」という格言を引いて、小さな失敗を生かすことで、後の大きな失敗を防ぐことの可能性・重要性を多くの事例から指摘し、「失敗学」として提唱した。さらにこれを工学教育に生かすよう、主張している。

現代で問題とされる事故の多くは、影響が単に個人レベルにとどまる事故（個人事故）ではなく、組織全体に及ぶ事故（組織事故）である。認知心理学者の Reason（1997=1999: 278）は、「組織事故」は、（皆無にすることは不可能な）ヒューマン・エラーを組織マネジメントが有効にコントロールできなかったのが原因と分析する。そして組織事故を抑制するためには、「安全文化」を構築することが鍵になるとし、そのためには、以下の4つの重要な構成要素（下位文化/習慣）が必要と訴えている。簡潔に整理して説明を補足しておこう。

(1) 「報告する文化」： 自らのエラーやニアミス（ヒヤリ・ハット事象）を報告しようという、組織の雰囲気。

(2) 「正義の文化」： そうした安全に関わる情報提供を奨励し、事故防止のための改善に役立つという視点から、正当な評価（場合によっては報酬）を与えること。

(3) 「柔軟な文化」： 緊急事態に直面したときに、自らの組織自身を再構成できること。

(4) 「学習する文化」： （問題を矮小化したり、責任を転嫁したり一部に押しつけるのではなく）正しい結論を導き出す意思と能力。（結論で得られた）大きな改革を実施する意志。

4 柔軟性と応用力を育てる倫理教育

倫理教育という、日本ではともすれば、あるルールをしっかりと教え込むというスタイルの道德教育を思い浮かべることが多いかもしれない。もちろん、基本的なルールをしっかりと学ぶことは重要である。しかしルールを学ぶだけでは、実践場面ではうまく使えないことや、それだけでは対処できない事態に直面することもしばしば起きる。調査倫理問題の現状と課題について特集を編集した高坂(2007)は、倫理規程等による対応の際には、同時にマニュアル化できない部分をメタ・マニュアルとして確立することも大切と結論づけた。実践力・応用力を養うには、事例に基づき学習者が自ら答えを模索する形での、予防倫理の学習が有効である。応用倫理研究所として著名なアメリカのヘイスティングス・センターは、1980年に倫理教育の目標として次の5つを掲げた(大貫ほか編 2002: 27)。

目標1. 倫理に関わる事柄に対する想像力(道德的想像力)をはぐくむこと。

目標2. 倫理的な問題点をみいだすことができるようにすること。

目標3. 倫理問題の分析技術を身につけさせること。

目標4. 責任感覚を引き出すこと。(注:未然に防ぐ責任を果たす)

目標5. 不一致や曖昧さに耐え、それを許容できるようにすること。

研究倫理の学生・院生向け教科書でも、実際に直面しそうな例題(その多くは複数の価値が矛盾している「倫理的ジレンマ」(Chadwick ed. 1998: 139)を含む)を与え、読者ならどうすべきか、多角的に考えさせるスタイル(単純な答えはない)が出版されるようになってきた(例: National Academy of Sciences(U.S.) 1995=1996; 安藤・安藤編 2005)。

ウェブ上には、工学を中心に多くの倫理的課題の事例(大半は英文)がデータベース化され、誰でも利用できるようになってきた(Online Ethics Center (2010)など)。アメリカ社会学会でも、学部学生向け授業等に広く活用できる教材として、倫理的課題の事例集を作成した(American Sociological Association 2010)⁴。2007年にBabbieを委員長としてタスク・フォースを設け、現在までに103の事例(2010年2月時点)を蓄積しウェブで広く公開している。倫理的トピック別、あるいは専門領域別に検索もできるようになっている(「社会学部長に特に役立つ事項」という形で管理職向け事項の抜粋もできる)。これをもとに日本社会や日本での調査・研究の状況を踏まえて応用した「日本版」を作成することで、日本の社会学と関連分野の倫理教育にも大いに貢献するのではないだろうか。

【付記】

「失敗学」と倫理問題とのリンクは、轟准教授とのディスカッションによる。実践・専門職倫理学会の2007年大会への参加で得られた情報が本稿に大変役立った。2006年の「調査倫理」研

⁴ アメリカ社会学会の倫理規程や職業倫理委員会については、岩本(1997)の紹介を参照。

研究会（関西学院大学）や 2009 年の関西社会学会大会等での報告に対するコメント，倫理指針研究会（金沢大学 21 世紀 COE「革新脳科学」のサブプログラム）での 3 年間の議論も役立った。それらのすべては生かせなかったが感謝したい。

【文献】

American Sociological Association, 2010, *Teaching Ethics throughout the Curriculum*.

(2010 年 2 月 22 日取得, <http://www.asanet.org/ethics/>.)

安藤寿康・安藤典明編・日本パーソナリティ心理学会企画, 2005, 『事例に学ぶ心理学者のための研究倫理』ナカニシヤ出版.

Association for Practical and Professional Ethics, 2004, *Survive Graduate School and Start Your Career in Science/Engineering: A Handbook for Graduate Research Ethics Education*.

Chadwick, Ruth ed., 1998, *Encyclopedia of Applied Ethics*, 4 vols. Academic Press.

畑村洋太郎, 2000, 『失敗学のすすめ』講談社. (2005 年に講談社文庫として再刊.)

伊勢田哲治, 2003, 「実践・専門職倫理学会 (APPE) 年次総会報告」

(2010 年 2 月 22 日取得, <http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/~tiseda/works/APPE.html>.)

岩本健良, 1997, 「社会制度としての研究倫理—アメリカ社会学会の実例と日本の社会学者の課題」(フォーラム: 研究の倫理とルール) 『理論と方法』12(1): 69-84.

加藤尚武ほか編, 2008, 『応用倫理学事典』丸善.

高坂健次, 2007, 「「調査倫理」問題の現状と課題」(特集: 調査倫理) 『先端社会研究』6: 1-20. 関西学院大学.

松本邦彦, 2006, 「調査・個人情報・倫理」資料館.

(2010 年 2 月 22 日取得, <http://www-h.yamagata-u.ac.jp/~matumoto/ethics/ethics.htm>.)

National Academy of Sciences (U.S.), 1995, *On Being a Scientist: Responsible Conduct of Research*. (= 池内了訳 1996, 『科学者をめざす君たちへ—科学者の責任ある行動とは』化学同人.)

Online Ethics Center, 2010, *Cases and Scenarios*. (2010 年 2 月 22 日取得, http://www.nuclear.jp/~madarame/rinri_note.html) (= 「オンライン・エシックス掲載事例の紹介」(同日取得 http://www.info.human.nagoya-u.ac.jp/lab/phil/OCSTE/engineer/case/case_index.html.)

大貫徹・坂下浩司・瀬口昌久編, 2002, 『工学倫理の条件』晃洋書房.

Reason, James, 1997, *Managing the Risks of Organizational Accidents*, Ashgate Publishing. (= ジェームズ・リーズン著 塩見弘監訳 高野研一・佐相邦英訳. 1999. 『組織事故一起こるべくして起こる事故からの脱出』日科技連出版社.)

Steneck, Nicholas H., 2003, *ORI Introduction to the Responsible Conduct of Research*. Office of Research Integrity. (= 山崎茂明訳, 2005, 『ORI 研究倫理入門—責任ある研究者になるために』丸善.)

山崎茂明, 2002, 『科学者の不正行為: 捏造・偽造・盗用』丸善.

地域社会計画と自治体行政

——その現状と課題——

田邊 浩
(金沢大学)

【要旨】

2007年に全国の地方自治体を対象として実施した調査データを用いて、市町村における総合計画の実態を明らかにし、総合計画における問題点と課題について検討した。分析の結果として、以下のことが明らかとなった。(1) 総合計画の策定状況には、大きな変化はみられない。(2) 約3分の2の自治体が、総合計画策定のため、外部委託を行っている。(3) 審議会、住民意識調査といった形での総合計画への住民参加は、ほとんどの自治体で行われており、また影響力も強いと認識されている。(4) 総合計画担当部署は、ほとんどの自治体で政策や企画の立案や部署間の調整を行っている。また、計画にかかわる財政管理まで行っているのは4分の1程度である。(5) 担当部署では、計画と財政の連動、計画と管理進行・評価の連携が大きな課題になっている。(6) 総合計画に対する評価制度を導入している自治体は4割弱、検討中の自治体は4分の1程度である。(7) 評価制度は、多くの自治体において、かなり有効だと認識されている。全体的に、総合計画にもとづいた行政は、地方自治体において、おおむね肯定的に評価されているようである。

キーワード： 総合計画，行政評価，住民参加，平成の大合併

1 はじめに

本研究は、地方自治体における総合計画にもとづいた行政の実態を明らかにし、それが抱える問題点を析出することを目的とするものである。具体的には、2007年に全国の市、町、村、および東京特別区を対象として実施した調査データを利用して、総合計画の策定状況や策定の方法、総合計画の実施過程、そして総合計画に対する評価について分析する。

2 研究の背景

地方自治体を取り巻く環境は、いま大きく変化している。多くの自治体では財政の状態が悪化し、他方で「三位一体の改革」など、政府が主張するところの地方分権化が推進された。こうした激しい変化にさらされている地方自治体において、計画行政の現状はどのようになっているのだろうか。また、その現代的課題はどのようなものであろうか。現在のこの時点で、調査データにもとづいてこれらの点について検討することには意義があると考えられる。

地方自治体の総合計画に関する調査研究は、これまでもいろいろと行われている。例えば、1992年の時点で全国の自治体を対象として調査を行った田野崎昭夫ら（1996）の研究があげられるだろう。日本都市センター（2002）も2001年に、自治体の計画行政について、調査を実施している。また、斎藤達三ら（2003）においても、全国の自治体の調査にもとづき、総合計画について検討されている。

総合計画に対しては、そのあり方に対して、さまざまな問題点が指摘されている。たとえば、①基本計画は机上の空論である、②自治体の事業部局は、中央各省庁と結束・従属し、自治体行政の総合性を阻害する分立要因として作用する、③サイクルが短くなっている自治体行政において、長期の総合計画は無意味である、④外部委託業者に丸投げなど、策定することが目的となっている、などである。

近年、「平成の大合併」と呼ばれる大規模な市町村合併が推し進められた。これは計画行政に対して大きな影響を与えていることが予想される。そこで、合併が一段落したこの時点で調査を行うことに大きな意味があると考え、調査の実施に至った。

3 調査の概要

2007年9月～10月に1826市区町村を対象として、「計画行政と住民ニーズ把握に関する全国自治体調査」と題した調査を実施した。本調査は、郵送法による調査票調査であった。

調査の内容としては、大きく4つのテーマにかかわるものであった。第1に自治体の総合計画について、第2に市町村合併や行政の現状について、第3に自治体の防災対策について、そして第4に自治体が行っている住民意識調査および行政が保有する台帳（住民基本台帳や選挙人名簿）の利用可能性についてであった。

内容が多岐にわたっていたため、調査票をA票とB票の二つに分けた（自治体の住民意識調査、台帳閲覧関係の質問項目でA票を、それ以外のものでB票を構成した）。A票の回収数は1408、回収率は77.1%、B票の回収数は1400、回収率は76.7%であった。

本稿においては、とくにB票の総合計画について尋ねた質問項目を利用する¹。

4 分析

4.1 総合計画の策定状況

(1) 計画の策定状況

¹ したがって、分析の対象となる自治体数は基本的に1400であるが、質問によってそれには回答することのない非該当となる自治体もある。

市町村において総合計画を策定することが義務づけられてかなりの年数になるが、現在の策定状況はどのようになっているだろうか。基本構想は回答を得られた自治体の 91.0%で策定されている。策定を義務づけられているとはいえ、計画を策定することが困難な自治体も存在しているようである。基本計画を策定しているのは、89.4%の自治体である。多くの自治体では、基本構想と基本計画をセットで策定している。実施計画を策定しているのは 76.4%の自治体である。

自治省行政局振興課の調べによる 1995 年時点での策定状況では、基本構想 98.9%、基本計画 93.9%、実施計画 77.6% となっている。私たちの調査よりも計画を策定する自治体の比率が高くなっている。私たちの調査は実施時期が「平成の大合併」の直後であったので、「策定中」とする自治体もみられた。そのことが影響していると考えられる。

(2) 計画の期間

計画の期間はある程度定型化されている。基本構想に関しては、10 年が約 8 割を占めている。10 年未満は約 6%、反対に 15 年あるいは 20 年といった長期のものも 5%を超えている(図 1)。

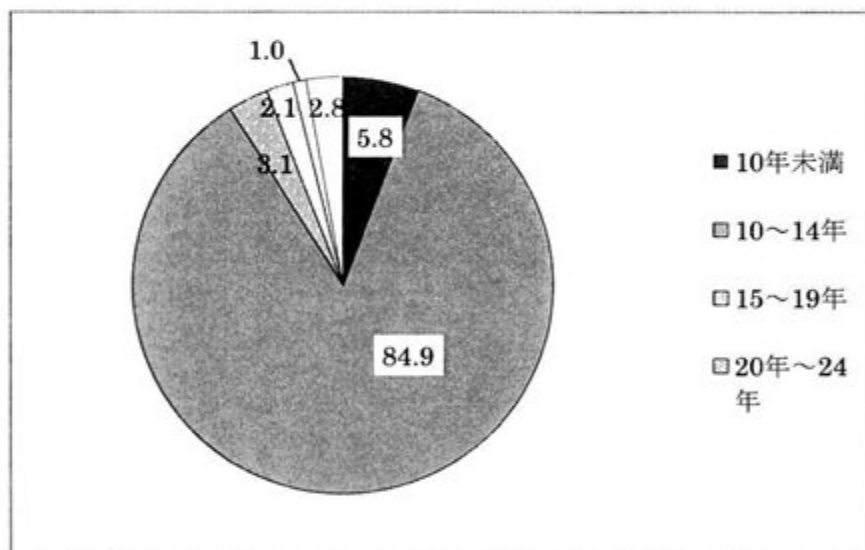


図 1 基本構想の期間

図 2 は基本計画の期間を示したものである。基本計画は 5 年とするものが 5 割近くを数える。次いで 10 年～14 年が 4 割程度である。5 年未満および 15 年以上は、各々約 3%である。

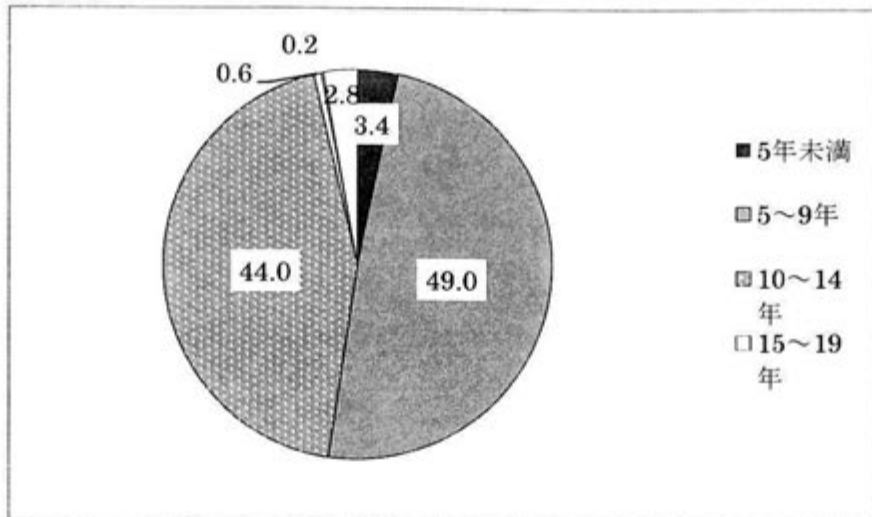


図2 基本計画の期間

実施計画に関しては、3年が55%でもっとも多い(図3)。4～5年が17%、10年以上も15%である。そして、3年未満が1割弱である。多くの自治体では、ローリング方式がとられている。

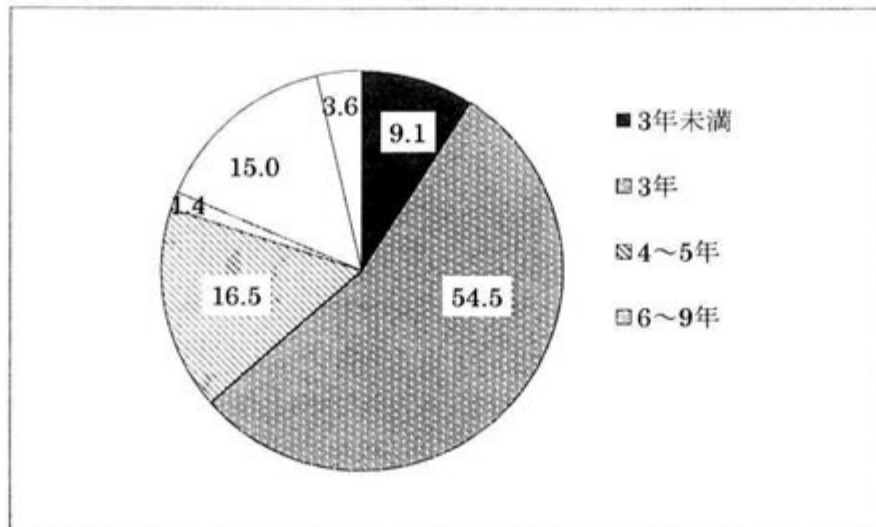


図3 実施計画の期間

(3) 総合計画の目的

つぎに、総合計画の目的について尋ねた。もっとも多く回答されたのは、「長期的な展望のもとで行政を推進するため」というものである。これは総合計画の本来の目的に沿った回答である。当然のことながら、策定が義務づけられているという回答も多い。「事業を効率的・合理的に進めるため」「住民サービスの向上を図るため」「住民に施策をより良く説明するため」なども、それぞれ9割ほどの自治体で当てはまると回答されている。

表1 総合計画の目的 (%)²

| | あてはまる | どちらかと いえばあて はまる | どちらかと いえばあて はまらない | あてはまら ない | NA |
|------------------------|-------|-----------------------|-------------------------|-------------|----|
| a. 事業を効率的・合理的に運営するため | 68.4 | 26.9 | 4.0 | 0.8 | 15 |
| b. 施設等の整備・統合を進めるため | 33.2 | 39.9 | 21.8 | 5.1 | 20 |
| c. 住民サービスの向上をはかるため | 66.6 | 30.5 | 2.6 | 0.3 | 17 |
| d. 長期的な展望の下で行政を推進するため | 92.5 | 7.2 | 0.2 | 0.1 | 13 |
| e. 住民に施策をよりよく説明するため | 60.9 | 35.8 | 2.8 | 0.5 | 19 |
| f. 基本構想の策定が義務付けられているため | 80.7 | 14.5 | 2.8 | 0.5 | 18 |

4.2 総合計画の策定方法

(1) 総合計画の外部委託の状況

先にも言及したように、総合計画は外部業者におまかせのものとなっているという批判が見られる。確かに規模も小さく、それほど多くの人的資源のない自治体では、独自に総合計画を策定することは難しいのかもしれない。では、実際に、総合計画はどのように策定されているのであろうか。

総合計画を策定している自治体のうち、64% (850 自治体) は外部委託をしている。外部委託をまったくしておらず、自治体のみで計画を策定しているのは 36% (475 自治体) であった。

(2) 委託業者の関与の程度

業者の関与の程度に関しても尋ねた。その回答を見ると (表 2)、確かにほとんど業者に依存しているのではと思われるような自治体も見られる。計画書の原案作成や計画書の執筆のかなりの程度まで業者に委託している自治体はほぼ 5 割にのぼる。だが、残りの 5 割の自治体では業者にまかせきりというわけではなく、業者の関与は限定されており、また策定までのほとんどの作業を委託しているというわけでもないようである。業者に委託する部分としては、住民意識調査の実施が最も多くの自治体でなされているようである。どの程度の作業を業者に委託するのかは、自治体の総合計画策定能力に自治体によって大きな違いがみられると推測される。

² 69 の自治体が非該当である。NA は実数である。以下の表においても同様である。

表2 外部委託業者の関与の程度³

| | 業者が行った | 業者はか なり関与 した | 業者はや や関与し た | 業者は関 与してい ない | 事業自体 を行って いない | NA |
|--------------------|--------|--------------------|-------------------|--------------------|---------------------|----|
| a. 指標による政策施策別分析 | 7.0 | 25.0 | 26.4 | 17.1 | 24.5 | 24 |
| b. 財政分析と財政シミュレーション | 2.1 | 10.9 | 16.2 | 43.8 | 27.1 | 28 |
| c. 住民意識調査の実施 | 14.5 | 49.5 | 21.2 | 8.7 | 6.1 | 19 |
| d. 政策体系の構築 | 3.9 | 31.8 | 42.8 | 19.8 | 1.7 | 28 |
| e. まちづくり指標の設定 | 2.3 | 20.2 | 37.2 | 22.3 | 17.9 | 30 |
| f. シンポジウムの開催 | 1.0 | 12.0 | 14.7 | 16.6 | 55.8 | 30 |
| g. 計画書の原案作成 | 10.7 | 39.0 | 38.9 | 10.6 | 0.7 | 17 |
| h. 計画書の執筆 | 10.4 | 36.4 | 38.2 | 14.2 | 0.8 | 19 |

(3) 総合計画への住民参加

表3 総合計画への住民参加⁴

| | 強い | やや強い | やや弱い | 弱い | 行われな かった | NA | 非該当 |
|----------------------------|------|------|------|------|-------------|----|-----|
| a. 住民に対するアンケート調査 | 32.2 | 43.1 | 8.0 | 1.8 | 15.0 | 19 | 71 |
| b. 住民への説明会や公聴会 | 17.4 | 32.1 | 11.8 | 3.4 | 35.3 | 27 | 71 |
| c. 住民モニター制度 | 2.0 | 6.9 | 7.2 | 3.5 | 80.4 | 33 | 71 |
| d. 広報やインターネットを通じて計画への意見募集 | 7.2 | 20.1 | 22.4 | 12.3 | 38.0 | 33 | 71 |
| e. 審議会 | 65.5 | 25.5 | 4.4 | 0.7 | 3.8 | 20 | 71 |
| f. 職員研究会 | 25.7 | 35.6 | 12.2 | 4.3 | 22.2 | 35 | 71 |
| g. 地区住民会議 | 20.9 | 23.0 | 10.0 | 3.2 | 43.0 | 35 | 71 |
| h. 日ごろの苦情や行政相談内容の集計 | 3.0 | 20.0 | 29.7 | 20.1 | 27.2 | 37 | 71 |
| i. パブリックコメント制度 | 7.9 | 14.2 | 13.3 | 8.2 | 56.4 | 37 | 71 |
| j. 住民や当事者団体等による自主的な計画検討委員会 | 7.5 | 10.3 | 6.0 | 5.3 | 70.8 | 36 | 71 |

³ この質問項目は 545 の自治体が非該当である。

⁴ この質問項目は 71 の自治体が非該当である。

ところで、総合計画の策定が義務づけられてから、一貫して住民参加は大きな課題とされてきた。地方自治体では、住民参加としてどのようなことがなされているだろうか（表 3）。自治体が行っているさまざまな住民参加が、総合計画に対してどれほどの意味を持っているのかを尋ねた。調査への回答の結果を表 3 に示す。大きな影響力を持っているのは「審議会」である。ついで、「住民に対するアンケート調査」なども大きな影響力を持つと認知されている。

4.3 総合計画の担当部署

(1) 総合計画担当部署の機能

つぎに、総合計画の実施過程に注目する。総合計画を担っている部署はどのような機能を果たしているだろうか（表 4）。最も多く、9割を超える自治体で、政策や計画などの企画立案を行っている。ついで、部署間の調整が8割程度である。総合計画の広報を行っているという自治体が6割、事業の実施に関わっている自治体が5割である。総合計画にかかわる財政の管理まで行っているとする自治体は、4分の1程度である。首長の意向を反映する体制になっているとする自治体は、約35%である。

表 4 外部委託業者の関与の程度⁵

| | あてはまる | あてはまる (%) | NA |
|-----------------------------------|-------|--------------|------|
| 1. 政策や計画などの企画や立案を行う | 1211 | 91.3 | 116 |
| 2. 実際の業務を行う部署間の調整を行う | 1083 | 81.6 | 244 |
| 3. 総合的、あるいは特定の事業を行う | 713 | 53.7 | 615 |
| 4. 総合計画実行に必要なあらゆる業務を行う | 402 | 30.3 | 924 |
| 5. 総合計画に関わる財政の管理を行う | 353 | 26.6 | 975 |
| 6. 総合計画の広報を行う | 861 | 64.9 | 466 |
| 7. 首長の意向を強く反映させられるような体制 になっている | 470 | 35.4 | 858 |
| 8. その他 | 30 | 2.3 | 1296 |

(2) 総合計画の有効性

では、総合計画を担当する部署において、総合計画の有効性はどのように認識されているのであろうか。この点について、かなり肯定的な見解が示されている（図 4）。担当部署にお

⁵ 各項目とも、この質問に関して非該当である自治体は 73 である。

いては、総合計画はかなり役立っていると認識されているようである。

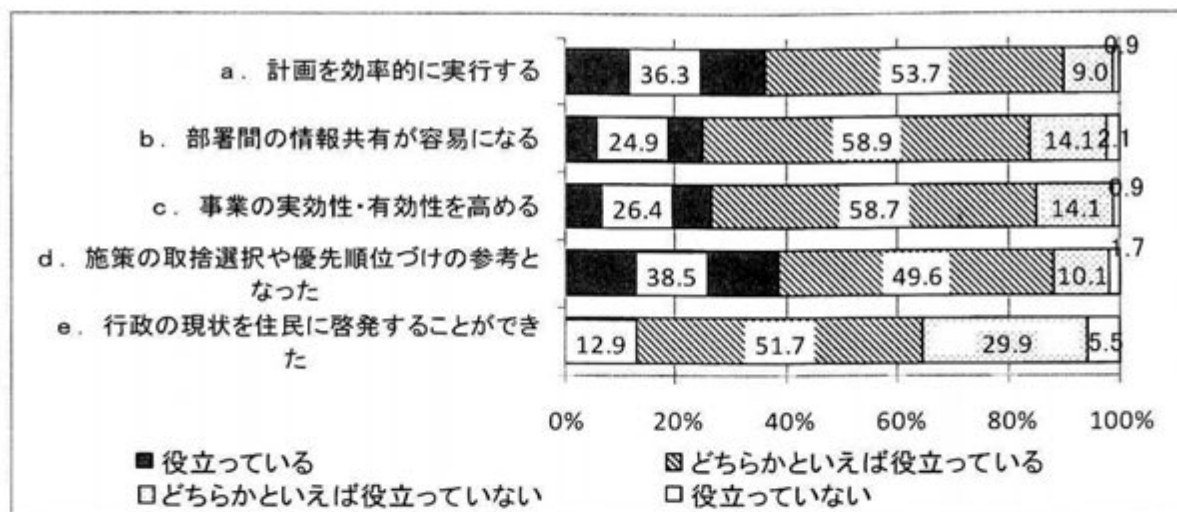


図4 事業実施への有効性

(3) 総合計画実施上の課題

総合計画担当部署が総合計画にもとづいた行政を推進するうえで課題として考えていることは、どのようなことであろうか(図5)。重要な課題であるともっとも多く認識されているのは、「計画と財政の連携をとる」ということである。財政的な基盤がなければ計画はまさしく絵に描いたもちになってしまう。ついで「計画と評価の連携をとる」ということも重視されている。比較的重要な課題とみなされなかったのは「実務を行う部署への助言・情報提供」であった。

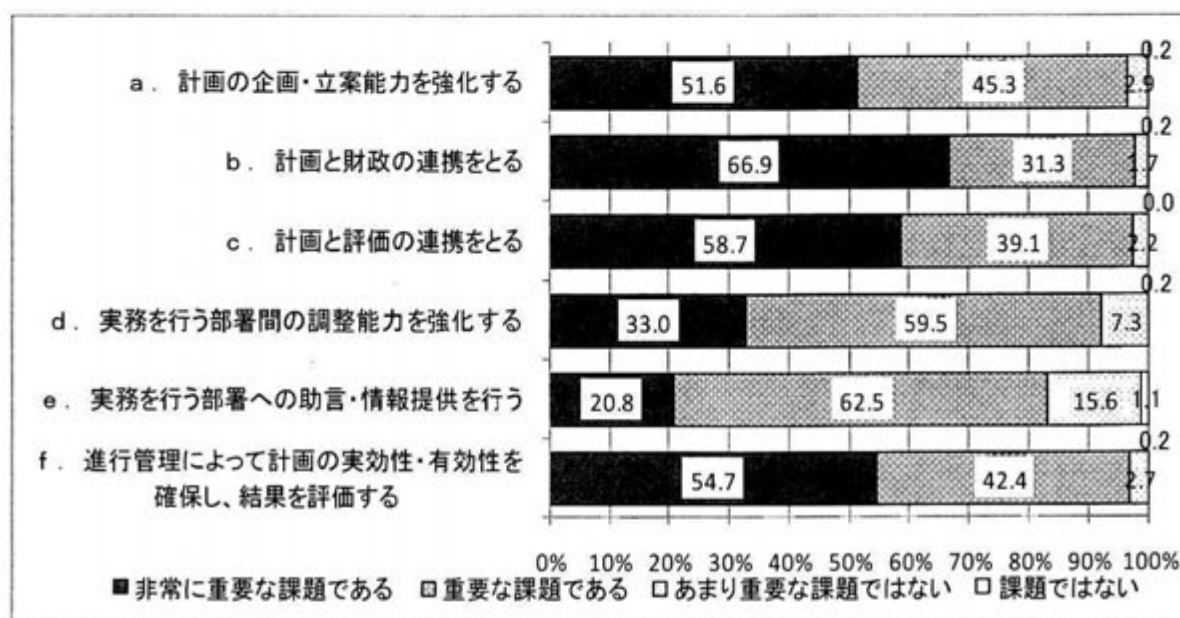


図5 総合計画担当部署の課題

4.4 総合計画の評価制度

(1) 総合計画に対する評価制度の導入

近年では、行政評価が注目を浴びている。行政においても、民間企業と同様に、事業の結果に対する厳しい評価を実施することによって、より効率的で無駄のない行政を目指すことが目論まれており、評価制度は積極的に導入されている。当然のことながら、総合計画に対する評価が実施されることが予想される。実際のところ、どのような状況になっているだろうか。

総合計画に対する評価制度を導入している自治体は507（38.5%）であり、導入していない自治体は476（36.1%）である。評価制度導入を検討中とする自治体は334（25.4%）である。このことから、自治体は総合計画に対する評価を行うという趨勢にあるとみることができる。

(2) 総合計画における評価の対象

総合計画のうち、評価の対象とされるのはなんだろうか（図6）。回答として最も多かったのは、実施計画を評価の対象とするものである。ついで、基本計画と実施計画をセットで評価するものであり、これも3割を越える。基本構想は自治体行政の理念が提示されるものであって、それ自体を評価することはそもそも難しい。より具体的なレベルの基本計画や実施計画が評価の対象とされることは、自然なことであろう。

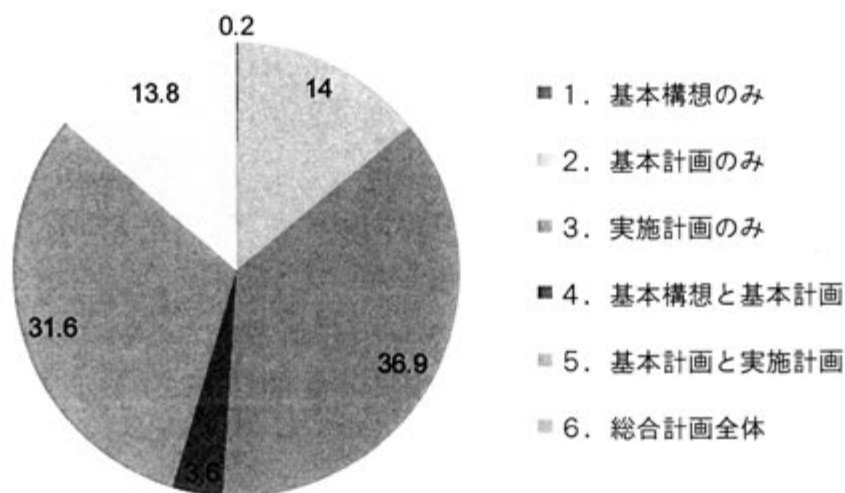


図6 計画評価の対象

(3) 総合計画評価制度の有効性

では、こうした総合計画に対する評価制度は、自治体担当者においてその有効性をどのよ

うに認識されているだろうか（図7）。

総合計画の評価制度は、様々な点で肯定的に捉えられている。とりわけ、「事業の目的達成度の向上」や「総合計画の全体的な成果の向上」に役立っていると認識されている。相対的に役立っていないと思われていないものは、「住民の声を総合計画へ反映させる」ということである。

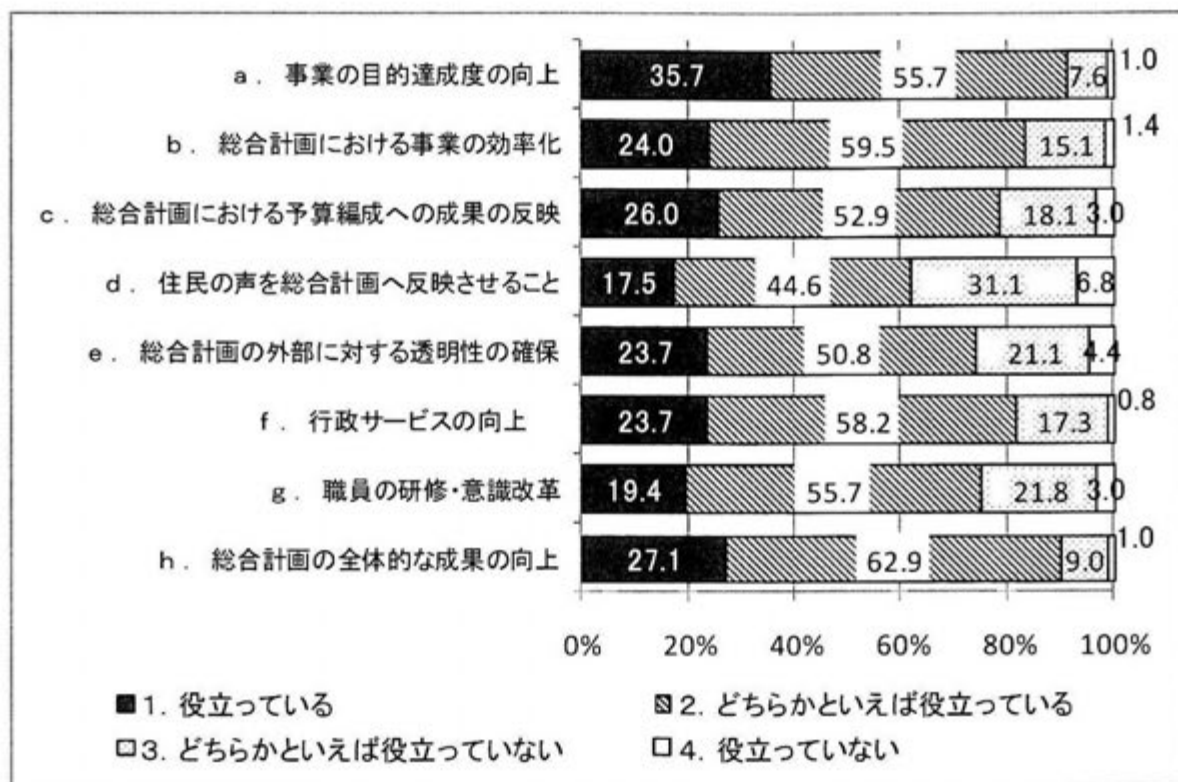


図7 総合計画評価制度の有効性

(4) 総合計画の評価

最後に、総合計画自体への評価について確認したい。地方自治体では、総合計画によってよりよい行政が可能となっていると考えられているのだろうか。

図8に明らかなように、総合計画はおおむね肯定的に評価されている。すなわち、「総合計画によって整合的な計画が策定でき」たり、「各事業の目標が明確に」なったり、「事情全体を通じた評価を行いやすい」「事業の内容をわかりやすく位置づけることができる」などと評価されている。他方で、「計画が形骸化している」といったマイナス面も認識されているようである。

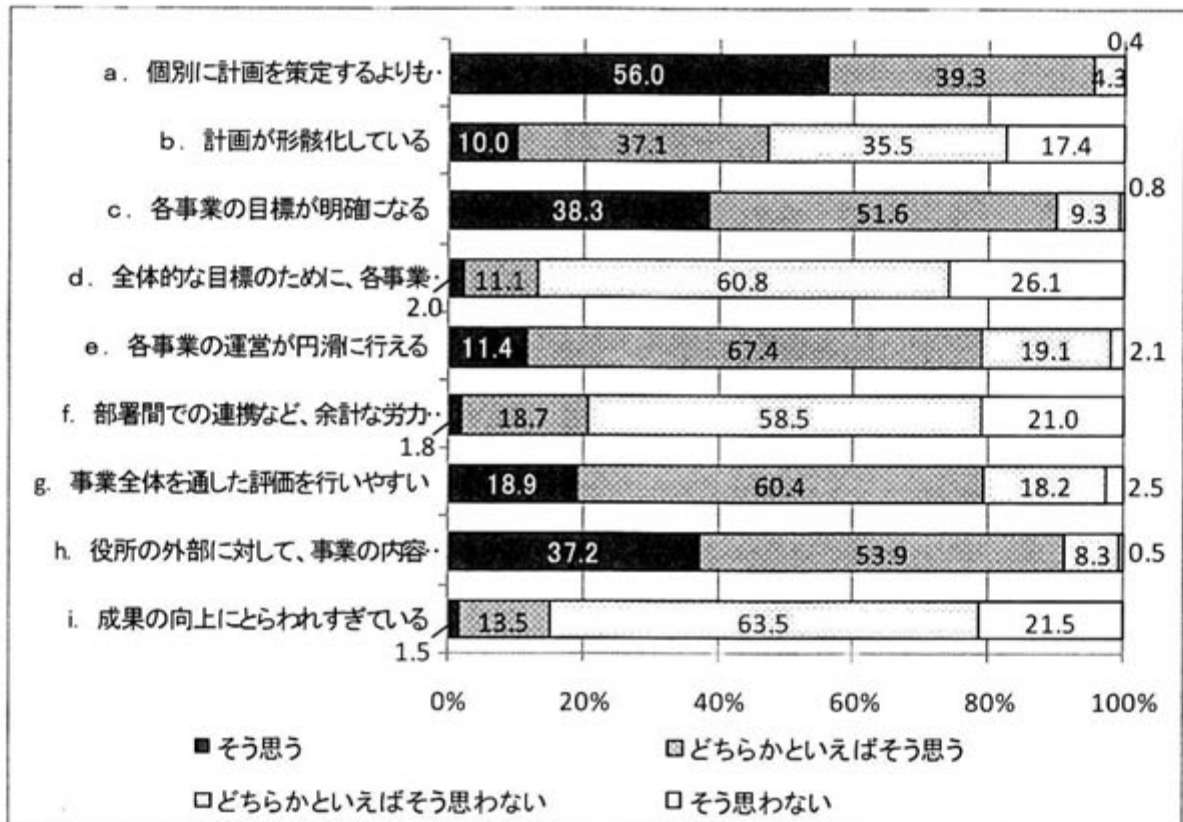


図8 総合計画の評価

5 結論

地方自治体の計画行政の実態を、全国の地方自治体を対象とした調査のデータを分析することによって明らかにした。得られた知見は、以下のとおりである。

- (1) 総合計画の策定状況（策定の有無、計画の期間、計画のパターンなど）には、大きな変化はみられない。
- (2) 約3分の2の自治体が、総合計画の策定のため、外部委託を行っている。
- (3) 審議会、住民意識調査といった形での総合計画への住民参加は、ほとんどの自治体で行われており、また影響力も強いと認識されている。
- (4) 総合計画担当部署は、ほとんどの自治体で政策や企画の立案や部署間の調整を行っている。また、計画にかかわる財政管理まで行っているのは4分の1程度である。
- (5) 担当部署では、計画と財政の連動、計画と管理進行・評価の連携が大きな課題になっている。
- (6) 総合計画に対する評価制度を導入している自治体は4割弱、検討中の自治体は4分の1程度である。
- (7) 評価制度は、多くの自治体において、かなり有効だと認識されている。

(8) 総合計画にもとづいた行政は、おおむね肯定的に評価されている。

激しい変容にさらされている地方自治体において、行政を推進していくうえで、総合計画はますます重要になると考えられる。そのためにも、総合計画に関して継続的により緻密な研究を行うことが求められる。今後の課題としては、より精密に過去との比較を行い、総合計画のあり方の変化をとらえる必要があるだろう。また、インテンシブな聞き取り調査を実施して、量的調査を補完する必要もあるだろう。

【文献】

今里佳奈子, 2003, 「地域計画と政策決定」中川善朗編『21世紀の地方自治を考える－法と政策の視点から』法律文化社, pp.235-56.

斎藤達三監修, 2003, 『総合計画と政策評価』地域科学研究会.

田野崎昭夫編, 1996, 『地域社会計画の研究』学文社.

財団法人日本都市センター, 2002, 『自治体と総合計画』財団法人日本都市センター.

地方自治体と住民意識調査

——「全国自治体調査」のデータ分析から——

田邊 浩

(金沢大学)

【要旨】

2007年に全国の地方自治体を対象に実施した調査データを用いて、市町村が実施している住民意識調査の実態を明らかにし、そうした調査の問題点について検討した。分析の結果として、以下のことが明らかとなった。(1)多くの市町村では住民意識調査がよく行われている。(2)住民意識調査を実施する必要性が高く認識されている。(3)自治体には調査の専門家はおらず、自身で調査をすることは難しい状況にある。(4)多くの自治体で調査の大部分が業者任せになっている。(5)調査の専門家の関与の必要性は認識されている。自治体がよりよい調査を実施するためのひとつの可能性として、大学との連携について検討した。

キーワード： 社会調査，住民意識調査，総合計画

1 はじめに

本稿は、地方自治体が実施している住民意識調査について検討することを目的としている。地方自治体は、さまざまな目的で数多くの住民意識調査を実施している。だが、大谷信介も指摘するように、それらは多くの問題を孕んでいるようである（大谷 2002）。かりに、そうした問題が実際に存在するならば、それらを放置しておくことは望ましくない。社会調査の専門家たる社会学者が何らかの問題解決策をもって働きかけることが求められるが、そのためには問題のより精確な把握が必要とされるだろう。

本稿では、私たちの研究グループが2007年9月に実施した地方自治体（市，町，村，および東京特別区）を対象とした調査のデータを用いて、地方自治体における住民意識調査の諸問題を明らかにする。そして、そうした諸問題の解決に向けた方向性について考察する。

2 研究の背景

私たちの研究グループは、地域社会調査の可能性を探るべく、全国の地方自治体に対して、社会調査や個人情報の取り扱いに関する調査を行うことを企画した。何らかの意識調査を行う場合、サンプリングのための抽出台帳とするのは、住民基本台帳か、あるいは選挙人名簿

であることが多い。だが、個人情報保護への関心の高まりなどの社会情勢により、それらの名簿閲覧に関して、より厳しく制限が課せられるようになってきた。対象者になかなか協力を得られないといったことだけではなく、こうした点でも社会調査を実施する環境は悪化している。各地方自治体が、どのような条件のもとで名簿閲覧を許可しているのか、実態を把握することが必要であろう。

この調査の一環として、私たちは地方自治体が実施している住民意識の実態についても取り扱うこととした。地方自治体は、1969年の地方自治法の改正により、基本構想、基本計画、実施計画からなる総合計画を策定して、総合的で計画的な行政の運営を図ることが求められるようになった。また、現在では、そうした総合計画だけではなく、防災計画、地域福祉計画など、さまざまな計画が策定されている。これらいずれの計画にしても、無理のない、そして意味のある計画を作成するためには、住民のニーズやそれらを取りまく状況を的確に把握することが肝要である。そのための有効な手段こそ、住民を対象とした社会調査である。実際、これらの計画の策定過程で、住民を対象とした意識調査が行われることは一般的なこととなっている。

今里佳奈子によれば、現代では、地方自治体における計画の重要性はますます高まっているという（今里 2003）。そうであるならば、計画策定のための住民意識調査もより実効的なものであることが求められる。だが、果たしてそうなっているだろうか。この点に関して、すでに大谷らがアプローチしている（大谷 2002）。大谷らにより指摘されるように、地方自治体が実施している住民意識調査には大きな問題が多々あるようである。

3 住民意識調査の諸問題

地方自治体が実施している住民を対象とした意識調査は、私たちが想像している以上に数多く行われている。だが、これらの調査に多くの問題があることを明らかにしたのが、大谷らの研究である。これが唯一の先行研究であるので、私たちの研究も大谷らの研究に準拠することになる。では、その研究では、実際に何が明らかにされたのだろうか。

大谷らは、主に地方自治体が策定を義務づけられている総合計画のために実施された市民意識調査を対象にしている。自治体が行う調査は多いが、なかでも総合計画のためには、ほとんどの自治体で調査が実施されているからであり、また調査の内容もある程度定型的なものであるからとされる。

大谷らは、大阪府下の全 44 自治体（2001 年調査時点）に対して聞き取り調査を行っている。調査を担当しているのはどこか、調査を外部委託しているか、調査の作業に自治体自身がどの程度主体的にかかわっているのか、サンプリングはどのようにされているのか、回収率はどの程度か、調査結果をどのように公開しているか、調査実施後にデータ等をどのよう

に処理しているかなど、かなり多岐にわたることが尋ねられている。

大谷らの研究では、大阪府下の自治体への聞き取り調査のみならず、一自治体への集中的な調査や、実際の調査票の分析などもなされている。そして、結論として、①多くの住民意識調査が単に住民参加を行っていることのアリバイとしての意味しか持たされていないこと、②そもそも調査によってなにかが明らかにされるといった期待がもたれていないこと、③関係者の調査リテラシーに問題があり、必ずしも科学的に意味のある調査がなされていないこと、が述べられている。

大谷らの研究は大阪府下の自治体を対象としたものであるが、私たちは全国の市町村を対象として調査することにより、より広範にこの問題を取り扱う。

4 調査の概要

2007年9月～10月に1826市区町村を対象として、「計画行政と住民ニーズ把握に関する全国自治体調査」と題した調査を実施した。本調査は、郵送法による調査票調査であった。

調査の内容としては、大きく4つのテーマにかかわるものであった。第1に自治体の総合計画について、第2に市町村合併や行政の現状について、第3に自治体の防災対策について、そして第4に自治体が行っている住民意識調査および行政が保有する台帳（住民基本台帳や選挙人名簿）の利用可能性についてであった。

内容が多岐にわたっていたため、調査票をA票とB票の二つに分けた（自治体の住民意識調査、台帳閲覧関係の質問項目でA票を、それ以外のものでB票を構成した）。A票の回収数は1408、回収率は77.1%、B票の回収数は1400、回収率は76.7%であった。

本稿においては、とくにA票の住民意識調査について尋ねた質問項目を利用する¹。

5 分析

5.1 総合計画に関する住民意識調査

一口に地方自治体が実施している住民意識調査と言っても、のちに触れるように、自治体はかなりいろいろな住民意識調査を実施している。さまざまな部署が相互に関連を持たずに、独自に調査を実施することも多いようである。私たちの調査では、自治体における調査の実施の詳細や、データの取り扱いなどについても調べることを目的としていたため、大谷らがそうしたように、まずは総合計画にともなう住民意識調査に焦点を当てた。

¹ したがって、以下では回答した自治体数は基本的に1408であるが、質問によってそれには回答することのない非該当となる自治体もある。

(1) 総合計画に関する住民意識調査の実施状況

総合計画を策定するにあたって、住民意識調査を実施することは義務ではない。だが、多くの自治体では、住民意識調査を実施しているようである。定期的を実施しているとする自治体は312であるが、定期的ではないが実施したことがあるとする自治体も含めると8割を越えている（表1）。

表1 総合計画に関する住民意識調査の実施

| | 実数 | (%) |
|----------------------|------|-------|
| 1. 定期的を実施している | 312 | 22.2 |
| 2. 定期的ではないが実施したことがある | 868 | 61.8 |
| 3. 実施したことはない | 225 | 16.0 |
| 9. NA | 2 | |
| 合計 | 1408 | 100.0 |

(2) 調査のサンプルと有効回収率

住民意識調査を実施する際に、自治体はどのようなやり方で調査を実施しているのだろうか。調査対象者は「個人」とするものが9割近いが、1割を越える自治体の調査は「世帯」を対象としたものである。また、個人と世帯の両方という自治体も、若干見られる。

調査のサンプル数はさまざまである。そのサンプル数に決定した理由についても質問したが、「統計学の見地から」対象数を決めたとする自治体は4割弱である。「できるだけ多くした」とする自治体も15%弱にのぼり、科学的な手続きにもとづいて実施されているのかが疑わしい。

表2 住民意識調査の有効回収率

| | 実数 | (%) |
|-----------|------|-------|
| ～40%未満 | 233 | 20.4 |
| 40%～50%未満 | 359 | 31.4 |
| 50%～60%未満 | 244 | 21.3 |
| 60%～70%未満 | 119 | 10.4 |
| 70%以上 | 188 | 16.4 |
| NA | 40 | |
| 非該当 | 225 | |
| 合計 | 1408 | 100.0 |

表2は調査の有効回収率である。40%から60%程度の回収率が半数を数える。40%未満の調査は2割程度である。調査の回収率が70%を越えたとする自治体は15%程度であり、100%あるいは100%近くの回収率を回答している自治体もみられる。どのような対象で、どのような手続きで、どのように調査が実施されているのか、よく調べてみる必要があるだろう。

(3) 調査に関する評価

このような住民意識調査をしたとして、地方自治体は住民意識調査を実施することについてどのように考えているのだろうか。たんに義務であるかのようになされているのだろうか。図1にみられるように、総合計画を策定するにあたって実施される住民意識調査は、概ね肯定的に評価されている。すなわち、「住民のニーズを的確に把握することができた」や「施策の取捨選択や優先順位づけの参考となった」はほとんどの自治体で肯定的に回答されている。

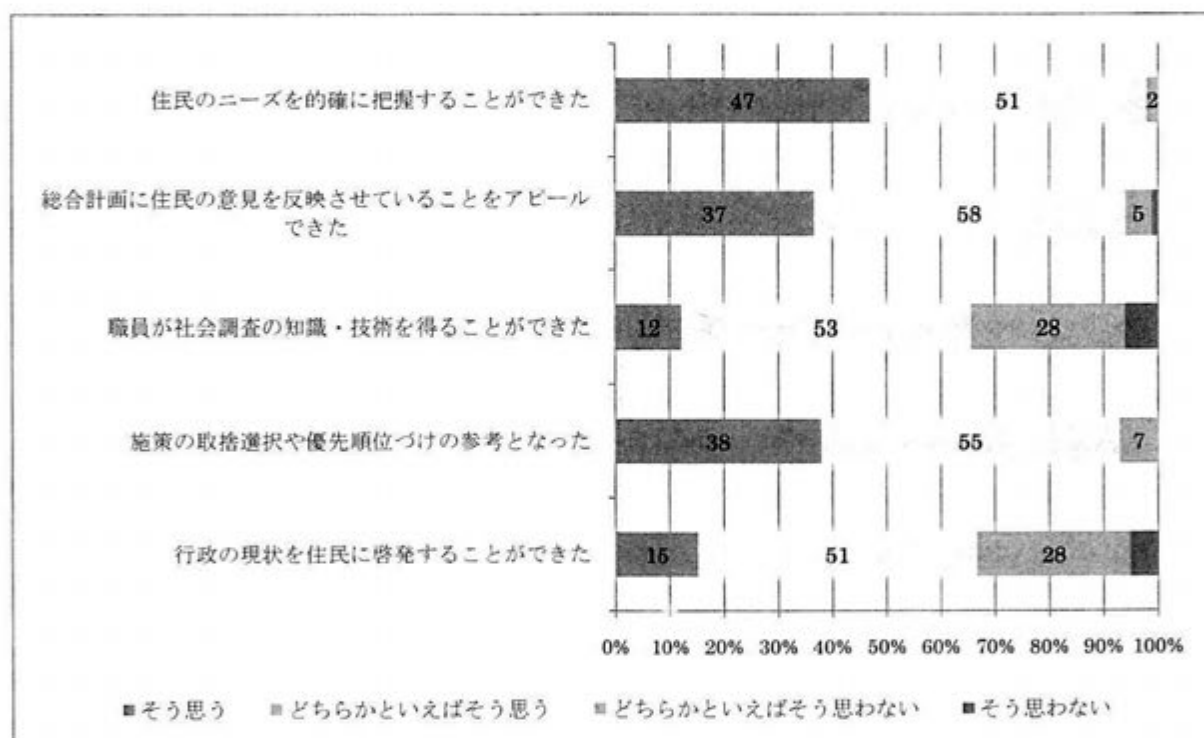


図1 総合計画に関する住民意識調査への評価

(4) 調査に含まれる個人情報

先ほど見たように、調査の有効回収率が4割を切る調査も少なくない。調査環境はますます厳しくなっているが、回収率に調査における個人情報の有無が影響すると考えられる。純粹に学術的な調査と違って、自治体の実施する調査では個人情報の取り扱いがさらに難しいだろう。

自治体の実施する調査では、どのような個人情報が含まれているだろうか。生年月日や年齢、性別は、ほとんどの調査で尋ねられている。職業や職歴は、8割近くの調査で質問され

ている。収入や学歴が質問項目に含まれる調査はきわめて少数である。家族構成や婚姻については、4割の調査で質問されている。

また、回答者への説明文で、「調査で得られた情報を使って、回答者個人を特定することはない」という趣旨を明示しているかと尋ねたが、明示している自治体は790(68.6%)、明示していない自治体も362(31.4%)にのぼっている。

(5) データ利用

では、こうして獲得した調査データは、地方自治体においてどのように扱われているのだろうか。素データ(調査票原票から回答者ごと回答を入力した電子ファイル)を保管していると回答した自治体は555(48.2%)であり、過半数に満たない。素データを保管していないということは、データの再利用の可能性について考慮されていないということがうかがわれる。

5.2 地方自治体における住民意識調査の実態

つぎに、総合計画に関する住民意識調査に限定せず、自治体においてどのような住民意識調査が、どのくらい実施されているのかについて明らかにする。

(1) 住民意識調査の実施

まず、平成17年度と18年度の2年間で、どのくらいの住民意識調査を行ったかを尋ねた。調査を行っている自治体は788(56.5%)である。逆に言えば、4割強の自治体は2年間で住民意識調査を一度も実施していない。過去5年間(平成14年～平成18年)とすると、住民意識調査を実施したとする自治体は1049で75%を数える。

(2) 実施した調査の回数

表3 過去2年間の調査回数

| | 実数 | (%) |
|------|------|-------|
| 1回 | 309 | 40.1 |
| 2回 | 189 | 24.5 |
| 3～4回 | 141 | 18.3 |
| 5～6回 | 51 | 6.6 |
| 7回以上 | 80 | 10.4 |
| NA | 31 | |
| 非該当 | 607 | |
| 合計 | 1408 | 100.0 |

具体的な調査の実施回数についてしてみると（表3）、1回と2回で3分の2近くに達するが、7回以上という自治体も1割を越えている。

(3) 住民意識調査の必要性の認識

住民意識調査の必要性に関しては、自治体においてどのように認識されているであろうか（表4）。「非常に必要性を感じる」自治体は460（46.8%）、「やや必要性を感じる」自治体は459（46.7%）であり、ほとんどの自治体において住民意識調査を行う必要があると認識されている。

表4 住民意識調査を行う必要性

| | 実数 | (%) |
|-----------------|------|-------|
| 1. 非常に必要性を感じる | 601 | 47.0 |
| 2. やや必要性を感じる | 588 | 46.0 |
| 3. あまり必要性を感じない | 87 | 6.8 |
| 4. まったく必要性を感じない | 3 | 0.2 |
| 9. NA | 129 | |
| 合計 | 1408 | 100.0 |

5.3 住民意識調査の外部委託

地方自治体における住民意識調査は、どのようにして行われているのだろうか。つまり自治体自身の手によってすべて実施されているのか、そうではないのか。住民意識調査を実施している3分の2の自治体が、調査の外部委託をしている。いろいろな理由があるのだろうが、やはり調査を自治体内部のみで実施することは難しいのだろう。

(1) 委託の内容

外部委託をしているとして、その委託内容について細かく尋ねた（図2）。調査事項の設定は業者任せではなく、自ら行っている自治体も多い。調査票の配布や回収は、半数近くの自治体が自ら行っている。データの集計や分析は、ほとんどの自治体で業者任せである。報告書の執筆も業者が行っている場合が8割を越えている。4割の自治体は、自治体主導で報告書の内容を検討している。

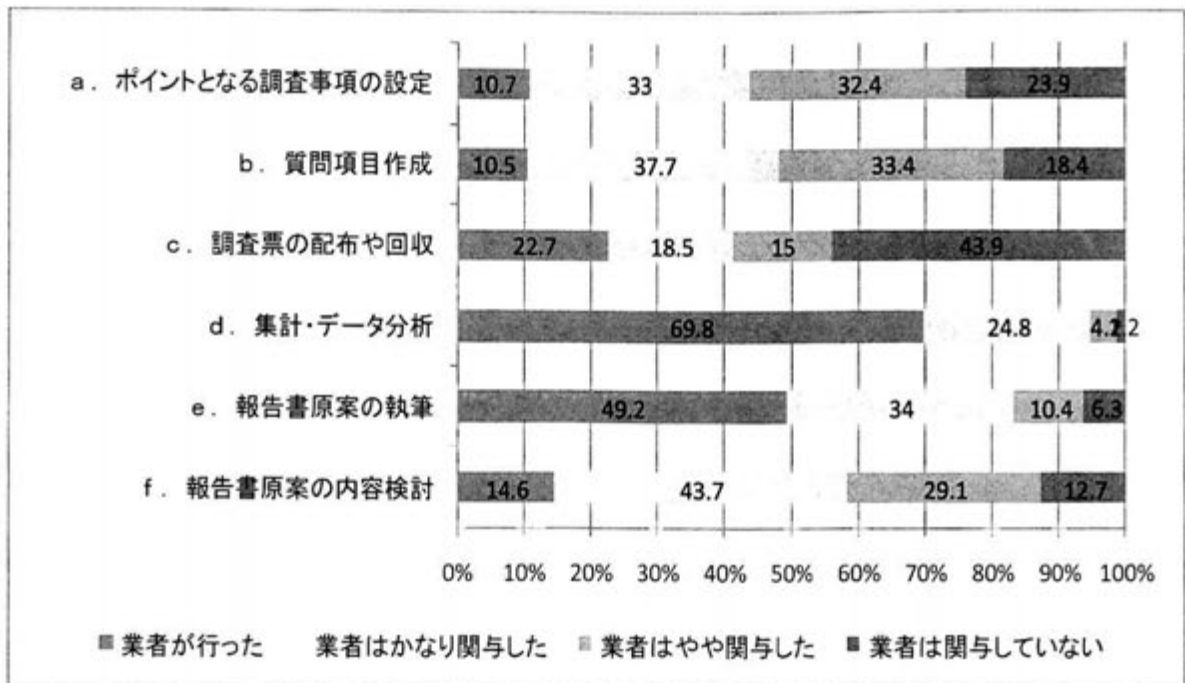


図2 調査の外部委託の内容

(2) 委託業者の選定基準

では、委託先の業者は、どのような理由で選ばれているのだろうか。「類似の調査実績があること」「数多くの調査実績があること」「適切な委託費用で実施できること」を重視する自治体が多い（図3）。

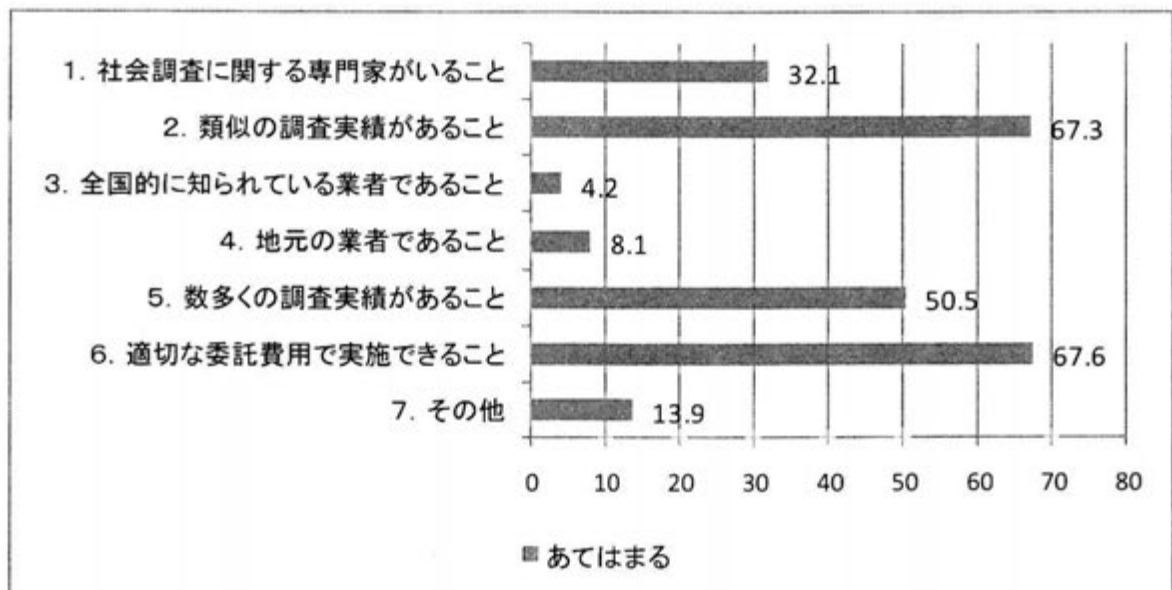


図3 委託業者の選定基準

(3) 外部委託の評価

自治体は、住民意識調査を外部委託することには、どのような評価をしているのだろうか（図4）。「業者の調査能力は高い」「業者のデータ分析能力は高い」など、調査を委託することに肯定的な面も見られる。他方で、外部委託に否定的な意見（「外部委託すると、住民の個人情報漏洩する恐れがある」「外部委託しても、ありきたりな調査しかできない」）も、多数ではないが、一定程度の自治体で見られる。

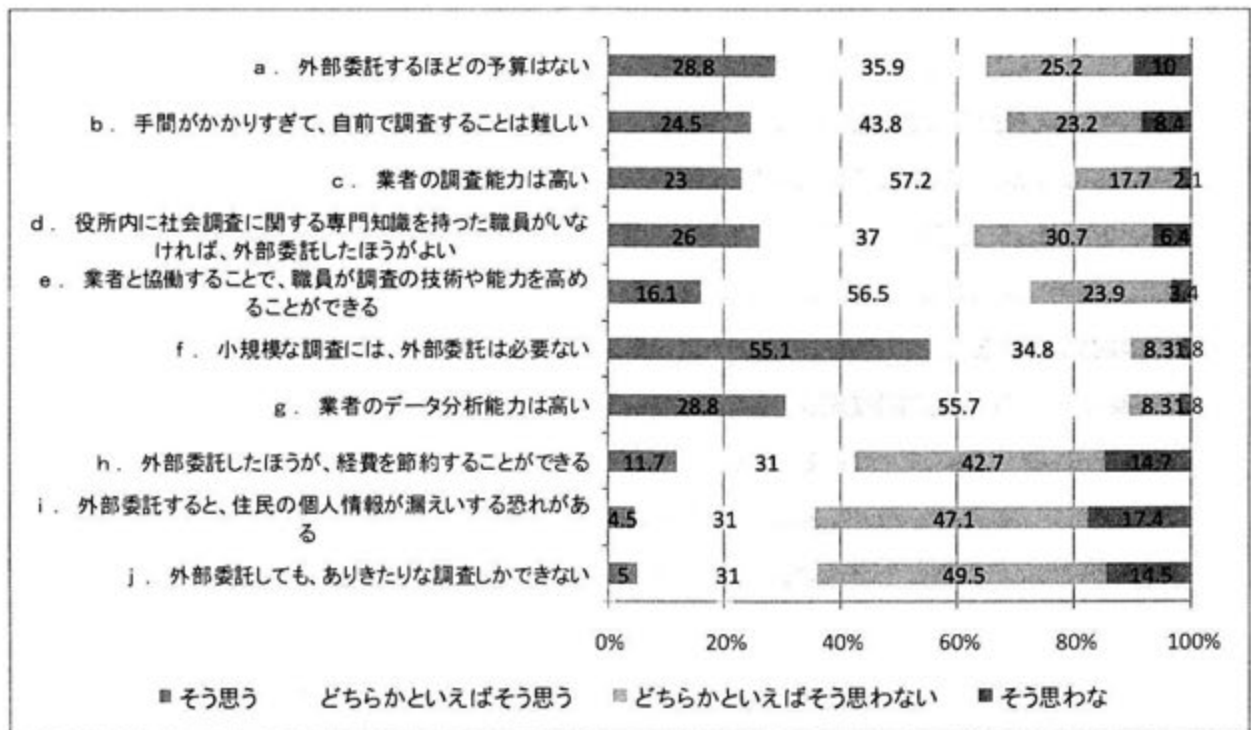


図4 調査の外部委託の評価

5.4 住民意識調査に対する認識と評価

では、地方自治体は、実際のところ、どのような体制で調査を実施しているのだろうか。また、調査を実施することについて、どのように評価しているのだろうか。

(1) 社会調査の専門家

自治体が発行している住民意識調査には、社会調査の専門家が関与しているのだろうか（図5）。「かなり関与している」は約6%、「やや関与している」は16%であり、少数派に過ぎない。

さらに、社会調査の専門家の関与が必要であるか否かを問うている。図6に示されているように、8割近くの自治体は、社会調査の専門家の関与が必要であると感じているようである。

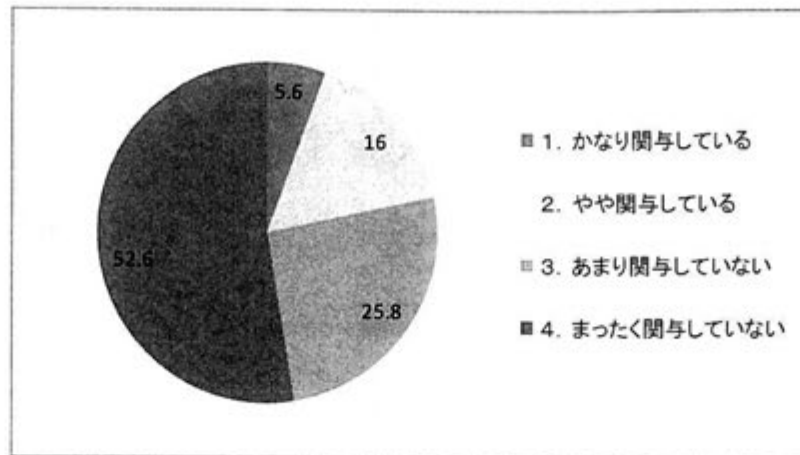


図5 社会調査の専門家の関与

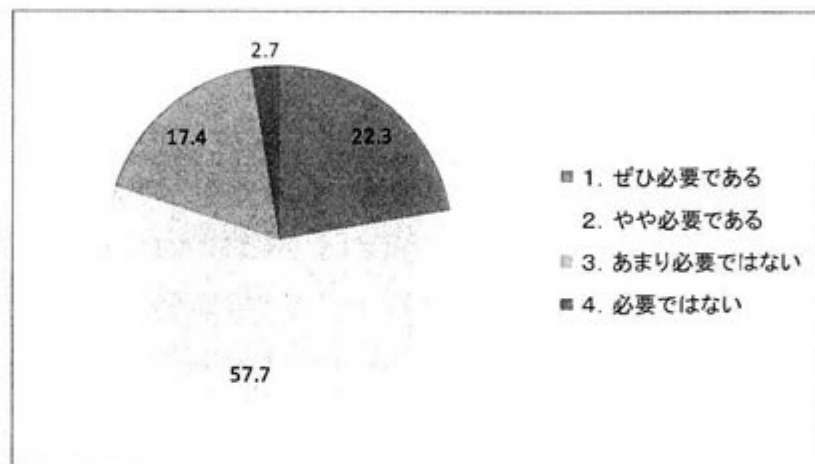


図6 社会調査の専門家の関与の必要性

(2) 住民意識調査の実施体制

表5 住民意識調査の実施体制

| | 実数 | (%) |
|-------------------------------------|------|-------|
| 1. 住民意識調査の企画や実施を行う専門の部署が存在する | 68 | 6.7 |
| 2. 調査のための専門のチームをその都度立ち上げて、調査を実施している | 27 | 2.7 |
| 3. 複数の部署が連携して調査を実施している | 65 | 6.4 |
| 4. 調査内容に応じて単一の部署が調査を実施している | 813 | 80.1 |
| 5. その他 | 42 | 4.1 |
| 9. NA | 44 | |
| 非該当 | 349 | |
| 合計 | 1408 | 100.0 |

では、調査の実施体制はどうなっているのか（表5）。8割の自治体で、単一の部署のみで調査を実施している。複数の部署が連携して調査を行っているのは6%程度である。住民意識調査を担当する専門の部署があったり（6%）、調査のための専門のチームを立ち上げる（3%）自治体は、きわめて少数にとどまる。

(3) 住民意識調査の評価

結局のところ、地方自治体は住民意識調査についてどのように評価しているのだろうか（図7）。「調査の実施作業に手間がかかる」「集計・分析に手間がかかる」など、調査を実施することがかなり負担に感じられているようである。よりよい調査をするために、「各部署がもっと連携することが必要」「社会調査の知識や技術を持った職員が必要」など、7割を越える自治体でそのように認識されている。

他方で、「住民のなかに意識調査への強い拒否反応がみられる」とは思われていないし、「調査では住民のほんとうの意見を把握できない」とも考えられてはいない。住民意識調査の意義は十分に認められているようである。

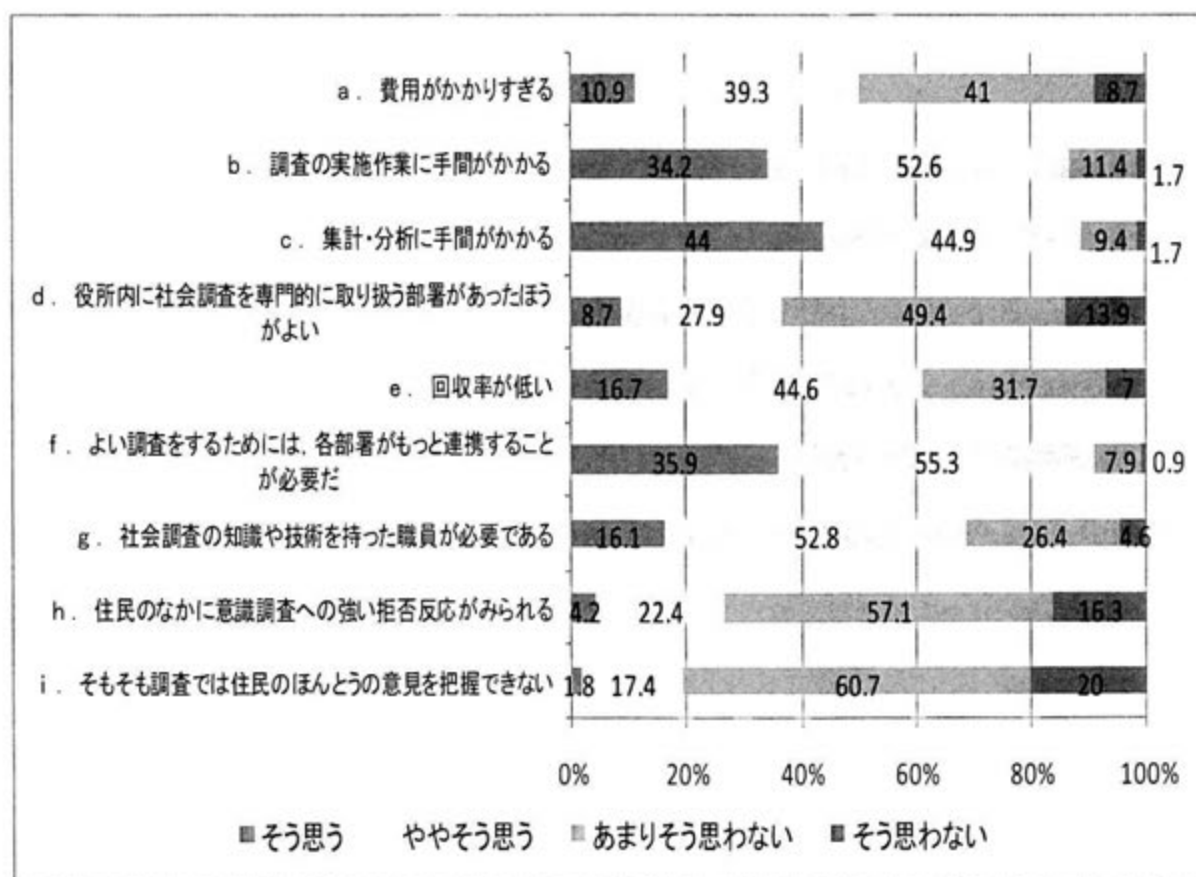


図7 住民意識調査の評価

6 結論

地方自治体が実施している住民意識調査に関して、全国の自治体を対象とした調査のデータを分析し、以下のことが明らかになった。

- (1) 多くの市町村では住民意識調査がよく行われている。
- (2) 住民意識調査を実施する必要性が高く認識されている。
- (3) 自治体には調査の専門家はおらず、自身で調査をすることは難しい状況にある。
- (4) 多くの自治体で調査の大部分が業者任せになっている。
- (5) 調査の専門家の関与の必要性は認識されている。

私たちの調査から、自治体は多くの調査を実施しているにも関わらず、内部に調査の専門家を抱えておらず、自身で調査を実施することが難しい状況にあることが明らかになった。そうしたなかで、大谷の批判するような非科学的な自治体の調査が生み出されている。こうした問題をいかに解決することができるだろうか。地方自治体が実施している住民意識調査の諸問題を解消し、それらの調査をより実効的なものとするために、そうした調査を大学などの研究機関との協働によって実施するということが考えられる。自治体側のメリットとして、以下のようなものが考えられる。①研究者とともに問題への認識を深めることができること、②社会調査の専門家による調査がおそらく業者に委託するよりも安くできること、③また研究者による高度に分析した結果が得られること、があるだろう。そして研究機関側にとっても以下のようなメリットがあるだろう。①実際の現場に触れることができること、②調査研究をするための費用が獲得できること、③調査実施に当たって自治体の協力を得ることができること、である。このように、自治体と研究機関が協働で調査を企画・実施することには、お互いに多くのメリットがあると考えられる。むしろ、メリットばかりではない。デメリットもあるだろう。今後、この点についての研究を展開していくことが課題である。

【文献】

- 今里佳奈子, 2003, 「地域計画と政策決定」中川義朗編『21世紀の地方自治を考える－法と政策の視点から』法律文化社, 235-56.
- 大谷信介編, 2002, 『これでいいのか市民意識調査：大阪府44市町村の実態が語る課題と展望』ミネルヴァ書房.
- 田野崎昭夫編, 1996, 『地域社会計画の研究』学文社.

回収原票の管理

——保管と廃棄——

俵 希實

(金沢大学大学院人間社会環境研究科 客員研究員)

【要旨】

近年、個人情報保護への関心の高まりから、社会調査では回収原票や関連資料など、情報の管理——保管と廃棄——に係る実務が重要となってきた。本稿では、保管の方法として回収原票のPDF化を、廃棄の方法として業者によるシュレッダー廃棄を提案し、その実務について検討する。

キーワード：個人情報保護、回収原票、PDF化、出張裁断

1 はじめに

近年、日本では、個人情報保護に対する関心の高まりが要因となって、社会調査の実施が困難となりつつある。

1980年、経済協力開発機構理事会勧告において、「プライバシー保護と個人データの国際流通についてのガイドライン」が示されたことを受けて、日本においても個人情報の保護に関する法律が2005年に施行された（総務省行政管理局 2004a; 総務省行政管理局 2004b）。そのことで社会調査の実施においてもますます厳密な対応が望まれるようになった。また、調査の実状からみても、個人情報保護への対応は考えていく必要があるだろう。回収率の低下が深刻化しているが、その原因として、調査の内容や調査に取られる時間など調査そのものに対する不満、住居形態やライフスタイルの変化があげられる。しかし問題なのは、協力可能な人が個人情報の取り扱いの不安から拒否するケースが生じることで、その対応としても個人情報を適切に管理し、そのことを対象者に伝えることが望まれる。

個人情報のライフサイクルは、「取得→利用→消去」（岡村・鈴木 2005: 33）といわれているが、それぞれのステージにおいて取り扱いのポイントが確立されている。取得の際には利用目的を特定し本人に対し明らかにすることと、利用の際には正確性の確保と安全管理措置を講じること、消去の際には情報保存期間を確認することなどである。このライフサイクルに従うと、情報の管理は「利用」の段階となる。しかし、社会調査の観点から考えるのであれば、「保管」というステージを加え、「取得→利用→保管→消去」というライフサイクルを設定したほうが適切である。個人情報保護に関する意識が高まる中、今後、社会調査の実務

では、特に「保管」と「消去」の段階が重要になるだろう。

しかし、これまで社会調査に関する研究においては、実査の方法や分析法などの研究は多くあるが、調査を終え、報告書を作成したあとに関する研究はほとんどみられない。また、社会調査は実務を適切におこなうことがかなり重要であるが、その具体的な記述はあまりなされてこなかった。そこで、ここでは、これまで調査法のプロセスの中でほとんど触れられてこなかった「保管」と「消去」というステージでの問題として、データや関連資料を含む回収原票の管理に係る実務について述べる。

2 回収原票の保管

2.1 保管の利点と困難

個人情報の保護を考えると、回収原票は報告書を作成したのち、すぐに廃棄するほうがよいとする考え方もあるかもしれない。しかし、回収原票を保管する利点がある。第1に、データのエラー修正が可能である点である。調査を終えたのち、何かの機会にデータの入力ミスが疑われるようなことが生じることがある。その場合、回収原票があれば確認することが可能である。第2に、再入力が可能である点である。データが紛失した場合や、以前に入力されているデータが変換不可能な場合、回収原票を基に入力し直すことが可能である。第3に、証明力が高いという点である。後日、研究の手続きに疑義が示された場合、回収原票によって証明することが可能である。第4に、自由回答や調査員のメモなど、入力されていないその他の情報を残しておく点である。これらのことは調査の信頼性を高めていくことにつながる（俵・田邊・轟 2008）。

このように回収原票を保管する利点はいくつかあるが、保管をおこなう上での困難もある。多くの調査実施機関で問題となっているのが、その保管スペースではないだろうか。金沢大学社会学研究室においても、毎年社会調査を実施しているため回収原票が増加し、その保管スペースを確保するのに苦労している。他には、情報のセキュリティを上げることができる。すべての回収原票が紛失しないよう、情報が漏えいしないよう、また、改ざんなど、回収原票に手が加えられないように保管し続けていくことが求められるが、そのためには一定のルールが必要である。

そこで、回収原票の保管の利点を保ちつつ困難を克服する方法の1つとして、回収原票をPDFファイルにするという方法がある。たとえば、オーストラリアでは増え続ける回収原票の保管の方法として、回収原票のPDF化をおこなっている。オーストラリアの州政府では、回収原票はPDF化され、原票は定められた期間、保管した後、廃棄するというのが標準的な方法である。また、オーストラリア国立大学では、報告書を作成した後、回収原票は2年間保管し廃棄している。その間、回収原票をPDF化し、それをDVDで保管している（俵・轟 2009）。

PDF 化することによってスペースの確保に頭を悩ますことがなくなる他に、アクセスが容易、持ち運びが容易という利点がある。しかし、それはデータが持ち出されやすいという短所にもなりうるし、パスワード管理不備や操作ミス、不正アクセスなど、紙媒体にかわって電子媒体における情報漏えい対策が必要となる¹。また、将来は PDF ファイルの廃棄についても問題となるだろう。しかし、現時点においては、日本でも回収原票の PDF 化は保管の標準的な方法として検討する価値はあるだろう。

2.2 回収原票の PDF 化

そこで、実際に、金沢大学社会学研究室で保管されている回収原票の PDF 化を試みた。ここでは筆者が実際におこなった手順を述べる。

2.2.1 ファイル名の決定

回収原票を PDF 化する前にファイル名を決めておく必要がある。決め方はいろいろとあるが、1 例として次のような決め方がある。原票 1 票を 1 ファイルにする。ファイル名は、最初の 5 桁を調査番号とし、その後に個票番号をつける。個票番号は常に扱うサンプルサイズを考慮して桁数を決めておくといよい。金沢大学社会学研究室では、主にサンプルサイズが数百オーダーの地域住民意識調査を実施しているため、地点番号など個票番号に何か番号を加えなければならなくなったとしても、6 桁に設定しておけば十分だと判断した。調査番号を 5 桁に設定したのは、最初の 4 桁が調査年、そしてもう 1 桁は、同一年に 2 つ以上の調査がおこなわれる場合があるため、実施月の早いものから abc で区別するためである。このルールに従うと、2004 年に実施した唯一の調査で個票番号が 7001 の回収原票のファイル名は、「2004a007001」となる。

2.2.2 PDF ファイル作成の手順

ファイル作成の手順として、まず、回収原票の数を数え、報告書（調査の基礎情報が掲載されているもの）に記載されている回収数、さらには EXCEL や SPSS に入力されているデータのケース数と一致するかどうかを確認する。一致しなければ原因を追究することとなり大騒ぎとなるが²、一致した場合は、スキャニングをするために回収原票のステイプラーの針をはずし中央で裁断する。その際、ロータリー式ペーパーカッターを使用すると裁断しやすい。

¹ 電子媒体よりも紙媒体のほうが情報漏えいが生じやすく、紙媒体は全体の約 40%を占めている（富士ゼロックス株式会社 2008: 38）。

² 一致しない原因の 1 つは、返送期日を過ぎて戻ってきた回収原票の管理ができていないことである。分析の時にそれらを含めたのかがポイントである。含めたのであれば期日前に返送されてきた原票と同じように保管しなければならないし、含めなかったのであれば、それらはそのことがわかるように区別して保管しなければならない。

裁断した回収原票を自動給紙方式 ADF（オートドキュメントフィーダー）のスキヤナにセットし、両面、白黒2値（高度）に設定し、スキヤニングをおこなう。解像度に関しては、鮮明さと所要時間のバランスを考えて決定する。

PDF ファイルを作成する時に、絶対に間違えてはいけないのがファイル名である。ファイル名を間違えて入力してしまうと管理に混乱を生じ、必要な時に使用することができない。ファイル名を入力した後、再確認するとよい。

2.2.3 PDF ファイル作成における問題点

PDF ファイルを作成する作業の中で1番の問題点は、回答が薄い鉛筆などで記載されている場合の対処である。郵送調査は自記式となるので薄い鉛筆で記載されている場合がある。そのような場合は、ファイル作成後、判読可能かどうかをその都度チェックしなくてはならない。それは時間を要する作業である。判読できない回答は、解像度を上げると判読可能となる箇所もあるが、たとえ解像度を上げて、判読できない箇所も多くある。それに解像度を上げると時間を要する。そのような場合は、回収原票に記載されている回答を作業者が記載したことがわかるように空白部分に書き直すなど一手間かけてから再びスキヤニングをおこなった。このような場合の対処として、エディティングやコーディングの段階で、薄く記載されている回答を書き直しておくことが必要かもしれない。

また、回収原票に何かについて色分けをして記載することは、避けなくてはならない。色分けをして記載してもPDF化するとすべてが同じ色になってしまうので、色ではなく、印など他の方法を用いることが必要である。

回収原票のような紙媒体には付箋がよく利用されるが、付箋はPDF化する作業において妨げとなる。PDF化するまでに処理済みの付箋は取り外し、処理が終わっていない付箋については、その意味がわかるように言語化して原票に書き込んだ上で付箋を取り外しておくといだろう。

2.3 PDF化するメリットとデメリット

以上から、回収原票をPDF化することにおけるメリットとデメリットを検討する。

回収原票を保管しておく4つの利点のうち、データのエラー修正、再入力、自由記述回答や調査員のメモなどを残しておくこと、以上の3点は判読可能であればPDF化しても何ら問題は無い。ただ、前項「PDFファイル作成における問題点」でも述べたように、すべての回答を判読可能にするためには、PDF化されたファイルをチェックするなどのひと手間が必要でそれは時間を要する作業である。大量の回収原票をPDF化する場合は、この作業を徹底するのは困難である。

もう1つの利点である証明能力についてはどうだろうか。回収原票はいわゆる証拠である

ので PDF 化するには正確さが要求される。しかし、PDF ファイルにするという手順の中で何らかの手違いが生じる恐れがある。たとえば、回収原票を裁断した段階で複数の原票が入り混じってしまうことが考えられる。今後は、原票と同等の証明能力があることを示す意味で、電子媒体への証明印を取り入れるなど、何らかの対処が必要となるかもしれない。

回収原票の保管上の困難としてスペースとセキュリティの問題を挙げた。スペースの問題は PDF 化することで解決されるが、セキュリティの問題についてはすべてが解決されるとはいいきれない。PDF 化した調査票をハードディスクに一括して保存することで保管は容易になる。ハードディスクを金庫に入れておくことで、災害時であっても損壊を受けずにすむかもしれない。また、パスワード、暗号化を用いることで原票よりもセキュリティが保たれるかもしれない。しかし、紛失する時はすべてのファイルを紛失することになり、また、流失してしまう場合も一度に流出してしまう。さらに、個人情報保護に関する法律においても、今後、新しいパタンの事件が起きると、新しい法律が作られたり、改正されたりしていくことが予測される。そのたびに、その対処に追われることになるかもしれない。

以上をまとめると、回収原票を PDF 化するメリットは、スペースを有効活用することができることである。一方、デメリットは、すべての回収原票を確実に判読可能な PDF ファイルにするには時間を要することである。メリット・デメリットどちらともいえない点は、セキュリティの面であろう。保管が容易になる面もあれば、そうでない面もあることが明らかとなった。証明力については保留にしたい。

2.4 保管における注意点

回収原票（または PDF 化した回収原票）を保管する際、入力したデータ、コードブック、報告書（調査の基礎情報がわかるもの）も共に保管しておく必要がある。これらがすべて揃っていないとあとで何か問題が生じた場合、対処ができないからである。

個人情報保護と関連して、回収原票や関連資料の管理については次のようなことに気をつけたい。回収原票や対象者リストなどの紙媒体は鍵のかかる部屋や収納棚などで保管すること、対象者リストなど紙媒体のコピーは最小限におさえ不必要になれば処分すること、できれば、回収原票、対象者リスト、およびデータファイルは同じところに保管しないこと、回収原票については調査に先立ち保管期間を決めておき、保管期間が過ぎた時点で、廃棄をおこなうのか、継続して保管するのかを決定すること、USB メモリーなど電子媒体の紛失・置き忘れに気をつけることなどである。

3 回収原票の廃棄

回収原票はルールで定めた保管期間が過ぎた時点で廃棄することが求められる。個人情報

のライフサイクルでいえば、消去の段階である。近年、機密文書の廃棄については専門業者に委託する方法が注目されている。回収原票についても調査実施者自身がシュレッダーをかけて処理するのは手間と時間を要するし、いい加減な裁断はセキュリティの面で望ましくない。調査費用を考慮しつつ、専門業者による廃棄も1つの選択肢として考えてよいだろう。そこで、専門業者による回収原票の廃棄を検討する。

3.1 廃棄の方法

専門業者に委託する場合、その処理方法はおおまかに、焼却、直接溶解、シュレッダーによる裁断の3つに分けられる(表1)。文書の回収方法としては、クライアントが直接業者に持ち込む方法、クライアントが各業者と提携している郵便局や宅配業者を介して業者に送る方法、業者がクライアントの元をたずねて回収する方法がある。シュレッダー処理に関しては、業者がクライアントの元に出向いてその場で高性能のシュレッダーで裁断するという方法がある。セキュリティの面からいえば、この方法が一番確実といえると判断した。運送途上での事故や紛失の恐れもなく、クライアントの目の前ですぐに処理をしてくれるからである。他の方法においても、処理に立ち合わせてくれる場合もあるが、処理場まで出向くのは面倒である。また、処理済みの証明書や処理現場の写真を提示してくれる業者もあるが、立会いに比べて信用度は低くなると思われる。そこで、実際に、金沢大学社会学研究室で保管されている回収原票の出張裁断を業者に依頼した。

表1 機密文書処理の方法とセキュリティ

| | 処理方法 | 回収方法 | セキュリティ |
|------------|------------------------|-----------------------------------|---|
| 焼却 | 焼却工場に搬入後、焼却 | 業者に持ち込み 業者へ郵送 業者による回収 | ・運送途上での事故、紛失、誤配送、盗難の危険性 |
| 直接溶解 | 厳封された箱を製紙会社に搬入後、溶解 | 業者に持ち込み 業者へ郵送 業者による回収 | ・運送途上での事故、紛失、誤配送、盗難の危険性 ・処理されるまでの所要時間が長い ・溶解証明の発行(写真付の場合もあり) ・処理に立ち会うことができる業者もあり |
| 裁断(シュレッダー) | シュレッダーで裁断。裁断後、焼却もしくは溶解 | 業者に持ち込み 業者へ郵送 業者による回収 出張 | ・運送途上での事故、紛失、誤配送、盗難の危険性 ----- ・クライアントの目の前で裁断 ・処理されるまでの所要時間が短い |

3.2 出張裁断

3.2.1 準備

出張裁断に限らず、廃棄を業者に依頼するには準備が必要である。

第1に廃棄する回収原票を決定しなければならない。今回、廃棄の対象としたのは、すでにPDF化した回収原票と、入力したデータ、コードブック、報告書（調査の基礎情報がわかるもの）が揃っていない調査の回収原票である。後者については、回収原票を保管していても分析の再現もデータの2次利用もできないため、廃棄して新たな回収原票の保管スペースを確保したいからである。回収原票を整理したところ、後者の回収原票がかなりあることが判明したため、今回の廃棄は特に後者についておこなうことにした。

次に、廃棄の対象となった調査の実施者に回収原票を廃棄してもよいかどうかをたずねた。社会調査は共同で実施されることが多い。よって、調査を実施する際、誰（どこ）が責任をもって回収原票や資料、データファイルを管理するのかということについて明確にしておくとうい。そうしておくとう回収原票の管理もスムーズにおこなわれる。ところが、実際には、学術調査の場合、回収原票は代表者の所属研究室や代表者個人の研究室などでひとまず保管され、そのまま年月を経ってしまうことが多い。代表者が退任したり、他大学に移動したりする時に管理責任が定まっていないとう回収原票をどうすればよいのかわからない状態に陥る。代表者の移動先に移すのだろうか、それともそのまま同じ研究室で保管し続けるのだろうか。また、そのまま保管し続ける場合、その後、廃棄する時、誰の了解が必要となるのか。代表者の了解だけを取ればよいのだろうか、調査に携わった人たち全員から了解を取らなければならないのだろうか、それとも、実際に保管している研究室の関係者で廃棄を決定してもよいのだろうか。

今回廃棄の対象とした回収原票——入力したデータ、コードブック、報告書（調査の基礎情報がわかるもの）が揃っていない調査の回収原票——にも管理の責任の所在が明らかではない回収原票があった。そこで、そのような調査のすべての実施者に手紙もしくはメールで、廃棄してもよいかどうかをたずね、実施者全員から了承を得た回収原票を廃棄の対象に絞った。実施から年月の経った調査については、全員と連絡を取るのて容易なことではなく、全員の了承を得られなかった回収原票については、今回は廃棄せずに引き続き保管することにした。

廃棄する回収原票を絞り込んだのち、処理の費用が予算内におさまるかどうかを確認し、廃棄する回収原票を最終決定した。

第2に、あとで、どの調査の回収原票を廃棄したのてわかるように記録を残しておいた。また、参考資料として、調査ごとに数部の白票を保存した。

第3に、シュレッダー処理の場合、ステイプラーの針、ゼムピンなどはそのままて処理が可能だが、金具、クリップ、粘着テープ類などは、処理が不可能なため、それらの類を取り

はずした。そして、その後、箱詰めにした。箱は、業者によって提供されたものではなく、われわれが用意しなければならなかった。このことは些細なことのようにだが、思ったよりも作業を手間取らせた。人が持ち上げることができるほどの重さにとどめておくために大きな箱には詰めないようにしなければならない。また、われわれが選定した業者は文書の重量によって料金が算出されるため、前もっておおよその重量を把握しておく必要がある。ミカン箱1箱に詰めた文書は約15~20kgであるといわれているが、様々なサイズの箱に詰めると重量がわかりにくい。ミカン箱のような一定の大きさの箱を何十箱も大学で調達するのは難しいことであった。少々の料金が加算されたとしても業者による箱の提供が望ましい³。

3.2.2 作業システム

今回、委託した業者の作業システムについて述べる。裁断当日、業者が特殊シュレッダーを搭載したトラックでクライアントのもとに出向く。裁断文書はトラックが停車するところまでクライアントが持っていく。業者のトラックが到着すると、まず、クライアントにストックルーム（後述）が空であることを確認させてくれる。これは、ここからはじまるクライアントの文書処理を確実に追うことができるようにするためである。多数のクライアントの文書が混じると、どのクライアントの文書がどの時点で最後の工程である溶解が終了したのかわからなくなり、確実に文書が処理されたと言い切ることができなくなる。

次に、処理する文書の量を計測し、一括投げ入れ方式のシュレッダーに投入する。このシュレッダー（強力破碎ユニット）はコンパクトでありながら、小型シュレッダーの20~50倍の裁断能力があり、裁断時間が短時間で済む。裁断時間は、1tで1時間が目安である。裁断幅は12mmで、これは復元不可能な幅とされているため機密が保持される。裁断された古紙は攪拌されながら、誰の目に触れることもなくトラック後部のストックルームに自動貯蔵される。

最後に処理文書の量が確定され、料金が算出される。料金の目安は1kgで60円である。ここでクライアントの目の前で作業は終了する。この一連の作業中、クライアントが写真撮影やビデオ撮影をするのは自由だが、業者はカメラ、ビデオ、携帯電話などは一切持ち込まない。クライアントから、文書を撮影し他に流出した、という疑惑を持たれないためである。

ストックルームに貯蔵された古紙はすぐに古紙ヤード（回収基地）に持っていき、そこですぐにペーラー（プレス機）にかけられる。そして、それが製紙会社に送られて溶解され、トイレットペーパーなどに再生される。希望すれば、溶解が終了した時点で溶解証明が発行され、そこでクライアントと関わるすべての作業が終了する。

³ 直接溶解をおこなっている業者は、箱を提供してくれる場合が多い。指定の箱に廃棄文書を入れて封をすると、そのまま溶解してくれる。

3.3 メリットとデメリット

出張裁断のメリットは、なんといってもクライアントの目の前で裁断してくれるので秘密保持の精度が高い点である。たとえ古紙ヤードや製紙会社ですぐに処理されずにストックルームなどで放置されたとしても、すでに裁断されているので文書内容が漏洩することがない。他の処理法だと、たとえ厳封していたとしても密かに開封され再び封をする、という行為がなされる可能性もある。また、計測しながら裁断するため、予算と相談しながら裁断することが可能である。

デメリットは、シュレッダーに投入する際、作業者が文書を直接手で投入するので、どのような文書进行处理するのかが作業者にわかってしまうことと、シュレッダーとトラックのエンジンの音がかなりするため、周囲への配慮が必要であることである。大学で処理する場合、講義中は避けなければならないので時間的制約が生じる。また、トラックで出向いてもらうため、少量の廃棄を依頼することは難しい。料金設定についても、たとえ少量であっても 500 kgまでは同じ料金となっている。

4 おわりに

本稿では、社会調査のプロセスにおいて、これまで重要視されてこなかった「保管」と「処理」のステージに焦点をあて、個人情報保護意識の高まりに対応するための社会調査の実務について述べた。そして、回収原票の、「保管」についてはPDF化を、「処理」については業者によるシュレッダー廃棄を提案した。これらにはメリットとデメリットがあり、さらなる検討の必要があるだろう。PDF化した回収原票の処理は将来どうすべきなのか、管理の責任の所在が明確ではない回収原票の処理はどうすればよいのか、実施者に廃棄の了承が取れない回収原票はどうすればよいのか、などの問題も残されている。

これまでも、社会調査の実施においては、その時々々の社会環境の変化に対応してきたといえるだろう。それは、約30年以上に渡っておこなわれてきた金沢大学社会学研究室での社会調査で得られた実践知の蓄積を検討するとよくわかる。たとえば、調査票は手書きからワープロやパソコン打ちになったり、設問数が徐々に少なくなったりしている。これらは、その時々々の社会の変化（技術革新も含む）や要請にこたえようとした結果であろう。このように、社会調査の方法や実務は、社会環境の変化に対応して、継続的に検討されることが望まれる。なぜなら、社会調査は社会における営みであるからである。

今後は、個人情報保護に関わる新しい技術の開発や法律の制定がなされていくかもしれない。そのようなことを視野に入れると、ますます保管や処理に関する実務の継続的な検討が重要になると思われる。

【文献】

- 富士ゼロックス株式会社官公庁支社, 2008, 「個人情報保護対応について——個人情報の保護に関する法律：2004/05～」(2008年2月21日金沢大学における「個人情報の保護管理に関する説明会」での配布資料).
- 岡村久道・鈴木正朝, 2005, 『これだけは知っておきたい個人情報保護』日本経済新聞社.
- 総務省行政管理局, 2004a, 「行政機関の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針について」, 総務省ホームページ, (2009年9月28日取得.
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/gyoukan/kanri/040914_1.html).
- 総務省行政管理局, 2004b, 「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針について」, 総務省ホームページ, (2009年9月28日取得.
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/gyoukan/kanri/040914_2.html).
- 俵希實・轟亮, 2009, 「オーストラリアにおける社会調査の実施状況——今後の社会調査法を展望するために」『理論と方法』46: 333-43.
- 俵希實・田邊浩・轟亮, 2008, 「個人情報保護に対応する社会調査の技法——全国自治体調査から」『社会と調査』創刊号: 84-8.

学術的インターネット調査の可能性

——「震災体験と社会生活に関する意識調査」から——

歸山 亜紀

(金沢大学大学院人間社会環境研究科 博士後期課程)

【要旨】

本稿は、われわれが2009年12月にインターネットで行った「震災体験と社会生活に関する意識調査」の実施プロセスと学術的インターネット調査の可能性について述べたものである。インターネット調査は、これまでの調査法とは異なった利用の仕方があり、それをうまく利用すれば、学術的調査において効果的なツールとなりうる。しかし、新しい調査法であるがゆえに、調査倫理などの課題も残されている。

キーワード：インターネット調査，震災，調査倫理

1 インターネット調査の特徴

社会調査にはさまざまな方法がある。これまで学術的社会調査で多く用いられてきたのは、郵送法と留置法である。アメリカでは、電話法やコンピューターを使った方法（コンピューター画面に質問文を表示し、回答者が直接、回答を入力する方法（computer assisted personal interview: CAPI）なども多く使われてきた。これらの方法を使った多くの学術的社会調査では、対象者をランダムサンプリング（無作為抽出法）で選び、明らかにしたい母集団の縮図をつくることで、その母集団全体を推測することが可能である。

インターネット調査は、インターネット上で調査の依頼と実査を行う調査法である。バナー広告等で不特定多数のインターネットユーザーを調査サイトへ誘導し、回答してもらうオープン型と、調査会社に調査協力者として登録している人びと（モニター）に対し、回答を依頼するクローズド型に大きく分けられる（小林 2010: 73-4）。インターネット調査は、対象が、そもそもインターネットを利用している人、利用できる人に限られる。またクローズド型の場合、ある調査会社にモニターとして登録している人しか対象とならない。つまり、ある母集団からランダムサンプリングを行うことができないのである。

インターネット調査は、以下で述べるさまざまなメリットから、新しい調査方法として注目されており、商業目的の市場調査では広く用いられている。しかし、上記のような代表性

の問題から、まだ学術的な社会調査で使用されることはごく少ない¹。

ただし、近年は、社会調査の実施環境の悪化が指摘されている。具体的には、個人情報保護意識の高まりから調査への協力を拒否したり、ライフスタイルの多様化やオートロックマンションの増加などで調査員が対象者に会えなかったりすることによる回収率の著しい低下などがあげられる。せっかくランダムサンプリングをしても、回収率が低いと母集団の縮図とはみなせなくなってしまい、明らかにしたい母集団について語ることは難しい。このように代表性の問題は、インターネット調査だけに当てはまるものではなくてきている。

インターネット調査は先述のとおり、代表性という大きなデメリットがある。そのため、現在のところ、その結果をもって、母集団について語るような社会調査とはなりえない。

しかし、インターネット調査には、さまざまなメリットもある。

まず、従来の方法（郵送法や留置法）に比べて、コストを格段に小さくできる。サンプリングや訪問する調査員の人件費、印刷や郵送にかかる費用が不要になるからである。

次に、そのスピードである。インターネット調査では、回答者が web 画面上でクリックしたり、入力したりした回答がそのまま電子情報となる（小林 2010: 74）ため、基本的にコーディングやデータ入力の必要はない²。また、論理エラーをプログラム上でコントロールすることができるため、エディティングの手間も大きく省ける。そして、クローズド型に限れば、調査依頼から回収までの期間が早いことも挙げられる。たとえば、われわれがこれまで行ってきた郵送法調査でサンプルサイズ 500 程度の場合、調査依頼から実施、回収までに約 2 週間から 1 カ月かかる。しかし、クローズド型のインターネット調査の場合、よほど出現率の低い属性を対象にしない限り、1 週間程度で完了できる。

ここまでは一般的によく言われているインターネット調査のメリットであるが、実は、以下のような用途で使用する時、インターネット調査の利点を最大限に利用できると考えられる。

それは、従来の方法では対象者として出現しにくい属性の人びと³からの意見を効率よく集める（小林 2010: 75）、質問文や質問項目を開発するため⁴の「予備調査」や「探索的調査」、回答者の属性を極力コントロールし、少数の要因の効果を確認するための「実験的調査」（村瀬 1998: 52）である。また、まだ実証的に十分に明らかにはなっていないが、キーボード入

¹ 学術的な調査として、インターネット調査を行っているものには、太郎丸編（2006）や 2007 年 SSM 若年層インターネット調査（太郎丸・柄澤 2008）などがある。しかし、これらも母集団について推測しているわけではない。

² 職業などを具体的に入力してもらった場合などは、コーディングが必要となる。

³ たとえばある調査会社では、現在ある病気を患っている人やその家族に特化した「疾病モニター」や医療に携わっている人びとに特化した「医療関係従事者モニター」などがある。

⁴ 心理学では、質問項目に十分な信頼性と妥当性を持たせるため、多くの項目を準備して予備調査を行い、その結果を踏まえて、信頼性や妥当性を高めるように質問項目を取捨選択することが一般的である（鎌原 1998: 71）。

力の容易さから自由記述式の回答が多くなるとも言われている（宣伝会議 2008: 13）⁵。

これらは、母集団について明らかにする、というこれまでの一般的な社会調査の用途以外での、インターネット調査の可能性を提示しているもので、本稿もこれに従い、その可能性について検討していく。

2 「震災体験と社会生活に関する意識調査」の実施

1節で述べてきたようなインターネット調査のメリットとデメリットを理解した上で、われわれは今回、新しい試みとしてインターネット調査を行った。本節では、われわれのインターネット調査の基礎情報や、準備作業について紹介する。

2.1 調査の基礎情報

われわれが行ったインターネット調査の概要を表1に示した。調査項目は、われわれが輪島市と穴水町で行った郵送法での調査（2009年調査）とほぼ同じで、大規模地震の被災体験や暮らしに関わる意識を尋ねるものであるが、一部追加、削除、修正をした。また、質問文や項目の開発にかかわる項目などを追加した。

表1 調査の基礎情報

| | |
|--------|---|
| 調査名 | 震災体験と社会生活に関する意識調査 |
| 調査対象地 | ‘95年以降、日本で起きた大規模地震（表3参照）で震度5弱以上を観測した市町村 |
| 調査対象者 | 上記地震のとき満20歳以上、かつ現在80歳未満の男女個人 |
| 調査期間 | 2009年12月19日（土）～21日（月） |
| 標本サイズ | 全体2,000 （各地震200×10の割り付け回収） |
| 調査回収方法 | インターネット調査（クローズド型） |
| 抽出方法 | 調査会社に登録しているモニター会員 |
| 回収率 | 100% （各地震200を目標回収とし、これに達した） |
| 委託調査会社 | 株式会社クロス・マーケティング |

2.2 調査の流れ

われわれが行ったクローズド型のインターネット調査の手順は、表2のとおりである。このなかから、特に注目するものについて、2.3から紹介する。

⁵ 「予備調査」「探索的調査」に利用できること、また、「自由記述」の容易さはCAPIと共通する。

表 2 調査の流れ

| | |
|---------------|--|
| ①調査テーマの設定／企画 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象の決定(2.3) ・調査時期の決定 ・調査委託会社の決定(2.4) |
| ②調査票の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査項目の作成 ・委託会社による web 調査票の作成 |
| ③スクリーニング調査の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・モニターから対象となる人を選ぶ(2.5) |
| ④実査 | <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング調査で対象となった人に回答してもらう |
| ⑤調査データの受取り | <ul style="list-style-type: none"> ・エクセル形式のローデータとデータラベル一覧表, html 形式の web 調査票が納品される |

*括弧がついているものは、その節で詳しく説明する。

2.3 調査対象となる地震・地域を決める

今回、われわれは日本で起きた大規模地震の被災体験をもつ人びとを対象とした調査を計画した。日本全国に広く散らばった震災体験者に対して調査を行うことは、これまでの方法では、かなりの日数とコストがかかる。インターネット調査は、これを大幅に縮小することができるのである。

まず、調査項目に地震当事のことを思い出し、回答する設問があるため、比較的記憶に新しいと思われる 1995 年以降の地震に限定した。しかし、いったいどの地震が「大規模地震」なのか、という問題が生じた。「大規模地震」を定義している文献はなく、『災害文献大事典』（干川剛史監修・文献情報研究会 2009）の「災害略年表（明治以降）」を参考にした。調査対象とする地震は、表 3 の左にある 10 の地震となった。対象地域は、各地震の時に震度 5 弱以上を観測した市町村とした。

しかし、その後、気象庁によって「顕著な災害をもたらした」地震が定義されていることがわかった。これらの地震は、「顕著な災害をもたらした自然現象については、命名することにより共通の名称を使用して、過去に発生した大規模な災害における経験や貴重な教訓を後世に伝承するとともに、防災関係機関等が災害発生後の応急、復旧活動を円滑に実施することが期待される」（気象庁 2004）ため、気象庁によって命名されている。気象庁に命名されている地震は、1995 年以降 8 つの地震（表 3 右）であり、『災害文献大事典』のそれとは、一部異なっていた。そのため、われわれの調査対象地域は、気象庁の定義より広がっている。

なお、参考までに、地震の場合の命名基準を記しておく。①地震の規模（陸域 M7.0 以上（深さ 100km 以浅）かつ最大震度 5 弱以上、海域 M7.5 以上（深さ 100km 以浅）かつ最大震度 5 弱以上または津波 2m 以上）、②顕著な被害（全壊 100 棟程度以上など）が起きた場合、③群発地震で被害が大きかった場合等、である。

どれかひとつの基準を満たしていればよいわけではなく、これらの基準を総合して判断しているようである。また、地震が起こってすぐではなく、被害程度などを検討して名前がつけられるため、どのタイミングで命名されるのかはわからない。そもそも、この「顕著な災害をもたらした」地震を、そのまま「大規模地震」としてよいのか、という問題もある。

また、1995年の関西地方での大地震は、気象庁命名では「兵庫県南部地震」となっているが、「阪神・淡路大震災」と言ったほうが、かえってわかりやすくよかったのではないかとも思える。

結局、「大規模地震」といったときの定義は難しく、現在のところ、人びとの共通認識としても一致していない。今後、「大規模地震」という定義が明確にされ、共有されることが望まれる。

表3 1995年以降に起きた「大規模地震」のリスト

| 『災害文献大事典』p.514 (今回の調査対象となった10の地震) | 気象庁によって命名されている地震 (気象庁2008) |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| 平成7年(1995年)阪神・淡路大震災 | 平成7年(1995年)兵庫県南部地震 |
| 平成12年(2000年)鳥取県西部地震 | 平成12年(2000年)鳥取県西部地震 |
| 平成13年(2001年)芸予地震 | 平成13年(2001年)芸予地震 |
| 平成15年(2003年)宮城県北部連続地震 | |
| 平成15年(2003年)十勝沖地震 | 平成15年(2003年)十勝沖地震 |
| 平成16年(2004年)新潟県中越地震 | 平成16年(2004年)新潟県中越地震 |
| 平成17年(2005年)宮城県沖震源地震 | |
| 平成19年(2007年)能登半島地震 | 平成19年(2007年)能登半島地震 |
| 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震 | 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震 |
| 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震 | 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震 |

2.4 調査会社の選定

クローズド型のインターネット調査を行う場合、どの調査会社に依頼するか、ということ は調査の質に大きくかかわってくる。インターネット調査は商業目的の市場調査に広く用いられており、そのためインターネット調査を行っている調査会社の数は想像以上に多い。選定基準は、一般的な価格や納期のほかに、とくに以下の2つを重視した。

第1に、今回の調査では、対象となる地域が広範囲にわたっており、また、いわゆる過疎地域も多く含まれているため、それらの地域をカバーできるモニターを持っていることが必要である。われわれが依頼した調査会社は、モニターの数が約130万人であり、単一データベースとしては国内最大規模である。実際、表1の回収率にあるとおり、過疎地域のサンプルも計画通りに回収することができた。

第2は、学術的調査の経験である。先述のとおり、代表性の問題から、学術調査ではインターネット調査はほとんど用いられてこなかった。そのため、市場調査の経験は豊富でも学術調査の経験は皆無といった調査会社も多い。しかし、学術調査には市場調査とは違ったノ

ウハウが必要となるだろう。これについても、先の調査会社は、学術調査専門の部署を持ち、かつ、その窓口担当者は専門社会調査士資格を有しており、通常、われわれが学術的社会調査で使用する用語で齟齬なくやり取りができた。同じ用語を使用できるということは、意思疎通を円滑にし、ミスを防ぐためにはたいへん重要なことである。

2.5 モニターから対象者となる人を選ぶ（ある属性の人びとを選ぶ）

インターネット調査は、出現確率の低い属性の人びとに関心がある場合、有効であった。いいかえれば、それは、広い範囲に存在するある属性を持った人を効率よく対象者とできることでもある。今回の調査は、全国に散らばっている大規模地震の被災体験がある人びとに対しての調査である。それゆえ、インターネット調査のもつ、この利点を活用した。

今回は、表3左の10の地震で、震度5弱以上を観測した市町村に現在住んでいるモニターに対して、スクリーニング調査を行った⁶。実際のスクリーニング項目は、「SC_1 現在住んでいる都道府県」「SC_2 現在住んでいる市町村」「SC_4 現在の年齢（地震が起きた年の年齢を自動計算し、地震当時20歳以上を対象とした）」「SC_5 地震当時、震度5弱以上を観測した市町村に住んでいたか」「SC_6 実際にその地震を体験したか」である。これらの項目すべてに該当する人が、調査対象者である。調査対象者となった人には、自分が体験した地震について、Q1からの質問項目に答えてもらった。

以下は、スクリーニングのために実際に行った作業であるが、これらは予想していた以上に煩雑であった。

まず、大規模地震で揺れた地域（市町村レベル）を確定する作業をおこなった。具体的には、先の10の地震で、それぞれ震度5弱以上を観測した市町村リストを作成した。これは、SC_5項目のために必要な作業である。

震度情報は、官公庁および自治体が確定報として公表しているものもあるが、すべてではない。たとえば、阪神・淡路大震災などは、消防庁により確定報が公表されているが、ほかの地震は各自治体などによってばらばらに公開されている。今回、われわれは、一元化されている情報を利用したいと考え、地震予知総合研究振興会による地震加速度情報HP（地震予知総合研究振興会2010）を利用した。

この震度5弱以上を観測した市町村リストの市町村名は、平成の大合併を経て、変わっているものが多い。そのため、SC_2およびSC_5項目のために、震度5弱以上を観測した市町村名と現在の市町村名の対応リストを作成した。合併後の新市町村名の確認には日本郵便のホームページ（日本郵便2010）や『全国市町村要覧』（市町村自治研究会2006）を使用した。

また、リストは、そのまま画像にしてスクリーニング調査に使われる⁷ため、見やすい体裁

⁶ すなわち、その市町村外へ移動した人は含まれない。

⁷ ミスが生じるのを嫌うため、基本的に調査会社は手を加えない。

に整えなければならなかった。この一連の作業は、相当な手間と時間を必要とした。

インターネット調査は、他の調査法に比べ、圧倒的に労力は省ける。しかし、特にスクリーニング調査で複雑な指定をする場合、準備段階ではやはりそれ相応の労力と時間が必要であることを覚えておきたい。

また、今回は、地震が起きた市町村に絞り、モニターにスクリーニング調査の配信を行ったが、登録しているモニター全員に配信をする方法も考えられる。ただ、この場合、該当する人の割合は低くなるので、2000 ケースを回収するためには、市町村を絞る場合に比べ、何倍もの人にスクリーニング調査を行う必要があり、コストが増大する。どのようなスクリーニング調査をするかは、コスト、効率、スピードなどで決定すればよいだろう。

3 インターネット調査の利用方法

1 節で述べたように、インターネット調査は、母集団について明らかにするという目的以外で、学術的調査に利用できると考えられる。本節では、「震災体験と社会生活に関する意識調査」で、われわれが、インターネット調査の利点をどのように活用したかについて述べることにより、その可能性を提示する。

3.1 質問項目の開発に用いる①

震災の被害を測定するための質問項目は、標準化されていない。どのような項目であれば、網羅的にとらえられるのか、が明確になっていないのである。

たとえば、2008 年調査では、震災によって、住宅にどのくらいの被害を受けたか、を把握するための質問項目が用意された。それは、「問 4 (1) 震災の時、お住まいになっていた住宅は被害を受けましたか」、「(2) 【問 4 (1) で被害を受けたと答えた方】お住まいになっていた住宅はどの程度の被害を受けましたか。罹災証明の認定をお答えください」、「(3) 【問 4 (2) で一部損壊以上と答えた方】震災で受けた住宅は、再建されましたか」という 3 つの質問項目である。しかし、この 3 つの項目には不足があった。それは、「土蔵・蔵」、「仕事場」、「墓」といった被害が把握できないということである。これらは、調査票の欄外に記入してあるケースがいくつかあった。また、罹災証明については、その判断を疑問視する被災者もおり、被災者の主観的な被害程度を尋ねる必要があったと思われる。そこで、2009 年調査では、問 1 で回答者または同居家族が所有する、「住宅本体」「住宅設備」「仕事場」「(仕事場以外の)土蔵」「墓」の被害について、主観的な被害程度を尋ねる項目を入れた。

インターネット調査では、2008 年調査および 2009 年調査のこれらの質問が、建物被害について、本当に網羅的に捉えられているかを確認するため、「Q4 いままでお聞きした以外に、何か、建物にかかわる被害がありましたか」を加え、「あった」と答えた回答者には、具体的

にどのような被害があったのかを自由記述式で回答してもらった。

住宅被害があった、と回答した 347 ケースのうち、Q4 で「あった」と回答したのは、51 ケース（14.7%）であった。そのほとんどが「壁」や「タイル」の損傷についてであり、これらが「住宅本体」「住宅設備」に含まれるのかどうかを明確にし、含まれるのであれば、それが回答者にわかるように、含まれないのであれば、それらを選択肢に追加するという項目の修正を行わなければならない。

3.2 自由記述式回答の豊富さを利用する

インターネット調査は、郵送法などに比べて、自由記述式回答が豊富になるのかを検証する。これは 3.1 にも関わることである。

今回の調査では、F7 で被災体験や調査に対する意見を自由記述式（任意）で入力してもらった。2000 ケースのうち、「なし」「特になし」を除き、なんらかの記述があったものは 903 ケース（45.2%）であった。

2009 年調査（郵送法）では、同じように問 32 で記入してもらうようになっている。この 2009 年調査では、有効回答 338 のうち、107 ケース（31.7%）で回答があった。

質問文が同じでなく、また 2009 年調査は第 2 波のパネル調査でもあったため、単純に比較はできないが、郵送法に比べ、やはり多くの回答が得られるのではないかと、というのが現在の感触である。また、この自由記述式回答は対象者が入力したそのままが電子データとなっているため、テキスト分析などにも効果的に利用できるだろう。

3.3 探索的調査に利用する

職業を計量的に扱う場合、人びとが従事しているさまざまな職業を分類する必要性が生じる。一般に、よく使われるのは、日本標準職業分類である。しかし、この日本標準職業分類は、最後の改定が平成 9 年 12 月であり、すでに 10 年以上が経過している。新しく現れる職業をカバーしているのかは疑問である。

インターネット調査は、一度にたくさんのサンプルに対しての調査が可能である。どれくらいの職業がこれまでの職業分類で分類可能なのか、分類できない新しい職業はどのくらいあるのか、そしてそれはどういった職業なのか、を分析するには非常に効果的だろう⁸。

今回の調査では、有職であると答えたすべての対象者に、具体的にどんな仕事をしているのかを入力してもらった。情報が膨大であるため、まだ分析は行っていないが、職業分類について新しい知見が得られる可能性がある。

⁸ ただし、インターネット調査のモニターになっている人の職業には偏りがあるといわれている（本多 2005: 88 など）。また、すべての職業が得られるわけではない。

3.4 回答選択肢の表示順の効果（質問項目の開発に用いる②）

回答選択肢の表示順によって回答の分布が変わることがあるのだろうか。もしあるとすれば、回答項目を作成する際に、十分に検討をしなければ正確なデータを得ることができない。

インターネット調査では、プログラム上で、回答の表示順をランダムにできるため、ほかの方法に比べて、はるかにこの効果を検証しやすい。実際、インターネット調査会社のほとんどは、回答選択肢のランダム化を標準料金内で行っている。

最初や2番目に表示された回答ほど、選ばれやすいことを初頭効果（primacy effect）という。それとは逆に、回答のリストのうち、最後に表示された回答ほど選ばれやすいことを親近効果（recency effect）という（Groves et al. 2009: 158-9）。これらの効果は、データ収集法に依存し、質問が視覚的に提示される自記式の調査法では初頭効果がみられ、口頭で提示される電話法などでは親近効果がみられるという（Groves et al. 2009: 159）。インターネット調査は、質問や回答選択肢が視覚的に提示されるので、初頭効果が認められる可能性がある。

われわれの調査では、Q27 満足度と Q29 階層帰属意識の回答選択肢の表示順序をランダムに逆にして表示した⁹。そのうち、本節では階層帰属意識の分析結果について考察する。

表4は、階層帰属意識についての、表示順と回答結果のクロス表である。このクロス表の数値を見ると、階層帰属意識項目については、表示順による回答分布の違いは認められなかった。

じつは、心理学で初頭効果は、「複数の情報に基づいて態度や印象を形成したり、判断を下すときに、最初に呈示された情報が特に強く影響すること」（中島ほか編 1999: 429）であり、もともとは人の意見形成における情報提示順の効果を指している。今回のような項目では、この効果は見られないということなのかもしれない。

今後は、どのような項目で分布に差が出るのか、とくに意見を尋ねる項目での検証が必要である。

表4 階層帰属意識の回答表示順と回答分布（単位：%）

| 表示順 | 階層帰属意識 | | | | | 合計 | n |
|-----------|--------|------|------|------|-----|-------|-------|
| | 上 | 中の上 | 中の下 | 下の上 | 下の下 | | |
| [上]から表示 | 0.6 | 16.1 | 45.8 | 30.2 | 7.3 | 100.0 | 1,005 |
| [下の下]から表示 | 1.0 | 18.4 | 43.1 | 29.9 | 7.5 | 100.0 | 995 |
| 合計 | 0.8 | 17.3 | 44.5 | 30.1 | 7.4 | 100.0 | 2,000 |

$$\chi^2(df=4, N=2000)=3.396 \quad \varphi=.041 \quad p=.494(n.s.)$$

⁹ まったくランダムに表示させているので、回答は必ずしも半分半分にはならない。

4 調査対象者への配慮の必要性

本川（2005）によれば、「よい調査」とは、①最小のコストで必要な品質が得られること、②調査の正確さに関する情報が提示されること、③調査対象への適切な配慮がなされること、である（本川 2005: 60）。②と③は、調査倫理（ethics）にかかわる問題である。

科学研究では、社会との関係が近年、厳しく問われるようになってきている。研究対象が社会や人間である社会学研究においては、より一層、倫理的に妥当な研究が求められるようになってきている（日本社会学会 2006: 1）。

今回は、調査倫理のうち、インターネット調査における調査対象者の負担軽減に焦点を当てる。

4.1 インターネット調査の適切なボリュームとは

ここでは、調査対象者の負担にならない、適切なボリュームがどのくらいなのかについて考察する。これは、これまであまり言及されていないが、調査倫理の重要な要素であると考ええる。

Dillman（1978）の郵送法における TDM（Total Design Method）では、郵送法での調査票の長さは 12 ページくらいがよいとされ、16 ページになると回収率が 10% 低下するという（小島 1993: 50）。これは回収率を高めるための適切な長さについて言及したものであるが、回答者の負担という側面から考えてもおなじであろう。

たとえば、まったく同じ項目で調査を行った場合、インターネット調査では、郵送法に比べ回答時間が短くなることが予想されるが、インターネット調査の「適切な長さ」については、まだ十分に研究されていない。

あるインターネット調査会社がおこなった調査では、「負担を感じず丁寧に回答できる質問数」は平均 18.6、「途中で回答をやめてしまう質問数」は平均 44.5 であったという（宣伝会議 2008: 55）。

今回のわれわれの調査では、スクリーニングを除いた質問数は 41 である。これは少し多すぎたのかもしれないが、短期間で目標数を回収できたことから考えると、多くの人が途中で回答をやめてしまったというのは考えにくい。単純な質問数ではなく、調査の内容、選択肢の数、わかりやすい質問か、などが複雑に作用するのではないだろうか。

回答にかかった時間も検討しておこう。回答にかかった時間は、最短で 3 分、最長 3720 分で、平均は 22 分であった（表 5 左）。全体のうち 95% の人が、30 分以内に回答を終えている。回答に 3720 分かかったというのは現実的ではなく、なんらかのエラーが考えられる。たとえば回答を始めてから、ログイン状態を保ったまま、他のことをし、また戻って回答をしたことなどが挙げられるだろう。そこで、回答時間が 100 分以上かかった人（全体の 1.1%）

を除いて、再度集計した（表 5 右）。平均は 13.3 分となった。

判断基準となる情報を持たないので、断言はできないが、表 5 の結果から考えると、今回の調査は決して、調査対象者にとって大きな負担となるような長さではなかったと思われる。

表 5 回答所要時間（単位：分）

| n | 2,000 | 1,978 (100 分以上を 除外した場合) |
|-----|--------|-------------------------------|
| 平均値 | 22.8 | 13.3 |
| 中央値 | 12.0 | 11.0 |
| 最頻値 | 10.0 | 10.0 |
| 最小値 | 3.0 | 3.0 |
| 最大値 | 3720.0 | 97.0 |

4.2 結果の公表について

もうひとつ、調査倫理のうちの結果の公表について、少しだけ述べておく。「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」にも、調査対象者に結果を知る権利があり、結果の公表が適切になされるように記されている（日本社会学会 2006: 3）。

今回のインターネット調査では、最後に調査の感想等を自由記述式で入力してもらったが、そのなかで目立ったのは、「調査結果を公表してほしい」という意見であった。委託した調査会社の担当者に問い合わせたところ、市場調査では、このような要望はほとんどないという。

学術的な調査では、調査者の社会的責任、調査の公共性、調査内容に対する関心の高さなどから、公表へのニーズが強く現れるのだろう。しかし、現在のところ、インターネット調査会社も結果の公表の経験がなく、どのような方法で公表するかは決まっていない。今後、公表方法の標準を定めることが必要である。

5 今後の課題

本稿では、インターネット調査の実施プロセスと、学術的調査において、インターネット調査の利点を、どのように利用すればよいかについて述べてきた。インターネット調査は、代表性という大きな問題を抱えているが、これまでの調査法とは違った利用の仕方がある。このことが広く浸透すれば、学術的調査において、インターネット調査の利用が増加するのではないだろうか。

ただ、インターネット調査における調査倫理については、まだ検討課題が残っている。たとえば、調査対象者が、その調査内容には答えたくない場合、また途中まで答えたがそれ以降答えたくない場合、部分的に答えたくない質問があるような場合などはどうすればよいの

か。また結果の公表をどのように知らせ、行えばよいのか、などである。

今回得られたデータは、回答者の方々のご協力によって得られた貴重なデータである。震災体験ということで、あまり思い出したくないという調査対象者もあつただろう。今後は、豊富な自由記述項目も含めて、このデータの分析をしていくことが重要である。

【文献】

- Dillman, Don A., 1978, *Mail and Telephone Surveys: The Total Design Method*, John Wiley and Sons.
- Groves, Robert M., Floyd J. Fowler Jr., Mick P. Coupers, James M. Lepkowski, Eleanor Singer and Roger Tourangeau, 2009, *Survey Methodology*, 2nd ed., John Wiley and Sons.
- 本多則恵, 2005, 「実験調査の準備：先行研究のレビュー」労働政策研究・研修機構『労働政策研究報告書 No.17 インターネット調査は社会調査に利用できるか——実験調査による検証結果』労働政策研究・研修機構, 86-90.
- 干川剛史監修・文献情報研究会, 2009, 『災害文献大事典——1945（昭和20）年～2008（平成20）年』日本図書センター.
- 地震予知総合研究振興会, 2010, 「地震加速度情報のページ」, (2010年2月8日取得, <http://www.adep.or.jp/shindo/equser.html>).
- 鎌原雅彦, 1998, 「心理尺度の作成」鎌原雅彦・宮下一樹・大野木裕明・中澤潤編『心理学マニュアル 質問紙法』北大路書房, 64-74.
- 気象庁, 2004, 「顕著な災害を起こした自然現象の命名についての考え方」, (2010年2月8日取得, <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/meimei/meimei.html>).
- 気象庁, 2008, 「気象庁が命名した気象及び地震火山現象」, (2010年2月8日取得, <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/meimei/meimei2.html>).
- 小林大祐, 2010, 「実査の方法——どんな方法を選べば良いのか」轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法——2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社（近刊）, 61-77.
- 小島秀夫, 1998, 「郵送調査の回収率を高めるためのTDM」鎌原雅彦・宮下一樹・大野木裕明・中澤潤編『心理学マニュアル 質問紙法』北大路書房, 50.
- 本川明, 2005, 「どういふ調査が『よい調査』なのか——調査の質についての分析枠組み」労働政策研究・研修機構『労働政策研究報告書 No.17 インターネット調査は社会調査に利用できるか——実験調査による検証結果』労働政策研究・研修機構, 60-85.
- 村瀬洋一, 1998, 「代表性のない調査をいかに活用するか」鎌原雅彦・宮下一樹・大野木裕明・中澤潤編『心理学マニュアル 質問紙法』北大路書房, 52.
- 中島義明ほか編, 1999, 『心理学事典』有斐閣, 429.
- 日本社会学会, 2006, 「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」, (2010年2月8日取得, <http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/researchpolicy.php>).
- 日本郵便, 2010, 「市町村合併情報」, (2010年2月8日取得, <http://www.post.japanpost.jp/zipcode/merge/index.html>).
- 宣伝会議, 2008, 『ネットリサーチ活用ハンドブック——ケースに学ぶ マーケティング担当者必携本』宣伝会議.
- 市町村自治研究会, 2006, 『全国市町村要覧（平成18年版）』第一法規株式会社.
- 太郎丸博編, 2006, 『フリーターとニートの社会学』世界思想社.
- 太郎丸博・柄澤健史, 2008, 「2007年SSM若年層インターネット調査の利用法について」三輪哲・小林大祐編『2005年SSM調査シリーズ1 2005年SSM日本調査の基礎分析——構造・趨勢・方法』2005年SSM調査研究会, 131-7.

2008 年度調査概要

調査地域の概要

本調査の調査地域は、共に石川県内の 2 地域である。以下、平成 18 年版『全国市町村要覧』、平成 17 年『国勢調査』の数値を用いて、地域の概要を紹介する（人口・世帯数・高齢者構成比率は平成 18 年 3 月 31 日現在、産業別人口は平成 17 年 10 月 1 日現在）。

輪島市は、2006 年 2 月 1 日に鳳珠郡旧門前町と合併し、人口 34,555 人、世帯数 13,247 世帯の石川県北部に位置する地域である。人口に占める高齢化比率は 34.1%と、石川県全体（21.0%）と比較してもその比率は高く、県内では珠洲市（36.1%）について 2 番目に高い。

産業別就業人口および構成比（門前町との合併前）は、第 1 次産業 2,625 人（16.4%）、第 2 次産業 4,678 人（29.1%）、第 3 次産業 8,749 人（54.5%）と、第 3 次産業に従事する者が最も多い。漁業や伝統工芸で有名な地域であり、それらとかがわる職業に携わる人も多い。

穴水町は、鳳珠郡に属し、人口 10,939 人、世帯数 4,086 世帯の輪島市に隣接する地域である。人口に占める高齢者の構成比は 34.1%と輪島市と同じである。

産業別就業人口および構成比は、第 1 次産業 777 人（14.3%）、第 2 次産業 1,577 人（29.1%）、第 3 次産業 3,069 人（56.6%）と、第 3 次産業に従事する者が最も多い。農林水産業が主な産業で、能登有料道路の終点である穴水 I C があるため、能登中部の重要な交通の要所になっている。

調査の基礎情報

- ①調査名 震災体験と地域生活に関する意識調査
- ②調査対象地 輪島市・穴水町（石川県）
- ③調査対象者 満 20 歳以上 75 歳未満（2008 年 1 月 1 日現在）の男女個人
- ④標本サイズ 全体 994（輪島市 500 穴水町 494）
- ⑤調査票発送数 輪島市 496（④から尋ねあたらず 2、病気 1、調査拒否 1 を除く）
穴水町 494
- ⑥抽出方法 選挙人名簿を抽出台帳とする 2 段階確率比例系統抽出法
- ⑦回収法 郵送法（事前予告 1 回・督促 1 回）
- ⑧調査期間 2008 年 10 月 16 日（木）～12 月 12 日（金）（最終回収）
- ⑨有効回収数 全体 659（輪島市 339 穴水町 320）
- ⑩有効回収率 全体 66.3%（輪島市 67.8% 穴水町 64.8%）

※ 単純集計は <http://web.kanazawa-u.ac.jp/~socio/research.htm> に掲載。

震災体験と地域生活に関する意識調査

2008年10月～11月
金沢大学文学部 社会学研究室

説明とお願い

1. このアンケートは、金沢大学文学部社会学研究室が実施するもので、石川県輪島市と穴水町在住の皆様から、能登半島地震の影響と日々の生活についてのお考えを知ることが目的としています。また、このアンケートは、学生教育の一環として実施するものでもあります。(授業科目：社会調査実習)
2. このアンケートの対象者は、石川県輪島市と穴水町の有権者(男女)の方々から、くじ引きに似た方法(無作為抽出法)で選ばせていただきました。
3. ご回答は、**封筒の宛名のご本人**がご記入ください。ご本人が回答できない場合は、調査票に記入せずにそのままご返送ください。
4. 回答のしかた、
 - (1) ほとんどの質問は、あてはまるものの番号(123...の数字)を○印でかこんで、お答えください。
 - (2) いくつかの質問には、枠内に文字・数字を直接ご記入ください。
 - (3) お答えになりにくい質問があるかもしれませんが、できるだけすべての質問にお答えいただければ幸いです。
5. ご回答はすべて集計して処理しますので、皆様方個人および、ご家族の方々のことが外部にもれることは絶対にありません。また、この調査票で得られたデータは、学術研究上の目的以外には使用いたしません。なお、このページの右下の数字は回収作業のための整理番号です。秘密の厳守をかたくお約束しますので、どうか安心してご回答ください。
6. ご記入いただきましたら、**11月5日(水)**までに同封の返信用封筒(切手貼付済み)に入れてご投函ください。
7. この調査に関するご質問がございましたら、下記までご連絡ください。

金沢大学文学部 社会学研究室
〒920-1192 金沢市角間町
TEL・FAX: 076-264-6001
教授 溝部 明男
准教授 岩本 健良

■ はじめに、震災による被害状況とその影響についてお聞きします。

問1 あなたや同居されていた方の中で、震災が原因で、ケガや病気をされた方はいらっしゃいますか。
当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. ケガで入院した
2. ケガで受診した
3. ケガをしたが、受診・入院はしなかった
4. 病気で入院した
5. 病気で受診した
6. 病気をしたが、受診・入院はしなかった
7. ケガや病気をしなかった

問2 震災以降、今までに、次のような心の不調はありましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 落ち込んでいる
2. 将来について希望が持てない
3. 自分に自信がもてない
4. 今までよりも簡単に悩んでしまうし、イライラする
5. すぐ疲れるようになった
6. よく眠れない
7. 当てはまるものはない

問3 家具、電気器具、食器などの家財の被害はどれくらいでしたか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 重い被害を受けた（日常生活が困難になった）
2. 軽い被害を受けた（日常生活にそれほどの困難はなかった）
3. 被害はなかった

問4 あなたの住宅の被害と再建についてお聞きします。

(1) **震災の時**、お住まいになっていた住宅は被害を受けましたか。

| | |
|---------------|-----------|
| 1. <u>受けた</u> | 2. 受けなかった |
|---------------|-----------|

↓

【問5へ】

(2) **【問4 (1) で1とお答えになった方にお聞きします】**

お住まいになっていた住宅はどの程度の被害を受けましたか。罹災証明書の認定をお答えください。

| | | |
|--|---|--|
| 1. 全壊 2. 大規模半壊 3. 半壊 4. 一部損壊 5. 罹災証明書は発行されなかった | } | |
|--|---|--|

(3) **【問4 (2) で1～4とお答えになった方にお聞きします】**

震災で被害を受けた住居は、再建されましたか。

| | |
|--|--|
| 1. 同じ土地で再建した 2. 同じ土地で再建中である 3. 同じ土地で再建準備中である 4. 別の土地で再建した | 5. 別の土地で再建中である 6. 別の土地で再建準備中である 7. 再建をあきらめた 8. その他（具体的に： ） |
|--|--|

問5 **【ここからは全員の方にお聞きします】**

震災後のあなたのお住まいについてお聞きします。次の a～c の時点で、どちらにお住まいでしたか。**1～6**の中で当てはまるもの 1つに○をつけてください。

| | 自宅 | 家 戚・家 族・友 人の 親 の 親 | 輪 島 市 内 の 親 | 家 戚・家 族・友 人の 親 | 輪 島 市 外 の 親 | 仮設住宅 | 避難所 | その他 |
|---------|----|--------------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|------|-----|-----|
| a. 震災直後 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| b. 1ヵ月後 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
| c. 半年後 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |

■ 住民の助け合いや、ボランティアなどの支援活動についてお聞きします。

問6 震災後の以下のような助け合いや支援活動は、あなたにとって役立ちましたか。a～fのそれぞれについてお答えください。

| | たいへん 役立った | ある程度 役立った | あまり役立た なかった | まったく役立 たなかった | 受けていない |
|-------------|--------------|--------------|----------------|-----------------|--------|
| a. 炊き出し | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| b. 話を聞いてもらう | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| c. 家屋の片付け | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| d. お年寄りの介護 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| e. 引越しの手伝い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| f. 義援金の配分 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問7 能登半島地震以前に、あなたはボランティア活動をしたことがありましたか。ボランティア活動とは福祉ボランティアだけでなく、環境美化などの「賃金を受けないで行うすべての社会的奉仕活動」だとしてお答えください。

| | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問8 震災のとき、助け合いやボランティア活動（炊き出し、運搬や仕分け、清掃、子供やお年寄りの世話など）に参加しましたか。

| | |
|-------------|----------------|
| 1. よく参加した | 3. あまり参加しなかった |
| 2. ときどき参加した | 4. まったく参加しなかった |

問9 あなたは今後、ボランティア活動に参加していきたいとお考えですか。

| |
|---------------|
| 1. たいへんそう思う |
| 2. ややそう思う |
| 3. あまりそう思わない |
| 4. まったくそう思わない |

■ 震災時の支援や対応についての評価をお聞きします。

問10 震災時にあなたが輪島市から受けた支援は十分だったと思いますか。

- | |
|--|
| <p>1. たいへんそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない</p> |
|--|

問11 一般的な観点から見ると、この震災で、次のような不公平があったと思いますか。a～gのそれぞれについて、お答えください。

| | 不公平があった | どちらかといえば不公平があった | どちらかといえば不公平はなかった | 不公平はなかった |
|---------------------|---------|-----------------|------------------|----------|
| a. メディアの取り上げ方 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b. 上下水道、電気などの復旧のはやさ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c. ボランティアを受ける機会 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d. 義援金の配分 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| e. 輪島市による個人に対する復興支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| f. 住んでいる市や町の支援制度の違い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| g. 地震保険の査定 | 1 | 2 | 3 | 4 |

■ 防災についてお聞きします。

問12 **現在**、あなたのご家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

01. 携帯ラジオ・懐中電灯を持ち出せるようにしている
02. 食料・水を持ち出せるようにしている
03. 貴重品を持ち出せるようにしている
04. 避難場所までの避難経路を確認している
05. 消火器を準備している
06. 家族との連絡方法を決めている
07. 家具を固定している
08. 自宅の耐震診断をした
09. 地震保険に加入している
10. 以上の項目の中で特にしていることはない

問13 **震災前**、以下の備えをしていましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 大きな家具類は寝室においていなかった
2. 大きな家具類は居間においていなかった
3. 家具の固定をしていた
4. 自宅の耐震診断をしていた
5. J A（農協）の建物更正共済に加入していた
6. 損害保険の地震保険に加入していた（J A以外）
7. 以上の項目の中で特にしていることはなかった

問14 要援護者マップについてお聞きします。震災前に要援護者マップを必要だと思っていましたか。

1. 必要だと思っていた
2. 必要だと思っていなかった
3. そういうものがあるとは知らなかった

※ 要援護者マップとは次のようなものです。

表札入りの町内地図の中の、要援護者(一人暮らしの高齢者、寝たきりの人や障害のある人)のいる家庭を色分けしたもの。民生委員と健康福祉課および社会福祉協議会が各一部を保管し、震災などの災害時の避難支援に活用する。

問15 現在、ご自宅に災害時の援護を必要としている方はいますか。

- | | |
|--------------|--------|
| 1. <u>いる</u> | 2. いない |
|--------------|--------|
- ↓
- 【問18へ】

問16 【問15で1と答えた方にお聞きします】
要援護者マップにご自宅の情報を載せたいと思いますか。

- | | | |
|---------|-------------|------------------|
| 1. 載せたい | 2. すでに載せている | 3. <u>載せたくない</u> |
|---------|-------------|------------------|

問17 【問16で3と答えた方にお聞きします】
載せたくない理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- | |
|-----------------------|
| 1. 個人情報を守るため |
| 2. 載せなくても助けに来てくれる人がいる |
| 3. 災害時に役立つとは思えない |
| 4. その他(具体的に:) |

問18 【ここからは全員の方にお聞きします】

震災時に発信された情報の効果についてお聞きします。

(1) 輪島市から発信された情報は役立ちましたか。

1. たいへん役立った
2. ある程度役立った
3. あまり役立たなかった
4. ほとんど役立たなかった

(2) マスコミ (テレビ・ラジオ・新聞) から発信された情報は役立ちましたか。

1. たいへん役立った
2. ある程度役立った
3. あまり役立たなかった
4. ほとんど役立たなかった

■ お住まいの地域における生活やお付き合いについてお聞きします。

問19 震災前、隣近所との付き合いに満足していましたか。

1. 満足していた
2. やや満足していた
3. あまり満足していなかった
4. 満足していなかった

問 2 0 **現在**、あなたは地域生活における次の点に満足していますか。a～fのそれぞれについてお答えください。

| | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
|---------------|----|------|------|----|
| a. 職業につく機会 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b. 余暇を過ごす環境 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c. 教育環境 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d. 交通の便利さ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| e. 隣近所との付き合い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| f. 輪島市の行政サービス | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 2 1 あなたは次のような地域の団体に加入されていますか。加入しているものすべてに○をつけてください。

| | |
|---------------------------|---|
| 01. 町内会や自治会などの地域団体 | 07. 宗教関係の団体 |
| 02. 婦人会・青年団・老人会 | 08. スポーツや趣味のグループ |
| 03. PTA | 09. 政党などの政治団体 |
| 04. 農協・漁協などの農林漁業団体 | 10. 生協 |
| 05. 労働組合などの職場の団体 | 11. 消防団や防犯協会 |
| 06. 商工関係の同業組合や団体 | 12. その他（具体的に： ） |

問 2 2 現在お住まいの地域をどのようにお考えですか。a～cのそれぞれについてお答えください。

| | そう思う | ややそう思う | あまり そう思わない | そう思わない |
|--------------------------|------|--------|---------------|--------|
| a. 今住んでいる地域を誇りに思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b. 今住んでいる地域のために、何か役に立ちたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c. 今住んでいる地域が好きである | 1 | 2 | 3 | 4 |

問23 震災をきっかけとして、あなたの人付き合いに変化がありましたか。次の a～d のそれぞれについてお答えください。

| | 増えた | やや増えた | ほとんど変わらない | やや減った | 減った | 当てはまらない |
|----------------------|-----|-------|-----------|-------|-----|---------|
| a. 友人との付き合い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| b. 近隣の人との付き合い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| c. 親類との付き合い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| d. 烏帽子(よぼし)親子*との付き合い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

*「烏帽子(よぼし)親子」とは血縁の親子ではないが、困ったときに互いに助け合う約束などをして、擬似的に親子のように付き合い合っている関係のことを指します。

問24 あなたご自身は今後も、輪島市にできるだけ長く住みたいと思いますか。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

■ 現在の生活についてお聞きします。

問25 震災前のあなたのお住まいは、次のうちどれにあたりますか。

1. 持ち家(一戸建て)
2. 分譲マンション・分譲アパート
3. 公営の借家
4. 民営借家
5. 給与住宅(社宅、社員寮、官舎、公舎)
6. 下宿、間借り
7. その他(具体的に：)

問26 震災から現在まで、引越しをなさいましたか。引越しをされた方は、その回数もご記入ください。引越しとは家財の移動をともなう転居とお考えください（仮設住宅は含みますが、避難所は含みません）。

| |
|--|
| <p>1. した (回)</p> <p>2. していない</p> |
|--|

問27 あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。a~dのそれぞれについてお答えください。

| | 満足 | やや満足 | どちらとも いえない | やや不満 | 不満 | 当てはま らない |
|----------|----|------|---------------|------|----|-------------|
| a. 仕事の内容 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| b. 個人の収入 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| c. 健康状態 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |
| d. 生活全般 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |

問28 あなたの暮らし向き（生活の水準）は、震災前と比べて変わりましたか。

| |
|---|
| <p>1. よくなった</p> <p>2. 変わらない</p> <p>3. 悪くなった</p> |
|---|

問29 かりに現在の日本の社会全体を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はこのどれに入りますか。あなたの気持ちに一番近い番号を 1つ 選び、○をつけてください。

| |
|---|
| <p>1. 上</p> <p>2. 中の上</p> <p>3. 中の下</p> <p>4. 下の上</p> <p>5. 下の下</p> <p>6. わからない</p> |
|---|

問30 震災前後で比較すると、あなた個人の収入に変化がありましたか。

1. 収入が増えた
2. 収入がやや増えた
3. 変わらない
4. 収入がやや減った
5. 収入が減った

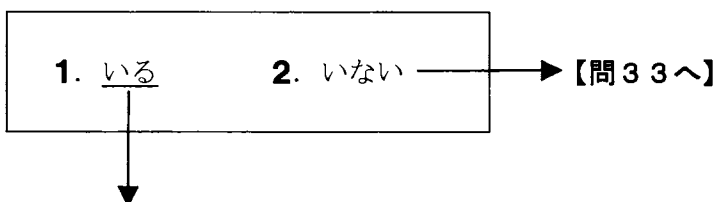
■ 今後の生活のご予定についてお聞きします。

問31 震災前後で、次の点について生活の将来プランに変化がありましたか。a～dのそれぞれについてお答えください。

| | 変化していない | ある程度 変化した | 変化した | 当てはまらない |
|-----------|---------|--------------|------|---------|
| a. 居住地 | 1 | 2 | 3 | |
| b. 住居形態 | 1 | 2 | 3 | |
| c. 老後の生活 | 1 | 2 | 3 | |
| d. 子どもの教育 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問32 お子さんについてお聞きします。

(1) あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。



(2) 【問32(1)で1と答えた方にお聞きします】

お子さん方が現在お住まいになっている場所はどこですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 同居
2. 輪島市内
3. 能登地域内
4. 金沢市内
5. 石川県内
6. 福井県内・富山県内
7. その他（具体的に：）

(3) **【問32(1)で1と答えた方にお聞きします】**

あなたのお子さんのうち、将来的に、輪島市に住む予定のあるお子さんはいますか（すでに輪島市に在住のお子さんを含みます）。

1. いる 2. いない

問33 **【ここからは全員の方にお聞きします】**

あなたのあと継ぎはもう決まっていますか（あなたの配偶者のあと継ぎも含みます）。

1. 決まっている 2. 決まっていない

問34 経済的支援についてお聞きします。

(1) あなたは現在、自分や同居家族の収入のほかに、定期的に、親類や別居している家族から金銭的援助を受けていますか。

1. 受けている 2. 受けていない

↓
【問35へ】

(2) **【問34(1)で1と答えた方にお聞きします】**

その援助は、震災をきっかけに始まったものですか。

1. はい 2. いいえ

■ 社会一般についてのお考えをお聞きします。

問35 【ここからは全員の方にお聞きします】

次のような意見についてどう思いますか。a～fのそれぞれについてお答えください。

| | そう思う | やや そう思う | あまり そう思わない | そう 思わない |
|--|------|------------|---------------|------------|
| a. 個人で努力するより、有能な指導者に任せたほうが物事はうまくいく | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b. 少々頑張ったところで、自然災害には逆らえない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c. 高い地位や収入を得る機会は豊富にある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d. 10年後の日本は、収入の格差が今よりも大きくなっているだろう | 1 | 2 | 3 | 4 |
| e. 財政再建よりも景気対策が重要である | 1 | 2 | 3 | 4 |
| f. 政府や自治体がやってきた公共サービスはできるだけ民間企業に任せるほうがよい | 1 | 2 | 3 | 4 |

問36 あなたは、次の政党をどのくらい好きですか。a～eそれぞれの政党について、あなたの気持ちに一番近い番号を1つ選び、○をつけてください。

| | とても 好きである | まあ好きである | あまり 好きではない | 好きではない |
|----------|--------------|---------|---------------|--------|
| a. 自由民主党 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b. 公明党 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c. 民主党 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d. 社会民主党 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| e. 日本共産党 | 1 | 2 | 3 | 4 |

■ あなたご自身とご家族についてお聞きします。

問37 あなたの性別はどちらですか。

| | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問38 あなたのお生まれは、何年ですか。

昭和

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

 年

問39 あなたは輪島市に住んで、今年で何年目になりますか。輪島市以外にお住まいの期間を除いて、合計年でお答えください。

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

 年目

問40 この中から一緒に暮らしているご家族をすべてお選びください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

| | | |
|---------------------|---------------------|-----------------------|
| 01. 配偶者（夫・妻） | 05. 配偶者の父母 | 09. 配偶者の祖父母 |
| 02. 子供 | 06. 自分の兄弟姉妹 | 10. 孫 |
| 03. 子供の配偶者 | 07. 配偶者の兄弟姉妹 | 11. その他 |
| 04. 自分の父母 | 08. 自分の祖父母 | 12. 当てはまる人はいない |

問41 あなたが最後に行かれた（または現在通っている）学校は、次のどれにあたりますか。1つお選びください。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。（71歳以下のかたは、ほとんどが新制になると思われます。）

| | |
|--------------------------|----------------------------------|
| 01. 新制中学校 | 08. 旧制尋常小学校 |
| 02. 新制中学校卒業後、専門学校 | 09. 旧制高等小学校 |
| 03. 新制高校 | 10. 旧制中学校・実業高校・師範学校・高等女学校 |
| 04. 新制高校卒業後、専門学校 | 11. 旧制高校・高専 |
| 05. 新制短大・高専 | 12. 旧制大学 |
| 06. 新制大学 | 13. 旧制大学院 |
| 07. 新制大学院 | 14. その他（具体的に： _____） |

問4 2 あなたとあなたの配偶者(夫または妻)のかたの、現在のご職業についてお聞きします。なお、ここでは、職業とは継続して行っている収入をとまなう仕事とします。

| | あなた(ご本人) | あなたの配偶者 |
|--|---|---|
| a. 現在、配偶者はいらっしゃいますか | <ol style="list-style-type: none"> 1. いない 2. いる→右のあなたの配偶者の欄もお答えください | |
| b. 現在、ご職業をお持ちですか | <ol style="list-style-type: none"> 1. 有職 2. 無職 3. 主婦 4. 学生 } 以下c～fは回答不要です | <ol style="list-style-type: none"> 1. 有職 2. 無職 3. 主婦 4. 学生 } 以下c～fは回答不要です |
| c. 現在のお仕事 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営者、役員(会社組織の) 2. 常時雇用されている一般従業者 3. 臨時雇用、契約社員、パート、アルバイト 4. 派遣社員 5. 自営業主、自由業者(会社組織でないもの) 6. 家族従業者 7. 内職 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営者、役員(会社組織の) 2. 常時雇用されている一般従業者 3. 臨時雇用、契約社員、パート、アルバイト 4. 派遣社員 5. 自営業主、自由業者(会社組織でないもの) 6. 家族従業者 7. 内職 |
| d. 従業員の人数 (自営のかたはご本人と家族を除いた雇用者の人数) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 0人 2. 1～9人 3. 10～29人 4. 30～99人 5. 100～299人 6. 300人以上 7. 官公庁 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 0人 2. 1～9人 3. 10～29人 4. 30～99人 5. 100～299人 6. 300人以上 7. 官公庁 |
| e. 仕事の内容 (経理、運搬、仕入れ、〇〇組み立てなど職種わかるように) | なさっているお仕事の内容をできるだけ具体的にご記入ください | なさっているお仕事の内容をできるだけ具体的にご記入ください |
| f. そのお仕事は次のページの表の分類のうち、どれに当たりますか | 次ページの分類番号でお答えください <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px auto; display: flex; justify-content: space-between;"> </div> | 次ページの分類番号でお答えください <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px auto; display: flex; justify-content: space-between;"> </div> |

問42fのためのリスト

| 分類番号 | 含まれる仕事の内容の例 |
|---------------|--|
| 01. 専門的、技術的職業 | 科学研究者、建築・土木・農林技術者、システムエンジニア、医師、看護師、薬剤師、裁判官、弁護士、会計士、学校教員、個人教師、芸術家、記者、船舶機関長、航空士、無線技術者などのかた |
| 02. 管理的職業 | 会社役員、課長以上の会社員、駅長、局長、学校長、管理職的公務員のかた |
| 03. 事務的職業 | 総務・企画、受付・案内、営業・販売などの事務員、集金人、その他の外勤事務員、運輸事務員、タイピスト、計算機オペレーター、レジスター係員などのかた |
| 04. 通信的職業 | 有線通信士、電話交換手、郵便・電報外務員などのかた |
| 05. 保安的職業 | 自衛官、警察官、消防士、守衛などのかた |
| 06. 建築請負的職業 | 土木・建築請負、大工、左官、とび職、配管工、畳職、起重機、建設機械など運転作業員などのかた |
| 07. 運輸的職業 | 自動車運転者、電車運転士、車掌、鉄道員、船員などのかた |
| 08. 労務的職業 | 道路工夫、鉄道線路工夫、運搬担当者、清掃員などのかた |
| 09. 販売的職業 | 小売店主、卸売り店主、飲食店主、販売店員、外交官などのかた |
| 10. サービス的職業 | 理容師、家政婦、料理人、ウェイトレス、旅行ガイド、ホテル支配人、ビル管理人などのかた |
| 11. 製造的職業 | 金属・機械・繊維・飲食料品製造などの生産従事者、織物・木・プラスチック製品・紙製品製造者、自動車修理工などのかた |
| 12. 農林漁業 | 農業・林業・漁業作業員などのかた |
| 13. その他 | その他のかた |

次ページにつづく

問43 収入についておたずねします。

(1) 過去1年間のお宅の収入は税込みでだいたいどのくらいでしょうか。他のご家族の収入も含めてお答えください。

| | | | |
|------------|-------------|------------|---------------|
| 01. | なし | 10. | 750～850万円未満 |
| 02. | 70万円未満 | 11. | 850～1000万円未満 |
| 03. | 70～150万円未満 | 12. | 1000～1200万円未満 |
| 04. | 150～250万円未満 | 13. | 1200～1400万円未満 |
| 05. | 250～350万円未満 | 14. | 1400～1600万円未満 |
| 06. | 350～450万円未満 | 15. | 1600～1850万円未満 |
| 07. | 450～550万円未満 | 16. | 1850～2300万円未満 |
| 08. | 550～650万円未満 | 17. | 2300万円以上 |
| 09. | 650～750万円未満 | | |

(2) 過去1年間のあなた個人の収入は税込みでどのくらいでしょうか。臨時収入、副収入も含めてお答えください。

| | | | |
|------------|-------------|------------|---------------|
| 01. | なし | 10. | 750～850万円未満 |
| 02. | 70万円未満 | 11. | 850～1000万円未満 |
| 03. | 70～150万円未満 | 12. | 1000～1200万円未満 |
| 04. | 150～250万円未満 | 13. | 1200～1400万円未満 |
| 05. | 250～350万円未満 | 14. | 1400～1600万円未満 |
| 06. | 350～450万円未満 | 15. | 1600～1850万円未満 |
| 07. | 450～550万円未満 | 16. | 1850～2300万円未満 |
| 08. | 550～650万円未満 | 17. | 2300万円以上 |
| 09. | 650～750万円未満 | | |

(*) もしご希望があれば、主な項目の集計結果を郵送したいと思いますが、いかがでしょうか。結果がまとまるのは、年明けになる予定です。

| | |
|----------------|-----------------|
| 1. 希望する | 2. 希望しない |
|----------------|-----------------|

お願い

この度は調査へのご協力を誠にありがとうございました。金沢大学文学部社会学研究室では、震災後の生活の中期的な変化を知るために、今回の回答者の皆様を対象にして、来年度もう一度、同様の郵送調査を計画しています。この調査にご協力いただければ、震災研究上さらに価値の高いデータを得ることができます。お忙しいところたいへん恐縮ですが、私どもの一年後の調査に回答のご協力をいただけるでしょうか。お教えてください。



1. 協力してもよい 2. 協力したくない

これでお答えいただく項目は終わりです。

何かご記入もれはありませんか。もう一度はじめからご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

お忙しい中、我々の調査のために貴重なお時間をさいいただきありがとうございます。

※付記

同一内容の調査票を、輪島版・穴水版それぞれ作成し送付しました。

本報告書には輪島版のみを掲載しています。

**震災体験と地域生活に関する意識調査
単純集計表**

問1 あなたや同居されていた方の中で、震災が原因で、ケガや病気をされた方はいらっしゃいますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 有効回答者 | 621 | 100.0 | 315 | 100.0 | 306 | 100.0 |
| 9. 無回答 | 38 | | 24 | | 14 | |
| 1. ケガで入院した | 1 | 0.2 | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 |
| 2. ケガで受診した | 11 | 1.8 | 6 | 1.9 | 5 | 1.6 |
| 3. ケガをしたが受診・入院はしなかった | 18 | 2.9 | 9 | 2.9 | 9 | 2.9 |
| 4. 病気で入院した | 3 | 0.5 | 2 | 0.6 | 1 | 0.3 |
| 5. 病気で受診した | 18 | 2.9 | 10 | 3.2 | 8 | 2.6 |
| 6. 病気をしたが受診・入院はしなかった | 4 | 0.6 | 4 | 1.3 | 0 | 0.0 |
| 7. ケガや病気をしなかった | 567 | 91.3 | 284 | 90.2 | 283 | 92.5 |

問2 震災以降、今までに、次のような心の不調はありましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 有効回答者 | 640 | 100.0 | 325 | 100.0 | 315 | 100.0 |
| 9. 無回答 | 19 | | 14 | | 5 | |
| 1. 落ち込んでいる | 51 | 8.0 | 31 | 9.5 | 20 | 6.3 |
| 2. 将来について希望が持てない | 61 | 9.5 | 31 | 9.5 | 30 | 9.5 |
| 3. 自分に自信がもてない | 32 | 5.0 | 17 | 5.2 | 15 | 4.8 |
| 4. 悩んだり、イライラしやすくなった | 50 | 7.8 | 26 | 8.0 | 24 | 7.6 |
| 5. すぐ疲れるようになった | 96 | 15.0 | 47 | 14.5 | 49 | 15.6 |
| 6. よく眠れない | 123 | 19.2 | 61 | 18.8 | 62 | 19.7 |
| 7. 当てはまるものはない | 375 | 58.6 | 187 | 57.5 | 188 | 59.7 |

問3 家具、電気器具、食器などの家財の被害はどれくらいでしたか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 重い被害（日常生活が困難） | 71 | 10.9 | 39 | 11.7 | 32 | 10.1 |
| 2. 軽い被害（日常生活が困難ではない） | 452 | 69.4 | 233 | 70.0 | 219 | 68.9 |
| 3. 被害はなかった | 128 | 19.7 | 61 | 18.3 | 67 | 21.1 |
| 9. 無回答 | 8 | | 6 | | 2 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問4 あなたの住宅の被害と再建についてお聞きします。

(1) 震災の時、お住まいになっていた住宅は被害を受けましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 受けた | 394 | 67.9 | 227 | 73.7 | 167 | 61.4 |
| 2. 受けなかった | 186 | 32.1 | 81 | 26.3 | 105 | 38.6 |
| 9. 無回答 | 79 | | 31 | | 48 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

(2) 【問4(1)で1とお答えになった方にお聞きします】

お住まいになっていた住宅はどの程度の被害を受けましたか。罹災証明書の認定をお答えください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 全壊 | 18 | 4.0 | 11 | 4.4 | 7 | 3.5 |
| 2. 大規模半壊 | 5 | 1.1 | 3 | 1.2 | 2 | 1.0 |
| 3. 半壊 | 36 | 8.0 | 27 | 10.8 | 9 | 4.5 |
| 4. 一部損壊 | 271 | 60.4 | 158 | 63.2 | 113 | 56.8 |
| 5. 罹災証明書は発行されなかった | 105 | 23.4 | 42 | 16.8 | 63 | 31.7 |
| 10. -15. 二つ以上選択した回答など(※) | 14 | 3.0 | 9 | 3.6 | 5 | 2.5 |
| 8. 非該当 | 177 | | 73 | | 104 | |
| 9. 無回答 | 33 | | 16 | | 17 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

(※) 問4(2)において、複数回答したものや、自宅ではなく土蔵について回答したものがあつた。

内訳として、【4と5】を選択 9件

【自宅3・蔵2】【3と4】【自宅4・蔵全壊(記述)】【自宅4・土蔵1】【土蔵1】を選択 それぞれ1件

(3) 【問4(2)で1～4とお答えになった方にお聞きします】

震災で被害を受けた住居は、再建されましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 同じ土地で再建した | 126 | 40.1 | 72 | 38.1 | 54 | 43.2 |
| 2. 同じ土地で再建中である | 17 | 5.4 | 12 | 6.3 | 5 | 4.0 |
| 3. 同じ土地で再建準備中である | 17 | 5.4 | 9 | 4.8 | 8 | 6.4 |
| 4. 別の土地で再建した | 4 | 1.3 | 3 | 1.6 | 1 | 0.8 |
| 5. 別の土地で再建中である | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 | 1 | 0.8 |
| 6. 別の土地で再建準備中である | 1 | 0.3 | 1 | 0.5 | 0 | 0.0 |
| 7. 再建をあきらめた | 39 | 12.4 | 23 | 12.2 | 16 | 12.8 |
| 8. その他 | 103 | 32.8 | 65 | 34.4 | 38 | 30.4 |
| 10. -14. 二つ以上選択した回答(※) | 6 | 1.8 | 4 | 2.0 | 2 | 1.6 |
| 98. 非該当 | 277 | | 116 | | 161 | |
| 9. 無回答 | 68 | | 34 | | 34 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

(※)問4(3)において複数回答したものがあつた。

内訳として、【7と8】【1と3】【1と7】【自宅4と土蔵7】を選択 それぞれ1件

【1と8】を選択 2件

問5 【ここからは全員の方にお聞きします】

震災後のあなたのお住まいについてお聞きします。次のa～cの時点で、どちらにお住まいでしたか。1～6の中で当てはまるもの1つに○をつけてください。

a. 震災直後

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 自宅 | 552 | 86.4 | 270 | 82.8 | 282 | 90.1 |
| 2. 輪島市(穴水町)内の家族・親戚・友人の家 | 24 | 3.8 | 9 | 2.8 | 15 | 4.8 |
| 3. 輪島市(穴水町)外の家族・親戚・友人の家 | 7 | 1.1 | 4 | 1.2 | 3 | 1.0 |
| 4. 仮設住宅 | 1 | 0.2 | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 |
| 5. 避難所 | 29 | 4.5 | 25 | 7.7 | 4 | 1.3 |
| 6. その他 | 26 | 4.1 | 17 | 5.2 | 9 | 2.9 |
| 9. 無回答 | 20 | | 13 | | 7 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 1ヵ月後

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 自宅 | 478 | 93.0 | 241 | 92.0 | 237 | 94.0 |
| 2. 輪島市(穴水町)内の家族・親戚・友人の家 | 6 | 1.2 | 4 | 1.5 | 2 | 0.8 |
| 3. 輪島市(穴水町)外の家族・親戚・友人の家 | 2 | 0.4 | 1 | 0.4 | 1 | 0.4 |
| 4. 仮設住宅 | 4 | 0.8 | 1 | 0.4 | 3 | 1.2 |
| 5. 避難所 | 3 | 0.6 | 2 | 0.8 | 1 | 0.4 |
| 6. その他 | 21 | 4.1 | 13 | 5.0 | 8 | 3.2 |
| 9. 無回答 | 145 | | 77 | | 68 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 半年後

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 自宅 | 480 | 93.4 | 241 | 92.3 | 239 | 94.5 |
| 2. 輪島市(穴水町)内の家族・親戚・友人の家 | 5 | 1.0 | 3 | 1.1 | 2 | 0.8 |
| 3. 輪島市(穴水町)外の家族・親戚・友人の家 | 2 | 0.4 | 1 | 0.4 | 1 | 0.4 |
| 4. 仮設住宅 | 6 | 1.2 | 4 | 1.5 | 2 | 0.8 |
| 5. 避難所 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 6. その他 | 21 | 4.1 | 12 | 4.6 | 9 | 3.6 |
| 9. 無回答 | 145 | | 78 | | 67 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問6 震災後の以下のような助け合いや支援活動は、あなたにとって役立ちましたか。a～fのそれぞれについてお答えください。

a. 炊き出し

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 56 | 10.1 | 40 | 14.1 | 16 | 5.9 |
| 2. ある程度役立った | 10 | 1.8 | 5 | 1.8 | 5 | 1.9 |
| 3. あまり役立たなかった | 7 | 1.3 | 3 | 1.1 | 4 | 1.5 |
| 4. まったく役立たなかった | 2 | 0.4 | 2 | 0.7 | 0 | 0.0 |
| 8. 受けていない | 479 | 86.5 | 234 | 82.4 | 245 | 90.7 |
| 9. 無回答 | 105 | | 55 | | 50 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 話を聞いてもらう

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 18 | 3.4 | 9 | 3.3 | 9 | 3.4 |
| 2. ある程度役立った | 37 | 6.9 | 22 | 8.1 | 15 | 5.7 |
| 3. あまり役立たなかった | 10 | 1.9 | 6 | 2.2 | 4 | 1.5 |
| 4. まったく役立たなかった | 4 | 0.7 | 4 | 1.5 | 0 | 0.0 |
| 8. 受けていない | 467 | 87.1 | 232 | 85.0 | 235 | 89.4 |
| 9. 無回答 | 123 | | 66 | | 57 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 家屋の片付け

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 42 | 7.6 | 31 | 11.0 | 11 | 4.1 |
| 2. ある程度役立った | 22 | 4.0 | 10 | 3.5 | 12 | 4.4 |
| 3. あまり役立たなかった | 6 | 1.1 | 4 | 1.4 | 2 | 0.7 |
| 4. まったく役立たなかった | 3 | 0.5 | 3 | 1.1 | 0 | 0.0 |
| 8. 受けていない | 481 | 86.8 | 235 | 83.0 | 246 | 90.8 |
| 9. 無回答 | 105 | | 56 | | 49 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. お年寄りの介護

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 8 | 1.5 | 6 | 2.2 | 2 | 0.8 |
| 2. ある程度役立った | 9 | 1.7 | 6 | 2.2 | 3 | 1.2 |
| 3. あまり役立たなかった | 3 | 0.6 | 1 | 0.4 | 2 | 0.8 |
| 4. まったく役立たなかった | 2 | 0.4 | 2 | 0.7 | 0 | 0.0 |
| 8. 受けていない | 499 | 95.8 | 252 | 94.4 | 247 | 97.2 |
| 9. 無回答 | 138 | | 72 | | 66 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

e. 引越しの手伝い

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 13 | 2.5 | 7 | 2.6 | 6 | 2.4 |
| 2. ある程度役立った | 5 | 1.0 | 2 | 0.7 | 3 | 1.2 |
| 3. あまり役立たなかった | 6 | 1.1 | 3 | 1.1 | 3 | 1.2 |
| 4. まったく役立たなかった | 2 | 0.4 | 2 | 0.7 | 0 | 0.0 |
| 8. 受けていない | 496 | 95.0 | 253 | 94.8 | 243 | 95.3 |
| 9. 無回答 | 137 | | 72 | | 65 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

f. 義援金の配分

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 102 | 17.5 | 65 | 22.3 | 37 | 12.8 |
| 2. ある程度役立った | 111 | 19.1 | 63 | 21.6 | 48 | 16.6 |
| 3. あまり役立たなかった | 95 | 16.3 | 59 | 20.2 | 36 | 12.4 |
| 4. まったく役立たなかった | 43 | 7.4 | 27 | 9.2 | 16 | 5.5 |
| 8. 受けていない | 231 | 39.7 | 78 | 26.7 | 153 | 52.8 |
| 9. 無回答 | 77 | | 47 | | 30 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問7 能登半島地震以前に、あなたはボランティア活動をしたことがありましたか。ボランティア活動とは福祉ボランティアだけでなく、環境美化などの「賃金を受けないで行うすべての社会的奉仕活動」だとしてお答えください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ある | 321 | 49.4 | 173 | 51.6 | 148 | 47.0 |
| 2. ない | 329 | 50.6 | 162 | 48.4 | 167 | 53.0 |
| 9. 無回答 | 9 | | 4 | | 5 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問8 震災のとき、助け合いやボランティア活動（炊き出し、運搬や仕分け、清掃、子供やお年寄りの世話など）に参加しましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. よく参加した | 32 | 5.0 | 21 | 6.4 | 11 | 3.5 |
| 2. ときどき参加した | 97 | 15.0 | 56 | 17.1 | 41 | 12.9 |
| 3. あまり参加しなかった | 110 | 17.1 | 55 | 16.8 | 55 | 17.4 |
| 4. まったく参加しなかった | 406 | 62.9 | 196 | 59.8 | 210 | 66.2 |
| 9. 無回答 | 14 | | 11 | | 3 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問9 あなたは今後、ボランティア活動に参加していきたいとお考えですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへんそう思う | 118 | 18.4 | 62 | 18.8 | 56 | 17.9 |
| 2. ややそう思う | 339 | 52.8 | 176 | 53.5 | 163 | 52.1 |
| 3. あまりそう思わない | 150 | 23.4 | 69 | 21.0 | 81 | 25.9 |
| 4. まったくそう思わない | 35 | 5.5 | 22 | 6.7 | 13 | 4.2 |
| 9. 無回答 | 17 | | 10 | | 7 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問10 震災時にあなたが輪島市(穴水町)から受けた支援は十分だったと思いますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへんそう思う | 57 | 9.4 | 32 | 10.2 | 25 | 8.6 |
| 2. ややそう思う | 195 | 32.2 | 113 | 35.9 | 82 | 28.3 |
| 3. あまりそう思わない | 209 | 34.5 | 111 | 35.2 | 98 | 33.8 |
| 4. まったくそう思わない | 144 | 23.8 | 59 | 18.7 | 85 | 29.3 |
| 8. 非該当 | 11 | | 3 | | 8 | |
| 9. 無回答 | 43 | | 21 | | 22 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問1 1 一般的な観点から見ると、この震災で、次のような不公平があったと思いますか。

a～gのそれぞれについてお答えください。

a. メディアの取り上げ方

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 不公平があった | 102 | 18.5 | 38 | 13.8 | 64 | 23.4 |
| 2. どちらかといえば不公平があった | 125 | 22.7 | 61 | 22.1 | 64 | 23.4 |
| 3. どちらかといえば不公平はなかった | 152 | 27.6 | 87 | 31.5 | 65 | 23.7 |
| 4. 不公平はなかった | 171 | 31.1 | 90 | 32.6 | 81 | 29.6 |
| 9. 無回答 | 109 | | 63 | | 46 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 上下水道、電気などの復旧のはやさ

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 不公平があった | 20 | 3.7 | 11 | 3.9 | 9 | 3.4 |
| 2. どちらかといえば不公平があった | 51 | 9.3 | 27 | 9.7 | 24 | 9.0 |
| 3. どちらかといえば不公平はなかった | 196 | 35.9 | 102 | 36.6 | 94 | 35.2 |
| 4. 不公平はなかった | 279 | 51.1 | 139 | 49.8 | 140 | 52.4 |
| 9. 無回答 | 113 | | 60 | | 53 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. ボランティアを受ける機会

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 不公平があった | 26 | 5.1 | 13 | 4.9 | 13 | 5.3 |
| 2. どちらかといえば不公平があった | 71 | 13.8 | 39 | 14.6 | 32 | 13.0 |
| 3. どちらかといえば不公平はなかった | 164 | 31.9 | 75 | 28.0 | 89 | 36.2 |
| 4. 不公平はなかった | 253 | 49.2 | 141 | 52.6 | 112 | 45.5 |
| 9. 無回答 | 145 | | 71 | | 74 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 義援金の配分

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 不公平があった | 83 | 14.9 | 42 | 14.6 | 41 | 15.2 |
| 2. どちらかといえば不公平があった | 113 | 20.3 | 62 | 21.6 | 51 | 19.0 |
| 3. どちらかといえば不公平はなかった | 177 | 31.8 | 94 | 32.8 | 83 | 30.9 |
| 4. 不公平はなかった | 183 | 32.9 | 89 | 31.0 | 94 | 34.9 |
| 9. 無回答 | 103 | | 52 | | 51 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

e. 輪島市(穴水町)による個人に対する復興支援

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 不公平があった | 72 | 13.2 | 34 | 12.0 | 38 | 14.5 |
| 2. どちらかといえば不公平があった | 119 | 21.8 | 69 | 24.3 | 50 | 19.1 |
| 3. どちらかといえば不公平はなかった | 199 | 36.4 | 99 | 34.9 | 100 | 38.2 |
| 4. 不公平はなかった | 156 | 28.6 | 82 | 28.9 | 74 | 28.2 |
| 9. 無回答 | 113 | | 55 | | 58 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

f. 住んでいる市や町の支援制度の違い

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 不公平があった | 83 | 15.5 | 31 | 11.3 | 52 | 19.8 |
| 2. どちらかといえば不公平があった | 127 | 23.6 | 58 | 21.1 | 69 | 26.3 |
| 3. どちらかといえば不公平はなかった | 195 | 36.3 | 117 | 42.5 | 78 | 29.8 |
| 4. 不公平はなかった | 132 | 24.6 | 69 | 25.1 | 63 | 24.0 |
| 9. 無回答 | 122 | | 64 | | 58 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

g. 地震保険の査定

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 不公平があった | 75 | 14.0 | 45 | 15.6 | 30 | 12.1 |
| 2. どちらかといえば不公平があった | 127 | 23.7 | 72 | 25.0 | 55 | 22.3 |
| 3. どちらかといえば不公平はなかった | 180 | 33.6 | 92 | 31.9 | 88 | 35.6 |
| 4. 不公平はなかった | 153 | 28.6 | 79 | 27.4 | 74 | 30.0 |
| 9. 無回答 | 124 | | 51 | | 73 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問12 現在、あなたのご家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 有効回答者 | 653 | 100.0 | 335 | 100.0 | 318 | 100.0 |
| 99. 無回答 | 6 | | 4 | | 2 | |
| 01. 携帯ラジオ・懐中電灯を持ち出す準備 | 411 | 62.9 | 205 | 61.2 | 206 | 64.8 |
| 02. 食料・水を持ち出せるようにしている | 103 | 15.8 | 47 | 14.0 | 56 | 17.6 |
| 03. 貴重品を持ち出せるようにしている | 228 | 34.9 | 119 | 35.5 | 109 | 34.3 |
| 04. 避難場所までの避難経路を確認している | 171 | 26.2 | 88 | 26.3 | 83 | 26.1 |
| 05. 消火器を準備している | 240 | 36.8 | 128 | 38.2 | 112 | 35.2 |
| 06. 家族との連絡方法を決めている | 120 | 18.4 | 62 | 18.5 | 58 | 18.2 |
| 07. 家具を固定している | 140 | 21.4 | 84 | 25.1 | 56 | 17.6 |
| 08. 自宅の耐震診断をした | 35 | 5.4 | 15 | 4.5 | 20 | 6.3 |
| 09. 地震保険に加入している | 210 | 32.2 | 103 | 30.7 | 107 | 33.6 |
| 10. 以上の項目で特にしていることはない | 104 | 15.9 | 54 | 16.1 | 50 | 15.7 |

問13 震災前、以下の備えをしていましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 有効回答者 | 645 | 100.0 | 331 | 100.0 | 314 | 100.0 |
| 9. 無回答 | 14 | | 8 | | 6 | |
| 1. 大きな家具類は寝室においていない | 173 | 26.8 | 83 | 25.1 | 90 | 28.7 |
| 2. 大きな家具類は居間においていない | 132 | 20.5 | 57 | 17.2 | 75 | 23.9 |
| 3. 家具の固定をしていた | 57 | 8.8 | 39 | 11.8 | 18 | 5.7 |
| 4. 自宅の耐震診断をしていた | 14 | 2.2 | 6 | 1.8 | 8 | 2.5 |
| 5. J A（農協）の建物更生共済に加入 | 247 | 38.3 | 125 | 37.8 | 122 | 38.9 |
| 6. 損害保険の地震保険に加入（J A以外） | 82 | 12.7 | 42 | 12.7 | 40 | 12.7 |
| 7. 以上の項目で特にしていることはない | 223 | 34.6 | 119 | 36.0 | 104 | 33.1 |

問14 要援護者マップについてお聞きします。震災前に要援護者マップを必要だと思っていましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 必要だと思っていた | 125 | 19.6 | 70 | 21.6 | 55 | 17.5 |
| 2. 必要だと思っていなかった | 42 | 6.6 | 26 | 8.0 | 16 | 5.1 |
| 3. そういうものがあるとは知らなかった | 471 | 73.8 | 228 | 70.4 | 243 | 77.4 |
| 9. 無回答 | 21 | | 15 | | 6 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問15 現在、ご自宅に災害時の援護を必要としている方はいますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. いる | 81 | 13.0 | 49 | 15.0 | 32 | 10.8 |
| 2. いない | 542 | 87.0 | 277 | 85.0 | 265 | 89.2 |
| 9. 無回答 | 36 | | 13 | | 23 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問16 【問15で1と答えた方にお聞きします】

要援護者マップにご自宅の情報を載せたいと思いますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 載せたい | 68 | 52.3 | 39 | 54.2 | 29 | 50.0 |
| 2. すでに載せている | 10 | 7.7 | 7 | 9.7 | 3 | 5.2 |
| 3. 載せたくない | 52 | 40.0 | 26 | 36.1 | 26 | 44.8 |
| 8. 非該当 | 501 | | 256 | | 245 | |
| 9. 無回答 | 28 | | 11 | | 17 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問17 【問16で3と答えた方にお聞きします】

載せたくない理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 有効回答者 | 62 | 100.0 | 29 | 100.0 | 33 | 100.0 |
| 8. 非該当 | 569 | | 298 | | 271 | |
| 9. 無回答 | 28 | | 12 | | 16 | |
| 1. 個人情報を守るため | 17 | 27.4 | 10 | 34.5 | 7 | 21.2 |
| 2. 載せなくても助けに来てくれる人がいる | 13 | 21.0 | 5 | 17.2 | 8 | 24.2 |
| 3. 災害時に役立つとは思えない | 34 | 54.8 | 15 | 51.7 | 19 | 57.6 |
| 4. その他 | 6 | 9.7 | 1 | 3.4 | 5 | 15.2 |

問18 【ここからは全員の方にお聞きします】

震災時に発信された情報の効果についてお聞きします。

(1) 輪島市(穴水町)から発信された情報は役立ちましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 68 | 10.7 | 41 | 12.5 | 27 | 8.7 |
| 2. ある程度役立った | 288 | 45.1 | 168 | 51.4 | 120 | 38.6 |
| 3. あまり役立たなかった | 178 | 27.9 | 78 | 23.9 | 100 | 32.2 |
| 4. ほとんど役立たなかった | 104 | 16.3 | 40 | 12.2 | 64 | 20.6 |
| 9. 無回答 | 21 | | 12 | | 9 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

(2) マスコミ (テレビ・ラジオ・新聞) から発信された情報は役立ちましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 160 | 24.8 | 84 | 25.5 | 76 | 24.2 |
| 2. ある程度役立った | 343 | 53.3 | 180 | 54.5 | 163 | 51.9 |
| 3. あまり役立たなかった | 90 | 14.0 | 45 | 13.6 | 45 | 14.3 |
| 4. ほとんど役立たなかった | 51 | 7.9 | 21 | 6.4 | 30 | 9.6 |
| 9. 無回答 | 15 | | 9 | | 6 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問19 震災前、隣近所との付き合いに満足していましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足していた | 282 | 43.3 | 152 | 45.2 | 130 | 41.1 |
| 2. やや満足していた | 281 | 43.1 | 143 | 42.6 | 138 | 43.7 |
| 3. あまり満足していなかった | 68 | 10.4 | 33 | 9.8 | 35 | 11.1 |
| 4. 満足していなかった | 21 | 3.2 | 8 | 2.4 | 13 | 4.1 |
| 9. 無回答 | 7 | | 3 | | 4 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問20 現在、あなたは地域生活における次の点に満足していますか。a～f のそれぞれについてお答えください。

a. 職業につく機会

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 63 | 11.3 | 37 | 13.1 | 26 | 9.5 |
| 2. やや満足 | 114 | 20.5 | 67 | 23.7 | 47 | 17.2 |
| 3. やや不満 | 170 | 30.6 | 86 | 30.4 | 84 | 30.8 |
| 4. 不満 | 209 | 37.6 | 93 | 32.9 | 116 | 42.5 |
| 9. 無回答 | 103 | | 56 | | 47 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 余暇を過ごす環境

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 91 | 15.3 | 56 | 18.4 | 35 | 12.0 |
| 2. やや満足 | 190 | 31.9 | 95 | 31.3 | 95 | 32.6 |
| 3. やや不満 | 191 | 32.1 | 93 | 30.6 | 98 | 33.7 |
| 4. 不満 | 123 | 20.7 | 60 | 19.7 | 63 | 21.6 |
| 9. 無回答 | 64 | | 35 | | 29 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 教育環境

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 37 | 6.5 | 24 | 8.3 | 13 | 4.7 |
| 2. やや満足 | 188 | 33.2 | 107 | 37.0 | 81 | 29.2 |
| 3. やや不満 | 198 | 35.0 | 108 | 37.4 | 90 | 32.5 |
| 4. 不満 | 143 | 25.3 | 50 | 17.3 | 93 | 33.6 |
| 9. 無回答 | 93 | | 50 | | 43 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 交通の便利さ

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 51 | 8.3 | 29 | 9.1 | 22 | 7.3 |
| 2. やや満足 | 173 | 28.0 | 90 | 28.4 | 83 | 27.6 |
| 3. やや不満 | 177 | 28.6 | 96 | 30.3 | 81 | 26.9 |
| 4. 不満 | 217 | 35.1 | 102 | 32.2 | 115 | 38.2 |
| 9. 無回答 | 41 | | 22 | | 19 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

e. 隣近所との付き合い

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 183 | 29.2 | 100 | 31.0 | 83 | 27.4 |
| 2. やや満足 | 342 | 54.6 | 172 | 53.3 | 170 | 56.1 |
| 3. やや不満 | 74 | 11.8 | 37 | 11.5 | 37 | 12.2 |
| 4. 不満 | 27 | 4.3 | 14 | 4.3 | 13 | 4.3 |
| 9. 無回答 | 33 | | 16 | | 17 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

f. 輪島市(穴水町)の行政サービス

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 41 | 6.7 | 24 | 7.7 | 17 | 5.6 |
| 2. やや満足 | 209 | 33.9 | 111 | 35.5 | 98 | 32.3 |
| 3. やや不満 | 246 | 39.9 | 126 | 40.3 | 120 | 39.6 |
| 4. 不満 | 120 | 19.5 | 52 | 16.6 | 68 | 22.4 |
| 9. 無回答 | 43 | | 26 | | 17 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問 2 1 あなたは次のような地域の団体に加入されていますか。加入しているものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 有効回答者 | 552 | 100.0 | 287 | 100.0 | 265 | 100.0 |
| 99. 無回答 | 107 | | 52 | | 55 | |
| 01. 町内会や自治会などの地域団体 | 289 | 52.4 | 159 | 55.4 | 130 | 49.1 |
| 02. 婦人会・青年団・老人会 | 215 | 38.9 | 88 | 30.7 | 127 | 47.9 |
| 03. PTA | 65 | 11.8 | 32 | 11.1 | 33 | 12.5 |
| 04. 農協・漁協などの農林漁業団体 | 106 | 19.2 | 54 | 18.8 | 52 | 19.6 |
| 05. 労働組合などの職場の団体 | 63 | 11.4 | 42 | 14.6 | 21 | 7.9 |
| 06. 商工関係の同業組合や団体 | 47 | 8.5 | 18 | 6.3 | 29 | 10.9 |
| 07. 宗教関係の団体 | 48 | 8.7 | 25 | 8.7 | 23 | 8.7 |
| 08. スポーツや趣味のグループ | 153 | 27.7 | 70 | 24.4 | 83 | 31.3 |
| 09. 政党などの政治団体 | 17 | 3.1 | 7 | 2.4 | 10 | 3.8 |
| 10. 生協 | 69 | 12.5 | 37 | 12.9 | 32 | 12.1 |
| 11. 消防団や防犯協会 | 58 | 10.5 | 31 | 10.8 | 27 | 10.2 |
| 12. その他 | 37 | 6.7 | 20 | 7.0 | 17 | 6.4 |

問 2 2 現在お住まいの地域をどのようにお考えですか。a～c のそれぞれについてお答えください。

a. 今住んでいる地域を誇りに思う

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 154 | 25.1 | 97 | 31.0 | 57 | 18.9 |
| 2. ややそう思う | 223 | 36.3 | 110 | 35.1 | 113 | 37.5 |
| 3. ややそう思わない | 180 | 29.3 | 83 | 26.5 | 97 | 32.2 |
| 4. そう思わない | 57 | 9.3 | 23 | 7.3 | 34 | 11.3 |
| 9. 無回答 | 45 | | 26 | | 19 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 今住んでいる地域のために、何か役に立ちたい

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 149 | 24.5 | 77 | 24.8 | 72 | 24.1 |
| 2. ややそう思う | 274 | 45.0 | 146 | 47.1 | 128 | 42.8 |
| 3. ややそう思わない | 147 | 24.1 | 67 | 21.6 | 80 | 26.8 |
| 4. そう思わない | 39 | 6.4 | 20 | 6.5 | 19 | 6.4 |
| 9. 無回答 | 50 | | 29 | | 21 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 今住んでいる地域が好きである

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 256 | 40.2 | 147 | 45.0 | 109 | 35.2 |
| 2. ややそう思う | 228 | 35.8 | 111 | 33.9 | 117 | 37.7 |
| 3. ややそう思わない | 117 | 18.4 | 55 | 16.8 | 62 | 20.0 |
| 4. そう思わない | 36 | 5.7 | 14 | 4.3 | 22 | 7.1 |
| 9. 無回答 | 22 | | 12 | | 10 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問23 震災をきっかけとして、あなたの人付き合いに変化がありましたか。次のa～dのそれぞれについてお答えください。

a. 友人との付き合い

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 増えた | 23 | 3.6 | 13 | 4.0 | 10 | 3.3 |
| 2. やや増えた | 32 | 5.1 | 21 | 6.5 | 11 | 3.6 |
| 3. ほとんど変わらない | 567 | 89.9 | 287 | 88.6 | 280 | 91.2 |
| 4. やや減った | 7 | 1.1 | 2 | 0.6 | 5 | 1.6 |
| 5. 減った | 2 | 0.3 | 1 | 0.3 | 1 | 0.3 |
| 9. 無回答 | 28 | | 15 | | 13 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 近隣の人との付き合い

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 増えた | 14 | 2.2 | 6 | 1.9 | 8 | 2.6 |
| 2. やや増えた | 38 | 6.1 | 23 | 7.2 | 15 | 4.9 |
| 3. ほとんど変わらない | 562 | 89.8 | 286 | 89.1 | 276 | 90.5 |
| 4. やや減った | 8 | 1.3 | 3 | 0.9 | 5 | 1.6 |
| 5. 減った | 4 | 0.6 | 3 | 0.9 | 1 | 0.3 |
| 9. 無回答 | 33 | | 18 | | 15 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 親類との付き合い

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 増えた | 16 | 2.6 | 7 | 2.2 | 9 | 3.0 |
| 2. やや増えた | 43 | 6.9 | 25 | 7.8 | 18 | 5.9 |
| 3. ほとんど変わらない | 554 | 88.8 | 285 | 88.8 | 269 | 88.8 |
| 4. やや減った | 8 | 1.3 | 3 | 0.9 | 5 | 1.7 |
| 5. 減った | 3 | 0.5 | 1 | 0.3 | 2 | 0.7 |
| 9. 無回答 | 35 | | 18 | | 17 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 烏帽子（よぼし）親子*との付き合い

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 増えた | 10 | 2.7 | 2 | 1.1 | 8 | 4.3 |
| 2. やや増えた | 21 | 5.6 | 12 | 6.5 | 9 | 4.8 |
| 3. ほとんど変わらない | 336 | 89.8 | 170 | 91.4 | 166 | 88.3 |
| 4. やや減った | 5 | 1.3 | 2 | 1.1 | 3 | 1.6 |
| 5. 減った | 2 | 0.5 | 0 | 0.0 | 2 | 1.1 |
| 8. 非該当 | 216 | | 111 | | 105 | |
| 9. 無回答 | 69 | | 42 | | 27 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

*「烏帽子（よぼし）親子」とは血縁の親子ではないが、困ったときに互いに助け合う約束などをして、擬似的に親子のように付き合いしている関係のことを指します。

問24 あなたご自身は今後も、輪島市(穴水町)にできるだけ長く住みたいと思いますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 361 | 55.6 | 206 | 61.7 | 155 | 49.2 |
| 2. どちらかといえばそう思う | 191 | 29.4 | 87 | 26.0 | 104 | 33.0 |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 52 | 8.0 | 23 | 6.9 | 29 | 9.2 |
| 4. そう思わない | 45 | 6.9 | 18 | 5.4 | 27 | 8.6 |
| 8. 非該当 | 1 | | 0 | | 1 | |
| 9. 無回答 | 9 | | 5 | | 4 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問25 震災前のあなたのお住まいは、次のうちどれにあたりますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 持ち家（一戸建て） | 582 | 89.4 | 292 | 87.2 | 290 | 91.8 |
| 2. 分譲マンション・分譲アパート | 5 | 0.8 | 3 | 0.9 | 2 | 0.6 |
| 3. 公営の借家 | 19 | 2.9 | 13 | 3.9 | 6 | 1.9 |
| 4. 民営借家 | 15 | 2.3 | 5 | 1.5 | 10 | 3.2 |
| 5. 給与住宅（社宅、社員寮、官舎、公舎） | 13 | 2.0 | 10 | 3.0 | 3 | 0.9 |
| 6. 下宿、間借り | 2 | 0.3 | 2 | 0.6 | 0 | 0.0 |
| 7. その他 | 15 | 2.3 | 10 | 3.0 | 5 | 1.6 |
| 9. 無回答 | 8 | | 4 | | 4 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問26 震災から現在まで、引越しをなさいましたか。引越しをされた方は、その回数もご記入ください。引越しとは、家財の移動をともなう転居とお考えください（仮設住宅は含みますが、避難所は含みません）。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. した | 37 | 5.8 | 20 | 6.0 | 17 | 5.5 |
| 2. していない | 604 | 94.2 | 312 | 94.0 | 292 | 94.5 |
| 9. 無回答 | 18 | | 7 | | 11 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

【1.した】と答えた方の引越しの回数

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 1回 | 24 | 66.7 | 11 | 57.9 | 13 | 76.5 |
| 2. 2回 | 10 | 27.8 | 6 | 31.6 | 4 | 23.5 |
| 3. 3回 | 2 | 5.6 | 2 | 10.5 | 0 | 0.0 |
| 98. 非該当 | 604 | | 312 | | 292 | |
| 99. 無回答 | 19 | | 8 | | 11 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問27 あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。a～dのそれぞれについてお答えください。

a. 仕事の内容

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 78 | 14.9 | 48 | 18.0 | 30 | 11.7 |
| 2. やや満足 | 161 | 30.8 | 80 | 30.1 | 81 | 31.5 |
| 3. どちらともいえない | 170 | 32.5 | 84 | 31.6 | 86 | 33.5 |
| 4. やや不満 | 63 | 12.0 | 32 | 12.0 | 31 | 12.1 |
| 5. 不満 | 51 | 9.8 | 22 | 8.3 | 29 | 11.3 |
| 8. 非該当 | 89 | | 45 | | 44 | |
| 9. 無回答 | 47 | | 28 | | 19 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 個人の収入

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 42 | 7.6 | 27 | 9.5 | 15 | 5.5 |
| 2. やや満足 | 104 | 18.7 | 47 | 16.5 | 57 | 21.0 |
| 3. どちらともいえない | 144 | 25.9 | 72 | 25.4 | 72 | 26.6 |
| 4. やや不満 | 134 | 24.1 | 72 | 25.4 | 62 | 22.9 |
| 5. 不満 | 131 | 23.6 | 66 | 23.2 | 65 | 24.0 |
| 8. 非該当 | 57 | | 28 | | 29 | |
| 9. 無回答 | 47 | | 27 | | 20 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 健康状態

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 79 | 12.8 | 38 | 12.0 | 41 | 13.6 |
| 2. やや満足 | 193 | 31.2 | 99 | 31.3 | 94 | 31.1 |
| 3. どちらともいえない | 181 | 29.3 | 86 | 27.2 | 95 | 31.5 |
| 4. やや不満 | 112 | 18.1 | 58 | 18.4 | 54 | 17.9 |
| 5. 不満 | 53 | 8.6 | 35 | 11.1 | 18 | 6.0 |
| 9. 無回答 | 41 | | 23 | | 18 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 生活全般

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 66 | 10.6 | 39 | 12.3 | 27 | 8.9 |
| 2. やや満足 | 206 | 33.2 | 108 | 34.1 | 98 | 32.2 |
| 3. どちらともいえない | 195 | 31.4 | 85 | 26.8 | 110 | 36.2 |
| 4. やや不満 | 110 | 17.7 | 60 | 18.9 | 50 | 16.4 |
| 5. 不満 | 44 | 7.1 | 25 | 7.9 | 19 | 6.3 |
| 9. 無回答 | 38 | | 22 | | 16 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問28 あなたの暮らし向き（生活の水準）は、震災前と比べて変わりましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. よくなった | 6 | 0.9 | 1 | 0.3 | 5 | 1.6 |
| 2. 変わらない | 517 | 79.5 | 254 | 76.0 | 263 | 83.2 |
| 3. 悪くなった | 127 | 19.5 | 79 | 23.7 | 48 | 15.2 |
| 9. 無回答 | 9 | | 5 | | 4 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問29 かりに現在の日本の社会全体を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はこのどれに入るとお考えですか。あなたの気持ちに一番近い番号を1つ選び、○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 上 | 4 | 0.8 | 1 | 0.4 | 3 | 1.3 |
| 2. 中の上 | 57 | 11.2 | 28 | 10.3 | 29 | 12.1 |
| 3. 中の下 | 203 | 39.7 | 116 | 42.6 | 87 | 36.4 |
| 4. 下の上 | 176 | 34.4 | 83 | 30.5 | 93 | 38.9 |
| 5. 下の下 | 71 | 13.9 | 44 | 16.2 | 27 | 11.3 |
| 9. 無回答 | 148 | | 67 | | 81 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問30 震災前後で比較すると、あなた個人の収入に変化がありましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 収入が増えた | 3 | 0.5 | 2 | 0.6 | 1 | 0.3 |
| 2. 収入がやや増えた | 10 | 1.6 | 3 | 0.9 | 7 | 2.3 |
| 3. 変わらない | 449 | 70.4 | 224 | 67.9 | 225 | 73.1 |
| 4. 収入がやや減った | 91 | 14.3 | 51 | 15.5 | 40 | 13.0 |
| 5. 収入が減った | 85 | 13.3 | 50 | 15.2 | 35 | 11.4 |
| 9. 無回答 | 21 | | 9 | | 12 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問31 震災前後で、次の点について生活の将来プランに変化がありましたか。a～dのそれぞれについてお答えください。

a. 居住地

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 変化していない | 527 | 86.3 | 264 | 84.3 | 263 | 88.3 |
| 2. ある程度変化した | 51 | 8.3 | 35 | 11.2 | 16 | 5.4 |
| 3. 変化した | 33 | 5.4 | 14 | 4.5 | 19 | 6.4 |
| 9. 無回答 | 48 | | 26 | | 22 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 住居形態

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 変化していない | 486 | 81.8 | 241 | 79.3 | 245 | 84.5 |
| 2. ある程度変化した | 71 | 12.0 | 45 | 14.8 | 26 | 9.0 |
| 3. 変化した | 37 | 6.2 | 18 | 5.9 | 19 | 6.6 |
| 9. 無回答 | 65 | | 35 | | 30 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 老後の生活

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 変化していない | 464 | 76.4 | 229 | 74.1 | 235 | 78.9 |
| 2. ある程度変化した | 88 | 14.5 | 47 | 15.2 | 41 | 13.8 |
| 3. 変化した | 55 | 9.1 | 33 | 10.7 | 22 | 7.4 |
| 9. 無回答 | 52 | | 30 | | 22 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 子どもの教育

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 変化していない | 292 | 84.1 | 145 | 82.4 | 147 | 86.0 |
| 2. ある程度変化した | 27 | 7.8 | 16 | 9.1 | 11 | 6.4 |
| 3. 変化した | 28 | 8.1 | 15 | 8.5 | 13 | 7.6 |
| 8. 非該当 | 198 | | 101 | | 97 | |
| 9. 無回答 | 114 | | 62 | | 52 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問32 お子さんについてお聞きします。

(1) あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. いる | 536 | 83.0 | 271 | 80.9 | 265 | 85.2 |
| 2. いない | 110 | 17.0 | 64 | 19.1 | 46 | 14.8 |
| 9. 無回答 | 13 | | 4 | | 9 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

(2) 【問32(1)で1と答えた方にお聞きします】

お子さん方が現在お住まいになっている場所はどこですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|--------|-------|--------|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 有効回答者 | 532(※) | 100.0 | 269(※) | 100.0 | 263 | 100.0 |
| 8. 非該当 | 109 | | 63 | | 46 | |
| 9. 無回答 | 18 | | 7 | | 11 | |
| 1. 同居 | 243 | 45.6 | 126 | 46.7 | 117 | 44.5 |
| 2. 問40と不一致①(※) | 39 | 7.3 | 18 | 6.7 | 21 | 8.0 |
| 3. 問40と不一致②(※) | 3 | 0.6 | 1 | 0.4 | 2 | 0.8 |
| 2. 輪島市(穴水町)内 | 113 | 21.2 | 62 | 23.0 | 51 | 19.4 |
| 3. 能登地域内 | 37 | 7.0 | 16 | 5.9 | 21 | 8.0 |
| 4. 金沢市内 | 174 | 32.7 | 77 | 28.6 | 97 | 36.9 |
| 5. 石川県内 | 94 | 17.7 | 41 | 15.2 | 53 | 20.2 |
| 6. 福井県内・富山県内 | 40 | 7.5 | 21 | 7.8 | 19 | 7.2 |
| 7. その他 | 154 | 28.9 | 80 | 29.7 | 74 | 28.1 |

(※) 項目【1.同居】において、問40一緒に暮らしている家族の項目【02.子供】と一致しないケースが見つかったため、その回答を区別した。

・問40と不一致①のケース(データ上は2と入力)

問32(2)-1で【1.同居】を選択していないかつ問40で【02.子供】を選択

・問40と不一致②のケース(データ上は3と入力)

問32(2)-1で【1.同居】を選択かつ問40で【02.子供】を選択していない

また、問40と不一致①のケースにおいて問32(1)で「2. いない」を選んでいる回答1ケース(輪島市)が含まれているため、問32(2)の【1.同居】における有効回答者は1ケース増えて、全体533、輪島270となる。

(3) 【問32(1)で1と答えた方にお聞きします】

あなたのお子さんのうち、将来的に、輪島市(穴水町)に住む予定のあるお子さんはいますか(すでに輪島市(穴水町)に在住のお子さんを含みます)。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. いる | 282 | 56.7 | 136 | 53.5 | 146 | 60.1 |
| 2. いない | 215 | 43.3 | 118 | 46.5 | 97 | 39.9 |
| 8. 非該当 | 109 | | 63 | | 46 | |
| 9. 無回答 | 53 | | 22 | | 31 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問33 【ここからは全員の方にお聞きします】

あなたのあと継ぎはもう決まっていますか(あなたの配偶者のあと継ぎも含みます)。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 決まっている | 261 | 40.7 | 129 | 39.1 | 132 | 42.4 |
| 2. 決まっていない | 380 | 59.3 | 201 | 60.9 | 179 | 57.6 |
| 9. 無回答 | 18 | | 9 | | 9 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問34 経済的支援についてお聞きします。

(1) あなたは現在、自分や同居家族の収入のほかに、定期的に、親類や別居している家族から金銭的援助を受けていますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 受けている | 28 | 4.4 | 18 | 5.4 | 10 | 3.3 |
| 2. 受けていない | 612 | 95.6 | 315 | 94.6 | 297 | 96.7 |
| 9. 無回答 | 19 | | 6 | | 13 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

(2) 【問34(1)で1と答えた方にお聞きします】

その援助は、震災をきっかけに始まったものですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. はい | 5 | 17.2 | 4 | 23.5 | 1 | 8.3 |
| 2. いいえ | 24 | 82.8 | 13 | 76.5 | 11 | 91.7 |
| 8. 非該当 | 612 | | 315 | | 297 | |
| 9. 無回答 | 18 | | 7 | | 11 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問35 【ここからは全員の方にお聞きします】

次のような意見についてどう思いますか。a～fのそれぞれについてお答えください。

a. 個人で努力するより、有能な指導者に任せたほうが物事はうまくいく

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 96 | 15.9 | 51 | 16.5 | 45 | 15.3 |
| 2. ややそう思う | 192 | 31.8 | 97 | 31.3 | 95 | 32.3 |
| 3. あまりそう思わない | 217 | 35.9 | 107 | 34.5 | 110 | 37.4 |
| 4. そう思わない | 99 | 16.4 | 55 | 17.7 | 44 | 15.0 |
| 9. 無回答 | 55 | | 29 | | 26 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 少々頑張ったところで、自然災害には逆らえない

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 341 | 54.6 | 175 | 54.5 | 166 | 54.6 |
| 2. ややそう思う | 208 | 33.3 | 106 | 33.0 | 102 | 33.6 |
| 3. あまりそう思わない | 54 | 8.6 | 30 | 9.3 | 24 | 7.9 |
| 4. そう思わない | 22 | 3.5 | 10 | 3.1 | 12 | 3.9 |
| 9. 無回答 | 34 | | 18 | | 16 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 高い地位や収入を得る機会は豊富にある

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 25 | 4.1 | 17 | 5.5 | 8 | 2.7 |
| 2. ややそう思う | 39 | 6.4 | 19 | 6.1 | 20 | 6.8 |
| 3. あまりそう思わない | 211 | 34.8 | 110 | 35.5 | 101 | 34.1 |
| 4. そう思わない | 331 | 54.6 | 164 | 52.9 | 167 | 56.4 |
| 9. 無回答 | 53 | | 29 | | 24 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 10年後の日本は、収入の格差が今よりも大きくなっているだろう

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 302 | 49.3 | 151 | 48.4 | 151 | 50.3 |
| 2. ややそう思う | 194 | 31.7 | 108 | 34.6 | 86 | 28.7 |
| 3. あまりそう思わない | 69 | 11.3 | 29 | 9.3 | 40 | 13.3 |
| 4. そう思わない | 47 | 7.7 | 24 | 7.7 | 23 | 7.7 |
| 9. 無回答 | 47 | | 27 | | 20 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

e. 財政再建よりも景気対策が重要である

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 266 | 43.3 | 138 | 43.8 | 128 | 42.8 |
| 2. ややそう思う | 229 | 37.3 | 121 | 38.4 | 108 | 36.1 |
| 3. あまりそう思わない | 78 | 12.7 | 40 | 12.7 | 38 | 12.7 |
| 4. そう思わない | 41 | 6.7 | 16 | 5.1 | 25 | 8.4 |
| 9. 無回答 | 45 | | 24 | | 21 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

f. 政府や自治体がやってきた公共サービスはできるだけ民間企業に任せるほうがよい

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 135 | 22.1 | 56 | 18.1 | 79 | 26.2 |
| 2. ややそう思う | 199 | 32.6 | 111 | 35.8 | 88 | 29.2 |
| 3. あまりそう思わない | 196 | 32.1 | 101 | 32.6 | 95 | 31.6 |
| 4. そう思わない | 81 | 13.3 | 42 | 13.5 | 39 | 13.0 |
| 9. 無回答 | 48 | | 29 | | 19 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問36 あなたは、次の政党をどのくらい好きですか。a～e それぞれの政党について、あなたの気持ちに一番近い番号を1つ選び、○をつけてください。

a. 自由民主党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 34 | 5.7 | 17 | 5.5 | 17 | 5.9 |
| 2. まあ好きである | 283 | 47.4 | 152 | 49.5 | 131 | 45.2 |
| 3. あまり好きではない | 175 | 29.3 | 87 | 28.3 | 88 | 30.3 |
| 4. 好きではない | 105 | 17.6 | 51 | 16.6 | 54 | 18.6 |
| 9. 無回答 | 62 | | 32 | | 30 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 公明党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 8 | 1.5 | 4 | 1.5 | 4 | 1.6 |
| 2. まあ好きである | 57 | 10.9 | 27 | 10.0 | 30 | 12.0 |
| 3. あまり好きではない | 242 | 46.4 | 118 | 43.7 | 124 | 49.4 |
| 4. 好きではない | 214 | 41.1 | 121 | 44.8 | 93 | 37.1 |
| 9. 無回答 | 138 | | 69 | | 69 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 民主党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 15 | 2.8 | 5 | 1.8 | 10 | 3.8 |
| 2. まあ好きである | 166 | 31.0 | 81 | 29.8 | 85 | 32.3 |
| 3. あまり好きではない | 208 | 38.9 | 112 | 41.2 | 96 | 36.5 |
| 4. 好きではない | 146 | 27.3 | 74 | 27.2 | 72 | 27.4 |
| 9. 無回答 | 124 | | 67 | | 57 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 社会民主党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 3 | 0.6 | 3 | 1.1 | 0 | 0.0 |
| 2. まあ好きである | 65 | 12.5 | 32 | 12.0 | 33 | 13.1 |
| 3. あまり好きではない | 235 | 45.4 | 119 | 44.6 | 116 | 46.2 |
| 4. 好きではない | 215 | 41.5 | 113 | 42.3 | 102 | 40.6 |
| 9. 無回答 | 141 | | 72 | | 69 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

e. 日本共産党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 4 | 0.8 | 3 | 1.1 | 1 | 0.4 |
| 2. まあ好きである | 45 | 8.6 | 19 | 7.0 | 26 | 10.2 |
| 3. あまり好きではない | 200 | 38.1 | 112 | 41.5 | 88 | 34.5 |
| 4. 好きではない | 276 | 52.6 | 136 | 50.4 | 140 | 54.9 |
| 9. 無回答 | 134 | | 69 | | 65 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問37 あなたの性別はどちらですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 男性 | 301 | 46.2 | 158 | 46.9 | 143 | 45.4 |
| 2. 女性 | 351 | 53.8 | 179 | 53.1 | 172 | 54.6 |
| 9. 無回答 | 7 | | 2 | | 5 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問38 あなたのお生まれは、何年ですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 20代 | 42 | 6.4 | 25 | 7.4 | 17 | 5.4 |
| 2. 30代 | 64 | 9.8 | 37 | 11.0 | 27 | 8.6 |
| 3. 40代 | 96 | 14.7 | 51 | 15.1 | 45 | 14.3 |
| 4. 50代 | 157 | 24.1 | 72 | 21.4 | 85 | 27.0 |
| 5. 60代 | 192 | 29.4 | 95 | 28.2 | 97 | 30.8 |
| 6. 70代 | 101 | 15.5 | 57 | 16.9 | 44 | 14.0 |
| 9. 無回答 | 7 | | 2 | | 5 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問39 あなたは穴水町に住んで、今年で何年目になりますか。輪島市（穴水町）以外にお住まいの期間を除いて、合計年でお答えください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 1～10年 | 41 | 6.3 | 22 | 6.6 | 19 | 6.0 |
| 2. 11～20年 | 51 | 7.9 | 28 | 8.4 | 23 | 7.3 |
| 3. 21～30年 | 90 | 13.9 | 42 | 12.6 | 48 | 15.2 |
| 4. 31～40年 | 122 | 18.8 | 54 | 16.2 | 68 | 21.6 |
| 5. 41～50年 | 122 | 18.8 | 57 | 17.1 | 65 | 20.6 |
| 6. 51～60年 | 106 | 16.4 | 53 | 15.9 | 53 | 16.8 |
| 7. 61～70年 | 74 | 11.4 | 48 | 14.4 | 26 | 8.3 |
| 8. 71年以上 | 42 | 6.5 | 29 | 8.7 | 13 | 4.1 |
| 9. 無回答 | 11 | | 6 | | 5 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問40 この中から一緒に暮らしていらっしゃるご家族をすべてお選びください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 有効回答者 | 645 | 100.0 | 333 | 100.0 | 312 | 100.0 |
| 99. 無回答 | 14 | | 6 | | 8 | |
| 01. 配偶者（夫・妻） | 483 | 74.9 | 242 | 72.7 | 241 | 77.2 |
| 02. 子供 | 282 | 43.7 | 143 | 42.9 | 139 | 44.6 |
| 9. 問32(2)と矛盾する回答（※） | 6 | 0.9 | 4 | 1.2 | 2 | 0.6 |
| 03. 子供の配偶者 | 41 | 6.4 | 16 | 4.8 | 25 | 8.0 |
| 04. 自分の父母 | 174 | 27.0 | 94 | 28.2 | 80 | 25.6 |
| 05. 配偶者の父母 | 88 | 13.6 | 45 | 13.5 | 43 | 13.8 |
| 06. 自分の兄弟姉妹 | 29 | 4.5 | 12 | 3.6 | 17 | 5.4 |
| 07. 配偶者の兄弟姉妹 | 1 | 0.2 | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 |
| 08. 自分の祖父母 | 27 | 4.2 | 10 | 3.0 | 17 | 5.4 |
| 09. 配偶者の祖父母 | 10 | 1.6 | 5 | 1.5 | 5 | 1.6 |
| 10. 孫 | 51 | 7.9 | 19 | 5.7 | 32 | 10.3 |
| 11. その他 | 10 | 1.6 | 6 | 1.8 | 4 | 1.3 |
| 12. 当てはまる人はいない | 37 | 5.7 | 24 | 7.2 | 13 | 4.2 |

（※）項目【02. 子供】において、問32(2)-1お子さんのお住まいの項目【1. 同居】と不一致のケースが見つかったため、その回答を区別した。データ上では9と入力してある。

問4 1 あなたが最後に行かれた（または現在通っている）学校は、次のどれにあたりま
すか。1つお選びください。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。（71歳以下
のかたは、ほとんどが新制になると思われます。）

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 01. 新制中学校 | 173 | 27.1 | 94 | 28.4 | 79 | 25.7 |
| 02. 新制中学校卒業後、専門学校 | 28 | 4.4 | 14 | 4.2 | 14 | 4.6 |
| 03. 新制高校 | 235 | 36.8 | 124 | 37.5 | 111 | 36.2 |
| 04. 新制高校卒業後、専門学校 | 66 | 10.3 | 32 | 9.7 | 34 | 11.1 |
| 05. 新制短大・高専 | 39 | 6.1 | 21 | 6.3 | 18 | 5.9 |
| 06. 新制大学 | 68 | 10.7 | 32 | 9.7 | 36 | 11.7 |
| 07. 新制大学院 | 4 | 0.6 | 3 | 0.9 | 1 | 0.3 |
| 08. 旧制尋常小学校 | 2 | 0.3 | 1 | 0.3 | 1 | 0.3 |
| 09. 旧制高等小学校 | 1 | 0.2 | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 |
| 10. 旧制中学校・実業高校・師範学校・高 等女学校 | 13 | 2.0 | 6 | 1.8 | 7 | 2.3 |
| 11. 旧制高校・高専 | 4 | 0.6 | 3 | 0.9 | 1 | 0.3 |
| 12. 旧制大学 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 13. 旧制大学院 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 14. その他 | 5 | 0.8 | 0 | 0.0 | 5 | 1.6 |
| 99. 無回答 | 21 | | 8 | | 13 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問4 2 あなたとあなたの配偶者（夫または妻）のかたの、現在のご職業についてお聞き
します。なお、ここでは、職業とは継続して行っている収入をとまなう仕事としま
す。

あなた(ご本人)

a. 現在、配偶者はいらっしゃいますか

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. いない | 148 | 23.9 | 84 | 26.3 | 64 | 21.4 |
| 2. いる | 470 | 76.1 | 235 | 73.7 | 235 | 78.6 |
| 9. 無回答 | 41 | | 20 | | 21 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

b. 現在、ご職業をお持ちですか

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 有職 | 413 | 68.5 | 209 | 67.2 | 204 | 69.9 |
| 2. 無職 | 123 | 20.4 | 64 | 20.6 | 59 | 20.2 |
| 3. 主婦 | 61 | 10.1 | 34 | 10.9 | 27 | 9.2 |
| 4. 学生 | 6 | 1.0 | 4 | 1.3 | 2 | 0.7 |
| 9. 無回答 | 56 | | 28 | | 28 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 現在のお仕事

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 経営者、役員(会社組織の) | 23 | 5.6 | 9 | 4.3 | 14 | 7.0 |
| 2. 常時雇用されている一般従業者 | 212 | 51.7 | 114 | 54.5 | 98 | 48.8 |
| 3. 臨時雇用、契約社員、パート、アルバイト | 80 | 19.5 | 36 | 17.2 | 44 | 21.9 |
| 4. 派遣社員 | 3 | 0.7 | 1 | 0.5 | 2 | 1.0 |
| 5. 自営業主、自由業者(会社組織でない) | 66 | 16.1 | 35 | 16.7 | 31 | 15.4 |
| 6. 家族従業者 | 23 | 5.6 | 13 | 6.2 | 10 | 5.0 |
| 7. 内職 | 3 | 0.7 | 1 | 0.5 | 2 | 1.0 |
| 8. 非該当 | 181 | | 98 | | 83 | |
| 9. 無回答 | 68 | | 32 | | 36 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 従業員の人数（自営のかたはご本人と家族を除いた雇用者の人数）

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 0人 | 70 | 18.8 | 35 | 18.3 | 35 | 19.2 |
| 2. 1～9人 | 91 | 24.4 | 39 | 20.4 | 52 | 28.6 |
| 3. 10～29人 | 71 | 19.0 | 39 | 20.4 | 32 | 17.6 |
| 4. 30～99人 | 48 | 12.9 | 26 | 13.6 | 22 | 12.1 |
| 5. 100～299人 | 33 | 8.8 | 13 | 6.8 | 20 | 11.0 |
| 6. 300人以上 | 19 | 5.1 | 11 | 5.8 | 8 | 4.4 |
| 7. 官公庁 | 41 | 11.0 | 28 | 14.7 | 13 | 7.1 |
| 8. 非該当 | 181 | | 98 | | 83 | |
| 9. 無回答 | 105 | | 50 | | 55 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

f. 本人の職業分類

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 01. 専門的、技術的職業 | 62 | 15.8 | 30 | 15.5 | 32 | 16.2 |
| 02. 管理的職業 | 17 | 4.3 | 4 | 2.1 | 13 | 6.6 |
| 03. 事務的職業 | 59 | 15.1 | 26 | 13.4 | 33 | 16.7 |
| 04. 通信的職業 | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 | 1 | 0.5 |
| 05. 保安的職業 | 12 | 3.1 | 9 | 4.6 | 3 | 1.5 |
| 06. 建築請負的職業 | 26 | 6.6 | 9 | 4.6 | 17 | 8.6 |
| 07. 運輸的職業 | 16 | 4.1 | 8 | 4.1 | 8 | 4.0 |
| 08. 労務的職業 | 3 | 0.8 | 0 | 0.0 | 3 | 1.5 |
| 09. 販売的職業 | 44 | 11.2 | 20 | 10.3 | 24 | 12.1 |
| 10. サービス的職業 | 27 | 6.9 | 17 | 8.8 | 10 | 5.1 |
| 11. 製造的職業 | 46 | 11.7 | 29 | 14.9 | 17 | 8.6 |
| 12. 農林漁業 | 44 | 11.2 | 26 | 13.4 | 18 | 9.1 |
| 13. その他 | 35 | 8.9 | 16 | 8.2 | 19 | 9.6 |
| 98. 非該当 | 181 | | 97 | | 84 | |
| 99. 無回答 | 86 | | 48 | | 38 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

配偶者

b. 現在、ご職業をお持ちですか

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 有職 | 309 | 73.0 | 152 | 73.8 | 157 | 72.4 |
| 2. 無職 | 82 | 19.4 | 40 | 19.4 | 42 | 19.4 |
| 3. 主婦 | 31 | 7.3 | 14 | 6.8 | 17 | 7.8 |
| 4. 学生 | 1 | 0.2 | 0 | 0.0 | 1 | 0.5 |
| 8. 非該当 | 145 | | 82 | | 63 | |
| 9. 無回答 | 91 | | 51 | | 40 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

c. 現在のお仕事

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 経営者、役員(会社組織の) | 18 | 6.1 | 7 | 4.8 | 11 | 7.3 |
| 2. 常時雇用されている一般従業者 | 151 | 51.2 | 78 | 53.8 | 73 | 48.7 |
| 3. 臨時雇用、契約社員、パート、アルバイト | 58 | 19.7 | 24 | 16.6 | 34 | 22.7 |
| 4. 派遣社員 | 3 | 1.0 | 2 | 1.4 | 1 | 0.7 |
| 5. 自営業主、自由業者(会社組織でない) | 42 | 14.2 | 23 | 15.9 | 19 | 12.7 |
| 6. 家族従業者 | 21 | 7.1 | 10 | 6.9 | 11 | 7.3 |
| 7. 内職 | 2 | 0.7 | 1 | 0.7 | 1 | 0.7 |
| 8. 非該当 | 259 | | 136 | | 123 | |
| 9. 無回答 | 105 | | 58 | | 47 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

d. 従業員の人数（自営のかたはご本人と家族を除いた雇用者の人数）

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 0人 | 39 | 14.4 | 22 | 15.8 | 17 | 13.0 |
| 2. 1～9人 | 67 | 24.8 | 31 | 22.3 | 36 | 27.5 |
| 3. 10～29人 | 54 | 20.0 | 27 | 19.4 | 27 | 20.6 |
| 4. 30～99人 | 36 | 13.3 | 19 | 13.7 | 17 | 13.0 |
| 5. 100～299人 | 29 | 10.7 | 13 | 9.4 | 16 | 12.2 |
| 6. 300人以上 | 16 | 5.9 | 6 | 4.3 | 10 | 7.6 |
| 7. 官公庁 | 29 | 10.7 | 21 | 15.1 | 8 | 6.1 |
| 8. 非該当 | 259 | | 136 | | 123 | |
| 9. 無回答 | 130 | | 64 | | 66 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

f. 本人がつける配偶者の職業分類

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 01. 専門的、技術的職業 | 43 | 14.5 | 17 | 11.7 | 26 | 17.2 |
| 02. 管理的職業 | 19 | 6.4 | 11 | 7.6 | 8 | 5.3 |
| 03. 事務的職業 | 50 | 16.9 | 27 | 18.6 | 23 | 15.2 |
| 04. 通信的職業 | 3 | 1.0 | 3 | 2.1 | 0 | 0.0 |
| 05. 保安的職業 | 6 | 2.0 | 4 | 2.8 | 2 | 1.3 |
| 06. 建築請負的職業 | 17 | 5.7 | 8 | 5.5 | 9 | 6.0 |
| 07. 運輸的職業 | 5 | 1.7 | 2 | 1.4 | 3 | 2.0 |
| 08. 労務的職業 | 7 | 2.4 | 0 | 0.0 | 7 | 4.6 |
| 09. 販売的職業 | 29 | 9.8 | 11 | 7.6 | 18 | 11.9 |
| 10. サービス的職業 | 20 | 6.8 | 5 | 3.4 | 15 | 9.9 |
| 11. 製造的職業 | 32 | 10.8 | 21 | 14.5 | 11 | 7.3 |
| 12. 農林漁業 | 33 | 11.1 | 22 | 15.2 | 11 | 7.3 |
| 13. その他 | 32 | 10.8 | 14 | 9.7 | 18 | 11.9 |
| 98. 非該当 | 258 | | 135 | | 123 | |
| 99. 無回答 | 105 | | 59 | | 46 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

問43 収入についておたずねします。

(1) 過去1年間のお宅の収入は税込みでだいたいどのくらいでしょうか。他のご家族の収入も含めてお答えください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 01. なし | 14 | 2.4 | 4 | 1.4 | 10 | 3.5 |
| 02. 70万円未満 | 18 | 3.1 | 12 | 4.1 | 6 | 2.1 |
| 03. 70～150万円未満 | 36 | 6.2 | 19 | 6.4 | 17 | 6.0 |
| 04. 150～250万円未満 | 74 | 12.8 | 38 | 12.9 | 36 | 12.7 |
| 05. 250～350万円未満 | 83 | 14.4 | 44 | 14.9 | 39 | 13.8 |
| 06. 350～450万円未満 | 67 | 11.6 | 43 | 14.6 | 24 | 8.5 |
| 07. 450～550万円未満 | 65 | 11.2 | 37 | 12.5 | 28 | 9.9 |
| 08. 550～650万円未満 | 50 | 8.7 | 25 | 8.5 | 25 | 8.8 |
| 09. 650～750万円未満 | 39 | 6.7 | 19 | 6.4 | 20 | 7.1 |
| 10. 750～850万円未満 | 32 | 5.5 | 15 | 5.1 | 17 | 6.0 |
| 11. 850～1000万円未満 | 42 | 7.3 | 17 | 5.8 | 25 | 8.8 |
| 12. 1000～1200万円未満 | 29 | 5.0 | 14 | 4.7 | 15 | 5.3 |
| 13. 1200～1400万円未満 | 13 | 2.2 | 4 | 1.4 | 9 | 3.2 |
| 14. 1400～1600万円未満 | 6 | 1.0 | 2 | 0.7 | 4 | 1.4 |
| 15. 1600～1850万円未満 | 4 | 0.7 | 0 | 0.0 | 4 | 1.4 |
| 16. 1850～2300万円未満 | 4 | 0.7 | 1 | 0.3 | 3 | 1.1 |
| 17. 2300万円以上 | 2 | 0.3 | 1 | 0.3 | 1 | 0.4 |
| 99. 無回答 | 81 | | 44 | | 37 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

(2) 過去1年間のあなた個人の収入は税込みでどのくらいでしょうか。臨時収入、副収入も含めてお答えください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 01. なし | 57 | 9.7 | 27 | 9.0 | 30 | 10.4 |
| 02. 70万円未満 | 62 | 10.5 | 32 | 10.7 | 30 | 10.4 |
| 03. 70～150万円未満 | 124 | 21.1 | 59 | 19.7 | 65 | 22.6 |
| 04. 150～250万円未満 | 128 | 21.8 | 70 | 23.3 | 58 | 20.1 |
| 05. 250～350万円未満 | 93 | 15.8 | 52 | 17.3 | 41 | 14.2 |
| 06. 350～450万円未満 | 47 | 8.0 | 29 | 9.7 | 18 | 6.3 |
| 07. 450～550万円未満 | 23 | 3.9 | 10 | 3.3 | 13 | 4.5 |
| 08. 550～650万円未満 | 20 | 3.4 | 8 | 2.7 | 12 | 4.2 |
| 09. 650～750万円未満 | 14 | 2.4 | 6 | 2.0 | 8 | 2.8 |
| 10. 750～850万円未満 | 9 | 1.5 | 5 | 1.7 | 4 | 1.4 |
| 11. 850～1000万円未満 | 7 | 1.2 | 2 | 0.7 | 5 | 1.7 |
| 12. 1000～1200万円未満 | 2 | 0.3 | 0 | 0.0 | 2 | 0.7 |
| 13. 1200～1400万円未満 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 14. 1400～1600万円未満 | 1 | 0.2 | 0 | 0.0 | 1 | 0.3 |
| 15. 1600～1850万円未満 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 16. 1850～2300万円未満 | 1 | 0.2 | 0 | 0.0 | 1 | 0.3 |
| 17. 2300万円以上 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 99. 無回答 | 71 | | 39 | | 32 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

(*) もしご希望があれば、主な項目の集計結果を郵送したいと思いますが、いかがでしょうか。結果がまとまるのは、年明けになる予定です。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 希望する | 346 | 57.2 | 174 | 56.5 | 172 | 57.9 |
| 2. 希望しない | 259 | 42.8 | 134 | 43.5 | 125 | 42.1 |
| 9. 無回答 | 54 | | 31 | | 23 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

お願い

この度は調査へのご協力を誠にありがとうございました。金沢大学文学部社会学研究室では、震災後の生活の中期的な変化を知るために、今回の回答者の皆様を対象にして、来年度もう一度、同様の郵送調査を計画しています。この調査にご協力いただければ、震災研究上さらに価値の高いデータを得ることができます。お忙しいところたいへん恐縮ですが、私どもの一年後の調査に回答のご協力をいただけるでしょうか。お教えください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 協力してもよい | 412 | 69.6 | 201 | 67.0 | 211 | 72.3 |
| 2. 協力したくない | 180 | 30.4 | 99 | 33.0 | 81 | 27.7 |
| 9. 無回答 | 67 | | 39 | | 28 | |
| 合計 | 659 | 100.0 | 339 | 100.0 | 320 | 100.0 |

単純集計に用いたデータに関する留意点

2008 年度単純集計は 2009 年度調査実習用に提供したデータとは異なるものを使用した

- ・ 2008 年度単純集計に用いたデータ
「2008 実習能登半島地震データ Ver. 8. 3」(SPSS データファイル)
- ・ 2009 年度調査実習に用いたデータ
「2008 実習能登半島地震データ Ver. 7」(SPSS データファイル)

Ver. 8. 3 では以下の点を追加、変更した

- ・ 穴水 318(IDN0 20081133) 穴水 323(IDN020081488) の 2 つのケースのデータを修正

変更前

変更後

Q32_2_1=9

Q32_2_1=2

- ・ 以下の 5 つの変数を作成して追加(単純集計には掲載されていないものもある)

対象者の年齢 (AGE)

年齢を 10 歳ごとに区分したもの (年令 10 歳きざみ)

年齢を若中高年齢層に分けたもの (若中高年齢)

十年ごとの居住年数 (home_year)

地域の類型区分 (AREATYPE)

- ・ 欠損値の変更

問 4 (2) の欠損値を 8,9 とし、10 から 14 までを有効回答とした

問 4 (3) の欠損値を 9,98 とし、10 から 14 までを有効回答とした

問 3 2 (2) の項目【1.同居】の欠損値を 8,9 とし 2,3 を有効回答とした

問 4 0 の項目【02.子供】の欠損値を 99 とし 9 を有効回答とした

2008 年度調査コーディングマニュアル
「震災体験と地域生活に関する意識調査」

変更点 Q4_2 と Q4_3 について、調査票の選択肢に忠実にリコードした。

(共通)

■欠損値について

欠損値→①非該当：回答者が質問の対象にならないもの。スクリーニングの結果、回答不能のため無回答のもの

…例) 問4 (1) で**2**と答えた場合の問4の(2)回答等

→②無回答：回答可能箇所なのに、回答のないもの。「わからない」という回答…

※ 入力の際、Excel のシートに空白はつくらない。

⇒ SPSS で分析するときは、変数レビューを用いて必ず欠損値を指定する必要がある。
一つの分析で欠損値は離散値・連続値も含め3つまで指定することができる。

非該当コード：原則**8**

*数値が2桁に渡るものは**98**，3桁は**998**，…と記入

無回答コード：原則**9**

*数値が2桁に渡るものは**99**，3桁は**999**，…と記入

*この他、問によっては、独自の無回答コードが設定されている問もある

！注意！

- ・ ちょっとした疑問があつたら**独断ではなく**、先生方や質問作成者と相談してください。そして、その対処方法をこまめに記録していく必要があるため、コーディング係まで知らせてください。

■スクリーニング問題について

原則、回答のない空白のものは、無回答コードを記入

ただし、スクリーニング問題においては…

①対象となる人が、回答せずに空白にしている場合→無回答コード**9**

②対象とならない人が、問題を飛ばして空白のままにしている場合→非該当コード**8**

(例外) 問 4 の (1), (2), (3) と問 15, 問 16, 問 17 はスクリーニング問題として作ったが、予想外の回答があったため、各々独立の問題としてコードした。→非該当コードを使わなかった場合がある。

■マルチアンサーについて

- ・ 回答がある選択肢に **1**, ない選択肢に **0** を当てはめていく。
(例外) 問 32 (2) 「1. 同居」は、2 と 3 がある。
- ・ すべての選択肢において欄外の左に数値を記入していく。
- ・ 全て空白の回答…①その問がスクリーニング問題のとき。
非該当者が全て空白→原則として **8**
該当者が全て空白→すべてに **9**
②その問が対象者全員を回答者に指定しているとき。
→すべてに **9**

■マルチアンサー以外の問題で複数回答している場合

- ・ 一つの回答で複数回答の場合は、まず先生や質問作成者に他の質問との整合性などを相談する。そのうえでサイコロを用いて回答を1つにできるところは1つに。できないと判断されるところは、無回答にコーディングし直す。
(例外) 問 4 (2), (3) は2つ回答しているものは、コードで区別した。

■記入の仕方について

- ・ 基本的に、欄外の左、もしくは左上に記入する。
- ・ 記入されている回答自体に、線で消すなどの加工をしない。ただし、指示を出すのが遅かったので、コーディング作業の最初の頃、青ペンで加工した調査票がある。しかし、ペンの色が回答と異なるため、オリジナルとの区別はできる。
- ・ コーディングを間違えた場合、または後から訂正が生じることになった場合は、二重線などを用いてもとの数字が把握できる程度に修正し、赤ペンで訂正を加える。日付と訂正者の名前も赤ペンで記入する必要がある。あまり間違えないように注意する。
- ・ コーディングは、必ずペアで行ってください。コーディングを行った2人の名前を、各調査票表紙の**左上**の余白に記入したところで、コーディングは終了したことになります。

(個別の問題)

注意！！

“■問～”の下に“記入しない”となっても、無回答コード、非該当コードは必ず記入すること。※調査票に記入が必要な箇所には_____がひいてある。

■問1

記入する

マルチアンサー

7を含まず複数回答の場合…「1」「0」

7を含んで複数回答の場合（例：2と7など）1～6まで…「1」「0」、7…「0」

7のみを回答している場合…1～6まで…「0」、7…「1」

無回答の場合…「9」

■問2

記入する

マルチアンサー

7を含まず複数回答の場合…「1」「0」

7を含んで複数回答の場合（例：2と7など）1～6まで…「1」「0」、7…「0」

7のみを回答している場合…1～6まで…「0」、7…「1」

無回答の場合…「9」

■問3

記入しない

「1」「2」「3」「9」

■問4

記入する

(1) …「1」「2」「9」

(2) (1) で1と答えている場合…「1」「2」「3」「4」「5」「9」

(1) で2と答えている場合…「8」

複数の選択肢を選んでいる場合…一度「6」でコードしたが、後で調査票を見直し、各ケースごとに異なるコードつけた。以下参照。

| | 回答 | 旧コーディング | 新コーディング |
|---------------|---------------|---------|---------|
| 自宅と土蔵などの区別がない | 4と5 | 6 | 10 |
| | 3と4 | 6 | 11 |
| 自宅と土蔵などの区別あり | 自宅3と蔵2 | 6 | 12 |
| | 自宅4と蔵全壊（記述のみ） | 6 | 13 |
| | 自宅4と土蔵1 | 6 | 14 |
| 土蔵のみ | 土蔵1 | 1 | 15 |

(3) (2) で**1～4**と答えている場合…「**1**」～「**8**」

(1) で**2**, (2) で**5**と答えている場合…「**98**」

(2) で**1～4**と答えていながら, どの選択肢も選んでいない場合…「**9**」

8の“具体的に:”の箇所

→該当, 非該当, 無回答いずれの場合も, 記述あり…「1」, 記述無し…「0」

複数の選択肢を選んでいる場合…一度「95」でコードしたが, 後で調査票を見直し, 各ケースごとに異なるコードをつけた。以下参照。

| | 回答 | 旧コーディング | 新コーディング |
|---------------|---------|---------|---------|
| 自宅と土蔵などの区別がない | 7と8 | 95 | 10 |
| | 1と3 | 95 | 11 |
| | 1と7 | 95 | 12 |
| | 1と8 | 95 | 13 |
| 自宅と土蔵などの区別あり | 自宅4と土蔵7 | 95 | 14 |

■問5

記入しない

「**1**」～「**6**」「**9**」

■問6

記入しない

「**1**」～「**4**」「**5**」は非該当コード「**8**」を記入する「**9**」

■問 7

記入しない

「1」「2」「9」

■問 8, 9

記入しない

「1」～「4」「9」

■問 10

記入しない

「1」～「4」「9」

※「震災後に移り住んだ」「受けていない」などの理由で回答者が質問に答えていない場合は非該当コード「8」を記入する

■問 11

記入しない

「1」～「4」「9」

■問 12

記入する

マルチアンサー

「1」「0」「**99**」

※**10**を含んで複数回答の場合（例：**2**と**10**など）**1**～**9**まで…「1」「0」、**10**…「0」

■問 13

記入する

マルチアンサー

「1」「0」「**9**」

※**7**を含んで複数回答の場合（例：**2**と**7**など）**1**～**6**まで…「1」「0」、**7**…「0」

■問 14

記入しない

「1」～「3」「9」

■問15

記入する

「1」「2」「9」

■問16

記入する

問15で1を選択した場合…「1」「2」「3」「9」

問15で2を選択した場合…「8」

※こちらの意図通りの回答でない場合も、基本的に回答者の答えをそのまま記入

■問17

記入する

問15で2, 問16で1, 2を選択した場合…「8」

問16で3を選択した場合…「1」「0」「9」

4の“具体的に：”の箇所

→該当, 非該当, 無回答いずれの場合も, 記述あり…「1」, 記述無し…「0」

※こちらの意図通りの回答でない場合も、基本的に回答者の答えをそのまま記入

■問18 (1), (2) ~ 問20

記入しない

「1」～「4」「9」

■問21

記入する

マルチアンサー

「1」「0」「99」

12の“具体的に：”の箇所

→該当, 非該当, 無回答いずれの場合も, 記述あり…「1」, 記述無し…「0」

※基本的に無回答と、加入している団体がないために答えていない人の区別は行わない。
また、12その他（具体的に：）に“加入している団体はない”とあった場合は、回答者が12を選んだものとしてコーディングする

■問22

記入しない

「1」～「4」「9」

■問23

記入しない

「1」～「5」「6」は非該当コード「8」を記入する「9」

■問24

記入しない

「1」～「4」「9」

■問25

記入しない

「1」～「7」「9」

7の“具体的に：”の箇所

→該当，非該当，無回答いずれの場合も，記述あり…「1」，記述無し…「0」

■問26

記入しない

「1」「2」「9」

引越しの回数

→1を選択していて，引越しの回数を記入している場合…そのまま

1を選択しているのに回答していない場合…「99」

2を選択している場合…「98」

■問27

記入しない

「1」～「5」「6」は非該当コード「8」を記入する「9」

■問28

記入しない

「1」～「3」「9」

■問29

記入しない

「1」～「5」「9」

6は無回答コード「9」を記入する

■問30

記入しない

「1」～「5」「9」

■問31

記入しない

「1」～「3」「4」は非該当コード「8」を記入する「9」

■問32

記入する

(1) 「1」「2」「9」

(2) マルチアンサー

(1) で1を選択した場合… 「1」「0」「9」

(1) で2を選択した場合… 「8」

(例外) 問40の02「こどもと一緒に暮らしている」の回答と矛盾しているものは新しいコードをつけた。以下参照。

| 問32(2)の1 | 問40の02 | 問32(2)の新コード |
|----------|----------|-------------|
| 丸がついていない | 丸がついている | 2(*) |
| 丸がついている | 丸がついていない | 3 |

* 問32(1)で「2. いない」を選んでいる回答1ケースを含む。

7の“具体的に：”の箇所

→該当，非該当，無回答いずれの場合も，記述あり…「1」，記述無し…「0」

(3) (1) で1を選択した場合… 「1」「2」「9」

(1) で2を選択した場合… 「8」

■問33

記入しない

「1」「2」「9」

■問34

記入する

(1) 「**1**」「**2**」「**9**」

(2) (1) で**1**を選択した場合… 「**1**」「**2**」「**9**」

(1) で**2**を選択した場合… 「**8**」

■問35, 問36

記入しない

「**1**」～「**4**」「**9**」

■問37

記入しない

「**1**」「**2**」「**9**」

■問38

記入する

生まれた昭和年をそのまま記入するか、無回答の場合「**99**」を記入

■問39

記入する

合計年をそのまま記入するか、無回答の場合「**99**」を記入

※回答者が年齢以上の年数を記入している場合(例: 110年)は、回答者の年齢を記入する

■問40

記入する

マルチアンサー

「**1**」「**0**」「**99**」

問32(2)の項目【1.同居】と一致しない回答を「**9**」とコードする。(追加)

■問41

記入しない

「**1**」～「**14**」「**99**」

14の“具体的に:”の箇所

→該当, 非該当, 無回答いずれの場合も, 記述あり…「**1**」, 記述無し…「**0**」

■問42a と 問40, 01 の回答が矛盾するケースがあった。

この場合には、他に有力な手がかり（問42「あなたの配偶者」欄の記述の有無、家族員数と収入など）があれば、edit した。手がかりが無い場合は、手を加えないで、オリジナルな回答のままとした。

問42a が無回答な理由としては、高齢者にわかりにくい文章だった可能性など。73-74歳までを対象にするなら、「生別」「死別」など現在の婚姻上の地位を丁寧に聞くべきだったかもしれない。（135頁の補足③も参照。）

■問43（1）（2）

記入しない

「1」～「17」「99」

■（*）

記入しない

「1」「2」「9」

■お願い

記入しない

「1」「2」「9」

次ページに職業分類あり

ここからは職業分類のマニュアルです。

■問4 2 “あなた（ご本人）”

- a…記入しない
「1」「2」「9」
- b…記入しない
「1」～「4」「9」
- c…記入しない
bで1を選択した場合…「1」～「7」「9」
bで2～4を選択した場合…「8」
- d…記入しない
bで1を選択した場合…「1」～「7」「9」
bで2～4を選択した場合…「8」
- e…記入する
bで1を選択した場合…職業の番号を熟慮の上、記入。もしくは「999」（無回答）
記入があるが、どの分類番号かわからないときは「997」
bで2～4を選択した場合…「998」

eについて注意！！

- 「689」 分類不能の職業
- 「986」 無職
- 「988」 大学生・短大生
- 「989」 大学院生
- 「990」 その他の生徒・学生

使用しない！！！！

- f…記入しない
bで1を選択した場合…「1」～「13」「99」
bで2～4を選択した場合…「98」

■問4 2 “あなたの配偶者”

- b…記入しない
“あなた（ご本人）”のaで1を選択している場合…「8」
“あなた（ご本人）”のaで2を選択している場合…「1」～「4」「9」

08.12.21 補足 (by mizobe)

2005年版で介護職関係、教職、レジと販売事務、大工と左官、具体的な内容が分からない製造従事者、に関する分類が変更あるいは新設されたため、以下参照のこと（教職、レジと販売事務、大工と左官、具体的な内容が分からない製造従事者については、問題がないので省略する）。

①介護職

- ・ 538…施設職員と記入してある場合、社会福祉事業専門職員と分類した。具体的には（社会）福祉士、児童福祉士など。
- ・ 578…資格がなく、外に訪問して働いていると分かる場合、女中や家政婦、家事サービス職業従事者と分類した。
- ・ 516…「介護福祉」と記入してある場合、介護（福祉）士、その他の保険医療従事者と分類した。

（問題点）

538は専門職。学歴が、大卒、高卒+専門学校 の場合、538に分類して問題ないと思うが、高卒のみでも538に分類したケースがかなりある。収入も見たが、収入の少ないケースでも538に分類した。問42f 結果の回答も参考にした。結果として、「専門職」が多くなっているので、注意。

（追加的補足）

「管理的職業」に分類するかしないかは、従業員30人以上と未満でわけた。回答者が問42fで「02管理的職業」と記入している場合には、30人以上従業員が働いていれば、「経営者、役員、課長・・・」に分類、従業員30人未満ならば、「経営者、役員、課長・・・」に分類しなかった。

福祉施設で現実に30人未満のところがあった場合、「02管理的職業」に分類すべき役職者はいないということになる。これはどうかな、と疑問を感じた（溝部）。

2009 年度調査概要

郵送調査の基礎情報

- ①調査名 震災体験と地域生活に関する意識調査（第2回）
- ②調査対象地 輪島市・穴水町（石川県）
- ③調査対象者 第1回調査（2008年）で有効回収であり、その時点で「次回も協力してもよい」と回答した者。輪島市 201 穴水町 211。
- ④標本サイズ 全体 406
輪島市 197 穴水町 209（③から尋ねあたらず、転居、入院、死去を除く）
- ⑤調査デザイン パネル調査（第2波調査）
- ⑥回収法 郵送法（事前予告1回、督促1回）
- ⑦調査期間 2009年10月23日（金）～11月25日（水）（最終回収）
- ⑧有効回収数 全体 338（輪島市 168 穴水町 170）
- ⑨有効回収率 全体 83.3%（輪島市 85.3% 穴水町 81.3%）

※ 単純集計は <http://web.kanazawa-u.ac.jp/~socio/research.htm> に掲載。

インターネット調査の基礎情報

- ① 調査名 震災体験と社会生活に関する意識調査
- ② 調査対象地 1995年以降、日本で起きた大規模地震¹で震度5弱以上を観測した市町村
- ③ 調査対象者 上記地震のとき、満20歳以上かつ現在、80歳未満の男女個人
- ④ 標本サイズ 全体 2,000（各地震 200×10の割り付け回収）
- ⑤ 調査回収方法 web法（クローズド型）
- ⑥ 抽出方法 調査会社に登録しているモニター会員
- ⑦ 調査期間 2009年12月19日（土）～21日（月）
- ⑧ 委託調査会社 株式会社クロス・マーケティング

※ 単純集計は2011年に社会学研究室ホームページ上で公開する予定である。

¹ 以下の10地震。

阪神・淡路大震災 1995年（平成7年）1月17日

鳥取県西部地震 2000年（平成12年）10月6日

芸予地震 2001年（平成13年）3月24日

宮城県北部連続地震 2003年（平成15年）7月26・28日

十勝沖地震 2003年（平成15年）9月26日

新潟県中越地震 2004年（平成16年）年10月23日

宮城県沖震源地震 2005年（平成17年）8月16日

能登半島地震 2007年（平成19年）3月25日

新潟県中越沖地震 2007年（平成19年）7月16日

岩手・宮城内陸地震 2008年（平成20年）6月14日

震災体験と地域生活に関する意識調査（第2回）

2009年10月～11月
金沢大学文学部 社会学研究室

説明とお願い

1. このアンケートは、昨年度に引き続き、金沢大学文学部社会学研究室が実施するもので、石川県輪島市と穴水町在住の皆様から、能登半島地震の影響と日々の生活についてのお考えを知ることが目的としています。また、このアンケートは、学生教育の一環として実施するものでもあります。（授業科目：社会調査実習）
2. このアンケートは、昨年度の調査で、次回も協力してよいとお答えいただいた方にお送りしています。
3. ご回答は、**封筒の宛名のご本人**がご記入ください。ご本人が回答できない場合は、調査票に記入せずにそのままご返送ください。
4. 回答のしかた
 - (1) ほとんどの質問には、あてはまるものの番号（**1、2、3…の数字**）を○印でかこんで、お答えください。
 - (2) いくつかの質問には、枠内に文字・数字を直接ご記入ください。
 - (3) お答えになりにくい質問があるかもしれませんが、できるだけすべての質問にお答えいただければ幸いです。
5. ご回答はすべて集計して処理しますので、皆様方個人および、ご家族の方々のことが外部にもれることは絶対にありません。また、この調査票で得られたデータは、学術研究上の目的以外には使用いたしません。なお、このページの右下の数字は回収作業のための整理番号です。秘密の厳守をかたくお約束しますので、どうか安心してご回答ください。
6. ご記入いただきましたら、**11月4日（水）**までに同封の返信用封筒（切手貼付済み）に入れてご投函ください。
7. この調査に関するご質問がございましたら、下記までご連絡ください。

金沢大学文学部 社会学研究室
〒920-1192 金沢市角間町
TEL・FAX：076-264-6001
教授 溝部 明男
准教授 轟 亮

【第2回調査にあたって】

今回の調査は、1年前の結果との比較や、前回調査で十分にお聞きできなかったことをお尋ねすることを目的としています。このため、同じ内容の質問があると感じられるかもしれません。しかし、いずれの質問も検討を重ね、目的をもって作成しております。ご理解の上、ご協力いただければ幸いです。

また、被災された皆様には、当時のことをお聞きすることで、お気持ちを乱すことがあるかもしれません。必要なことに限ってお尋ねしておりますが、そのように感じられることがございましたら、どうかお許してください。

では、ご回答をよろしくお願いたします。

■ 震災当時の建物の被害についてお聞きします

問1 震災当時、あなたや同居のご家族が所有する以下のものについて、どのような被害がありましたか。a～eのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

| | 0 所有して いなかった | 1 被害は なかった | 2 軽い被害で、 修理は必要な なかった | 3 軽い被害で、 修理が必要だ った | 4 重い被害で、 修理が必要だ った | 5 重い被害で、 新しいものが 必要だった |
|-----------------------------------|--------------------|------------------|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| a. 住宅本体 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| b. 水道・雨どいなどの住宅設備 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| c. 所有されている仕事場 (工場・事務所など、土蔵を含む) | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| d. 土蔵(仕事場以外) | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| e. 墓 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

■ ボランティア活動についてお聞きします

問5 (1) ボランティア活動をする人とそれを受ける人の関係はさまざまです。あなたが支援を必要とするとき、以下にあげる人々から、支援を受けたいと思いますか、思いませんか。
a~eのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

| | ぜひ 受けたい | やや 受けたい | あまり 受けたく ない | まったく 受けたく ない |
|-----------------------|------------|------------|-------------------|--------------------|
| a. 医師・看護師などの専門職の人 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b. 親戚 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c. 顔なじみの、近所の人 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d. ふだんあまり話す機会のない、近所の人 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| e. いままで面識のない、地域外の人 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(2) 誰をボランティアとみなすかには、いろいろな見方があります。
仮に、あなたが以下の人から支援を受けた場合に、どの人を「ボランティア」とみなしますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 親戚
2. 顔なじみの、近所の人
3. ふだんあまり話す機会のない、近所の人
4. いままで面識のない、地域外の人
5. この中にあてはまる人はいない

問6 大学の入試で、受験生のボランティア活動の経験が、合格の判断材料となることがあります。
あなたは、このような入試の方法について賛成ですか、反対ですか。

1. たいへん賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. まったく反対

■ 災害への備えや防災についてお聞きします

問7 現在、あなたのご家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 携帯ラジオ・懐中電灯を持ち出せるようにしている
2. 食料・水を持ち出せるようにしている
3. 貴重品を持ち出せるようにしている
4. 避難場所までの避難経路を確認している
5. 消火器を準備している
6. 家族との連絡方法を決めている
7. 家具を固定している
8. 自宅の耐震診断をした
9. 保険会社の地震保険に加入している
10. 共済の地震被害を保障するサービスに加入している
11. この中にあてはまるものはない

問8 あなたは、お住まいの地域で行われている、防災のための講習会や、消火訓練などの防災活動にどの程度参加していますか。次の1～5の中からあてはまるものを一つお選びください。

1. 1年に4回以上参加する
2. 1年に2、3回参加する
3. 1年に1回参加する
4. 数年に1回参加する
5. 参加したことがない

問9 震災から2年半経ちましたが、現在、地震に対する不安を感じますか、感じませんか。

1. とても感じる
2. やや感じる
3. あまり感じない
4. まったく感じない

■ 被災者生活再建支援法についてお聞きします

この法律は、災害を受けた方の生活再建を助ける法律です。
 以前は、住宅の再建に支援金をあてることができませんでした。住宅など個人の財産に、公的資金（税金）を使うことが、問題とされていたからです。
 現在は法改正され、住宅再建に、支援金が使えるようになりました。
 能登半島地震では、さかのぼって改正後の支援法が適用されました。

問10 あなたは、住宅再建に使える支援金をさらに増やしていくべきだと思いますか、思いませんか。
 次の1～5の中からあてはまるものを一つお選びください。

- | |
|--|
| 1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない |
|--|

問11 あなたは、被災者支援のあり方に関する次のような考え方についてどのように思いますか。
 a、bのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

| | とても そう思う | やや そう思う | どちら ともいえ ない | あまり そう思わ ない | まったく そう思わ ない |
|----------------------------------|-------------|------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| a. 被災者への支援のために、今より多く税金を払ってもかまわない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| b. 被災者は、自分の力で生活を建て直していくべきだ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

■ 震災復興イベントについてお聞きします

ここでいう震災復興イベントには、毎年開催していても、そのイベント名に「能登半島地震復興」「輪島復興」「穴水復興」など、能登半島の震災復興に関連する言葉を使って開催したものも含まれます。

例 「元気です！能登半島 物産展」「がんばろう能登 健康大会」

問12 (1) あなたは震災復興イベントに行きましたか。次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

1. できるだけ多く行った
2. いくつか行った
3. ひとつだけ行った
4. 行っていない

(2) 能登半島地震の復興のために、さまざまな復興イベントが行なわれました。以下にあげたものは、実際に行なわれたイベントの種類です。この中で、あなたが行ったもの、または行きたかったものはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 講演会・シンポジウム
2. 販売（特産品の販売、商店街の割引セールなど）
3. スポーツ大会（ロードレースなど）
4. コンテスト（俳句、写真など）
5. 祭り（屋台、盆踊りなど）
6. 体験・学習（塩づくり体験、地引網体験、自然観察会など）
7. 芸能・音楽（コンサート、トークショー、伝統芸能の演舞など）
8. この中にあてはまるものはない

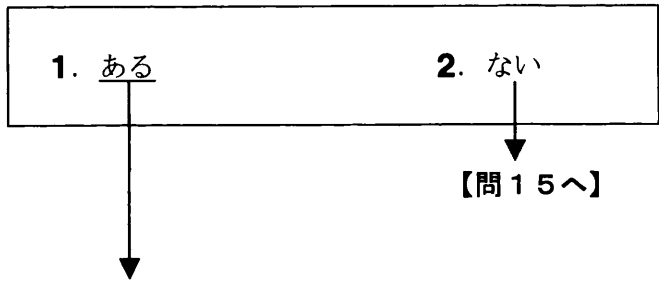
(3) あなたは復興イベントの企画・運営に関わったことがありますか。

1. 複数関わった
2. ひとつだけ関わった
3. 関わらなかった

問13 特に商店街で行われた震災復興イベントについてお聞きします。
そのイベントは商店街の復興に役立ったと思いますか、思いませんか。

- 1. たいへん役立った
- 2. やや役立った
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり役立たなかった
- 5. 役立たなかった

問14 (1) 現在あなたが利用している商店街はありますか。



(2) 【問14 (1) で1と答えた方にお聞きします】

あなたがよく利用する商店街は次のうちどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|---------------------------------|---|-----|
| 1. 総持寺通り商店街 | } | 輪島市 |
| 2. 新橋まちなみ商店街 | | |
| 3. 本町商店街 | | |
| 4. まんなか商店街 | | |
| 5. 大町商店街 | } | 穴水町 |
| 6. 中央商店街 | | |
| 7. 川島東商店街 | | |
| 8. その他 () | | |

(3) 【問14 (1) で1と答えた方にお聞きします】

あなたが利用している商店街には、通いなれてなじみになっているお店はありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

■ 復興とまちづくりについてお聞きします

問15 【ここからは全員にお聞きします】

(1) 穴水町の復興はうまくいっているでしょうか。次の a~d のそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを一つずつお選びください。

| | うまく いっている | やや うまく いっている | あまり うまくいっ ていない | うまくいっ ていない |
|--|--------------|--------------------|----------------------|---------------|
| a. 観光事業の復興 (キャンペーンやイベントの実施) | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b. 農林水産業の復興 (農業用地などの修復・イメージ向上) | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c. 商業の復興 (商店街などの復旧) | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d. 市民の健康・心のケアの充実 (震災後の心のケア、障害者・高齢者へのサービスなど) | 1 | 2 | 3 | 4 |

(2) 『穴水町復興計画』について、あなたはどのくらい知っていますか。次の 1~4 の中からあてはまるものを一つお選びください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. まったく知らない 2. そういうものが作られていることは知っている 3. 内容をある程度知っている 4. 内容をよく知っている |
|---|

問16 (1) 穴水町では、震災後も観光に力を入れたまちづくりがなされていますが、それについてあなたはどのようにお考えですか。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. とても良い 2. 良い 3. どちらともいえない 4. あまり良くない 5. 良くない |
|--|

(2) 穴水町に観光客が訪れることは、あなたの生活にどのような影響を与えていますか。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 良い影響 2. やや良い影響 3. あまり良くない影響 4. 良くない影響 5. 影響なし |
|--|

■ 人と人とのつながりについてお聞きします

問17 震災から今までで、次のようなことは、あなたにあてはまりますか。a~k のそれぞれについてあてはまるかどうか、お答えください。

| | あてはまる | あてはまらない |
|--------------------------------|-------|---------|
| a. 家族のありがたさが身にしみた | 1 | 2 |
| b. 家族だけでは心細いと感じた | 1 | 2 |
| c. 親戚は頼りになると感じた | 1 | 2 |
| d. 友人は、たくさんいるほうがよいと思った | 1 | 2 |
| e. 友人のありがたさを知った | 1 | 2 |
| f. 日ごろの近所づきあいは、災害のときに助けになると感じた | 1 | 2 |
| g. 自分だけが頼り、という気持ちが増した | 1 | 2 |
| h. 自分でできることは自分でしたい、という気持ちが増した | 1 | 2 |
| i. 人から頼られることが増えた | 1 | 2 |
| j. 人を頼りたいと思うことが増えた | 1 | 2 |
| k. 自分には、困った時に頼りになる人がいると実感した | 1 | 2 |

■ 災害時における郵便局のサービスについてお聞きします

問18 震災のとき、あなたは郵便局の行う社会貢献サービスを受けましたか。

※社会貢献サービスとは、郵便物の無料配達や、局員のボランティア、かんぽ生命の保険料の払い込みの一時猶予（ゆうよ）などです。

- | | |
|--------|-----------|
| 1. 受けた | 2. 受けなかった |
|--------|-----------|

問19 郵政民営化についてお聞きします。

(1) 郵便局の行う災害時の社会貢献サービスに関し、次のA、B二つの考えのうち、あなたはどちらに賛成ですか。次の1～5の中からあてはまるものを一つお選びください。

- | |
|---|
| A 民営化されたので、他の企業なみに、郵便局は災害時の社会貢献サービスを縮小してもかまわない。 |
| B 公社時代と同じように、郵便局は災害時の社会貢献サービスを行うべきだ。 |

- | |
|-----------------|
| 1. Aに賛成 |
| 2. どちらかといえばAに賛成 |
| 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばBに賛成 |
| 5. Bに賛成 |

(2) あなたは「現在までに郵政民営化はよい成果をあげている」と思いますか、思いませんか。

- | |
|-------------------|
| 1. そう思う |
| 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない |
| 5. そう思わない |

■ 地震の報道についてお聞きします

ここでは、震度・震源地の情報などではなく、現地から被害の程度・人々の様子などを伝えるテレビや新聞での取り扱い方についてお考えください。

問20 (1) 能登半島地震を取り上げた報道について、あなたはどのようなことを感じましたか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 見落とされている事実があった
2. 実際より大きさに伝えていた
3. 報道側が冷静ではなかった
4. 取り上げ方に偏りがあった
5. 役立つ情報を提供してくれた
6. 実際の被害はもっと大きかった
7. 見たり読んだりしたことがない
8. この中にあてはまるものはない

(2) 能登半島地震の後に起こった日本での地震の報道について、その内容は適切だと感じましたか。
最も近いものを、次の1～6の中から一つお選びください。

1. 適切だと感じた
2. どちらかといえば適切だと感じた
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば不適切だと感じた
5. 不適切だと感じた
6. 報道に接することがなかった

問2 1 テレビでは、将来の大地震を取り上げて、専門家が被害を予想したり、解説を加えたりする地震予知特集の番組があります。

そのようなテレビ番組について、あなたはどのように感じますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 役立つ知識が得られてよい
2. 内容を信頼できない
3. 得た情報を、実際地震があった時に役立てられるかはわからない
4. できるだけまじめに取り扱うことが大切だ
5. そのようなテレビ番組を見たことがない

問2 2 科学的な根拠はともかく、あなたご自身は今後、能登地方で今回のような大きさの地震が再び起こる可能性について、どのように思われますか。次の1～5の中からあてはまるものを一つお選びください。

1. まず起きないと思う
2. 20～30年のうちには起こる可能性があると思う
3. 数年のうちに起こる可能性が高いと思う
4. まったく想像がつかない
5. その他 ()

■ ここからは、あなたの生活全般やお仕事などについてお聞きします

問23 あなたは現在、穴水町は住みやすいところだと思いますか。次の1～4の中からあてはまるものを一つお選びください。

- | |
|---|
| <p>1. たいへん住みやすい</p> <p>2. やや住みやすい</p> <p>3. やや住みにくい</p> <p>4. たいへん住みにくい</p> |
|---|

問24 あなたの生活において、以下の出来事は、この1年間で増えましたか、減りましたか。a～dのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

| | かなり増えた | 少し増えた | 変わらない | 少し減った | かなり減った |
|----------------|--------|-------|-------|-------|--------|
| a. 活動的な生活を送ること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| b. まわりの人との付き合い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| c. 生きがいを感じることに | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| d. 仕事時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問25 あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。a～dのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

| | 満足 | やや満足 | どちらともいえない | やや不満 | 不満 | あてはまらない |
|----------|----|------|-----------|------|----|---------|
| a. 仕事の内容 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| b. 個人の収入 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| c. 健康状態 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | / |
| d. 生活全般 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |

問26 あなたの暮らし向き（生活の水準）は、1年前と比べて変わりましたか。

- 1. よくなった
- 2. 変わらない
- 3. 悪くなった

問27 仮に現在の日本の社会全体を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はこの中のどれに入ると
思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを一つ選び、○をつけてください。

- 1. 上
- 2. 中の上
- 3. 中の下
- 4. 下の上
- 5. 下の下
- 6. わからない

問28 以下にあげたのは、現在の与党と最大野党です。あなたは、それぞれの政党をどのくらい好き
ですか。a～dの政党について、あなたの気持ちに最も近いものを一つずつ選び、○をつけてくだ
さい。

| | とても 好きである | まあ好きである | あまり 好きではない | 好きではない |
|----------|--------------|---------|---------------|--------|
| a. 民主党 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b. 社会民主党 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c. 国民新党 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d. 自由民主党 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問29 (1) あなたの性別はどちらですか。

- 1. 男性
- 2. 女性

(2) あなたのお生まれは、何年ですか。

昭和 年

【ここからは全員にお聞きします】

問3 1 収入についておたずねします。

(1) 過去1年間のお宅の収入は税込みでだいたいどのくらいでしょうか。他のご家族の収入も含めてお答えください。

| | | | |
|----|-------------|-----|---------------|
| 1. | なし | 10. | 750～850万円未満 |
| 2. | 70万円未満 | 11. | 850～1000万円未満 |
| 3. | 70～150万円未満 | 12. | 1000～1200万円未満 |
| 4. | 150～250万円未満 | 13. | 1200～1400万円未満 |
| 5. | 250～350万円未満 | 14. | 1400～1600万円未満 |
| 6. | 350～450万円未満 | 15. | 1600～1850万円未満 |
| 7. | 450～550万円未満 | 16. | 1850～2300万円未満 |
| 8. | 550～650万円未満 | 17. | 2300万円以上 |
| 9. | 650～750万円未満 | | |

(2) 過去1年間のあなた個人の収入は税込みでどのくらいでしょうか。年金や臨時収入、副収入も含めてお答えください。

| | | | |
|----|-------------|-----|---------------|
| 1. | なし | 10. | 750～850万円未満 |
| 2. | 70万円未満 | 11. | 850～1000万円未満 |
| 3. | 70～150万円未満 | 12. | 1000～1200万円未満 |
| 4. | 150～250万円未満 | 13. | 1200～1400万円未満 |
| 5. | 250～350万円未満 | 14. | 1400～1600万円未満 |
| 6. | 350～450万円未満 | 15. | 1600～1850万円未満 |
| 7. | 450～550万円未満 | 16. | 1850～2300万円未満 |
| 8. | 550～650万円未満 | 17. | 2300万円以上 |
| 9. | 650～750万円未満 | | |

問3 2 最後に、能登半島地震やこの調査などに関連して、ご意見やご感想があれば、自由にお書きください。

お礼とお願い

この度は調査へのご回答を誠にありがとうございました。金沢大学文学部社会学研究室では、震災後の生活の中期的な変化を知るために、今回の回答者の皆様を対象にして、2、3年後にもう一度、調査を実施する予定です。その調査にご協力いただければ、震災研究上いっそう重要なデータを得ることができます。ご協力いただいた直後にこのようなお願いをして誠に恐縮ですが、2、3年後の調査にも、ご都合がよろしければご協力いただけますでしょうか。お教えてください。

問 3 3

1. 協力してもよい 2. 協力したくない

これでお答えいただく項目は終わりです。

お忙しい中、私どもの調査のために貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

主な項目の集計結果を郵送させていただきたいと思います。結果がまとまるのは、年明けになる予定です。

何かご記入もれはありませんか。

もう一度はじめてからご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

※付記

同一内容の調査票を、輪島版・穴水版それぞれ作成し送付しました。

本報告書には穴水版のみを掲載しています。

震災体験と地域生活に関する意識調査（第2回）

単純集計表

問1 震災当時、あなたや同居のご家族が所有する以下のものについて、どのような被害がありましたか。a～eのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

a. 住宅本体

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 所有していなかった | 8 | 2.4 | 4 | 2.4 | 4 | 2.4 |
| 1. 被害はなかった | 38 | 11.6 | 21 | 12.7 | 17 | 10.4 |
| 2. 軽い被害で、修理は必要なかった | 76 | 23.1 | 28 | 17.0 | 48 | 29.3 |
| 3. 軽い被害で、修理が必要だった | 145 | 44.1 | 74 | 44.8 | 71 | 43.3 |
| 4. 重い被害で、修理が必要だった | 49 | 14.9 | 30 | 18.2 | 19 | 11.6 |
| 5. 重い被害で、新しいものが必要だった | 13 | 4.0 | 8 | 4.8 | 5 | 3.0 |
| 99. 無回答 | 9 | | 3 | | 6 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. 水道・雨どいなどの住宅設備

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 所有していなかった | 10 | 3.2 | 6 | 3.8 | 4 | 2.6 |
| 1. 被害はなかった | 135 | 43.0 | 64 | 40.3 | 71 | 45.8 |
| 2. 軽い被害で、修理は必要なかった | 60 | 19.1 | 24 | 15.1 | 36 | 23.2 |
| 3. 軽い被害で、修理が必要だった | 65 | 20.7 | 38 | 23.9 | 27 | 17.4 |
| 4. 重い被害で、修理が必要だった | 34 | 10.8 | 21 | 13.2 | 13 | 8.4 |
| 5. 重い被害で、新しいものが必要だった | 10 | 3.2 | 6 | 3.8 | 4 | 2.6 |
| 99. 無回答 | 24 | | 9 | | 15 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

c. 所有されている仕事場（工場・事務所など、土蔵を含む）

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 所有していなかった | 118 | 38.6 | 54 | 35.8 | 64 | 41.3 |
| 1. 被害はなかった | 61 | 19.9 | 30 | 19.9 | 31 | 20.0 |
| 2. 軽い被害で、修理は必要なかった | 43 | 14.1 | 22 | 14.6 | 21 | 13.5 |
| 3. 軽い被害で、修理が必要だった | 49 | 16.0 | 23 | 15.2 | 26 | 16.8 |
| 4. 重い被害で、修理が必要だった | 21 | 6.9 | 13 | 8.6 | 8 | 5.2 |
| 5. 重い被害で、新しいものが必要だった | 14 | 4.6 | 9 | 6.0 | 5 | 3.2 |
| 99. 無回答 | 32 | | 17 | | 15 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

d. 土蔵（仕事場以外）

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 所有していなかった | 143 | 48.0 | 67 | 45.3 | 76 | 50.7 |
| 1. 被害はなかった | 52 | 17.4 | 24 | 16.2 | 28 | 18.7 |
| 2. 軽い被害で、修理は必要なかった | 36 | 12.1 | 20 | 13.5 | 16 | 10.7 |
| 3. 軽い被害で、修理が必要だった | 33 | 11.1 | 15 | 10.1 | 18 | 12.0 |
| 4. 重い被害で、修理が必要だった | 12 | 4.0 | 8 | 5.4 | 4 | 2.7 |
| 5. 重い被害で、新しいものが必要だった | 22 | 7.4 | 14 | 9.5 | 8 | 5.3 |
| 99. 無回答 | 40 | | 20 | | 20 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

e. 墓

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 所有していなかった | 33 | 10.3 | 22 | 13.9 | 11 | 6.8 |
| 1. 被害はなかった | 80 | 25.0 | 38 | 24.1 | 42 | 25.9 |
| 2. 軽い被害で、修理は必要なかった | 61 | 19.1 | 20 | 12.7 | 41 | 25.3 |
| 3. 軽い被害で、修理が必要だった | 87 | 27.2 | 39 | 24.7 | 48 | 29.6 |
| 4. 重い被害で、修理が必要だった | 56 | 17.5 | 36 | 22.8 | 20 | 12.3 |
| 5. 重い被害で、新しいものが必要だった | 3 | 0.9 | 3 | 1.9 | 0 | 0.0 |
| 99. 無回答 | 18 | | 10 | | 8 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問2 能登半島地震によって、神社や寺院が被災しました。

(1) このことで、あなたには何か不都合がありましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |
| 1. 参拝できず | 24 | 7.2 | 18 | 10.8 | 6 | 3.6 |
| 2. 近所との交流場がなくなった | 6 | 1.8 | 5 | 3.0 | 1 | 0.6 |
| 3. 祭りできず | 71 | 21.4 | 49 | 29.5 | 22 | 13.3 |
| 4. 心のよりどころなくなった | 4 | 1.2 | 4 | 2.4 | 0 | 0.0 |
| 5. その他 | 43 | 13.0 | 19 | 11.4 | 24 | 14.5 |
| 6. 不都合なし | 214 | 64.5 | 94 | 56.6 | 120 | 72.3 |
| 99. 無回答 | 6 | | 2 | | 4 | |

5. その他の記述

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|----|-------|----|-------|----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 記述なし | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 1. 記述あり | 43 | 100.0 | 19 | 100.0 | 24 | 100.0 |
| 合計 | 43 | 100.0 | 19 | 100.0 | 24 | 100.0 |

(2) 能登半島地震では、「神社や寺院の補修・再建への支援が少なすぎた」という意見があります。この意見についてあなたはどのように思われますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 57 | 17.2 | 37 | 22.4 | 20 | 12.4 |
| 2. どちらかといえばそう思う | 70 | 21.1 | 41 | 24.1 | 29 | 17.6 |
| 3. どちらともいえない | 137 | 41.4 | 55 | 33.5 | 82 | 48.8 |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 29 | 8.8 | 13 | 7.6 | 16 | 9.4 |
| 5. そう思わない | 38 | 11.5 | 19 | 12.4 | 19 | 11.8 |
| 99. 無回答 | 7 | | 3 | | 4 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問3 震災後1ヶ月くらいの中に、医療に関わることで、あなたが困ったことはありましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 350 | 100.0 | 175 | 100.0 | 175 | 100.0 |
| 1. ふだん飲む薬を服用するのが難しかった | 5 | 1.5 | 2 | 1.2 | 3 | 1.8 |
| 2. ふだんどおりに通院ができなかった | 17 | 5.2 | 11 | 6.8 | 6 | 3.6 |
| 3. かかりつけ医に会いにくくなった | 4 | 1.2 | 2 | 1.2 | 2 | 1.2 |
| 4. 医療費が負担になった | 13 | 4.0 | 8 | 4.9 | 5 | 3.0 |
| 5. 体調について相談できる人がいなかった | 9 | 2.7 | 5 | 3.1 | 4 | 2.4 |
| 6. その他 | 9 | 2.7 | 5 | 3.1 | 4 | 2.4 |
| 7. 困ったことはなかった | 283 | 86.3 | 136 | 84.0 | 147 | 88.6 |
| 99. 無回答 | 10 | | 6 | | 4 | |

6. その他の記述

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|----|-------|----|-------|----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 記述なし | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 1. 記述あり | 9 | 100.0 | 5 | 100.0 | 4 | 100.0 |
| 合計 | 9 | 100.0 | 5 | 100.0 | 4 | 100.0 |

問4 震災が起きてからしばらくの間で、あなたに次のような心の不調は現れましたか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |
| 1. 怒りっぽくなった | 15 | 4.5 | 9 | 5.4 | 6 | 3.6 |
| 2. 眠れない、寝つきが悪くなった | 76 | 22.6 | 38 | 22.8 | 38 | 22.5 |
| 3. ちょっとした音や揺れに敏感になった | 235 | 69.9 | 115 | 68.9 | 120 | 71.0 |
| 4. 暗闇が怖い | 21 | 6.3 | 10 | 6.0 | 11 | 6.5 |
| 5. 一人でいるのが怖い | 45 | 13.4 | 24 | 14.4 | 21 | 12.4 |
| 6. 地震が起こったときの場面を思い出してしまう | 117 | 34.8 | 57 | 34.1 | 60 | 35.5 |
| 7. 強い不安を感じるようになった | 66 | 19.6 | 32 | 19.2 | 34 | 20.1 |
| 8. いらいらしやすくなった | 25 | 7.4 | 13 | 7.8 | 12 | 7.1 |
| 9. 一人でいたい | 4 | 1.2 | 3 | 1.8 | 1 | 0.6 |
| 10. やる気が出ない | 27 | 8.0 | 15 | 9.0 | 12 | 7.1 |
| 11. この中にあてはまるものはない | 70 | 20.8 | 34 | 20.4 | 36 | 21.3 |
| 99. 無回答 | 2 | | 1 | | 1 | |

問5 (1) ボランティア活動をする人とそれを受ける人の関係はさまざまです。あなたが支援を必要とするとき、以下にあげる人々から、支援を受けたいと思いますか、思いませんか。

a～eのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

a. 医師・看護師などの専門職の人

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ぜひ受けたい | 186 | 58.7 | 100 | 62.5 | 86 | 54.8 |
| 2. やや受けたい | 93 | 29.3 | 49 | 30.6 | 44 | 28.0 |
| 3. あまり受けたくない | 32 | 10.1 | 9 | 5.6 | 23 | 14.6 |
| 4. 全く受けたくない | 6 | 1.9 | 2 | 1.3 | 4 | 2.5 |
| 99. 無回答 | 21 | | 8 | | 13 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. 親戚

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ぜひ受けたい | 112 | 35.6 | 55 | 34.8 | 57 | 36.3 |
| 2. やや受けたい | 144 | 45.7 | 70 | 44.3 | 74 | 47.1 |
| 3. あまり受けたくない | 51 | 16.2 | 29 | 18.4 | 22 | 14.0 |
| 4. 全く受けたくない | 8 | 2.5 | 4 | 2.5 | 4 | 2.5 |
| 99. 無回答 | 23 | | 10 | | 13 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

c. 顔なじみの、近所の人

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ぜひ受けたい | 91 | 29.2 | 49 | 31.4 | 42 | 26.9 |
| 2. やや受けたい | 149 | 47.8 | 72 | 46.2 | 77 | 49.4 |
| 3. あまり受けたくない | 63 | 20.2 | 30 | 19.2 | 33 | 21.2 |
| 4. 全く受けたくない | 9 | 2.9 | 5 | 3.2 | 4 | 2.6 |
| 99. 無回答 | 26 | | 12 | | 14 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

d. ふだんあまり話す機会のない、近所の人

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ぜひ受けたい | 28 | 9.3 | 12 | 7.9 | 16 | 10.8 |
| 2. やや受けたい | 84 | 28.0 | 49 | 32.2 | 35 | 23.6 |
| 3. あまり受けたくない | 141 | 47.0 | 73 | 48.0 | 68 | 45.9 |
| 4. 全く受けたくない | 47 | 15.7 | 18 | 11.8 | 29 | 19.6 |
| 99. 無回答 | 38 | | 16 | | 22 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

e. いままで面識のない、地域外の人

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ぜひ受けたい | 32 | 10.7 | 15 | 9.9 | 17 | 11.5 |
| 2. やや受けたい | 100 | 33.3 | 53 | 34.9 | 47 | 31.8 |
| 3. あまり受けたくない | 123 | 41.0 | 62 | 40.8 | 61 | 41.2 |
| 4 全く受けたくない | 45 | 15.0 | 22 | 14.5 | 23 | 15.5 |
| 99. 無回答 | 38 | | 16 | | 22 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

(2) 誰をボランティアとみなすかには、いろいろな見方があります。

仮に、あなたが以下の人から支援を受けた場合に、どの人を「ボランティア」とみなしますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |
| 1. 親戚 | 82 | 24.5 | 37 | 22.2 | 45 | 26.8 |
| 2. 顔なじみの、近所の人 | 124 | 37.0 | 65 | 38.9 | 59 | 35.1 |
| 3. ふだんあまり話す機会のない、近所の人 | 123 | 36.7 | 66 | 39.5 | 57 | 33.9 |
| 4. いままで面識のない、地域外の人 | 245 | 73.1 | 129 | 77.2 | 116 | 69.0 |
| 5. この中にあてはまる人はいない | 10 | 3.0 | 6 | 3.6 | 4 | 2.4 |
| 99. 無回答 | 3 | | 1 | | 2 | |

問6 大学の入試で、受験生のボランティア活動の経験が、合格の判断材料となる場合があります。あなたは、このような入試の方法について賛成ですか、反対ですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん賛成 | 48 | 14.3 | 27 | 16.2 | 21 | 12.5 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 174 | 51.9 | 83 | 49.7 | 91 | 54.2 |
| 3. どちらかといえば反対 | 84 | 25.1 | 40 | 24.0 | 44 | 26.2 |
| 4. まったく反対 | 29 | 8.7 | 17 | 10.2 | 12 | 7.1 |
| 99. 無回答 | 3 | | 1 | | 2 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問7 現在、あなたのご家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |
| 1. 携帯ラジオ・懐中電灯を持ち出せるようにしている | 260 | 76.9 | 135 | 80.4 | 125 | 73.5 |
| 2. 食料・水を持ち出せるようにしている | 70 | 20.7 | 34 | 20.2 | 36 | 21.2 |
| 3. 貴重品を持ち出せるようにしている | 128 | 37.9 | 72 | 42.9 | 56 | 32.9 |
| 4. 避難場所までの避難経路を確認している | 110 | 32.5 | 52 | 31.0 | 58 | 34.1 |
| 5. 消火器を準備している | 146 | 43.2 | 79 | 47.0 | 67 | 39.4 |
| 6. 家族との連絡方法を決めている | 92 | 27.2 | 47 | 28.0 | 45 | 26.5 |
| 7. 家具を固定している | 84 | 24.9 | 48 | 28.6 | 36 | 21.2 |
| 8. 自宅の耐震診断をした | 23 | 6.8 | 9 | 5.4 | 14 | 8.2 |
| 9. 保険会社の地震保険に加入している | 94 | 27.8 | 46 | 27.4 | 48 | 28.2 |
| 10. 共済の地震被害を保障するサービスに加入している | 68 | 20.1 | 37 | 22.0 | 31 | 18.2 |
| 11. この中にあてはまるものはない | 16 | 4.7 | 6 | 3.6 | 10 | 5.9 |

問8 あなたは、お住まいの地域で行われている、防災のための講習会や、消火訓練などの防災活動にどの程度参加していますか。次の1～5の中からあてはまるものをお選びください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 1年に4回以上 | 6 | 1.8 | 3 | 1.8 | 3 | 1.8 |
| 2. 1年に2、3回 | 12 | 3.6 | 9 | 5.4 | 3 | 1.8 |
| 3. 1年に1回 | 82 | 24.6 | 28 | 16.8 | 54 | 32.3 |
| 4. 数年に1回 | 77 | 23.1 | 40 | 24.0 | 37 | 22.2 |
| 5. 参加経験なし | 157 | 47.0 | 87 | 52.1 | 70 | 41.9 |
| 99. 無回答 | 4 | | 1 | | 3 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問9 震災から2年半経ちましたが、現在、地震に対する不安を感じますか、感じませんか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても感じる | 76 | 22.5 | 33 | 19.6 | 43 | 25.3 |
| 2. やや感じる | 171 | 50.6 | 87 | 51.8 | 84 | 49.4 |
| 3. あまり感じない | 79 | 23.4 | 39 | 23.2 | 40 | 23.5 |
| 4. 全く感じない | 12 | 3.6 | 9 | 5.4 | 3 | 1.8 |
| 99. 無回答 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

■ 被災者生活再建支援法についてお聞きします

この法律は、災害を受けた方の生活再建を助ける法律です。
 以前は、住宅の再建に支援金をあてることができませんでした。住宅など個人の財産に、公的資金（税金）を使うことが、問題とされていたからです。
 現在は法改正され、住宅再建に、支援金が使えるようになりました。
 能登半島地震では、さかのぼって改正後の支援法が適用されました。

問10 あなたは、住宅再建に使える支援金をさらに増やしていくべきだと思いますか、思いませんか。次の1～5の中からあてはまるものを一つお選びください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. そう思う | 131 | 39.0 | 63 | 38.0 | 68 | 40.0 |
| 2. どちらかといえばそう思う | 105 | 31.3 | 61 | 36.7 | 44 | 25.9 |
| 3. どちらともいえない | 79 | 23.5 | 34 | 20.5 | 45 | 26.5 |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 11 | 3.3 | 5 | 3.0 | 6 | 3.5 |
| 5. そう思わない | 10 | 3.0 | 3 | 1.8 | 7 | 4.1 |
| 9. 無回答 | 2 | | 2 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問 1 1 あなたは、被災者支援のあり方に関する次のような考え方についてどのように思いますか。a、bのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

a. 被災者への支援のために、今より多く税金を払ってもかまわない

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とてもそう思う | 34 | 10.2 | 19 | 11.3 | 15 | 9.0 |
| 2. ややそう思う | 80 | 24.0 | 43 | 25.6 | 37 | 22.2 |
| 3. どちらともいえない | 123 | 36.8 | 60 | 35.7 | 63 | 37.7 |
| 4. あまりそう思わない | 73 | 21.9 | 37 | 22.0 | 36 | 21.6 |
| 5. まったくそう思わない | 24 | 7.2 | 8 | 4.8 | 16 | 9.6 |
| 9. 無回答 | 4 | | 1 | | 3 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. 被災者は、自分の力で生活を建て直していくべきだ

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とてもそう思う | 13 | 4.0 | 7 | 4.3 | 6 | 3.7 |
| 2. ややそう思う | 84 | 25.8 | 44 | 26.8 | 40 | 24.7 |
| 3. どちらともいえない | 113 | 34.7 | 60 | 36.6 | 53 | 32.7 |
| 4. あまりそう思わない | 79 | 24.2 | 33 | 20.1 | 46 | 28.4 |
| 5. まったくそう思わない | 37 | 11.3 | 20 | 12.2 | 17 | 10.5 |
| 9. 無回答 | 12 | | 4 | | 8 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

■ 震災復興イベントについてお聞きします

ここでいう震災復興イベントには、毎年開催していても、そのイベント名に「能登半島地震復興」「輪島復興」「穴水復興」など、能登半島の震災復興に関連する言葉を使って開催したものも含まれます。

例 「元気です！能登半島 物産展」「がんばろう能登 健康大会」

問12 (1) あなたは震災復興イベントに行きましたか。次の1～4の中からあてはまるものを一つお選びください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. できるだけ多く行った | 10 | 3.0 | 1 | 0.6 | 9 | 5.4 |
| 2. いくつか行った | 142 | 42.8 | 67 | 40.4 | 75 | 45.2 |
| 3. ひとつだけ行った | 44 | 13.3 | 22 | 13.3 | 22 | 13.3 |
| 4. 行っていない | 136 | 41.0 | 76 | 45.8 | 60 | 36.1 |
| 99. 無回答 | 6 | | 2 | | 4 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

(2) 能登半島地震の復興のために、さまざまな復興イベントが行なわれました。以下にあげたものは、実際に行なわれたイベントの種類です。

この中で、あなたが行ったもの、または行きたかったものはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |
| 1. 講演会・シンポジウム | 89 | 26.9 | 43 | 26.1 | 46 | 27.7 |
| 2. 販売 | 155 | 46.8 | 60 | 36.4 | 95 | 57.2 |
| 3. スポーツ大会 | 18 | 5.4 | 12 | 7.3 | 6 | 3.6 |
| 4. コンテスト | 14 | 4.2 | 2 | 1.2 | 12 | 7.2 |
| 5. 祭り | 119 | 36.0 | 58 | 35.2 | 61 | 36.7 |
| 6. 体験・学習 | 10 | 3.0 | 4 | 2.4 | 6 | 3.6 |
| 7. 芸能・音楽 | 139 | 42.0 | 68 | 41.2 | 71 | 42.8 |
| 8. この中であてはまるものはない | 79 | 23.9 | 44 | 26.7 | 35 | 21.1 |
| 99. 無回答 | 0 | | 0 | | 0 | |

(3) あなたは復興イベントの企画・運営に関わったことがありますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 複数関わった | 18 | 5.5 | 9 | 5.4 | 9 | 5.6 |
| 2. ひとつだけ関わった | 32 | 9.8 | 20 | 12.0 | 12 | 7.4 |
| 3. 関わらなかった | 278 | 84.8 | 137 | 82.5 | 141 | 87.0 |
| 99. 無回答 | 10 | | 2 | | 8 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問13 特に商店街で行われた震災復興イベントについてお聞きします。

そのイベントは商店街の復興に役立ったと思いますか、思いませんか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん役立った | 27 | 8.2 | 16 | 9.8 | 11 | 6.6 |
| 2. やや役立った | 120 | 36.5 | 62 | 38.0 | 58 | 34.9 |
| 3. どちらともいえない | 124 | 37.7 | 61 | 37.4 | 63 | 38.0 |
| 4. あまり役立たなかった | 39 | 11.9 | 17 | 10.4 | 22 | 13.3 |
| 5. 役立たなかった | 19 | 5.8 | 7 | 4.3 | 12 | 7.2 |
| 99. 無回答 | 9 | | 5 | | 4 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問14 (1) 現在あなたが利用している商店街はありますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ある | 216 | 67.7 | 95 | 60.5 | 121 | 74.7 |
| 2. ない | 103 | 32.7 | 62 | 39.5 | 41 | 25.3 |
| 99. 無回答 | 19 | | 11 | | 8 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

(2) 【問14(1)で1と答えた方にお聞きします】

あなたがよく利用する商店街は次のうちどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |
| 1. 総持寺通り商店街 | 42 | 19.4 | 41 | 43.2 | 1 | 0.8 |
| 2. 新橋まちなみ商店街 | 12 | 5.6 | 12 | 12.6 | 0 | 0.0 |
| 3. 本町商店街 | 45 | 20.8 | 44 | 46.3 | 1 | 0.8 |
| 4. まんなか商店街 | 21 | 9.7 | 21 | 22.1 | 0 | 0.0 |
| 5. 大町商店街 | 84 | 38.9 | 5 | 5.3 | 79 | 65.3 |
| 6. 中央商店街 | 65 | 30.1 | 1 | 1.1 | 64 | 52.9 |
| 7. 川島東商店街 | 81 | 37.5 | 1 | 1.1 | 80 | 66.1 |
| 8. その他 | 12 | 5.6 | 7 | 7.4 | 5 | 4.1 |
| 98. 非該当 | 122 | | 73 | | 49 | |

(3) 【問14(1)で1と答えた方にお聞きします】

あなたが利用している商店街には、通いなれてなじみになっているお店はありますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ある | 185 | 89.8 | 84 | 91.3 | 101 | 88.6 |
| 2. ない | 21 | 10.2 | 8 | 8.7 | 13 | 11.4 |
| 98. 非該当 | 116 | | 68 | | 48 | |
| 99. 無回答 | 16 | | 8 | | 8 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問15 (1) 輪島市(穴水町)の復興はうまくいっているでしょうか。次のa~dのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いもの一つずつお選びください。

a. 観光事業の復興(キャンペーンやイベントの現地)

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. うまくいっている | 47 | 14.8 | 29 | 18.2 | 18 | 11.4 |
| 2. ややうまくいっている | 197 | 62.1 | 106 | 66.7 | 91 | 57.6 |
| 3. あまりうまくいっていない | 60 | 18.9 | 20 | 12.6 | 40 | 25.3 |
| 4. うまくいっていない | 13 | 4.1 | 4 | 2.5 | 9 | 5.7 |
| 99. 無回答 | 21 | | 9 | | 12 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. 農林水産業の復興(農業用地などの修復・イメージ向上)

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. うまくいっている | 21 | 6.9 | 18 | 11.4 | 3 | 2.0 |
| 2. ややうまくいっている | 141 | 46.2 | 78 | 49.4 | 63 | 42.9 |
| 3. あまりうまくいっていない | 119 | 39.0 | 56 | 35.4 | 63 | 42.9 |
| 4. うまくいっていない | 24 | 7.9 | 6 | 3.8 | 18 | 12.2 |
| 99. 無回答 | 33 | | 10 | | 23 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

c. 商業の復興(商店街などの復旧)

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. うまくいっている | 32 | 10.1 | 19 | 12.1 | 13 | 8.1 |
| 2. ややうまくいっている | 169 | 53.3 | 87 | 55.4 | 82 | 51.3 |
| 3. あまりうまくいっていない | 102 | 32.2 | 48 | 30.6 | 54 | 33.8 |
| 4. うまくいっていない | 14 | 4.4 | 3 | 1.9 | 11 | 6.9 |
| 99. 無回答 | 21 | | 11 | | 10 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

d. 市民の健康・心のケアの充実（震災後の心のケア、障害者・高齢者へのサービスなど）

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. うまくいっている | 22 | 7.0 | 16 | 10.0 | 6 | 3.9 |
| 2. ややうまくいっている | 186 | 59.4 | 100 | 62.5 | 86 | 56.2 |
| 3. あまりうまくいっていない | 91 | 29.1 | 40 | 25.0 | 51 | 33.3 |
| 4. うまくいっていない | 14 | 4.5 | 4 | 2.5 | 10 | 6.5 |
| 99. 無回答 | 25 | | 8 | | 17 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

(2) 『輪島市（穴水町）復興計画』について、あなたはどのくらい知っていますか。次の1～4の中からあてはまるものを一つお選びください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. まったく知らない | 79 | 23.4 | 47 | 28.1 | 32 | 18.8 |
| 2. 作られていること知っている | 173 | 51.3 | 88 | 52.7 | 85 | 50.0 |
| 3. 内容ある程度知っている | 74 | 22.0 | 29 | 17.4 | 45 | 26.5 |
| 4. 内容よく知っている | 11 | 3.3 | 3 | 1.8 | 8 | 4.7 |
| 99. 無回答 | 1 | | 1 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問16 (1) 輪島市（穴水町）では、震災後も観光に力を入れたまちづくりがなされていますが、それについてあなたはどのようにお考えですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても良い | 97 | 28.9 | 56 | 33.5 | 41 | 24.3 |
| 2. 良い | 133 | 39.6 | 69 | 41.3 | 64 | 37.9 |
| 3. どちらともいえない | 84 | 25.0 | 36 | 21.6 | 48 | 28.4 |
| 4. あまり良くない | 17 | 5.1 | 5 | 3.0 | 12 | 7.1 |
| 5. 良くない | 5 | 1.5 | 1 | 0.6 | 4 | 2.4 |
| 99. 無回答 | 2 | | 1 | | 1 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

(2) 輪島市に観光客が訪れることは、あなたの生活にどのような影響を与えていますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 良い影響 | 76 | 22.6 | 44 | 26.3 | 32 | 18.8 |
| 2. やや良い影響 | 87 | 25.8 | 50 | 29.9 | 37 | 21.8 |
| 3. あまり良くない影響 | 4 | 1.2 | 2 | 1.2 | 2 | 1.2 |
| 4. 良くない影響 | 2 | 0.6 | 1 | 0.6 | 1 | 0.6 |
| 5. 影響なし | 168 | 49.9 | 70 | 41.9 | 98 | 57.6 |
| 99. 無回答 | 1 | | 1 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問17 震災から今までで、次のようなことは、あなたにあてはまりますか。a~kのそれぞれについてあてはまるかどうか、お答えください。

a. 家族のありがたさが身にしみた

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 288 | 87.8 | 149 | 90.3 | 139 | 85.3 |
| 2. あてはまらない | 40 | 12.2 | 16 | 9.7 | 24 | 14.7 |
| 99. 無回答 | 10 | | 3 | | 7 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. 家族だけでは心細いと感じた

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 172 | 52.9 | 89 | 54.9 | 83 | 50.9 |
| 2. あてはまらない | 153 | 47.1 | 73 | 45.1 | 80 | 49.1 |
| 99. 無回答 | 13 | | 6 | | 7 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

c. 親戚は頼りになると感じた

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 218 | 67.3 | 109 | 66.9 | 109 | 67.7 |
| 2. あてはまらない | 106 | 32.7 | 54 | 33.1 | 52 | 32.3 |
| 99. 無回答 | 14 | | 5 | | 9 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

d. 友人は、たくさんいるほうがよいと思った

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 256 | 77.8 | 130 | 78.8 | 126 | 76.8 |
| 2. あてはまらない | 73 | 22.2 | 35 | 21.2 | 38 | 23.2 |
| 99. 無回答 | 9 | | 3 | | 6 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

e. 友人のありがたさを知った

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 237 | 73.6 | 120 | 75.0 | 117 | 72.2 |
| 2. あてはまらない | 85 | 26.4 | 40 | 25.0 | 45 | 27.8 |
| 99. 無回答 | 16 | | 8 | | 8 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

f. 日ごろの近所づきあいは、災害のときに助けになると感じた

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 262 | 80.9 | 129 | 79.1 | 133 | 82.6 |
| 2. あてはまらない | 62 | 19.1 | 34 | 20.9 | 28 | 17.4 |
| 99. 無回答 | 14 | | 5 | | 9 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

g. 自分だけが頼り、という気持ちが増した

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 59 | 18.5 | 31 | 19.6 | 28 | 17.4 |
| 2. あてはまらない | 260 | 81.5 | 127 | 80.4 | 133 | 82.6 |
| 99. 無回答 | 19 | | 10 | | 9 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

h. 自分でできることは自分でしたい、という気持ちが増した

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 240 | 73.2 | 130 | 80.2 | 110 | 66.3 |
| 2. あてはまらない | 88 | 26.8 | 32 | 19.8 | 56 | 33.7 |
| 99. 無回答 | 10 | | 6 | | 4 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

i. 人から頼られることが増えた

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 119 | 37.3 | 64 | 40.5 | 55 | 34.2 |
| 2. あてはまらない | 200 | 62.7 | 94 | 59.5 | 106 | 65.8 |
| 99. 無回答 | 19 | | 10 | | 9 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

j. 人を頼りたいと思うことが増えた

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 78 | 24.4 | 42 | 26.3 | 36 | 22.5 |
| 2. あてはまらない | 242 | 75.6 | 118 | 73.8 | 124 | 77.5 |
| 99. 無回答 | 18 | | 8 | | 10 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

k. 自分には、困った時に頼りになる人がいると実感した

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. あてはまる | 219 | 66.8 | 112 | 68.3 | 107 | 65.2 |
| 2. あてはまらない | 109 | 33.2 | 52 | 31.7 | 57 | 34.8 |
| 99. 無回答 | 10 | | 4 | | 6 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問20 (1) 能登半島地震を取り上げた報道について、あなたはどのようなことを感じましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |
| 1. 事実の見落としがあった | 95 | 28.3 | 47 | 28.1 | 48 | 28.4 |
| 2. 大きさ | 48 | 14.3 | 28 | 16.8 | 20 | 11.8 |
| 3. 報道側が冷静でない | 48 | 14.3 | 32 | 19.2 | 16 | 9.5 |
| 4. 偏りがあった | 146 | 43.5 | 61 | 36.5 | 85 | 50.3 |
| 5. 役に立つ情報提供 | 150 | 44.6 | 81 | 48.5 | 69 | 40.8 |
| 6. 実際被害はもっと大きい | 93 | 27.7 | 41 | 24.6 | 52 | 30.8 |
| 7. 報道に接しなかった | 3 | 0.9 | 1 | 0.6 | 2 | 1.2 |
| 8. この中に該当なし | 20 | 6.0 | 10 | 6.0 | 10 | 5.9 |
| 99. 無回答 | 2 | | 1 | | 1 | |

(2) 能登半島地震の後に起こった日本での地震の報道について、その内容は適切だと感じましたか。最も近いものを、次の1～6の中から一つお選びください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 適切 | 58 | 17.3 | 31 | 18.7 | 27 | 15.9 |
| 2. どちらかという適切 | 137 | 40.8 | 69 | 41.6 | 68 | 40.0 |
| 3. どちらともいえない | 114 | 33.9 | 54 | 32.5 | 60 | 35.3 |
| 4. どちらかという不適切 | 14 | 4.2 | 8 | 4.8 | 6 | 3.5 |
| 5. 不適切 | 7 | 2.1 | 3 | 1.8 | 4 | 2.4 |
| 6. 報道に接しなかった | 6 | 1.8 | 1 | 0.6 | 5 | 2.9 |
| 99. 無回答 | 2 | | 2 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問 2 1 テレビでは、将来の大地震を取り上げて、専門家が被害を予想したり、解説を加えたりする地震予知特集の番組があります。

そのようなテレビ番組について、あなたはどのように感じますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |
| 1. 役立つ情報得られる | 141 | 42.0 | 70 | 42.2 | 71 | 41.8 |
| 2. 信頼できない | 32 | 9.5 | 17 | 10.2 | 15 | 8.8 |
| 3. 実際に役立てられるかわからず | 225 | 67.0 | 110 | 66.3 | 115 | 67.6 |
| 4. まじめに取り扱うことが大切 | 100 | 29.8 | 46 | 27.7 | 54 | 31.8 |
| 5. 見たことがない | 7 | 2.1 | 5 | 3.0 | 2 | 1.2 |
| 99. 無回答 | 2 | | 2 | | 0 | |

問 2 2 科学的な根拠はともかく、あなたご自身は今後、能登地方で今回のような大きさの地震が再び起こる可能性について、どのように思われますか。次の1～5の中からあてはまるものを一つお選びください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. まず起きないと思う | 19 | 5.7 | 13 | 7.8 | 6 | 3.6 |
| 2. 20～30年のうちには起こる可能性があると思う | 84 | 25.1 | 40 | 24.0 | 44 | 26.3 |
| 3. 数年のうちには起こる可能性が高いと思う | 78 | 23.4 | 26 | 15.6 | 52 | 31.1 |
| 4. まったく想像がつかない | 143 | 42.8 | 79 | 47.3 | 64 | 38.3 |
| 5. その他 | 10 | 3.0 | 9 | 5.4 | 1 | 0.6 |
| 99. 無回答 | 4 | | 1 | | 3 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

5. その他の記述

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|----|-------|----|-------|----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 記述なし | 1 | 10.0 | 1 | 11.1 | 0 | 0.0 |
| 1. 記述あり | 9 | 90.0 | 8 | 88.9 | 1 | 100.0 |
| 合計 | 10 | 100.0 | 9 | 100.0 | 1 | 100.0 |

問23 あなたは現在、輪島市（穴水町）は住みやすいところだと思いますか。次の1～4の中からあてはまるものを一つお選びください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. たいへん住みやすい | 60 | 17.8 | 34 | 20.4 | 26 | 15.3 |
| 2. やや住みやすい | 171 | 50.7 | 90 | 53.9 | 81 | 47.6 |
| 3. やや住みにくい | 90 | 26.7 | 36 | 21.6 | 54 | 31.8 |
| 4. たいへん住みにくい | 16 | 4.7 | 7 | 4.2 | 9 | 5.3 |
| 99. 無回答 | 1 | | 1 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問24 あなたの生活において、以下の出来事は、この1年間で増えましたか、減りましたか。a～dのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

a. 活動的な生活を送ること

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. かなり増えた | 21 | 6.4 | 8 | 4.8 | 13 | 8.0 |
| 2. 少し増えた | 62 | 18.9 | 30 | 18.2 | 32 | 19.6 |
| 3. 変わらない | 212 | 64.6 | 116 | 70.3 | 96 | 58.9 |
| 4. 少し減った | 20 | 6.1 | 8 | 4.8 | 12 | 7.4 |
| 5. かなり減った | 13 | 4.0 | 3 | 1.8 | 10 | 6.1 |
| 99. 無回答 | 10 | | 3 | | 7 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. まわりの人との付き合い

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. かなり増えた | 24 | 7.2 | 11 | 6.6 | 13 | 7.7 |
| 2. 少し増えた | 69 | 20.7 | 29 | 17.5 | 40 | 23.8 |
| 3. 変わらない | 216 | 64.7 | 113 | 68.1 | 103 | 61.3 |
| 4. 少し減った | 19 | 5.7 | 11 | 6.6 | 8 | 4.8 |
| 5. かなり減った | 6 | 1.8 | 2 | 1.2 | 4 | 2.4 |
| 99. 無回答 | 4 | | 2 | | 2 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

c. 生きがいを感じること

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. かなり増えた | 21 | 6.4 | 11 | 6.7 | 10 | 6.1 |
| 2. 少し増えた | 51 | 15.5 | 25 | 15.2 | 26 | 15.8 |
| 3. 変わらない | 206 | 62.6 | 102 | 62.2 | 104 | 63.0 |
| 4. 少し減った | 40 | 12.2 | 20 | 12.2 | 20 | 12.1 |
| 5. かなり減った | 11 | 3.3 | 6 | 3.7 | 5 | 3.0 |
| 99. 無回答 | 9 | | 4 | | 5 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

d. 仕事時間

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. かなり増えた | 28 | 8.5 | 11 | 6.7 | 17 | 10.2 |
| 2. 少し増えた | 50 | 15.2 | 27 | 16.6 | 23 | 13.8 |
| 3. 変わらない | 188 | 57.0 | 93 | 57.1 | 95 | 56.9 |
| 4. 少し減った | 40 | 12.1 | 22 | 13.5 | 18 | 10.8 |
| 5. かなり減った | 24 | 7.3 | 10 | 6.1 | 14 | 8.4 |
| 99. 無回答 | 8 | | 5 | | 3 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問25 あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。a～dのそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。

a. 仕事の内容

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 31 | 9.4 | 17 | 10.4 | 14 | 8.5 |
| 2. やや満足 | 85 | 25.8 | 48 | 29.3 | 37 | 22.4 |
| 3. どちらともいえない | 105 | 31.9 | 50 | 30.5 | 55 | 33.3 |
| 4. やや不満 | 49 | 14.9 | 24 | 14.6 | 25 | 15.2 |
| 5. 不満 | 27 | 8.2 | 10 | 6.1 | 17 | 10.3 |
| 6. あてはまらない | 32 | 9.7 | 15 | 9.1 | 17 | 10.3 |
| 99. 無回答 | 9 | | 4 | | 5 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. 個人の収入

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 13 | 4.0 | 6 | 3.7 | 7 | 4.2 |
| 2. やや満足 | 56 | 17.1 | 30 | 18.5 | 26 | 15.8 |
| 3. どちらともいえない | 72 | 22.0 | 41 | 25.3 | 31 | 18.8 |
| 4. やや不満 | 79 | 24.2 | 38 | 23.5 | 41 | 24.8 |
| 5. 不満 | 88 | 26.9 | 39 | 24.1 | 49 | 29.7 |
| 6. あてはまらない | 19 | 5.8 | 8 | 4.9 | 11 | 6.7 |
| 99. 無回答 | 11 | | 6 | | 5 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

c. 健康状態

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 25 | 7.6 | 11 | 6.7 | 14 | 8.4 |
| 2. やや満足 | 94 | 28.5 | 50 | 30.5 | 44 | 26.5 |
| 3. どちらともいえない | 95 | 28.8 | 47 | 28.7 | 48 | 28.9 |
| 4. やや不満 | 89 | 27.0 | 42 | 25.6 | 47 | 28.3 |
| 5. 不満 | 27 | 8.2 | 14 | 8.5 | 13 | 7.8 |
| 99. 無回答 | 8 | | 4 | | 4 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

d. 生活全般

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 満足 | 24 | 7.3 | 7 | 4.3 | 17 | 10.3 |
| 2. やや満足 | 92 | 28.0 | 50 | 30.7 | 42 | 25.5 |
| 3. どちらともいえない | 106 | 32.3 | 51 | 31.3 | 55 | 33.3 |
| 4. やや不満 | 78 | 23.8 | 38 | 23.3 | 40 | 24.2 |
| 5. 不満 | 28 | 8.5 | 17 | 10.4 | 11 | 6.7 |
| 99. 無回答 | 10 | | 5 | | 5 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問26 あなたの暮らし向き（生活の水準）は、1年前と比べて変わりましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. よくなった | 8 | 2.4 | 3 | 1.8 | 5 | 3.0 |
| 2. 変わらない | 232 | 69.0 | 118 | 70.7 | 114 | 67.5 |
| 3. 悪くなった | 96 | 28.6 | 46 | 27.5 | 50 | 29.6 |
| 99. 無回答 | 2 | | 1 | | 1 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問27 仮に現在の日本の社会全体を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はこの中のどれに入るとお考えですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 上 | 2 | 0.6 | 1 | 0.6 | 1 | 0.6 |
| 2. 中の上 | 40 | 11.9 | 23 | 13.9 | 17 | 10.0 |
| 3. 中の下 | 119 | 35.5 | 63 | 38.2 | 56 | 32.9 |
| 4. 下の上 | 95 | 28.4 | 44 | 26.7 | 51 | 30.0 |
| 5. 下の下 | 35 | 10.4 | 16 | 9.7 | 19 | 11.2 |
| 6. わからない | 44 | 13.1 | 18 | 10.9 | 26 | 15.3 |
| 99. 無回答 | 3 | | 3 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問28 以下にあげたのは、現在の与党と最大野党です。あなたは、それぞれの政党をどのくらい好きですか。a~dの政党について、あなたの気持ちに最も近いものを一つ選び、○をつけてください。

a. 民主党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 14 | 4.5 | 3 | 2.0 | 11 | 7.0 |
| 2. まあ好きである | 152 | 48.9 | 83 | 54.2 | 69 | 43.7 |
| 3. あまり好きではない | 110 | 35.4 | 51 | 33.3 | 59 | 37.3 |
| 4. 好きではない | 35 | 11.3 | 16 | 10.5 | 19 | 12.0 |
| 9. 無回答 | 27 | | 15 | | 12 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. 社会民主党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 | 1 | 0.7 |
| 2. まあ好きである | 43 | 14.4 | 25 | 17.1 | 18 | 11.8 |
| 3. あまり好きではない | 164 | 55.0 | 76 | 52.1 | 88 | 57.9 |
| 4. 好きではない | 90 | 30.2 | 45 | 30.8 | 45 | 29.6 |
| 9. 無回答 | 40 | | 22 | | 18 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

c. 国民新党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 3 | 1.0 | 0 | 0.0 | 3 | 2.0 |
| 2. まあ好きである | 43 | 14.3 | 26 | 17.6 | 17 | 11.2 |
| 3. あまり好きではない | 165 | 55.0 | 78 | 52.7 | 87 | 57.2 |
| 4. 好きではない | 89 | 29.7 | 44 | 29.7 | 45 | 29.6 |
| 9. 無回答 | 38 | | 20 | | 18 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

d. 自由民主党

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|--------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. とても好きである | 21 | 6.6 | 9 | 5.8 | 12 | 7.3 |
| 2. まあ好きである | 131 | 41.1 | 76 | 49.0 | 55 | 33.5 |
| 3. あまり好きではない | 120 | 37.6 | 54 | 34.8 | 66 | 40.2 |
| 4. 好きではない | 47 | 14.7 | 16 | 10.3 | 31 | 18.9 |
| 9. 無回答 | 19 | | 13 | | 6 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問29 (1) あなたの性別はどちらですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 男性 | 167 | 49.6 | 86 | 51.5 | 81 | 47.6 |
| 2. 女性 | 170 | 50.4 | 81 | 48.5 | 89 | 52.4 |
| 99. 無回答 | 1 | | 1 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

(2) あなたのお生まれは、何年ですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 昭和9年 | 6 | 1.8 | 4 | 2.4 | 2 | 1.2 |
| 2. 昭和10年代 | 95 | 28.2 | 50 | 29.9 | 45 | 26.5 |
| 3. 昭和20年代 | 116 | 34.4 | 53 | 31.7 | 63 | 37.1 |
| 4. 昭和30年代 | 65 | 19.3 | 30 | 18.0 | 35 | 20.6 |
| 5. 昭和40年代 | 31 | 9.2 | 17 | 10.2 | 14 | 8.2 |
| 6. 昭和50年代 | 19 | 5.6 | 10 | 6.0 | 9 | 5.3 |
| 7. 昭和60年代 | 5 | 1.5 | 3 | 1.8 | 2 | 1.2 |
| 99. 無回答 | 1 | | 1 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問30 (1) 前回の調査(2008年10~11月)から今までに、あなたには、転職・就職・退職などのご職業上の変化がありましたか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. ある | 46 | 14.6 | 23 | 14.8 | 23 | 14.4 |
| 2. ない | 269 | 85.4 | 132 | 85.2 | 137 | 85.6 |
| 99. 無回答 | 23 | | 13 | | 10 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

(2) 【問30(1)で1と答えた方にお聞きします】

あなたの、現在のご職業についてお聞きします。なお、ここでは、職業とは継続して行っている収入をとまなう仕事とします。

a. 現在、ご職業をお持ちですか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 有職 | 28 | 62.2 | 12 | 54.5 | 16 | 69.6 |
| 2. 無職 | 14 | 31.1 | 8 | 36.4 | 6 | 26.1 |
| 3. 主婦 | 3 | 6.7 | 2 | 9.1 | 1 | 4.3 |
| 4. 学生 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 98. 非該当 | 292 | | 145 | | 147 | |
| 99. 無回答 | 1 | | 1 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

b. 現在のお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 経営者、役員(会社組織の) | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 2. 常時雇用されている一般従業者 | 8 | 29.6 | 4 | 33.3 | 4 | 26.7 |
| 3. 臨時雇用、派遣社員、パート… | 13 | 48.1 | 4 | 33.3 | 9 | 60.0 |
| 4. 派遣社員 | 1 | 3.7 | 1 | 8.3 | 0 | 0.0 |
| 5. 自営業主、自由業者 | 4 | 14.8 | 2 | 16.7 | 2 | 13.3 |
| 6. 家族従業者 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 7. 内職 | 1 | 3.7 | 1 | 8.3 | 0 | 0.0 |
| 98. 非該当 | 308 | | 154 | | 154 | |
| 99. 無回答 | 3 | | 2 | | 1 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

c. 従業員の人数（自営のかたはご本人と家族を除く、雇われている人の数）

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 0人 | 3 | 13.0 | 2 | 22.2 | 1 | 7.1 |
| 2. 1～9人 | 6 | 26.1 | 2 | 22.2 | 4 | 28.6 |
| 3. 10～29人 | 7 | 30.4 | 2 | 22.2 | 5 | 35.7 |
| 4. 30～99人 | 1 | 4.3 | 0 | 0.0 | 1 | 7.1 |
| 5. 100～299人 | 3 | 13.0 | 0 | 0.0 | 3 | 21.4 |
| 6. 300人以上 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 7. 官公庁 | 3 | 13.0 | 3 | 33.3 | 0 | 0.0 |
| 98. 非該当 | 308 | | 154 | | 154 | |
| 99. 無回答 | 7 | | 5 | | 2 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

d. 仕事の内容（経理、運搬、仕入れ、〇〇組み立てなど職種のわかるように）

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 記述なし | 310 | 91.7 | 156 | 92.9 | 154 | 90.6 |
| 1. 記述あり | 28 | 8.3 | 12 | 7.1 | 16 | 9.4 |
| 98. 非該当 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 99. 無回答 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

e. 何か役職についておられますか。この中ではほぼどれにあたりますか。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. 役職なし | 20 | 83.3 | 9 | 90.0 | 11 | 78.6 |
| 2. 監督、職長、班長、組長 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 3. 係長、係長相当職 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 4. 課長、課長相当職 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 5. 部長、部長相当職 | 1 | 4.2 | 1 | 10.0 | 0 | 0.0 |
| 6. 社長、社長相当職 | 1 | 4.2 | 0 | 0.0 | 1 | 7.1 |
| 7. その他 | 2 | 8.3 | 0 | 0.0 | 2 | 14.3 |
| 98. 非該当 | 308 | | 154 | | 154 | |
| 99. 無回答 | 6 | | 4 | | 2 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

e_7. その他の記述

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 記述なし | 336 | 99.4 | 167 | 99.4 | 169 | 99.4 |
| 1. 記述あり | 2 | 0.6 | 1 | 0.6 | 1 | 0.6 |
| 98. 非該当 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 99. 無回答 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問31 収入についておたずねします。

(1) 過去1年間の**お宅**の収入は税込みでだいたいどのくらいでしょうか。他のご家族の収入も含めてお答えください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. なし | 2 | 0.6 | 0 | 0.0 | 2 | 1.2 |
| 2. 70万円未満 | 12 | 3.7 | 4 | 2.5 | 8 | 4.9 |
| 3. 70～150万円未満 | 18 | 5.6 | 7 | 4.4 | 11 | 6.7 |
| 4. 150～250万円未満 | 42 | 13.0 | 22 | 13.9 | 20 | 12.2 |
| 5. 250～350万円未満 | 45 | 14.0 | 29 | 18.4 | 16 | 9.8 |
| 6. 350～450万円未満 | 49 | 15.2 | 26 | 16.5 | 23 | 14.0 |
| 7. 450～550万円未満 | 29 | 9.0 | 17 | 10.8 | 12 | 7.3 |
| 8. 550～650万円未満 | 36 | 11.2 | 16 | 10.1 | 20 | 12.2 |
| 9. 650～750万円未満 | 21 | 6.5 | 8 | 5.1 | 13 | 7.9 |
| 10. 750～850万円未満 | 20 | 6.2 | 9 | 5.7 | 11 | 6.7 |
| 11. 850～1000万円未満 | 26 | 8.1 | 12 | 7.6 | 14 | 8.5 |
| 12. 1000～1200万円未満 | 14 | 4.3 | 7 | 4.4 | 7 | 4.3 |
| 13. 1200～1400万円未満 | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 | 1 | 0.6 |
| 14. 1400～1600万円未満 | 6 | 1.9 | 1 | 0.6 | 5 | 3.0 |
| 15. 1600～1850万円未満 | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 | 1 | 0.6 |
| 16. 1850～2300万円未満 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 17. 2300万円以上 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 9. 無回答 | 16 | | 10 | | 6 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

(2) 過去1年間のあなた個人の収入は税込みでどのくらいでしょうか。年金や臨時収入、副収入も含めてお答えください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 1. なし | 14 | 4.3 | 8 | 4.9 | 6 | 3.6 |
| 2. 70万円未満 | 40 | 12.2 | 18 | 11.0 | 22 | 13.3 |
| 3. 70～150万円未満 | 69 | 21.0 | 31 | 18.9 | 38 | 23.0 |
| 4. 150～250万円未満 | 77 | 23.4 | 43 | 26.2 | 34 | 20.6 |
| 5. 250～350万円未満 | 45 | 13.7 | 25 | 15.2 | 20 | 12.1 |
| 6. 350～450万円未満 | 27 | 8.2 | 13 | 7.9 | 14 | 8.5 |
| 7. 450～550万円未満 | 16 | 4.9 | 6 | 3.7 | 10 | 6.1 |
| 8. 550～650万円未満 | 13 | 4.0 | 5 | 3.0 | 8 | 4.8 |
| 9. 650～750万円未満 | 12 | 3.6 | 6 | 3.7 | 6 | 3.6 |
| 10. 750～850万円未満 | 8 | 2.4 | 3 | 1.8 | 5 | 3.0 |
| 11. 850～1000万円未満 | 6 | 1.8 | 5 | 3.0 | 1 | 0.6 |
| 12. 1000～1200万円未満 | 1 | 0.3 | 1 | 0.6 | 0 | 0.0 |
| 13. 1200～1400万円未満 | 1 | 0.3 | 0 | 0.0 | 1 | 0.6 |
| 14. 1400～1600万円未満 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 15. 1400～1600万円未満 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 16. 1850～2300万円未満 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 17. 2300万円以上 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 99. 無回答 | 9 | | 4 | | 5 | |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

問32 最後に、能登半島地震やこの調査などに関連して、ご意見や感想があれば、自由にお書きください。

| | 全体 | | 輪島 | | 穴水 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 度数 | % | 度数 | % | 度数 | % |
| 0. 記述なし | 231 | 68.3 | 115 | 68.5 | 116 | 68.2 |
| 1. 記述あり | 107 | 31.7 | 53 | 31.5 | 54 | 31.8 |
| 合計 | 338 | 100.0 | 168 | 100.0 | 170 | 100.0 |

2009 年度調査コーディングマニュアル
「震災体験と地域生活に関する意識調査（第2回）」

◇調査票にペンを使って直接書き込む作業
※記入は緑ペンで統一

- 無回答の場所には、無回答コード **99** を記入する。

- 非該当の場所には、非該当コード **98** を記入する。
(スクリーニングのかかった、問14(2)、問30(2)、問30(2)a)

- 「その他」、問30(2)dなど自由記述のものは、記述の有無を記入する。
記入があるものには **1**、記入がないものには **0**、を記述欄に記入する。
該当箇所は、7箇所あります。
(問2(1)、問3、問14(2)、問22、問30(2)d、問30(2)e、問32)
※非該当箇所や記述がない箇所も、1または0を必ず記入する。

- マルチアンサーの項目には、無回答の場合は、選択肢番号の左・枠外に無回答コード **99** を記入する。(選択肢番号1と最後の番号の横に **99** を記入し、矢印で結ぶ。)
問14の(2)は、非該当の場合、選択肢番号の左・枠外に非該当コード **98** を記入する。
(選択肢番号1と最後の番号の横に **99** を記入し、矢印で結ぶ。)

- 択一の項目には、無回答コード **99**、非該当コード **98** のいずれも枠外に記入する。

- 択一の項目で、複数の選択肢に丸がついているなど、判断の難しいものはサイコロを使って決める。(ただし先生に要相談)
サイコロで決定した選択肢は、枠外に「サイコロ」と記入、決定した番号に大きく見やすい○をつけ、選択されなかった番号に二重線をひく。

- 問30(職業の変化について)で、(1)で「2.ない」と回答しているのに(2)にも回答している場合、昨年調査票と照らし合わせて、昨年からの変化があるかどうかで判断する。

○問14(2)と問21は、選択肢のなかにあてはまるものがないなどの理由から、選択肢に丸のないものがある可能性があるため、特に注意して見る。

問14の場合…(1)で「1. ある」と回答しているのに(2)(3)の回答がない場合、問14全体を無回答とする。

(1)で「2. ない」と回答しているのに(2)(3)にも回答している場合、(1)を「1. ある」に変更する。

問21の場合…前後の設問に回答しているのに、問21だけ答えていない場合は、あてはまる選択肢がないと判断し、無回答扱いにしない。

その旨をわかるように記入する。(要相談)

インターネット調査調査票

[SC1]
あなたは現在、どちらにお住まいですか。



送信

[SC2_1]
北海道

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="radio"/> 帯広市 | <input type="radio"/> 上川郡清水町 |
| <input type="radio"/> 北見市 | <input type="radio"/> 常呂郡馴子府町 |
| <input type="radio"/> 浦河郡浦河町 | <input type="radio"/> 新冠郡新冠町 |
| <input type="radio"/> 河西郡寿空町 | <input type="radio"/> 石狩郡新穂津村 |
| <input type="radio"/> 河西郡更別村 | <input type="radio"/> 川上郡弟子屈町 |
| <input type="radio"/> 河東郡音更町 | <input type="radio"/> 足寄郡足寄町 |
| <input type="radio"/> 河東郡滝川町 | <input type="radio"/> 中川郡豊頃町 |
| <input type="radio"/> 河東郡上士幌町 | <input type="radio"/> 中川郡本別町 |
| <input type="radio"/> 岩見沢市 | <input type="radio"/> 中川郡本別町 |
| <input type="radio"/> 空知郡中富良野町 | <input type="radio"/> 苫小牧市 |
| <input type="radio"/> 空知郡南幌町 | <input type="radio"/> 日高郡新ひだか町 |
| <input type="radio"/> 釧路郡釧路町 | <input type="radio"/> 野付郡別海町 |
| <input type="radio"/> 釧路市 | <input type="radio"/> 勇払郡厚真町 |
| <input type="radio"/> 厚岸郡厚岸町 | <input type="radio"/> 夕張郡栗山町 |
| <input type="radio"/> 広尾郡広尾町 | <input type="radio"/> 夕張郡長沼町 |
| <input type="radio"/> 斜里郡清里町 | <input type="radio"/> その他 |

送信

[SC2_3]
岩手県

- 一関市
- 遠野市
- 奥州市
- 花巻市
- 紫波郡矢巾町
- 西磐井郡平泉町
- 胆沢郡金ヶ輪町
- 東磐井郡藤沢町
- 二戸市
- 北上市
- 陸前高田市
- 和賀郡西和賀町
- その他

送信

[SC2_4]
宮城県

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 仙台市 | <input type="radio"/> 柴田郡柴田町 |
| <input type="radio"/> 遠田郡美里町 | <input type="radio"/> 柴田郡川崎町 |
| <input type="radio"/> 遠田郡涌谷町 | <input type="radio"/> 柴田郡村田町 |
| <input type="radio"/> 塩竈市 | <input type="radio"/> 柴田郡大河原町 |
| <input type="radio"/> 牡鹿郡女川町 | <input type="radio"/> 石巻市 |
| <input type="radio"/> 加美郡加美町 | <input type="radio"/> 大崎市 |
| <input type="radio"/> 加美郡色麻町 | <input type="radio"/> 登米市 |
| <input type="radio"/> 角田市 | <input type="radio"/> 東松島市 |
| <input type="radio"/> 刈田郡蔵王町 | <input type="radio"/> 白石市 |
| <input type="radio"/> 岩沼市 | <input type="radio"/> 本吉郡南三陸町 |
| <input type="radio"/> 気仙沼市 | <input type="radio"/> 名取市 |
| <input type="radio"/> 宮城郡利府町 | <input type="radio"/> 亶理郡山元町 |
| <input type="radio"/> 栗原市 | <input type="radio"/> 亶理郡亶理町 |
| <input type="radio"/> 黒川郡大郷町 | <input type="radio"/> その他 |
| <input type="radio"/> 黒川郡大衡村 | |

送信

[SC2_5]
秋田県

- 仙北郡
- 横手市
- 大仙市
- 湯沢市
- 雄勝郡羽後町
- 雄勝郡東成瀬村
- その他

送信

[SC2_6]
山形県

- 最上郡最上町
- その他

送信

[SC2_7]
福島県

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 伊達郡桑折町 | <input type="radio"/> 相馬市 |
| <input type="radio"/> 伊達郡国見町 | <input type="radio"/> 田村市 |
| <input type="radio"/> 伊達郡川俣町 | <input type="radio"/> 南会津郡只見町 |
| <input type="radio"/> 伊達市 | <input type="radio"/> 南相馬市 |
| <input type="radio"/> 河沼郡柳津町 | <input type="radio"/> 二本松市 |
| <input type="radio"/> 西白河郡中島村 | <input type="radio"/> 福島市 |
| <input type="radio"/> 相馬郡新地町 | <input type="radio"/> 耶麻郡西会津町 |
| <input type="radio"/> 相馬郡飯盛村 | <input type="radio"/> その他 |

送信

[SC2_8]
茨城県

- 日立市
- その他

送信

[SC2_10]
群馬県

- 利根郡片品村
- 高崎市
- 渋川市
- その他

送信

[SC2_11]
埼玉県

- 久喜市
- その他

送信

[SC2_15]
新潟県

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 加茂市 | <input type="radio"/> 十日町市 |
| <input type="radio"/> 刈羽郡刈羽村 | <input type="radio"/> 上越市 |
| <input type="radio"/> 小千谷市 | <input type="radio"/> 上水内郡飯塚町 |
| <input type="radio"/> 新潟市 | <input type="radio"/> 西蒲原郡弥生村 |
| <input type="radio"/> 見附市 | <input type="radio"/> 中魚沼郡津南町 |
| <input type="radio"/> 燕市 | <input type="radio"/> 長岡市 |
| <input type="radio"/> 魚沼市 | <input type="radio"/> 南魚沼市 |
| <input type="radio"/> 五泉市 | <input type="radio"/> 柏崎市 |
| <input type="radio"/> 三条市 | <input type="radio"/> 北魚沼郡川口町 |
| <input type="radio"/> 三島郡出雲崎町 | <input type="radio"/> その他 |

送信

[SC2_16]
富山県

- 清川市
- 射水市
- 小矢部市
- 中新川郡舟橋村
- 氷見市
- 富山市
- その他

送信

[SC2_17]
石川県

- かほく市
- 七尾市
- 輪島市
- 羽咋郡志賀町
- 羽咋郡宝達志水町
- 羽咋市
- 鹿島郡中能登町
- 珠洲市
- 鳳珠郡穴水町
- 鳳珠郡能登町
- その他

送信

[SC2_20]
長野県

- 上水内郡信濃町
- 上水内郡飯綱町
- 中野市
- 長野市
- 飯山市
- その他

送信

[SC2_25]
滋賀県

- 彦根市
- その他

送信

[SC2_26]
京都府

- 京都市
- その他

送信

[SC2_28]
兵庫県

- 淡路市
- 神戸市
- 芦屋市
- 洲本市
- 西宮市
- 宝塚市
- 豊岡市
- その他

送信

[SC2_31]
鳥取県

- 境港市
- 西伯郡大山町
- 西伯郡南部町
- 西伯郡日吉津村
- 西伯郡伯耆町
- 倉吉市
- 東伯郡琴浦町
- 東伯郡湯梨浜町
- 東伯郡北栄町
- 日野郡日野町
- 米子市
- その他

送信

[SC2_32]
島根県

- 安来市
- 雲南市
- 江津市
- 出雲市
- 松江市
- 西伯郡大山町
- 大田市
- 八束郡東出雲町
- 簸川郡斐川町
- 浜田市
- 米子市
- 邑智郡邑南町
- その他

送信

[SC2_33]
岡山県

- 岡山市
- 加賀郡吉備中央町
- 笠岡市
- 玉野市
- 江津市
- 高梁市
- 新見市
- 真庭郡新庄村
- 真庭市
- 仁多郡吳出雲町
- 倉敷市
- 都窪郡早島町
- その他

送信

[SC2_34]
広島県

- 広島市
- 安芸郡海田町
- 安芸郡熱野町
- 安芸郡坂町
- 安芸郡府中町
- 安芸高田市
- 呉市
- 江田島市
- 三原市
- 三次市
- 山県郡北広島町
- 庄原市
- 世羅郡世羅町
- 東広島市
- 尾道市
- 福山市
- 豊田郡大崎上島町
- その他

送信

[SC2_35]
山口県

- 阿武郡阿東町
- 下松市
- 岩国市
- 玖珂郡和木町
- 熊毛郡上関町
- 熊毛郡田布施町
- 熊毛郡平生町
- 光市
- 山口市
- 周南市
- 大島郡周防大島町
- 柳井市
- その他

送信

[SC2_36]
徳島県

- 徳島市
- その他

送信

[SC2_37]
香川県

- 東かがわ市
- 小豆郡小豆島町
- 高松市
- 観音寺市
- 三豊市
- 小豆郡土庄町
- その他

送信

[SC2_38]
愛媛県

- 伊予郡松前町
- 伊予郡砥部町
- 伊予市
- 宇和島市
- 越智郡上島町
- 喜多郡内子町
- 今治市
- 松山市
- 上浮穴郡久万高津町
- 新居浜市
- 西宇和郡伊方町
- 西条市
- 西予市
- 大洲市
- 東温市
- 八幡浜市
- その他

送信

[SC2_39]
高知県

- 高知市
- その他

送信

[SC2_44]
大分県

- 佐伯市
- その他

送信

[SC3]
あなたの性別はどちらですか。

- 男性
- 女性

送信

[SC4]
あなたは現在 おいくつですか。

歳 歳

送信

[SC5_1]
1995年(平成7年)1月17日 阪神・淡路大震災のとき、以下の地域にお住まいでしたか。

| 都道府県名 | 地震発生時の市町村名 | 現在の市町村名 |
|-------|------------|---------|
| 京都府 | 京都市 | 京都市 |
| 兵庫県 | 姫路市 | 姫路市 |
| | 洲本市 | 洲本市 |
| | 神戸市 | 神戸市 |
| | 西宮市 | 西宮市 |
| | 津北郡一宮町 | 淡路市 |
| | 津北郡津島町 | 淡路市 |
| | 津北郡北淡町 | 淡路市 |
| | 宝塚市 | 宝塚市 |
| | 豊岡市 | 豊岡市 |

内線をクリックすると記入内容が表示されます。
内線を必ずクリックしてください。

- 住んでいた方
- これらの地域には住んでいなかった

送信

[SC6_1]
あなたは、その地震を実際に体験しましたか。

- 体験した
- 体験していない

送信

[SC5.2]
2000年(平成12年)10月6日 鳥取県西部地震のとき、以下の地域にお住まいでしたか。

| 都道府県名 | 地震発生の市町村名 | 現時点の市町村名 | |
|---------|-----------|----------|--------|
| 岡山県 | 阿智郡津郷町 | 新見市 | |
| | 岡山市 | 岡山市 | |
| | 玉野市 | 笠岡市 | |
| | 吉備郡真備町 | 倉敷市 | |
| | 玉野市 | 玉野市 | |
| | 上賀郡船場町 | 総務部倉敷中央町 | |
| | 上賀郡有漢町 | 高梁市 | |
| | 上賀郡北高町 | 高梁市 | |
| | 真庭郡穂上町 | 真庭市 | |
| | 真庭郡川上村 | 真庭市 | |
| | 真庭郡中津村 | 真庭市 | |
| | 真庭郡八雲村 | 真庭市 | |
| | 真庭郡新庄村 | 真庭郡新庄村 | |
| | 法仁郡尾津町 | 倉敷市 | |
| | 都窪郡早島町 | 都窪郡早島町 | |
| | 都窪郡江町 | 江津市 | |
| | 阿智郡笠沙町 | 新見市 | |
| | 阿智郡大谷町 | 新見市 | |
| | 新見市 | 新見市 | |
| | 真庭郡高倉町 | 真庭市 | |
| | 真庭郡赤井村 | 真庭市 | |
| | 仁多郡仁多町 | 仁多郡真庭町 | |
| | 広島県 | 芦田郡新井町 | 福山市 |
| | | 安芸郡府中町 | 安芸郡府中町 |
| 呉市 | | 呉市 | |
| 比婆郡高野町 | | 広島市 | |
| 福山市 | | 福山市 | |
| 香川県 | 綾歌郡坂分町 | 高松市 | |
| | 木田郡庵治町 | 高松市 | |
| | 観音寺市 | 観音寺市 | |
| | 三豊郡三野町 | 三豊市 | |
| | 三豊郡豊中町 | 三豊市 | |
| | 小豆郡地持町 | 小豆郡小豆島町 | |
| | 大川郡白鳥町 | 東かがわ市 | |
| | 徳島市 | 徳島市 | |
| 鳥取県 | 境港市 | 境港市 | |
| | 日野郡日野町 | 日野郡日野町 | |
| | 日野郡真仁町 | 西伯郡笠置町 | |
| | 西伯郡岸本町 | 西伯郡笠置町 | |
| | 西伯郡金見町 | 西伯郡笠置町 | |
| | 西伯郡西谷町 | 西伯郡笠置町 | |
| | 西伯郡大山町 | 西伯郡大山町 | |
| | 西伯郡吉津村 | 西伯郡吉津村 | |
| | 西伯郡名取町 | 西伯郡大山町 | |
| | 西伯郡定江町 | 赤子市 | |
| | 東伯郡関金町 | 倉吉市 | |
| | 東伯郡大栄町 | 東伯郡北栄町 | |
| | 東伯郡東郷町 | 東伯郡船橋町 | |
| | 東伯郡東成町 | 東伯郡船橋町 | |
| | 東伯郡北島町 | 東伯郡北栄町 | |
| | 兵庫県 | 安芸市 | 安芸市 |
| | | 松江市 | 松江市 |
| 八束郡光通町 | | 松江市 | |
| 八束郡玉湯町 | | 松江市 | |
| 八束郡豊島町 | | 松江市 | |
| 八束郡八雲村 | | 松江市 | |
| 八束郡八束町 | | 松江市 | |
| 八束郡東上郡町 | | 八束郡東上郡町 | |
| 西伯郡中山町 | | 西伯郡大山町 | |
| 大原郡加茂町 | | 倉吉市 | |
| 大原郡大東町 | | 倉吉市 | |
| 新石郡三刀屋町 | | 倉吉市 | |
| 福川郡船場町 | | 出雲市 | |
| 福川郡関川町 | | 福川郡関川町 | |
| 赤子市 | | 赤子市 | |
| 美作郡三原町 | | 大庄市 | |
| 兵庫県 | | 小豆郡土庄町 | 小豆郡土庄町 |
| | 淡路郡津名町 | 淡路市 | |

両方をクリックすると拡大両方が表示されます。
両方を必ずクリックしてください。

- 住んでいた方
- これらの地域には住んでいなかった

返信

[SC6.2]
あなたは、その地震を実際に体験したか。

- 体験した
- 体験していない

返信

[SC5.3]
2001年(平成13年)3月24日 茨子地震のとき、以下の地域にお住まいでしたか。

| 都道府県名 | 地震発生の市町村名 | 現時点の市町村名 | |
|---------|-----------|----------|--------|
| 岡山県 | 阿智郡津郷町 | 新見市 | |
| | 岡山市 | 岡山市 | |
| | 玉野市 | 笠岡市 | |
| | 吉備郡真備町 | 倉敷市 | |
| | 玉野市 | 玉野市 | |
| | 上賀郡船場町 | 総務部倉敷中央町 | |
| | 上賀郡有漢町 | 高梁市 | |
| | 上賀郡北高町 | 高梁市 | |
| | 真庭郡穂上町 | 真庭市 | |
| | 真庭郡川上村 | 真庭市 | |
| | 真庭郡中津村 | 真庭市 | |
| | 真庭郡八雲村 | 真庭市 | |
| | 真庭郡新庄村 | 真庭郡新庄村 | |
| | 法仁郡尾津町 | 倉敷市 | |
| | 都窪郡早島町 | 都窪郡早島町 | |
| | 都窪郡江町 | 江津市 | |
| | 阿智郡笠沙町 | 新見市 | |
| | 阿智郡大谷町 | 新見市 | |
| | 新見市 | 新見市 | |
| | 真庭郡高倉町 | 真庭市 | |
| | 真庭郡赤井村 | 真庭市 | |
| | 仁多郡仁多町 | 仁多郡真庭町 | |
| | 広島県 | 芦田郡新井町 | 福山市 |
| | | 安芸郡府中町 | 安芸郡府中町 |
| 呉市 | | 呉市 | |
| 比婆郡高野町 | | 広島市 | |
| 福山市 | | 福山市 | |
| 香川県 | 綾歌郡坂分町 | 高松市 | |
| | 木田郡庵治町 | 高松市 | |
| | 観音寺市 | 観音寺市 | |
| | 三豊郡三野町 | 三豊市 | |
| | 三豊郡豊中町 | 三豊市 | |
| | 小豆郡地持町 | 小豆郡小豆島町 | |
| | 大川郡白鳥町 | 東かがわ市 | |
| | 徳島市 | 徳島市 | |
| 鳥取県 | 境港市 | 境港市 | |
| | 日野郡日野町 | 日野郡日野町 | |
| | 日野郡真仁町 | 西伯郡笠置町 | |
| | 西伯郡岸本町 | 西伯郡笠置町 | |
| | 西伯郡金見町 | 西伯郡笠置町 | |
| | 西伯郡西谷町 | 西伯郡笠置町 | |
| | 西伯郡大山町 | 西伯郡大山町 | |
| | 西伯郡吉津村 | 西伯郡吉津村 | |
| | 西伯郡名取町 | 西伯郡大山町 | |
| | 西伯郡定江町 | 赤子市 | |
| | 東伯郡関金町 | 倉吉市 | |
| | 東伯郡大栄町 | 東伯郡北栄町 | |
| | 東伯郡東郷町 | 東伯郡船橋町 | |
| | 東伯郡東成町 | 東伯郡船橋町 | |
| | 東伯郡北島町 | 東伯郡北栄町 | |
| | 兵庫県 | 安芸市 | 安芸市 |
| | | 松江市 | 松江市 |
| 八束郡光通町 | | 松江市 | |
| 八束郡玉湯町 | | 松江市 | |
| 八束郡豊島町 | | 松江市 | |
| 八束郡八雲村 | | 松江市 | |
| 八束郡八束町 | | 松江市 | |
| 八束郡東上郡町 | | 八束郡東上郡町 | |
| 西伯郡中山町 | | 西伯郡大山町 | |
| 大原郡加茂町 | | 倉吉市 | |
| 大原郡大東町 | | 倉吉市 | |
| 新石郡三刀屋町 | | 倉吉市 | |
| 福川郡船場町 | | 出雲市 | |
| 福川郡関川町 | | 福川郡関川町 | |
| 赤子市 | | 赤子市 | |
| 美作郡三原町 | | 大庄市 | |
| 兵庫県 | | 小豆郡土庄町 | 小豆郡土庄町 |
| | 淡路郡津名町 | 淡路市 | |

両方をクリックすると拡大両方が表示されます。
両方を必ずクリックしてください。

- 住んでいた方
- これらの地域には住んでいなかった

返信

[SC6.3]
あなたは、その地震を実際に体験しましたか。

- 体験した
- 体験していない

送信

[SC6.4]
2003年(平成15年)7月26日-28日 宮城県北部産炭地帯のとき、以下の地域にお住まいでしたか。

| 郡庁所在地 | 地震発生時の市町村名 | 現時点の市町村名 |
|--------|------------|----------|
| 宮城県 | 遠田郡小豆田町 | 遠田郡美里町 |
| | 遠田郡田尻町 | 大崎市 |
| | 遠田郡的場町 | 遠田郡美里町 |
| | 遠田郡美郷町 | 遠田郡美郷町 |
| | 東洋郡一迫町 | 東洋市 |
| | 東洋郡会合町 | 東洋市 |
| | 東洋郡高津町 | 東洋市 |
| | 東洋郡本郷町 | 東洋市 |
| | 東洋郡鮎川町 | 東洋市 |
| | 乙川市 | 大崎市 |
| | 黒川郡大畑町 | 黒川郡大畑町 |
| | 志田郡三本木町 | 大崎市 |
| | 志田郡鹿島台町 | 大崎市 |
| | 志田郡金山町 | 大崎市 |
| | 石巻市 | 石巻市 |
| | 仙台市 | 仙台市 |
| | 登米郡中田町 | 登米市 |
| | 登米郡石巻町 | 登米市 |
| | 登米郡北山町 | 登米市 |
| | 秋田郡河内町 | 石巻市 |
| 秋田郡河北町 | 石巻市 | |
| 秋田郡阿仁町 | 石巻市 | |
| 秋田郡美郷町 | 東沢島市 | |
| 秋田郡大森町 | 東沢島市 | |

画像をクリックすると拡大画像が表示されます。
画像を必ずクリックしてください。

- 住んでいた方
- これらの地域には住んでいなかった

送信

[SC6.4]
あなたは、その地震を実際に体験しましたか。

- 体験した
- 体験していない

送信

[SC6.5]
2003年(平成15年)9月26日 十勝沖地震のとき、以下の地域にお住まいでしたか。

| 郡庁所在地 | 地震発生時の市町村名 | 現時点の市町村名 |
|--------|------------|----------|
| 北海道 | 渡辺郡美幌町 | 渡辺郡美幌町 |
| | 河西郡摩周町 | 河西郡摩周町 |
| | 河西郡美幌町 | 河西郡美幌町 |
| | 河西郡東川町 | 河西郡東川町 |
| | 河西郡東川町 | 河西郡東川町 |
| | 河西郡美幌町 | 河西郡美幌町 |
| | 河西郡上士幌町 | 河西郡上士幌町 |
| | 空知郡深川町 | 空知郡深川町 |
| | 空知郡中富町 | 空知郡中富町 |
| | 空知郡雄勝町 | 空知郡雄勝町 |
| | 網走郡網走町 | 網走郡網走町 |
| | 網走市 | 網走市 |
| | 厚岸郡厚岸町 | 厚岸郡厚岸町 |
| | 広尾郡広尾町 | 広尾郡広尾町 |
| | 広尾郡足寄町 | 中川郡足寄町 |
| | 斜里郡東川町 | 斜里郡東川町 |
| | 上川郡美幌町 | 上川郡美幌町 |
| | 常呂郡網走町 | 常呂郡網走町 |
| | 紋路郡紋路町 | 紋路郡紋路町 |
| | 紋路郡新ひだか町 | 紋路郡新ひだか町 |
| | 石狩郡留寿館町 | 石狩郡留寿館町 |
| | 川上郡網走町 | 川上郡網走町 |
| | 足寄郡足寄町 | 足寄郡足寄町 |
| | 標岡市 | 標岡市 |
| | 中川郡豊浦町 | 中川郡豊浦町 |
| | 中川郡本町 | 中川郡本町 |
| | 中川郡美幌町 | 中川郡美幌町 |
| | 苫小牧市 | 苫小牧市 |
| | 日高郡喜望峯町 | 日高郡喜望峯町 |
| | 北見市 | 北見市 |
| | 野付郡野付町 | 野付郡野付町 |
| | 湧上郡厚真町 | 湧上郡厚真町 |
| 夕張郡磯山町 | 夕張郡磯山町 | |
| 夕張郡長沼町 | 夕張郡長沼町 | |

画像をクリックすると拡大画像が表示されます。
画像を必ずクリックしてください。

- 住んでいた方
- これらの地域には住んでいなかった

送信

[SC6.5]
あなたは、その地震を実際に体験しましたか。

- 体験した
- 体験していない

送信

[SC5_8]
2007年(平成19年)3月25日 紀伊半島地震のとき、以下の地域にお住まいでしたか。

| 都道府県名 | 地震発生時の市町村名 |
|-------|------------|
| 石川県 | かほく市 |
| | 羽咋郡志賀町 |
| | 羽咋郡宝達志水町 |
| | 羽咋市 |
| | 鳳凰郡中能登町 |
| | 七尾市 |
| | 珠洲市 |
| | 鳳珠郡穴水町 |
| | 鳳珠郡能登町 |
| | 輪島市 |
| 富山県 | 津川市 |
| | 射水市 |
| | 小矢部市 |
| | 中新川郡立山町 |
| | 氷見市 |
| 新潟県 | 刈羽郡刈羽村 |

画像をクリックすると拡大画像が表示されます。
画像を必ずクリックしてください。

- 住んでいた方
 これらの地域には住んでいなかった

では

[SC6_8]
あなたは、その地震を実際に体験しましたか。

- 体験した
 体験していない

では

[SC5_9]
2007年(平成19年)7月16日 新潟県中越前地震のとき、以下の地域にお住まいでしたか。

| 都道府県名 | 地震発生時の市町村名 |
|-------|------------|
| 石川県 | 珠洲市 |
| | 鳳珠郡能登町 |
| | 輪島市 |
| 長野県 | 上水内郡池田町 |
| | 上水内郡飯綱町 |
| | 中野市 |
| | 長野市 |
| | 飯山市 |
| 新潟県 | 燕市 |
| | 加茂市 |
| | 刈羽郡刈羽村 |
| | 魚沼市 |
| | 見附市 |
| | 五泉市 |
| | 三泉市 |
| | 三島郡出雲崎町 |
| | 十日町市 |
| | 小千谷市 |
| | 上越市 |
| | 新潟市 |
| | 西蒲原郡弥生村 |
| | 長岡市 |
| | 南魚沼市 |
| | 柏崎市 |
| | 北魚沼郡川口町 |

画像をクリックすると拡大画像が表示されます。
画像を必ずクリックしてください。

- 住んでいた方
 これらの地域には住んでいなかった

では

[SC6_9]
あなたは、その地震を実際に体験しましたか。

- 体験した
 体験していない

では

[SC5_10]
2006年(平成18年)6月14日 岩手・宮城内陸地震のとき、以下の地域にお住まいでしたか。

| 都道府県名 | 地震発生時の市町村名 | |
|---------|------------|--------|
| 秋田県 | 横手市 | |
| | 仙北郡美郷町 | |
| | 大館市 | |
| | 湯沢市 | |
| | 雄勝郡羽後町 | |
| | 雄勝郡米沢町 | |
| 岩手県 | 一関市 | |
| | 遠野市 | |
| | 奥州市 | |
| | 西磐井郡平泉町 | |
| | 北磐井郡金ケ崎町 | |
| | 東磐井郡滝沢町 | |
| | 北上市 | |
| | 和賀郡西和賀町 | |
| | 福島県 | 相馬郡田代町 |
| | 宮城県 | 遠田郡美里町 |
| 遠田郡涌谷町 | | |
| 加美郡加美町 | | |
| 加美郡色麻町 | | |
| 角田市 | | |
| 刈田郡蔵王町 | | |
| 岩手市 | | |
| 宮城郡伊達町 | | |
| 栗原市 | | |
| 黒川郡大畑町 | | |
| 柴田郡(新町) | | |
| 柴田郡大河原町 | | |
| 石巻市 | | |
| 仙台市 | | |
| 大崎市 | | |
| 登米市 | | |
| 名取市 | | |
| 山形県 | 最上郡最上町 | |

画像をクリックすると拡大画像が表示されます。
画像を必ずクリックしてください。

- 住んでいた方
 これらの地域には住んでいなかった

では

[SC6_10]
あなたは、その地震を実際に体験しましたか。

- 体験した
 体験していない

では

ここからは、あなたが経験した〇〇〇〇についてお伺いします。

[Q1]
あなたは、どこでその地震を体験しましたか。あてはまるものを一つお選びください。

- 自宅
- 職場
- 学校
- その他(具体的に: _____)

送信

■ 震災当時の建物の被害についてお聞きます。

[Q2]
あなたが住まいになっていた住宅の被害と再建についてお聞きます。震災の時、お住まいになっていた住宅は被害を受けましたか。

- 受けた
- 受けなかった

送信

[Q2で「住宅に被害を受けた」とお答えになった方にお聞きます。]

[Q2_SQ1]
お住まいになっていた住宅はどの程度の被害を受けましたか。震災証明書の認定をお答えください。

- 全壊
- 大規模半壊
- 半壊
- 一部壊壊
- 震災証明書は発行されなかった

送信

[Q2_SQ1で「震災証明書は発行されなかった」とお答えになった方にお聞きます。]

[Q2_SQ2]
あなたの評価では、どのくらいの被災程度であったと思いますか。

- 全壊
- 大規模半壊
- 半壊
- 一部壊壊

送信

[Q2_SQ3]
その住宅は、あなたや同居のご家族が所有しているものでしたか。

- 所有している住居だった
- 所有している住居ではなかった

送信

[Q2_SQ3で「所有している住居だった」とお答えになった方にお聞きます。]

[Q2_SQ4]
震災で被害を受けた住居は、再建されましたか。

- 同じ土地で再建した
- 同じ土地で再建中である
- 同じ土地で再建準備中である
- 別の土地で再建した
- 別の土地で再建中である
- 別の土地で再建準備中である
- 再建をあきらめた
- その他(具体的に: _____)

送信

[Q3]
震災当時、あなたや同居のご家族が所有する以下のものについて、どのような被害がありましたか。以下のそれぞれについて、あてはまるものを一つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

| | 所有して いなかった | 被害は なかった | 軽い 被害で、 修理は 必要なら なかった | 軽い 被害で、 修理が 必要だ った | 重い 被害で、 修理が 必要だ った | 重い 被害で、 新しい ものが 必要だ った |
|---------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|
| a 住宅本体(お住まいでなかったものも含む) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| b 水道・雨どいなどの住宅設備 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| c 所有されている仕事場(工場・事務所などを含む) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| d 倉庫・車庫・庫(仕事場以外) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| e 墓 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |



送信

[Q4]
いままでお聞きた質問以外に、何か、建物に関わる被害がありましたか。

- あった
- なかった

送信

[Q4で「あった」とお答えになった方にお聞きます。]

[Q4_SQ1]
それは具体的に、どのような建物被害でしたか。お書きください。

送信

■ 震災時と震災からしばらくの間の、あなたの健康や生活についてお聞きます。

[Q5]
あなたや同居されていた方の中で、震災が原因で、ケガや病気をされた方はいらっしゃいましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- ケガや病気をしなかった
- 病気をしたが、受診・入院はしなかった
- 病気で受診した
- 病気で入院した
- ケガをしたが、受診・入院はしなかった
- ケガで受診した
- ケガで入院した
- そのほかの身体・生命に関わる被害があった

[Q6]
震災後1ヶ月くらいの間に、医療に関わることで、あなたが困ったことはありましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- ふだん飲んでいる薬を服用するのが難しかった
- ふだんどおりに通院ができなかった
- かかりつけ医に会いにくかった
- 医療費が負担になった
- 体調について相談できる人がいなかった
- その他(具体的に: _____)
- 困ったことはなかった

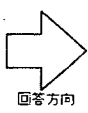
送信

[Q7]
震災が起きてからしばらくの間で、あなたに次のような心の不調は現れましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- 怒りっぽくなった
- 眠れない、寝つきが悪くなった
- ちょっとした音や揺れに敏感になった
- 暗闇が怖い
- 一人でのいるのが怖い
- 地震が起こったときの場面を思い出してしまう
- 強い不安を感じるようになった
- いらいらしやすくなった
- 一人でいたい
- やる気が出ない
- この中にあてはまるものはない

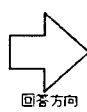
送信

[Q8]
震災前後で、次の点について、あなたの生活の将来プランに変化がありましたか。以下のそれぞれについてお答えください。(それぞれひとつずつ)

| | | 変化しなかった | ある程度変化した | 変化した | あてはまらない |
|---|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| |  | | | | |
| | 回答方向 | | | | |
| a | 居住地 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| b | 住居形態 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| c | 老後の生活 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| d | 子どもの教育 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| e | 自分の進路(進学・就職) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

送信

[Q9]
震災からしばらくの間で、あなたに、次のようなことはありましたか。以下のそれぞれについて、お答えください。(それぞれひとつずつ)

| | | あてはまる | あてはまらない | まったく覚えていない |
|---|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| |  | | | |
| | 回答方向 | | | |
| a | 家族のありがたさが身にしみた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| b | 家族だけでは心細いと感じた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| c | 親戚は頼りになると感じた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| d | 友人は、たくさんいるほうがよいと思った | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| e | 友人のありがたさを知った | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| f | 日ごろの近所づきあいは、災害のときに助けになると感じた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| g | 自分だけが頼り、という気持ちが増した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| h | 自分でできることは自分でしたい、という気持ちが増した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| i | 人から頼られることが増えた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| j | 人を頼りたいと思うことが増えた | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| k | 自分には、困った時に頼りになる人がいると実感した | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

送信

■ 地震の報道についてお聞きします。

[Q10]
あなたが経験した地震の発生から半年くらいまでの新聞やテレビの報道を想定してください。その報道について、今振り返ると、あなたはどのように感じますか。新聞・テレビそれぞれについて、あてはまるものをすべてお選びください。

[Q10.1]
新聞 (いくつでも)

- 見落とされている事実があった
- 実際より大きめに伝えていた
- 報道側が冷静ではなかった
- 取り上げ方に偏りがあった
- 役立つ情報を提供してくれた
- 実際の被害はもっと大きかった
- 読まなかった
- この中にあてはまるものはない

[Q10.2]
テレビ (いくつでも)

- 見落とされている事実があった
- 実際より大きめに伝えていた
- 報道側が冷静ではなかった
- 取り上げ方に偏りがあった
- 役立つ情報を提供してくれた
- 実際の被害はもっと大きかった
- 見なかった
- この中にあてはまるものはない

[Q11]
日本で起こった地震の報道についてお聞きします。総合的に考えて、近年の地震報道のありかたを、適切だと思いますか。新聞・テレビそれぞれについて、最も近いものを一つずつお選びください。

[Q11.1]
新聞

- 適切だ
- どちらかといえば適切だ
- どちらともいえない
- どちらかといえば不適切だ
- 不適切だ
- 報道に接することがない
- この中にあてはまるものはない

[Q11.2]
テレビ

- 適切だ
- どちらかといえば適切だ
- どちらともいえない
- どちらかといえば不適切だ
- 不適切だ
- 報道に接することがない
- この中にあてはまるものはない

送信


[Q12]
テレビでは、将来の大地震を取り上げて、専門家が被害を予想したり、解説を加えたりする地震予知特集の番組があります。そのようなテレビ番組について、あなたはどのように感じますか。あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- 役立つ知識が得られてよい
- 内容を信憑できない
- 得た情報を、実際地震があった時に役立てられるかわからない
- できるだけまじめに取り扱うことが大切だ
- そのようなテレビ番組を見たことがない
- この中にあてはまるものはない

送信

■ ボランティア活動についてお聞きします。

[Q13]
震災のとき、以下のような助け合いや支援活動は、あなたにとって役立ちましたか。以下のそれぞれについてお答えください。(それぞれひとつずつ)

| | | たいへん役立った | ある程度役立った | あまり役立たなかった | まったく役立たなかった | 受けていない |
|---|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| |  | | | | | |
| | 回答方向 | | | | | |
| a | 炊き出し | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| b | 家庭の片付け | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| c | お年寄りの介護 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| d | 引越しの手伝い | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

送信

[Q14]
その震災を体験する以前に、あなたはボランティア活動をしたことがありますか。ボランティア活動とは福祉ボランティアだけでなく、環境美化などの「お金を取らないで行うすべての社会的奉仕活動」としてお答えください。

- ある
- ない

送信

[Q15]
震災のとき、助け合いやボランティア活動(炊き出し、運搬や仕分け、清掃、子供やお年寄りの世話など)に参加しましたか。

- よく参加した
- ときどき参加した
- あまり参加しなかった
- まったく参加しなかった

送信

[Q16]
あなたは、積極的にボランティア活動に参加したいと思いますか。

- たいへんそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

送信

[Q17.1]
ボランティア活動をする人とそれを受ける人の関係はさまざまです。あなたが被災して、支援を必要とするとき、以下にあける人々から、支援を受けたいと思いますが、思いませんか。以下のそれぞれについて、あてはまるもの一つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

| | まったく受けたくない | あまり受けたくない | やや受けたい | ぜひ受けたい |
|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| a 医師・看護師などの専門職の人 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| b 親戚 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| c 馴染みの、近所の人 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| d ふだんあまり話す機会のない、近所の人 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| e いままで面識のない、地域外の人 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

送信

[Q17.2]
誰をボランティアとみなすかには、いろいろな見方があります。例に、あなたが以下の人から支援を受けた場合に、どの人を「ボランティア」とみなしますか。あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

- 親戚
- 馴染みの、近所の人
- ふだんあまり話す機会のない、近所の人
- いままで面識のない、地域外の人
- この中にあてはまる人はいない

送信

[Q18]
大学の入試で、受験生のボランティア活動の経験が、合格の判断材料となることがあります。あなたは、このような入試の方法について賛成ですか、反対ですか。

- たいへん賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- まったく反対

送信

被災者に対する経済的支援についてお聞かせします。

[Q19]
あなたは、住宅再建に使える支援金を今より増やしていくべきだと思いますか、思いませんか。あてはまるもの一つをお選びください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

[Q20]
あなたは、被災者支援のあり方に関する次のような考え方についてどのように思いますか。以下のそれぞれについて、あてはまるもの一つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

| | とてもそう思う | ややそう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | まったくそう思わない |
|---------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| a 被災者への支援のために、今より多く税金を払ってもかまわない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| b 被災者は、自分の力で生活を立て直していくべきだ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

送信

災害への備えや防災についてお聞かせします。

[Q21.1]
その震災前、あなたのご家庭では地震保険に加入していましたか。加入していませんでしたか。
*地震保険には、JA(農協)の建物更替共済も含まれます。

- 加入していた
- 加入していなかった

[Q22]
現在、あなたのご家庭では地震保険に加入していますか。加入していませんか。
*地震保険には、JA(農協)の建物更替共済も含まれます。

- 加入している
- 加入していない

送信

[Q23]
現在、あなたのご家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。あてはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)

- 携帯ラジオ・懐中電灯を持ち出せるようにしている
- 食料・水を持ち出せるようにしている
- 貴重品を持ち出せるようにしている
- 避難場所までの避難経路を確認している
- 消火器を準備している
- 家族との連絡方法を決めている
- 家具を固定している
- 自宅の耐震診断をした
- この中にあてはまるものはない

送信

[Q24]
あなたは、お住まいの地域で行われている、防災のための講習会や、消火訓練などの防災活動にどの程度参加していますか。あてはまるもの一つをお選びください。

- 1年に4回以上参加する
- 1年に2、3回参加する
- 1年に1回参加する
- 数年に1回参加する
- 地域で行われているが、参加したことはない
- 行われていない

送信

■ 災害時における郵便局のサービスについてお聞かせします。

[Q25_1]
郵便局の行う災害時の社会貢献サービスに關し、次のA、B二つの考えのうち、あなたはどちらかに賛成ですか。あてはまるもの一つお選びください。

A 民営化されたので、他の企業なみに、郵便局は災害時の社会貢献サービスを縮小してもかまわない。
B 公社時代と同じように、郵便局は災害時の社会貢献サービスを行うべきだ。

- Aに賛成
- どちらかといえばAに賛成
- どちらともいえない
- どちらかといえばBに賛成
- Bに賛成

[Q25_2]
郵政民営化についてお聞かせします。あなたは「現在までに郵政民営化はよい成果をあげている」と思いますが、思いませんか。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

送信

■ 社会一般についてのお考えをお聞かせします。

[Q26]
以下は、現在のあもな政党です。あなたは、それぞれの政党をどのくらい好きですか。以下のそれぞれの政党について、あなたの気持ちに最も近いもの一つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

| | | 回答方向 | | | |
|---|-------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | | とても好きである | まあ好きである | あまり好きではない | 好きではない |
| a | 民主党 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| b | 社会民主党 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| c | 国民新党 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| d | 自由民主党 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| e | 公明党 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| f | 日本共産党 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

送信

■ あなたの生活全般やお仕事などについてお聞かせします。

[Q27]
あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。以下のそれぞれについて、あてはまるもの一つずつお選びください。(それぞれひとつずつ)

| | | 回答方向 | | | | | |
|---|------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | | 満足 | やや満足 | どちらともいえない | やや不満 | 不満 | あてはまらない |
| a | 現在の仕事の内容 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| b | 雇用形態などの働き方 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| c | 現在の仕事による収入 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| d | 健康状態 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| e | おすまいの住宅 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| f | 生活全般 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

送信

[Q28]
あなたの暮らし向き(生活の水準)は、1年前と比べて変わりましたか。

- よくなった
- 変わらない
- 悪くなった

送信

[Q29]
仮に現在の日本の社会全体を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はこの中のどれに入ると思いますが、あなたの気持ちに最も近いもの一つお選びください。

- 上
- 中の上
- 中の下
- 下の上
- 下の下

送信

[F1]
あなたのお生まれは、何年ですか。

西暦 19 年

[F2]
あなたは現在、結婚していますか。

- 未婚(結婚したことがない)
- 既婚(現在、法律上の配偶者がいる)
- 既婚(法律上は結婚していないが、事実上の配偶者がいる)
- 離別
- 死別
- その他

[F3]
あなたが最後に行かれた(または現在通っている)学校は、次のどれに当たりますか。一つお選びください。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。(旧制とは戦前・戦中の教育制度を意味します。)

- 中学校
- 中学校卒業後、専門学校
- 高校
- 高校卒業後、専門学校
- 短大・高専
- 大学
- 大学院
- 旧制尋常小学校
- 旧制高等小学校
- 旧制中学校・実業高校・師範学校・高等女学校
- 旧制高校・高専
- 旧制大学
- 旧制大学院
- その他(具体的に: _____)

送信

[F4]
現在のご職業についてお聞かせします。なお、ここでは、職業とは継続して行っている、収入をともなう仕事とします。

[F4_SQ1]
現在、ご職業をお持ちですか。

- 会社組織の経営者、役員
- 常時雇用されている一般従業者
- 臨時雇用、契約社員、パート、アルバイト
- 派遣社員
- 自営業主、自由業者(会社組織でないもの)
- 家族従業者
- 内職
- 無職
- 主婦、主夫
- 学生
- その他

送信

[F4_SQ2]

従業員の人数(自営のかたはご本人と家族を除く、雇われている人の数)

- 0人
- 1~9人
- 10~29人
- 30~99人
- 100~299人
- 300人以上
- 官公庁

[F4_SQ3]

仕事の内容についてお知らせください。(経理、運搬、仕入れ、〇〇組み立てなど職種
のわかるように)なされているお仕事の内容をできるだけ具体的に記入ください。

送信

[F4_SQ4]

何か役職についておられますか。この中ではほぼどれにあたりますか。

- 役職なし
- 監督、課長、班長、組長
- 係長、係長相当職
- 課長、課長相当職
- 部長、部長相当職
- 社長、重役、役員、理事
- その他(具体的に: _____)

送信

[F4_SQ5]

そのお仕事は以下のどの分類のうち、どれに当てまりますか。

| 分類番号 | 含まれる仕事の内容の例 |
|-------------|---|
| ① 専門的・技術的職業 | 科学研究者、建築・土木・農林技術者、システムエンジニア、医師、看護助手、薬剤師、技師、農林士、会計士、学校教員、職人、教師、芸術家、記者、船舶機関長、航空士、車両技術者などのかた |
| ② 管理的職業 | 会社役員、課長以上の会社員、部長、局長、学長、管理職的公務員のかた |
| ③ 事務的職業 | 記録・企画、受付、案内、営業・販売などの事務員、専業主婦、その他の外務事務員、運輸事務員、タレント、計算機オペレーター、レジスター係員などのかた |
| ④ 通信的職業 | 有線通信士、電話交換手、郵便・電報外務員などのかた |
| ⑤ 保安的職業 | 自衛官、警察官、消防士、守衛などのかた |
| ⑥ 建築・建設的職業 | 土木・建築技師、大工、左官、石工職、配管工、塗装、起重機、建設機械など運転作業者などのかた |
| ⑦ 運輸的職業 | 自動車運転者、電車運転士、車掌、鉄道員、船員などのかた |
| ⑧ 労働的職業 | 道路工員、鉄道線路工員、運搬担当者、清掃員などのかた |
| ⑨ 販売的職業 | 小売店主、卸売店店主、飲食店主、販売店員、外交官などのかた |
| ⑩ サービス的職業 | 理容師、美容師、調理師、ウエイター、旅行ガイド、ホテル支配人、ピル管理員などのかた |
| ⑪ 製造的職業 | 主眼・機械・織機・縫製製品製造などの生産従事者、造物・半プラスチック製品・紙製品製造者、自動車修理工などのかた |
| ⑫ 農林漁業 | 農業・林業・漁業作業者などのかた |
| ⑬ その他 | その他のかた |

送信

[F5_1]

収入についておたずねします。過去1年間のあなたの収入は税込みでどのくらいでしたか。他のご家族の収入も含めてお答えください。

- なし
- 70万円未満
- 70~150万円未満
- 150~250万円未満
- 250~350万円未満
- 350~450万円未満
- 450~550万円未満
- 550~650万円未満
- 650~750万円未満
- 750~850万円未満
- 850~1000万円未満
- 1000~1200万円未満
- 1200~1400万円未満
- 1400~1600万円未満
- 1600~1850万円未満
- 1850~2300万円未満
- 2300万円以上

[F5_2]

過去1年間のあなたの個人の収入は税込みでどのくらいでしたか。年々や臨時収入、副収入も含めてお答えください。

- なし
- 70万円未満
- 70~150万円未満
- 150~250万円未満
- 250~350万円未満
- 350~450万円未満
- 450~550万円未満
- 550~650万円未満
- 650~750万円未満
- 750~850万円未満
- 850~1000万円未満
- 1000~1200万円未満
- 1200~1400万円未満
- 1400~1600万円未満
- 1600~1850万円未満
- 1850~2300万円未満
- 2300万円以上

送信

[F6]

あなたは、今年になってこれまでに、web上で、今回のようなモニター型の調査に、何回くらい回答しましたか。このリサーチ会社のモニターでもかまいません。合計回数を教えてください。1行目から5行目まで利用者がモニター型などの調査を行う体験して、調査結果を依頼するサービス、弊社の調査はのぞけます。

(今回を除き、合計: _____ 回)

[F7]

最後に、調査結果やこの調査などに関連して、ご意見やご感想があれば、自由にお書きください。

送信

現代的社会環境に対応する地域社会調査の実践的方法論の開発

2010年3月31日 発行

編集・発行

轟 亮

金沢市角間町 金沢大学人間社会研究域人間科学系
郵便番号 920-1192
TEL 076-264-5314

印刷

田中昭文堂印刷株式会社

金沢市打木町東 1448 番地
郵便番号 920-0377
TEL 076-269-7788
